

教養教育科目

日本の文学

西田 勝

【授業の概要】

日本の文学の歴史をふまえながら、代表的な文学作品を紹介し、観賞する。若い世代の文学への関心が薄らいでいるといわれる今、文学への興味と関心を喚起したい。

【授業計画】

- 第1回 年間計画指示
- 第2回 国語教育と文学(1)
- 第3回 国語教育と文学(2)
- 第4回 日本文学と在日作家(1)
- 第5回 日本文学と在日作家(2)
- 第6回 ユーモア小説と殺人者
- 第7回 政治小説の語るもの
- 第8回 暗黒街と暗黒小説
- 第9回 自己のゆらぎ
- 第10回 現代と自己(1)
- 第11回 現代と自己(2)
- 第12回 総まとめ

【評価方法】

出席状況とレポートの成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

悪の表象 (西田勝・久保田新 北樹出版)

英米の文学

隈井清臣

【授業の概要】

文学作品にはそれぞれの国の文化が反映している。主に20世紀の英米の文学の思潮をたどりながら、伝統的な英国文学や移民の国として新しい文化を作った米国学を中心に考察する。

【授業計画】

- 第1回 受講に関するガイダンスと参考書目紹介
- 第2回 英米の文学の特長について
- 第3～6回 小説について
- 第7～8回 詩について
- 第9～11回 劇について
- 第12回 散文について
- 第13回 結びと推薦書目紹介

【評価方法】

作品を読んで提出するレポート70%、出席状況20%、授業の参加状況10%、計100%で評価する。

【テキスト】

楽しく読めるイギリス文学 (中村他編著 ミネルヴァ書房)

【参考文献・資料】

現代英米文学作品解説 (稲村松雄著 北星堂書店)
英米文学の名作を知る本 (渡辺恵子編 研究社)
現代の英米作家100人 (木内徹他編著 鷹書房弓プレス)

中国の文学

河井昭乃

【授業の概要】

中国の歴史と文化は古くかつ深い。日本はその影響を大きく受けてきたが、特に文学は顕著であった。中国の代表的な文学作品を紹介し、鑑賞する。

【授業計画】

1. 外国古典文学として漢詩・漢文を読む
2. 各ジャンルの概説
3. 古詩から近体詩へ
4. 近体詩の形式・特徴
5. 代表的作品の鑑賞
6. 中国における「歌枕」

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合評価する。

【参考文献・資料】

参考書・資料は、必要に応じて授業中に提示する。

情報と社会

沖野皓一

【授業の概要】

現代社会は情報化社会といわれ、さまざまな情報が送受信されている。日常生活や経済社会の中で「情報」がいかにかわり、有効な活用はどうあるべきかについて考察する。

【授業計画】

- 第1～2回 歴史に見る情報と社会
情報と文化との関係を軸に、人間社会の歴史を概観する。
- 第3回 情報がモノを造る
モノの生産が、必要性・実用性から嗜好に重点を置くようになってから、生産システムも大きく変わった。いわゆる情報化社会の生産と消費の関係について
- 第4～10回 情報の氾濫がもたらすもの
次々と繰り出される扇情的な情報や、人々の行動を先取りするような情報の氾濫の結果、私たちはかえって情報への関心を失い、情報喪失の状態に陥りかねない。情報過剰の現状について
- 第11回以降 主体性確保のために
ニューメディアは多チャンネルの実現による情報の多元性を売り物にしているが、私たちにとって重要なのは、本当に必要な情報を発信・選択できる双方向性であろう。市民の側からの情報発信、メディアアクセスの現状と可能性について

【評価方法】

出席状況・試験の成績などによって総合的に行う。

【参考文献・資料】

講義の中で、その都度紹介する。

ジェンダーと社会 1

國信潤子

【授業の概要】

現代社会において女性と男性の社会的関係は変容しつつある。男女がともに社会参画をして初めて社会における平等が確保できる。この視点から現代社会におけるジェンダー（社会・文化的性）のさまざまな問題を考える。

【授業計画】

（長久手キャンパス）

男女共同参画社会の形成にむけて日本社会の各方面で努力が続いている。この講座ではグローバル化する国際・民衆交流の領域についてジェンダー（社会・文化的に形成される性別）の視点から開発途上国の現状について学ぶ。地球規模で、南北社会関係（開発途上国と先進国の対立・協力関係）に見られる各種の格差が問題となっている。そこには社会的結資源の不平等分配がある。この格差は正のため、また国際・民衆交流推進のために国あるいは民間組織による開発支援が行われている。先進産業界から開発途上国に向けて社会的開発支援が行われている。その支援のあり方、文化多様性の確保とジェンダー平等化の試みの関係について考える。

この講座はオムニバス形式であり、社会開発支援の現場で活動する数名の講師による講義形式である。社会開発、国際協力の最前線で活躍する専門家によって現状分析が行われる。テーマとして開発におけるジェンダー、開発実践論、イスラム農村社会、保健・医療現場、外国人労働者などの問題をジェンダー視点から考察する。

（星が丘キャンパス）

近年、公的書文などにもジェンダー（gender）というこぼが頻繁に使われるようになってきた。それは社会・文化的性別という意味である。つまり、社会的に男女に対して期待される異なる役割、意識、行動様式などを指す。新世紀にはいり、従来の固定的性別分業とは異なり、性別にとらわれない新たな社会的役割行動様式の青年たちが増加してきている。それは固定的な男らしさや女らしさをこえて個性の発揮、能力開発、そして経済、社会的自立、生活面での自立などを目指す生き方である。ここ50年ほどの日本における女性の社会的地位の変容について社会学的数据などで紹介する。また法制改革、国際人権規約なども紹介する。原則としてテキストにそって授業を進める。グループ討議、視聴覚教材なども取り入れる。

【評価方法】

（長久手キャンパス）

期末レポート、出席状況、感想カード内容、履修態度等の総合評価

（星が丘キャンパス）

期末レポート、出席状況、感想カード内容、履修態度等の総合評価

【テキスト】

（長久手キャンパス）

特になし、随時配布

（星が丘キャンパス）

「女性学・男性学～ジェンダー論入門～」伊藤、國信共著（有斐閣刊 2002年）

【参考文献・資料】

（長久手キャンパス）

「ジェンダーと開発」田中、伊藤、大沢他 国際開発事業団出版 2002年 2800円

（星が丘キャンパス）

授業で随時紹介

ジェンダーと社会 2

中島美幸 山下智恵子

【授業の概要】

本講座では、ジェンダーの視点で文学作品を分析することによって、〈女/男〉規範がどのようにテキストに織り込まれているかを読み解き、さらに、テキストがどれほど現実の女と男の生を規定してきたかを検証する。それとともに、ジェンダーの呪縛から解放されたいとして、新たな文学表現を試みる作家・作品をできるだけ多く提示する。（オムニバス方式）

（中島美幸兼任講師）「女性の表現」の観点から日本文学を歴史的に跡づける。なかでも、近代以降の女性表現については、他国の女性文学との比較もまじえつつ、読み解いていく。

（山下智恵子兼任講師）現代の文学作品を中心に、家族、母娘などの人間関係をジェンダーの視点から検証する。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

第2回 〈ことば〉とジェンダー

第3回 〈書く女〉の登場（1）

第4回 〈書く女〉の登場（2）

第5回 女性を描く男性作家のまなざし（1）

第6回 女性を描く男性作家のまなざし（2）

第7回 母と娘の物語（1）

第8回 母と娘の物語（2）

第9回 家族の物語

第10回 文学の政治性

第11回 文学と映像文化

第12回 まとめ

* 第8、9回は山下智恵子担当。他は中島美幸担当。

【評価方法】

毎回の簡単な感想と、学期末のレポートを総合して評価する。

【テキスト】

教科書は使用せず、随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

毎回の講義の際に紹介する。

日本国憲法

初谷良彦

【授業の概要】

日本国憲法について、その成立の経緯や明治憲法との比較を通じ、現行憲法の内容と主要な問題点を講義する。憲法問題における具体的事例にもふれる。

【授業計画】

(長久手キャンパス)

- 第1回 日本国憲法制定の経緯
- 第2～3回 プライバシー権、名誉権
- 第4～5回 自己決定権
- 第6～7回 信教の自由と政教分離
- 第8～9回 情報公開、言論・出版の自由、報道の自由
- 第10～11回 生存権、教育権、労働基本権
- 第12回 国会・内閣
- 第13回 裁判所
- 第14回 地方分権

(星が丘キャンパス)

- 第1回 日本の近代化と明治憲法の制定
- 第2回 ボツダム宣言の受諾と降伏の憲法史的意味
- 第3～4回 日本国憲法制定の経緯
- 第5回 日本国憲法の基本原理
- 第6回 プライバシー権、名誉権
- 第7～8回 自己決定権
- 第9回 表現の自由
- 第10回 信教の自由と政教分離
- 第11回 生存権・環境権
- 第12回 国会・内閣
- 第13回 裁判所
- 第14回 地方分権

【評価方法】

(長久手キャンパス)

主として単位認定試験の成績によって評価する。

(星が丘キャンパス)

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

憲法講義Ⅰ(第2版)(初谷良彦著 成文堂)

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

郷土の歴史と文化

秦 達之

【授業の概要】

東海地方は、戦国乱世の時代に織田信長、豊臣秀吉、徳川家康を生んだ土地である。この歴史的風土をふまえ、愛知県を中心に郷土の歴史と文化を講義する。

愛知県は、“三大英傑”以後、一見平穏無事で、パツとしないかみに見える。しかし、よくみれば、東西の文化を巧みに織りこんで、波瀾にも富み、歴史上重要な地歩を築いてきた。講義は、尾張と三河とのちがいに留意しつつ、隣県の三重・岐阜にも時には視野を拡げ、受験時の暗記の歴史から、考え、愉しみ、生きるための歴史へと飛翔することを目指す。

【授業計画】

一回一話の読み切り、いや、語り切りで、さまざまなテーマ・内容を取上げる。通史ではないので、時代の前後を往き来する。その時代を生きた人びとの鼓動が聞こえてくるようなものにしたいが、果してうまくいきますか、どうか？

内容は、「元禄名古屋の世相」「伊勢湾の漂流民たち」「江戸時代の農民運動」「名古屋とその周辺の山車(だし)」「渡辺崋山とその周辺」「お札降りと「ええじゃないか」」「高山における明治維新」「戦争と女性」「モルフィと娼娼運動」「新聞記者・市川房枝」「シーメンス事件と太田三次郎海軍大佐」その他。私自身の研究と共に、他の地道な研究成果も積極的に取上げたい。

こちらで一回毎の史料を用意し、それにもついで講義する。必要に応じてビデオ、スライドも使用。出席票に感想を書いて貰い、受講者の声を聞く工夫をしている(受講者もぜひご協力を)。

【評価方法】

出席状況(特に厳しいので注意!)と単位認定試験の成績などによるが、毎時間最後に感想を書いて貰い、参考にしている。

【参考文献・資料】

愛知県の百年(塩沢君夫、斎藤勇、近藤哲生共著 山川出版社)

愛知県の歴史(三鬼清一郎編 山川出版社)

東海・近代へのまなざし(都築亨、大嶋光義編 中部日本教育文化会)

都市と環境

谷口 武

【授業の概要】

現代の都市は生活と文化の面では便利であり、快適であるが、街の緑や空気汚染など、自然環境には恵まれているとはいえない。都市をとりまく自然環境の問題を中心に講義する。

【授業計画】

- 第1講 概論1：自然環境とは
- 第2講 概論1：自然環境と人間
- 第3講 各論1：農耕の発見による生活形態の変化
- 第4講 各論2： ”
- 第5講 各論3：都市形成の促進
- 第6講 各論4： ”
- 第7講 各論5：現代都市生活の高度化
- 第8講 各論6： ”
- 第9講 各論7：都市巨大化と自然環境
- 第10講 各論8： ”
- 第11講 各論9：都市環境の改善
- 第12講 各論10： ”
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

- 都市の論理（藤田弘夫著 中央公論社）
- なにか環境の危機を招いたか（バリー・コモナー著 講談社）
- 都市（東京大学公開講座 東京大学出版会）
- 環境（東京大学公開講座 東京大学出版会）
- 環境生物学への招待・地球生物圏と人間・（鈴木賢英著 文化書房博文社）

メディアと文化

鎌田基子

【授業の概要】

情報化社会の発達と技術の進歩でさまざまなメディアが新しい文化を生み、伝達する。文化の創造の伝達とメディアの関わりを考察する。

【授業計画】

- 第1回 どこからどこまでがメディアなのか？
 - 第2回～7回 「編集」という創造
 - ・怪物の作り方
 - ・テーマとコンセプト
 - ・人の流れと思考の奥行き
 - ・発想の手順
 - ・WORK SHOP
 - フォトストーリー
 - コラージュ
 - 店内レイアウト
 - 雑誌の企画
 - 第8回～10回 現代美術はなぜ分かりにくいのか？
 - ・モノが持つ言語
 - ・素材の力、場の力
 - ・伝達技術と表現手段
 - ・WORK SHOP
 - 即席インスタレーション
 - 第11回～12回 社会が生んだ表現
 - ・表現の自由と人権
 - ・芸術が果たす役割
 - 第13回 「見る」「聞く」行為について
- 状況により途中1～2回をゲスト講師の講演にあてる。

【評価方法】

レポートによる。

国際情勢

冨江良治

【授業の概要】

国際化の時代とか、地球は一つなどといいながら、つい身近なことにとらわれて、視野を広げる努力を怠りがちです。世界では何が起きているのか、その背景には何があるのか、どの方向へ進むと考えられるのか。こうした問題意識と関心を持った人間が育つよう、つぎつぎと起る新しい動きを手掛かりに分かりやすく、面白く解きほぐしていきます。世界歴史の最先端にふれる興奮と緊張を味わえれば、です。

【授業計画】

日々報じられる新聞の国際記事、解説や特集面、テレビのニュース番組、ドキュメンタリーなどのコピーやビデオを用意し、教室で放映または配布して説明します。発生する出来事の中から興味を引くとみられるものを優先します。したがって政治、経済、社会、文化といった体系的な進め方には必ずしもなりません。

【評価方法】

原則として筆記試験によります。出席状況や意見発表とか質問、問題提起、私語、遅刻など受講態度も参考にします。

【テキスト】

特にありません。

【参考文献・資料】

そのつど、必要に応じて知らせます。

生活と福祉

井戸平八郎

【授業の概要】

人間らしい生活を営むには、今日では福祉は避けられない問題である。しかし、「福祉とは何か」、「福祉はいかにあるべきか」は難しい課題である。障害者福祉や老人介護など、現代的な問題を視野に入れて福祉について学ぶ。

【授業計画】

第1章 福祉は誰のために

第2章 援助と自立

第3章 児童問題と超高齢社会

第1節 児童福祉について

第2節 子どもの人権は守られているか

第3節 高齢者福祉

第4節 ターミナルケアから学ぶこと

第4章 バリア・フリーからユニバーサル・デザイン

第5章 これからの地域福祉

第6章 Well Being

ビデオ、スライド、OHPを利用。

【評価方法】

テストによる評価。

【参考文献・資料】

授業中に紹介。

こころの世界

西村辨作

【授業の概要】

極度の精神的緊張や不安をはらむ高度情報社会の時代にヒトのこころや行動の仕組みについて改めて熟考することは、将来をより豊かに生きてゆくためにも意義深いと思われる。本講義は心理学的観点から人間を理解することをめざす。

【授業計画】

コミュニケーション障害について

ことばには、日常生活の用を足す伝達の機能、人間関係を維持し発展させる社交の機能、ことばそのものを楽しむ鑑賞の機能、それに思考の道具となって合理的判断を助ける働きがある。ことばを喋って意思を伝えること、言語を操作して考えることは人間の高次神経活動である。この機能に不全があることを言語障害というが、大人と子どもの言語障害の特徴を紹介し、どのような援助が必要かを考える。

【評価方法】

授業中に指示する。

【テキスト】

ことばの障害入門（西村辨作編著 大修館書店）

ことばの世界

山本雅子

【授業の概要】

日常生活において、ことばによるコミュニケーションは、言語的な意味だけでなく、社会的な意味においても行っている。

ことばによる社会的な意味のちがいを地域、社会的階層、性差、年齢などを軸にして考えてみたい。

【授業計画】

- 第1回 ことばと心的距離
- 第2回 ウチとソト(1)
- 第3回 ウチとソト(2)
- 第4回 敬語(1)
- 第5回 敬語(2)
- 第6回 性差(1)
- 第7回 性差(2)
- 第8回 世代差(1)
- 第9回 世代差(2)
- 第10回 名古屋方言(1)
- 第11回 名古屋方言(2)
- 第12回 ことばのはたらき

【評価方法】

出席状況・プレゼンテーション・レポートなどによる。

【テキスト】

身の回りの“日本語”。日常生活で見聞きする“日本語”に対してたえずアンテナをはっておくこと。

ビジネスの世界

渡辺泰明

【授業の概要】

21世紀を迎え、いわゆる日本型雇用システムや商慣習は崩壊しつつあるが、ビジネスの世界には、企業を維持・発展させるための企業の倫理や厳しい現実がある。企業での経験をふまえ、ビジネス世界の現実を講義する。

【授業計画】

- 第1講 マーケティングの意義（ケース：スミスクライン・ベックマン）
- 第2講 マーケティング・プロセス（ケース：青山商事）
- 第3講 市場機会の発見（ケース：根本特殊化学）
- 第4講 顧客と製品に関する戦略（ケース：花王）
- 第5講 価格戦略（ケース：サンギ）
- 第6講 コミュニケーション戦略（ケース：アサヒビール）
- 第7講 流通戦略（ケース：G M）
- 第8講 ケース・スタディーNo.1
- 第9講 ケース・スタディーNo.2
- 第10講 ケース・スタディーNo.3
- 第11講 外資系金融機関の仕事No.1
- 第12講 外資系金融機関の仕事No.2
- 第13講 期末試験

【評価方法】

出席状況と期末試験の結果により評価する。

【テキスト】

MBAマーケティング（株式会社グロービス著 ダイアモンド社）

【参考文献・資料】

随時資料配布

メンタルヘルス

伊藤勝也

【授業の概要】

今、子どもから大人まで多くの人が心を病んでいるといわれます。心の病は少年期や青年期特有のものもあれば、時代や社会的要因によるものもあります。臨床的事例にふれながらメンタルヘルスについて考えます。

【授業計画】

- 第1講 心の病と生きること
- 第2講 疾病性と事例性
- 第3講 ライフサイクルについて（その1）
- 第4講 ライフサイクルについて（その2）
- 第5講 家族のメンタルヘルス（その1）
- 第6講 家族のメンタルヘルス（その2）
- 第7講 学校のメンタルヘルス
- 第8講 職場のメンタルヘルス
- 第9講 心の病と地域
- 第10講 相談援助の考え方
- 第11講 セルフヘルプ・ネットワークについて
- 第12講 まとめと討論

【評価方法】

レポート提出（1～2回）

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

講義過程で紹介していく

暮らしの経済

村上貴美子

【授業の概要】

生活に密着した経済学の入門。特に今や経済社会もグローバル化しており、国際経済の流れや仕組みにもふれ、日常化している経済用語を解説する。

【授業計画】

- 第1回 最近の経済状況と用語解説
生活と経済の関わり
 - 第2回 消費者の権利と意思決定
 - 第3回 価値観と消費の多様化
 - 第4回 生活をとりまく環境変化
 - 第5回 本当の「豊かさ」とは何だろうか
 - 第6回 「労働」と言う言葉はなぜキライですか
 - 第7回 教育と経済
 - 第8回 サービスとはタダ（無料）のことでしょうか
 - 第9回 余暇の為に働く
 - 第10回 住宅とまちづくり
 - 第11回 国際化と生活
 - 第12回 未来を考える
- 毎回、最近の経済ニュースの紹介と解説を予定している。

【評価方法】

出席状況宿題レポート・単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

生活の経済学（井原哲夫著 東洋経済新報社）

外国の言語と文化1

角田達朗

【授業の概要】

中国語の初歩を学ぶとともに中国の風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

近年、中国映画は国際的な賞を獲得する作品が続出し、注目を集めている。この授業では、中国映画の中から、主として現代小説を原作とする作品を、題材の年代順に鑑賞することによって、中国の近現代史についての理解を深めて行く。中国の近現代は、辛亥革命・抗日戦争・文化大革命などに象徴される動乱の時代であった。中国映画がこのような動乱の時代をいかに描いているかを、映像表現についての分析も織りまぜながら検証する。

同時に、映画の中の「生きた中国語」に触れることを通じて、中国語に親しみ、言語についての理解を深める契機としたい。

- 第1～2回 張芸謀『紅いコーリャン』
(原作 莫言『紅高粱一族』)
- 第3～4回 張芸謀『菊豆(チュイトウ)』
(原作 劉恒『菊豆』)
- 第5～6回 陳凱歌『黄色い大地』
(原作 柯蘭『深谷回声』)
- 第7～9回 謝晋『芙蓉鎮』
(原作 古華『芙蓉鎮』)
- 第10～11回 陳凱歌『子供たちの王様』
(原作 阿城『孩子王』)
- 第12～13回 孫周『心の香り』
(原作なし)

【評価方法】

レポート

*受講状況によっては、試験に変更することもある。

【テキスト】

なし。

*授業時に鑑賞する映画が、テキストに相当する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

外国の言語と文化 2

尹 大辰

【授業の概要】

韓国・朝鮮語の初歩を学ぶとともに、朝鮮半島の風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 訓民正音について
- 第2回 ハングルの文字と発音 (1)
- 第3回 ハングルの文字と発音 (2)
- 第4回 基本的な日常会話 (1)
- 第5回 基本的な日常会話 (2)
- 第6回 基本的な日常会話 (3)
- 第7回 言語と文化 (1) - 衣・食・住
- 第8回 言語と文化 (2) - 社会的構造
- 第9回 言語と文化 (3) - 漢字語比較
- 第10回 朝鮮半島の風土
- 第11回 朝鮮半島の歴史と文化
- 第12回 まとめ-言語表現から見た文化比較

【評価方法】

期末試験とレポート、出席率を加味して評価する。

【テキスト】

プリント教材を使用する。

【参考文献・資料】

- 韓国 (金両基監修 新潮社)
- 韓国と日本の比較文化論 (金渙著 明石書店)
- 総合韓国語 1 (油谷幸利・南相環著 白帝社)

外国の言語と文化 3

丹邊文彦

【授業の概要】

ロシア語の初歩を学ぶとともに、ロシアの風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回～3回 文字と発音
- 以下1限に2課の割合で下記教科書を一応通読することを目標に授業をすすめる。1期終了・完結の授業で時間が限定されていることを考慮したものである。したがって練習問題(解答付)は自習に任せ、最小限の文法解説に止めて、本文中心に音読と文字への習熟に重点を注ぐことによって、運用力の土台を養成するのが眼目である。その際付属のCDを活用した予・復習は欠かせない。発音教材の補助としてロシア民謡も紹介し、ロシアの風土・歴史・文化への理解を深める。

【評価方法】

- a. 朗読 b. 聴取り c. ペーパーテスト の総合

【テキスト】

エクспレス ロシア語 桑野 隆著 白水社

【参考文献・資料】

ロシア語のすすめ (講談社現代新書)

外国の言語と文化 4

藤井たぎる

【授業の概要】

ドイツ語の初歩を学ぶとともに、ドイツの風習・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

ドイツ・オーストリアの生活文化とその言語。現代のドイツ・オーストリア事情の一端を紹介しながら、ドイツ・オーストリアのいろいろな「顔」を発見してもらう。具体的には下記のような日常的なテーマをもとに、ドイツ・オーストリアの事情を日本のそれと比較しながら、両者の類似性と差異をみてゆく。また初歩的なドイツ語会話の練習もあわせておこないたい。

- 1) ドイツ・オーストリアの風土
- 2) ドイツ・オーストリアの近現代史
- 3) ドイツ・オーストリアのマス・メディア
- 4) ドイツ・オーストリアの衣食住
- 5) ドイツ・オーストリアの消費生活
- 6) ドイツ・オーストリアの芸術文化

講義形式ではあるが、授業中にいろいろ意見を求め、各自の考えるところを発言してもらう。必要に応じてプリントを配布する。

【評価方法】

筆記試験。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する。

外国の言語と文化 5

清水ベアトリックス

【授業の概要】

ヨーロッパ文明の発祥の国フランスについての理解を深めることはヨーロッパ文化を理解するうえで重要である。フランス語とフランス文化の概要を学ぶことにより、フランスへの関心と理解への動機づけとしたい。

前期

このコースは、受講者の興味を考慮に入れ授業内容を考えたい。現代フランス社会と日常使用されているフランス語を学ぶとともに、担当講師（フランス人）の在日体験談を交え、フランス・日本両国を言語・文化の面から比較検討する。

とにかく、下記のテーマで行う。

- フランスの地理
- フランスの建国
- フランス国民の起源
- フランスの社会問題
- フランスの家族
- 教育制度
- フランスとヨーロッパ
- フランス人と余暇など。

後期

前期と同じ。

【授業計画】

毎回、担当教員が指定したテキストの章について議論し、テレビや新聞で報道されたフランスに関する時事問題の中で特に学生の関心を引くようなものを選んで、解説したい。

【評価方法】

定期試験を重視するが、宿題（テキストや映画についての感想文）、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

変貌するフランス（西永良成 日本放送出版協会）

外国の言語と文化 6

木下まりあ

【授業の概要】

スペイン語の初歩を学ぶとともに、スペインの風土・歴史・文化についても理解を深める。

【授業計画】

1. スペイン語とスペイン語圏の世界
2. スペインの歴史と文化の特色
3. スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
4. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
5. 人称代名詞、ser と estar 動詞、hay
6. 否定文、疑問文、関係詞、感嘆文
7. 形容詞（性数の一致）、指示形容詞、所有形容詞
8. 動詞（直説法現在）
9. 再帰動詞
10. 動詞（直説法現在完了）、過去分詞と現在分詞
11. 動詞（直説法過去：点過去と線過去）
12. まとめ

【評価方法】

筆記試験またはレポートに出席状況を加味して評価。

【テキスト】

授業中に指示。

文章表現論

青木 健

【授業の概要】

「自分にしか書けないことを誰にもわかるように書く」ことを目標にして、文章表現に必要な基本的事項を実践例をふまえながら学習する。

【授業計画】

第1回 人は言葉の織物である。(伝達と表現Ⅰ)

第2回 現代の口語表現について。(伝達と表現Ⅱ)

第3回～7回

例文をテキストに、文章の構成、話法、リズム、形容修辭法など具体的に講義。

第8回～12回

課題を3回提出し、短文（2～5枚、400字詰）を書かせ、そこから文章表現についての共通の問題点を抽出する。

【評価方法】

出席状況、3回の提出原稿などを基準として評価する。

【テキスト】

当方にて用意します。参考書籍は授業中に数冊指示します。

比較文化

文 嬉眞

【授業の概要】

世界にはさまざまな国家や民族があり、多様な文化が存在する。文化人類学的な見地から外国の文化や伝統・風俗を学ぶ。

【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接接触した際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。

1. 異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2. 異文化交流史における本講義の位置付け
3. 前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4. 近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5. 異文化としての「日本文化論」

【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 学期末レポートで残る50%を評価する。

【テキスト】

講義の中で随時、配布する。（必ず事前に読んでおくこと）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

現代芸術 1

福島千家

【授業の概要】

現代芸術としての〔書道〕の意義と意味を問い。名筆の鑑賞と書写の実技をする。

【授業計画】

第1回 年間の授業計画として使用する教本の鑑賞の方法を説明する。

第2回～10回

書写の重要なポイントの説明をしながら実技をする。一人一人について添削指導をする。

第11回～最終回

課題に有名な作家又は詩人等の美しい文章等を各自に表現をして作品を作成させる。

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

ペン字テキスト〔基本編・実務編・応用編〕（氏田菫軒著 書道教育社）

現代芸術 2

志水博子

【授業の概要】

現代芸術としての「音楽」の意義と意味を問い、名曲を鑑賞し、歌唱をする。

【授業計画】

- 第1回 名演奏家によるオペラのビデオ鑑賞
- 第2回 声の出るしくみを知る
- 第3回 腹式呼吸と身体のつかい方の練習
- 第4回 ビデオ鑑賞
- 第5回 発声練習と歌唱
- 第6回 ビデオ鑑賞
- 第7・8回 ピクニックや集会でのやさしいハーモニーの楽しみ方練習
- 第9～12回 各自の課題による実技発表とアドバイス

【評価方法】

授業内での実技演奏（各自の得意とする歌唱又は楽器の演奏、アンサンブル可）と出席状況

【テキスト】

楽譜プリントは配布

現代芸術 3

横山萬里

【授業の概要】

現代芸術としての「美術」の意義と意味を問い、名画を鑑賞し、又、古画のうちで親しみやすい絵巻について講義をする。

【授業計画】

国宝に指定されている古い絵画あるいは日本の伝統的な絵巻のなかから鳥獣人物戯画をとりあげて日本画の表現、色彩方法を講義する。

また、授業の中で名古屋市内の美術館を訪問し、古画現代画にふれる。

- ・日本画の特徴
- ・鳥獣人物戯画の説明
- ・鳥獣人物戯画における線の強弱と動き
- ・日本画の模写について
- ・日本画の鑑賞

美術館入場料 500円程

筆ペン 500円

費用 計 1,000円

【評価方法】

出席状況と感想文レポート（6回提出）を総合的に評価。

【テキスト】

日本の絵巻6「鳥獣人物戯画」
コピーした図を見る。

【参考文献・資料】

なし。

女性学・男性学

中島美幸

【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

【授業計画】

1. 女性学とは、男性学とは
2. 「女らしさ」「男らしさ」の諸問題
3. 男女のあり方の国際比較
4. 近代的性別分業
5. 女性と「お金」——「主婦」の誕生
6. 「働くしかない」男性の人生
7. 作られる「女らしさ」「男らしさ」
8. 恋愛と結婚
9. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
10. 母になるということ、父になるということ
11. 2050年の日本の女と男
12. 男女のライフスタイル・将来展望
13. まとめ

【評価方法】

出席状況とレポートなどにより、総合的に評価。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で、その都度紹介する。

エコロジー

大島光昭

【授業の概要】

今や地球規模で自然の環境破壊が進んでいる。自然を保護し、環境を守る観点から地球のエコロジーを考える。

エコロジーとは、生物とそれをとりまく外界すなわち環境との関係についての総合科学である。生物の生存は均衡のとれた有機的および無機的環境の上に成り立っており、均衡の崩壊は人類を含む生物界の未来を危うくする。人類の生活および生産活動はこれらの均衡を乱して多くの生物の生存を脅かしつつあり、地球の未来に様々な問題を投げかけている。それらの状況について解説するとともに、今後どうあるべきかについて問題提起を行う。

【授業計画】

エコロジーの基礎

自然環境の保護と育成

陸地環境

水域環境

流域圏環境

化石燃料と環境

地球の温暖化

酸性雨

光化学オキシダント

浮遊粉塵

化学物質と環境

オゾン層の破壊

生物濃縮と生態系の攪乱

ヒトの健康被害

【評価方法】

出席状況と試験成績をもとに評価する。

【テキスト】

「生態学（エコロジー）」改訂版（大島光昭著 三恵社）700円

伝統文化

四辻秀紀

【授業の概要】

国際化が進み、さまざまな異文化にふれる機会も多くなったが、日本の伝統文化にも目を向けることが大切だ。伝統文化の中でも芸能を中心に講義する。

【授業計画】

日本の伝統的な美意識をあらわす言葉として、「わび」「さび」「幽玄」などがよく取り上げられる。しかし一方で、11～12世紀の「風流・過差」、14世紀の文献にしばしば記される「娑婆羅」、17世紀初期の「かぶく」などといった言葉に代表される華美を好む世粧・風潮の伝統があった。これらの風潮は、既成の概念を打破り、新たな精神性を形成していく原動力にもなっていった。

本講では、この「風流・過差」、「娑婆羅」、「かぶく」と連なる精神性の系譜を、各時代の文献資料やさまざまな美術品を中心に探求していく。

1. 概論
 - 2～6. 平安時代の「風流・過差」
 - ・歌合
 - ・法華八講
 - ・荘厳経など
 - 7～8. 「喫茶往来」と「娑婆羅」
 - ・闘茶と室礼など
 - 9～11. 近世初期の風俗画と「かぶく」の美意識
 - ・出雲のお国と歌舞伎図
 - ・祭礼図と邸内遊楽図など
 12. まとめ
- ※スライド使用。学外授業として展覧会の見学を行う。

【評価方法】

出席状況とレポートの成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じ資料を配布する。

アジアの生活と文化

楊 衛平

【授業の概要】

日本は生活も文化もアジアの影響を強く受けている。特に日本と歴史的にも関係の深い近隣の国を中心にアジアの生活と文化を講義する。

【授業計画】

1. 中国の少数民族の構成
2. 儒教、仏教と道教の相異
3. 中国の年中行事
4. 南北食文化の比較
5. 中医学と西洋医学
6. 気の文化と気功術
7. 飲茶の文化と歴史
8. 伝統武術と映画
9. 少数民族の音楽
10. 少数民族の服装
11. 中国人の姓の色々
12. 中国の名勝物語
13. 中国人と日本人の考え方の相異

【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント配布。

生命の科学

富田 武

【授業の概要】

動物の生命の誕生、生体を構成する物質や生殖と遺伝の仕組みなど、動物の生命の維持のメカニズムについて学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 生命の科学序説
- 第2講 生命誕生と進化
- 第3講 動物細胞の分化
- 第4講 動物体を構成する物質
- 第5講 動物の生殖と発生
- 第6講 動物の遺伝（1）
- 第7講 動物の遺伝（2）
- 第8講 動物の生命維持（1）
- 第9講 動物の生命維持（2）
- 第10講 脳の進化、成長、老化
- 第11講 動物の生殖現象操作
- 第12講 動物の遺伝現象操作
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験で総合的に評価する。

【参考文献・資料】

生命科学への誘い（大島泰郎他編 東京化学同人）
生物小事典（丘英通、岩波洋造監修 三省堂）

食品の科学

来住 準一

【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学との関わり、食品のもつ機能や性質、貯蔵などを学び、食品と酸素の関係や化学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

【授業計画】

淑徳花子さんは健康に人一倍関心をもつ大学生、赤ん坊からお年寄りまでがそろう大家族の一員です。いっしょに淑徳家の食卓をのぞいて見ませんか。普段何げなく食べている食品にスポットをあて、あなたの食生活を見直すヒントを提供します。なおテーマによりVTR視聴やかんたんな実験（デモ実験を含む）を実施する予定です。

1. リスクとハザード：母乳vs.粉ミルク。
2. 外食：ハンバーガーセット vs. 和定食。
3. 水：ミネラルウォーター vs. 水道水。
4. ガム：グリーンガム vs. キシリトールガム。
5. 牛肉：和牛 vs. 国産肉。
6. 牛乳：ホモ vs. ノンホモ。
7. トマト：無農薬 vs. 有機栽培。
8. 納豆：遺伝子組み換え大豆使用 vs. 遺伝子組み換え大豆不使用。
9. コンビニ弁当：消費期限 vs. 賞味期限。
10. パナナ：フィリピン産 vs. 台湾産。
11. 機能性食品：健康食品 vs. 保健機能食品
12. 健康常識クイズ。

*実験（予定）

1. 「むし菌になりやすいぞ（度）」チェック。
2. 「お酒に強いぞ（度）」チェック。
3. バターをつくろう。
4. 人造いくらをつくろう。

【評価方法】

出席・レポート・試験により総合的に評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず、プリントを適宜配布します。

生活の化学

八代 有

【授業の概要】

健康で豊かな生活を維持していくには、化学の知識と活用は必要不可欠からざるものである。身近な生活に拘わる化学的な要素について事例をあげて学ぶ。

【授業計画】

1. 栄養のバランスと健康増進を考える
2. 食品成分の化学と食品の安全性
3. ビタミンの化学的性質と疾病とのつながり
4. 生活習慣の改善と疾病予防
5. 薬についての正しい認識
6. 薬が生体に影響を与える因子
7. 尿・血液成分のしくみ
8. 暮らしのなかの酵素の働き
9. 話題となった環境公害
10. 生活のなかでの不思議

【評価方法】

テストおよび出席状況により総合的に判定する。

【テキスト】

テキスト使用せず、プリントを適宜配布する。

生き物の世界 1

服部一三

【授業の概要】

地球上には多種多様な植物が生存しているが、これらの植物は食物連鎖の基本を成すものである。植物の生物界における位置付けや植物の成育地について紹介し、植物と人間との関わりについて認識を深める。

【授業計画】

- | | |
|---------|-------------------------------|
| 第1回 | 1. 生物界の分類 |
| | 2. 生物の進化 |
| 第2-6回 | 3. 植物と人の関わり |
| | 1) 農耕の始まり |
| | 2) 世界の農耕文化 |
| | 3) 日本農耕文化の起源と発展 |
| | 4. 人が手を加えた植物-作物 |
| | 1) 作物とは? |
| | 2) 世界の作物の起源 |
| 第7-8回 | 5. 作物改良の原理と方法 |
| | 1) 作物改良の原理 |
| | (1) メンデルの法則-遺伝学 |
| | (2) 遺伝の物質的基礎 |
| 第9回 | (2) 作物の改良方法 |
| 第10回 | |
| 第11-12回 | 6. バイオテクノロジー |
| | 1) バイオテクノロジーとは? |
| | 2) 作物の改良とバイオテクノロジー |
| | (1) 細胞・組織培養 |
| | (2) 遺伝子操作 |
| | (3) バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか? |
| | (1) 倫理 |
| | (2) 安全性 |

【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。
生物的自然と人間 (平田豊著 開成出版)

生き物の世界 2

大野 敏 瀬川正夫

【授業の概要】

身近に見られる昆虫や鳥などの生態のメカニズムを解説し、生命の進化について学び、動物への関心といたわりを深めたい。

【授業計画】

〔動物コース〕

動物の分類、分布、食性などの基礎的な知識を学び、さらに、学校での動物飼育管理、人畜共通感染症、野生動物保護、自然環境の保全の重要性を学習する。

野外学習では、東山動物園で動物の行動や習性を学ぶとともに、こども動物園において小動物や家畜との触れ合いを体験することにより生命の尊さを学ぶ。

〔植物コース〕

都会の中心部に近いところで残された学校周辺の自然林や、東山植物園における野外植物の学習、及び温室植物等の学習を中心に授業を行う。

植物に関する基礎的な知識と実際の植物との触れ合いにより、生き物の不思議さや美しさを学ぶと共に、人と自然との関わりに興味を持つことにより、自然環境保全の重要性を学習する。又、小さな自然の一つといわれている身近かでの植物の活用をも学習する。

【評価方法】

出席状況およびテストによる。

人類と宇宙

安野志津子

【授業の概要】

宇宙観の始まり、星の生と死、地球の生成と進化など、日進月歩の宇宙の科学の課題をふまえつつ、人類にとっての宇宙についても考察する。

【授業計画】

ー地球のまわり、太陽系、銀河系を知り、宇宙を身近に引き寄せるためにー

1. 宇宙観の変遷
2. 宇宙を観測する手段
3. 太陽系を探る
4. 星の世界
5. 銀河から宇宙へ
6. 宇宙の始めと未来

毎回プリントを配布し、講義を主とするがその内容を中心としたOHP、ビデオ等も利用する。また、講義に関連した質問を出してもらい次回に解答する。なお、随時ホットな話題も取り入れたい。

【評価方法】

基本的には、期末テスト（配布プリント、ノート持ち込み可）によるが、出席状況も考慮して判定する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

- (1) 宇宙論のすべて 池内 了 (新書館)
- (2) 図解雑学 天文学 二間瀬敏史 (ナツメ社)
- (3) 星と宇宙の物理学読本 並木雅俊 (丸善)
- (4) 図解 SPACE ATLAS 宇宙のすべてがわかる本 三品隆司・河島信樹 (PHP)
- (5) 見えてきた宇宙の神秘 野本陽代 (草思社)
- (6) 太陽 ーその素顔と地球環境との関わりー ケネス・R. ラング著 渡辺 堯/桜井邦朋訳 (シュプリンガー・フェアラーク東京)
- (7) 理科年表 国立天文台編 (丸善)

数学の世界

坂井貞彦

【授業の概要】

我々は日常、知らず知らず近代数学の成果を利用して
いる。ここでは初歩的、あるいは基本的な数学の各手法
を解説して概念を理解させたあと、各手法について応用
例を挙げて、改めてこれらの恩恵を実感する。例として
は、計算機における2進法の利用、極限值、微分の概念、
対数の利用、保険計算における確率などがある。

【授業計画】

講義方式による。古代ギリシャや近世において注目され
た数学の問題の若干にもふれる。

1. いろいろな数、いろいろな式
2. 2進法とコンピュータ
3. 関数とは、方程式を解くとは
4. 正多角形、正多面体、ユークリッド
5. 行列とベクトル、マーケットシェア
6. 面積と積分、速度・加速度と微分
7. 確率論の始まり、くじ引きの順番、保険
8. 指数と対数、等差数列と等比数列、放射能
9. 三角関数、測量、サインカーブ

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回出欠席を調査す
る。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレ
ポートを提出させ、また小テストを実施した場合は、成
績評価に反映させる。

【テキスト】

入門ビジュアルサイエンス・数学のしくみ（川久保勝夫
日本実業出版社）

生命の倫理

加藤太喜子

【授業の概要】

現代の医学の進歩と発達によって今や人間の生命の誕
生も医学よりも倫理の問題になった。現代社会が抱えて
いる「生命」を倫理や哲学の面から考察する。

【授業計画】

次の主な項目に従って授業を展開する。

1. 生命倫理学の成り立ち
2. インフォームド・コンセント
3. 脳死と移植医療
4. 生殖医療
5. 代理母
6. 人工妊娠中絶
7. 出生前診断
8. 優生思想とは
9. よりよい自己決定に向けて

【評価方法】

レポート及び期末に行う筆記試験により評価する。

【テキスト】

授業中に指示する

【参考文献・資料】

優生学と人間社会（米本昌平ほか著 講談社現代新
書）

健康と医学

渡邊一功

【授業の概要】

日本はますます高齢化社会に入り、人生80年の時代になった。しかし、長生きするための健康は自分で管理し、自立自助によって初めて達成される。健康を保ち、命を守り育てるにはどうすればよいか。医学の立場から、病気と健康について講義する。

【授業計画】

- 1) 性感染症
感染症とは 性感染症の現状と予防
- 2) 免疫とアレルギー
免疫のメカニズム、アレルギー反応の分類
アレルギー疾患
- 3) 嗜好品と健康
アルコール タバコ 薬物依存
- 4) 生活習慣病の予防
糖尿病 がん 高脂血症 高血圧
- 5) 生殖の医学
性機能 避妊 妊娠
- 6) 胎児からの子育て
母子相互作用 母と子の絆 小児虐待
- 7) 子どもの成長と発達
身体的発育 生理機能の発達 精神的発達
しつけ
- 8) 乳幼児期の主な病気
一般的症状 主な病気 障害児
染色体と遺伝子異常

【評価方法】

主に筆記試験による。

【テキスト】

健康と保健の科学（坂口他著 日本小児医事出版社）

健康と医学

平井淑江

【授業の概要】

日本はますます高齢化社会に入り、人生80年の時代になった。しかし、長生きするための健康は自分で管理し、自立自助によって初めて達成される。健康を保ち、命を守り育てるにはどうすればよいか。医学の立場から、病気と健康について講義する。

【授業計画】

- 1) 眼と健康
健康な眼とは、眼の構造、眼の働き
- 2) 視力
視力の定義、視力の種類、視力検査法、視力の表示法
- 3) 屈折異常とその矯正
近視、遠視、乱視、眼鏡、コンタクトレンズ
- 4) 視野
視野の定義、盲点、視野の検査法、視野の欠損
- 5) 色覚と明暗の感覚
視細胞、明順応、暗順応
- 6) 小児と眼
小児期の眼の特徴と発達、眼と栄養、両眼視機能、弱視、斜視
- 7) 眼の病気
感染、アレルギー、全身疾患、遺伝、外傷、薬物、化学障害
- 8) 眼と老化
老視、白内障、加齢性黄斑変性
- 9) 失明予防
失明の定義：WHO、日本、小児の失明原因、成人の失明原因
- 10) 眼の健診
健診の意義、乳児健診、3歳児健診、就学時健診、眼の愛護デー、糖尿病健診
- 11) 眼と心と脳
眼精疲労、神経と眼、心因性視覚障害
- 12) ロービジョンとリハビリテーション
視覚補助具、点字、音声ワープロ、盲導犬、白杖

【評価方法】

主に筆記試験によるが、講義の理解度を見るために小テストを2回、行う。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

適宜紹介

健康とくすり

八代有

【授業の概要】

現代は飽食の時代といわれ、運動不足やストレス過多のため医薬品の助けがなければ健康の維持が難しい。医薬品についての正しい知識を学び、その依存性や副作用について理解を深める。

【授業計画】

1. 薬の生体における作用点
2. カゼ対策と風邪症候群
3. アレルギーと抗ヒスタミン剤
4. うつ状態と覚せい剤
5. カフェイン飲料と中枢興奮の働き
6. 自律神経系と生体機構
7. コレステロールと動脈硬化症
8. 肥満症と高脂血症
9. うかい薬と呼吸器系作用薬
10. 健胃消化薬と整腸薬
11. ビタミン剤とホルモン剤
12. 抗生物質製剤と副作用
13. 医薬品服用時の臨床検査値への影響

【評価方法】

テスト、出席状況などの総合判定による。

【テキスト】

テキストは使用しない、プリントを適宜配布する。

ライフサイクルと健康

鶴原香代子

【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルに合わせた運動と健康の維持について身近な問題をとりあげて講義する。

【授業計画】

- | | |
|--------|---|
| 第1～3回 | 現代社会における健康の諸問題
ライフサイクルと健康
大学生の体格・体力とスポーツ |
| 第4～6回 | 身体の仕組みと働き
運動と身体の変化
運動の効果と安全性 |
| 第7～8回 | 運動不足とその影響
ウエイトコントロール |
| 第9～11回 | 発汗と水分・栄養補給
疲労とその予防・回復
スポーツと疾病予防
運動処方・生活習慣の修正 |
| 第12～終了 | ライフスタイルと健康
まとめ |

【評価方法】

授業内の課題レポートによって評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜 指示する。

資料としてプリントの配布、ビデオを利用する。

スポーツ基礎

鶴原香代子

【授業の概要】

各種スポーツ（テニス、ゴルフ、バドミントン）をはじめ、ストレッチ体操、トレーニングなどの運動の基礎技術を習得することを目標として行う。

【授業計画】

スポーツの特性を理解し、自身の能力や体力にふさわしいスポーツ実践の大切さを認識する。

第1回 教室にてガイダンスを行う。

天候により、場所、種目の変更が考えられるが、学内の施設・用具を使用して行う。

第2回～最終授業まで

主に、テニスを中心に展開するが、ニュースポーツ等の種目も考えている。また、ビデオによる試合観戦からルールやマナーを学ぶ。（種目の終了時にスキルテストを実施）

【評価方法】

学習意欲（30%）、ルールの理解と技能の習得（20%）、出席状況（50%）により総合的（100%）に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

スポーツ応用

鶴原香代子

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。また、スクーパ・ダイビング、スキーなどのシーズンスポーツを集中講義として行う。

（ただし、文化創造学部において集中講義は行わない。）

【授業計画】

バドミントンの基本的動作から、ゲーム形式を取り入れた実践的な練習をすることにより、ルールとその特性を理解し、生涯にわたって親しめるような技術と知識を身につけることを目標とする。

第1回 教室にてガイダンスを行う

第2回 導入、ラケットティング

第3回 遠くへ飛ばす（サービスからハイクリア）
ネット際へ落す（ドロップ、ヘアピン）

第4回 攻撃に結びつけるショット
（ドライブからブッシュ、スマッシュ）
簡単シングルス・ゲーム

第5回 フットワークと戦術
シングルス・ゲーム

第6回 ルールの理解とフォーメーション

第7回 サービス（コースを決めて打ち分ける）
ダブルス・ゲームの実践

第8回～最終授業まで
ダブルス・ゲーム（リーグ戦）
スキルテスト

【評価方法】

出席状況（50%）、ルールの理解と技能の習得（30%）、グループワークと参加態度（20%）により総合的（100%）に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

スポーツ文化論

勝部篤美

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的・社会的事実から論証し、さらにスポーツの生成・発展・衰退に関する諸要因（政治・経済・産業・社会・教育・科学・宗教・地理的環境等）について考え、現代社会における「人間性復権」への道程を展望する。

【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追求する
3. スポーツは競争と協力の両面をもつ
4. スポーツはフェアプレイの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには富と閑暇が関係する
8. スポーツは社会生活と関係が深い
9. スポーツには教育が関係する
10. スポーツには政治が関係する
11. スポーツには科学が関係する
12. スポーツは地理的環境に影響されることが大きい
13. スポーツには民族性が反映される
14. スポーツには商業主義がつきまとう
15. スポーツにはジャーナリズムがつきまとう
16. スポーツはガス抜き装置としての役割を果たす
17. スポーツのルールは法の体系に似た構造をもつ
18. スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある
19. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
20. スポーツは今や人間性の復権へ向って進む
21. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場合と同じである

【評価方法】

単位認定試験とレポートの成績および出席状況によって評価する。

【テキスト】

使用せず。参考図書は授業のとき指示する。

表現技術科目

実用日本語演習Ⅰ（生活実用文）

柏木義雄 酒井晶代 島田修三 清水良典
西田 勝 矢頭 純 佐々木亜紀子（再履修クラス）

【授業の概要】

日常生活における手紙・挨拶文・依頼文・案内文等の実用的な文章表現の、基本的な形式と表現を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

第1回に先立ち、テキストの「語彙〈ことばの読み書き〉」を、各自自習しておくこと。
第1～4回 敬語
第5～6回 手紙文
第7～9回 文の書き方
第10～11回 自己表現
第12回 小論文

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題提出、最終レポートなどによる。

【テキスト】

実践国語表現（市川毅ほか おうふう）

実用日本語演習Ⅱ（商業文）

加藤良徳

【授業の概要】

商店・企業・官公庁等における報告書・依頼文・案内文等の文章表現の実践的な知識と技術を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション
第2～5回 テキストを利用して、正確で分かりやすい文を書く基礎練習を行う。
第6～9回 テキストを利用して、場面・用途別の文書作成の練習を行う。
第10～12回 個別の課題により、文書作成を行う。
ロールプレイング形式を取り入れる。
※第2～12回では、毎回、言葉の知識についての小テストを行う。

【評価方法】

小テストの平均点、授業態度、第10～12回の課題の達成度を総合して評価する。

【テキスト】

書き込み式 日本語表現法（名古屋大学日本語表現研究会 三弥井書店）

【参考文献・資料】

各自、国語辞典を用意すること。

実用日本語演習Ⅱ（商業文）

桑本いづみ

【授業の概要】

商店・企業・官公庁等における報告書・依頼文・案内文等の文章表現の実践的な知識と技術を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 はじめに/ビジネス文書とは
- 第2講 正確でわかりやすい文章を書くには
—用字・用語
- 第3講 礼儀正しい文章を書くには—敬語・マナー
- 第4講 ビジネス文書の書式と構成要素
- 第5講 社内文書の作成—連絡書
- 第6講 社内文書の帳票化—報告書
- 第7講 社内文書の帳票化—議事録
- 第8講 社外文書の作成—取引文書（通知状）
- 第9講 社外文書の作成—取引文書（依頼状・照会状）
- 第10講 社外文書の作成—社交文書（案内状・招待状）
- 第11講 社外文書の作成—社交文書（礼状・挨拶状）
- 第12講 社外文書の作成—FAXと電子メール
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況・課題・単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

ビジネス文書実務 石井典子・三村善美著 早稲田教育出版

実用日本語演習Ⅱ（商業文）

下村養子

【授業の概要】

商店・企業・官公庁等における報告書・依頼文・案内文等の文章表現の実践的な知識と技術を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 はじめに/郵便の知識と文書の取扱い
- 第2講 用字・用語の使い分けと敬語表現
- 第3講 ビジネス文書の書式と文章のまとめ方
- 第4講 社外文書の作成—社交文書（礼状・挨拶状）
- 第5講 社外文書の作成—社交文書（案内・招待状）
- 第6講 社外文書の作成—取引文書（依頼状）
- 第7講 社外文書の作成—取引文書（照会状）
- 第8講 社外文書の作成—はがき（通知状）
- 第9講 社内文書の作成—連絡書
- 第10講 社内文書の帳票化—報告書
- 第11講 社内文書の帳票化—議事録
- 第12講 FAXと電子メール
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況・課題・単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

実用筆記演習 I (習字)

大池茂樹

【授業の概要】

主として楷書体のひらがな・漢字の正確で美しい書法を演習形式で学び、習字の基礎を身につける。

【授業計画】

毛筆と硬筆を使い、学校で教えるひらがな・カタカナ・漢字の書き方を学ぶとともに、一般社会で必要とされる実用書写の知識を習得する。従って、講義と実技とを並行して行う。実技は日常の家庭学習をのぞむ。ここ10マスノート・書道用具一式が必要。

1. 用具説明 参考資料の説明
文字を書く 言葉を書く 字形・字体・書体
2. 墨をする 姿勢と筆の持ち方
名前を書く 活字と手書き文字
3. 漢字を書く (1) 筆順と漢字の部首名
4. 漢字を書く (2) 基本点画
とめ はね はらい おれ まがり そり
5. 漢字を書く (3) 字形 点画の長短・方向など
6. 漢字を書く (4) 中心線 文字の大小 字配り
7. カタカナを書く
8. ひらがなを書く (1) まがり 折り返し 結び
9. ひらがなを書く (2) 字形
10. 漢字かな交じりの言葉を書く (1)
11. 漢字かな交じりの言葉を書く (2)
12. まとめと提出

【評価方法】

小テスト、レポート、毎時間の提出物、実技作品、出席状況などにより総合評価する。

【テキスト】

書写指導 中学校編 (萱原書房)
ペン字のレッスン1 入門編 (二玄社)

【参考文献・資料】

硬筆字典 (二玄社)
文字の書き方字典 (木耳社)

《その他》

書写検定試験 (1級・2級) を受験し、実力をためす。

実用筆記演習 I (習字)

福島千家

【授業の概要】

主として楷書体のひらがな・漢字の正確で美しい書法を演習形式で学び、習字の基礎を身につける。

【授業計画】

第1回 年間の授業計画として使用する教本の鑑賞の方法を説明する。

第2回～10回

書写の重要なポイントの説明をしながら実技をする。一人一人について添削指導をする。

第11回～最終回

応用問題を出して各自に表現をさせ実力を身につけさせる。又手紙文の練習も実施させる。

【評価方法】

授業態度平常点・課題・出席状況

【テキスト】

ペン字テキスト、基本編・ペン字三体 (氏田菫軒著 書道教育社)

実用筆記演習Ⅱ（速記）

田邊則男

【授業の概要】

速記方式という実用的な記号の体系の基礎を演習形式で学び、日常生活において速記を応用する技術を身につける。

【授業計画】

1. 速記法の成り立ちと役割
『速記の知識』日本速記120年記念会発行・社団法人日本速記協会
2. 速記文字の演習『1巻～2巻』
3. 速記文字と国語表記
4. 言葉の聴き取り能力と国語表記能力の養成
5. 速記の目的と学習計画の指示
6. テキストによる速記文字の習得と演習
7. 速記実務における国語能力（言葉の聴取能力）
8. 速記実務における専門知識（言葉の理解能力）
9. 速記実務における国語表記（話し言葉から読む言語へ）
10. 新聞記事『主に社説』の書き取りと要約（NIE）

【評価方法】

1. 出席状況及び受講態度による評価
2. 平常点及び授業内容の理解度、課題点による評価
3. 速記技術の習得度及び国語表記能力による評価

【テキスト】

速記テキスト1巻～5巻（日本速記研究所刊）

【参考文献・資料】

速記の知識（（社）日本速記協会内・日本速記120年会発行）

国語表記能力シート 適宜授業中に配布する

実用筆記演習Ⅲ（書道）

大池茂樹

【授業の概要】

行書体、草書体、隸書体、篆書体といったさまざまな書体やその芸術性を演習形式で学び、各書体の基本的な書法を身につける。

【授業計画】

書の歴史・文化・理論などを学びながら技術技法ならびに芸術的な感性を習得する。従って、講義と実技とを並行して行う。実技は日常の家庭学習をのぞむ。書道用具一式が必要。

1. 芸術としての書 日常生活の中の書
書道用具（文房四宝）参考資料の説明
2. 文字の成り立ち 書体・書風
書の古典 中国の書と日本の書
書道用具の扱い方 姿勢・執筆 基本点画
墨をする 名前を書く 篆書を書く
3. 画仙紙に書く 書線の性質 隸書を書く
用墨法 用筆法・運筆法 技法と裏ワザ
4. 字形を整える 筆順 行書・草書を書く
構成法 字配り 墨つぎ 余白の美
5. 書の創作と表現（1）集字する 一字書
6. 書の創作と表現（2）題材を選ぶ 漢字かな交じりの書
7. 書の創作と表現（3）構想を練る 形式を決める 四字熟語を書く
8. 書の創作と表現（4）草稿作り 五文字の言葉を書く
9. 書の創作と表現（5）表現の工夫 推敲する
10. 書の創作と表現（6）卒意の書
11. 書の創作と表現（7）書き込む 清書する
12. 書の鑑賞 作品の発表と評価 まとめと提出

【評価方法】

小テスト、レポート、毎時間の提出物、実技作品、出席状況などにより総合評価する。

【テキスト】

書法の美（二玄社）

【参考文献・資料】

新書道字典（二玄社）、五体字類（西東書房）、書道字典（角川書店）、書体小字典（東京堂出版）などの書道専門の字典類

その他、各種法帖、書道辞典、墨場辞典などの資料

実用筆記演習Ⅲ（書道）

福島千家

【授業の概要】

行書体、草書体、隸書体、篆書体といったさまざまな書体やその芸術性を演習形式で学び、各書体の基本的な書法を身につける。

【授業計画】

書道用具一式が必要。

第1回 年間の授業計画として使用する教本の説明をする。

第2回～10回

書写の重要なポイントの説明をしながら実技をし、一人一人について添削指導をする。

第11回～最終回

練習をした字句を使用して必要な熟語を構成して簡単な文章又は手紙文の練習をする。又篆書体によって自分の印鑑を読める様にする。

【評価方法】

出席状況・平常点・課題による。

ディベート入門

渡辺真澄

【授業の概要】

討論・議論における効果的な論理の展開や修辞法、相手の論理や趣旨の理解や検証の方法等を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

ディベートの理論と実践を通してコミュニケーション技能の向上を目指す。授業では、ディベートの概要や理論の解説に加え、受講者には実際にスピーチやディベートを行ってもらい、言語運用能力、論理的な思考能力、情報収集能力などの向上を目指す。

第1回 ディベートの概要

第2回 スピーチ実践（1）：自己紹介など

第3回 スピーチのレトリック

第4回 スピーチ実践（2）：テーマスピーチ

第5回 ディベートの論理的推論

第6回 ディベート論題決定のブレインストーミング

第7回 プレゼンテーション実践：グループ発表

第8回 グループリサーチ

第9回 立論の作成と反駁の準備

第10回 ディベート実践（1）：ディベートの試合

第11回 ディベート実践（2）：ディベートの試合

第12回 論題研究（積極的安楽死）

第13回 ディベート実践（3）：ディベートの試合

第14回 ディベート実践（4）：ディベートの試合

第15回 まとめ

“There are only two parts to a speech :

You make a statement and you prove it.”

(ARISTOTLE, RHETORIC.)

【評価方法】

出席状況、授業での活動状況、レポートなどを総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じてハンドアウトを配付する。

【参考文献・資料】

頭を鍛えるディベート入門（松本茂著 講談社）

クリエイティブ・ライティング

酒井晶代 清水良典

【授業の概要】

創造的な文章表現の実践的な知識や技術を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 「書く」とはどういうことか？
- 第2講 イメージを伝える
- 第3講 「水の音楽」
- 第4講 相互批評
- 第5講 「最初の記憶」
- 第6講 相互批評(1)
- 第7講 相互批評(2)
- 第8講 「出会った人物」
- 第9講 相互批評(1)
- 第10講 相互批評(2)
- 第11講 推敲の楽しみ
- 第12講 〈純文章〉について

【評価方法】

出席状況、提出作品などによる

【テキスト】

新作文宣言 (梅田卓夫ほか ちくま学芸文庫)
表現 わたしの作品集 (筑摩書房)

英文多読・速読

スティーヴン・E. クアシャ

【Course Content】

さまざまなタイプの英文を読みこむことによって、内容を早く、正確に読み取れる能力を身につける。

【Schedule】

The goal of this course is to develop students' reading speed and comprehension and gain an understanding of English by studying a novel. Reading strategies such as context clues, skimming, scanning, and prediction will be introduced. In addition to the novel, students will also read a variety of short passages and articles from authentic materials, such as newspapers and magazines.

- ・ Strategies of Reading
- ・ Reading for a Purpose
- ・ Being an Active Reader
- ・ Predicting
- ・ Skimming and Scanning
- ・ Context Clues
- ・ Reading a novel

【Assessment】

Assessment will be based on class participation, attendance and effort put into the course.

【Textbooks】

Harry Potter and the Sorcerer's Stone
(J. K. Rowling Scholastic Press)

英文多読・速読

隈井清臣

【授業の概要】

さまざまなタイプの英文を読みこむことによって、内容を早く、正確に読み取れる能力を身につける。

【授業計画】

- 1) できるだけ多くの文章を読ませる。
- 2) できるだけ速いスピードで文章を読ませる。そして大意を適確につかませる。
- 3) さまざまな分野の英文を読ませる。
- 4) 英語の語い力を増加する練習をする。
- 5) 辞書を引き、文脈に応じた用法・用例を調べる習慣を身につけさせる。
- 6) 英文におけるパラグラフの構成、論理の流れを理解させる。
- 7) 英語のリズムを重視した音読の訓練をする。

【評価方法】

テスト等の得点70%、授業の参加状況20%、出席の状況10%を総合して評価する。

【テキスト】

= 表現A・多元A =

Basic Faster Reading (C. Malarcher 成美堂)

= 表現C・環境CD =

Interactive Reader for Paragraph Development (石田雅近他 金星堂)

= 環境E =

¡Cultures! Interviews with people from around the world (M.Muramatsu 桐原書店)

【参考文献・資料】

授業の中で適宜指示または紹介する。

英文多読・速読

中川直志

【授業の概要】

さまざまなタイプの英文を読みこむことによって、内容を早く、正確に読み取れる能力を身につける。

【授業計画】

- | | |
|-----------|------------------------------|
| 第1回～第2回 | The British Secondary School |
| 第3回～第4回 | The worst food in the world? |
| 第5回～第6回 | "Time, please!" |
| 第7回～第8回 | Social sports |
| 第9回～第10回 | Four into One |
| 第11回～第12回 | Tea-the national drink |

【評価方法】

出席状況、平常点、試験を総合的に評価する。

【テキスト】

A Background of British Culture (石黒昭博、S.ゲイツ著 英宝社)

英文多読・速読

二村慎一

【授業の概要】

さまざまなタイプの英文を読みこむことによって、内容を早く、正確に読み取れる能力を身につける。

【授業計画】

- 第1講 オリエンテーション
授業計画などの指示
第2講～ テキストを使って演習。

授業では、主に指定したテキストを演習形式で読み進めるが、速読の練習として随時プリントを配り、簡単な新聞記事、小説等を読む予定である。

【評価方法】

出席状況と平常点 (50%)、定期試験の成績 (50%) によって総合的に評価する。

【テキスト】

Real Life in Britain

(Anna Udagawa, Heather Oxley, Toshihiko Kubota
著 三修社)

英文多読・速読

横田裕加

【授業の概要】

さまざまなタイプの英文を読みこむことによって、内容を早く、正確に読み取れる能力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 年間計画指示
第2回～第12回 テキスト (小テストを定期的に行う)

【評価方法】

出席状況、平常点、小テスト、定期試験の成績などによって総合的に評価する。

【テキスト】

Reading Mainstream of the World

(千葉元信、松尾秀樹、岡崎久美子著 三修社)

英文多読・速読

【授業の概要】

さまざまなタイプの英文を読みこむことによって、内容を早く、正確に読み取れる能力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 後期授業・学習計画の指示
- 第2回～第4回 Unit 1 Culture Crossings
- 第5回～第7回 Unit 2 We, The People: How America Lives
- 第8回～第10回 Unit 3 Environmental Solutions
- 第11回～第12回 Unit 4 The Animal Kingdom

テキストを利用してリーディングの演習を行う。
授業中は頻繁に指名するので、予習をしておくことが必須である。Unit終了後ごとに小テストを行う。

【評価方法】

出席状況、平常点、小テスト、期末テストの成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

The Powerful Reader Basic-A Thematic Approach to Developing Reading Skills

(Joan Young Gregg, Beth M.Pacheco 著 マクミランランゲージハウス)

英文多読・速読

安田千恵

【授業の概要】

さまざまなタイプの英文を読みこむことによって、内容を早く、正確に読み取れる能力を身につける。

【授業計画】

講義の前半は、SRA Reading Laboratoryを利用し、各学生のレベルと興味に応じたカード式教材を用い独習形式の読解演習を行う。後半は、クラス全体で同一教材を使用し、語彙力の強化、文法、パラグラフの構成、論理の流れ、文化的背景等の説明を行う。

又音読の訓練も行う。

- 第1回 講義目標、進行、評価方法等の提示
SRA Reading Labオリエンテーション Placement Test
- 第2回～12回 テキストを利用しリーディング演習

【評価方法】

出席状況、平常点、試験等によって総合的に評価する。

【テキスト】

Reading Mainstream of the World (MOTONOBU CHIBA, HIDEKI MATSUO, KUMIKO OKAZAKI SANSHUSHA)

リスニングⅠ

(表現A B) 稲生幹雄

【授業の概要】

英語を正確に聞き取れるようになるための、基礎的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業計画】

授業は、LL教室で行なう。いろいろな速度で話される、生き生きとした英語を聴きながら、英語独特の音声組織やリズムに慣れ親しむための練習を積んでゆこう。

テキストは、*Essential Listening 1* と *Enjoy Pop Songs* を使用する。*Essential Listening 1* は、リスニングの練習を積み重ねながら英会話の基本的表現に習熟し、数 (Number) にも強くなれるテキストで、予習用のCDも付いている。*Enjoy Pop Songs* の方は、有名なポップ・ソング20曲に英語の解説やクイズを添えたものである。この2冊を併用して、大いに耳を鍛えてゆこう。毎時間の授業は、

- (1) まず予習と宿題の成果と、内容の理解を確かめ、
- (2) *Enjoy Pop Songs* の音声テープ・音楽テープを用いて耳を慣らしながら、
- (3) *Essential Listening 1* のCDやテープを用いて、練習問題の流れに沿った各種のドリルを展開し、
- (4) 仕上げとまとめの段階では、さらに音声を聴きながら、練習用紙 (小テスト用紙を兼ねる) への記入も同時に進めていって、
- (5) 最後に、次週の授業に向けて予習・宿題のポイントを確認する

—という順序で展開してゆく予定。いい英語をたくさん聴いて、英語の表現力のゆたかさを実感しながら、毎週着実に、リスニングの力をつけてゆくことを目指す。

【評価方法】

小テストおよび宿題の得点の集積と、出席状況・受講状況を総合して評価する。

【テキスト】

Essential Listening 1 (Dale Fuller他編 マクミラン・ランゲージハウス)

Enjoy Pop Songs (Kim R. Kanel編 成美堂)

リスニングⅠ

(多元C D) 稲生幹雄

【授業の概要】

英語を正確に聞き取れるようになるための、基礎的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業計画】

授業は、LL教室で行なう。いろいろな速度で話される、生き生きとした英語を聴きながら、英語独特の音声組織やリズムに慣れ親しむための練習を積んでゆこう。

テキストは、*Let's See the World* (『ビデオで学ぶ世界の文化』) を使用する。このテキストは13のユニットから成っていて、ペルー、カナダ、オーストラリア、エジプト、アメリカなど、世界の13の国々を順次訪れてゆく構成になっている。そしてユニット毎に、Introducing the Topic, Words from the Video, Video Check, Dialogs, Snapshotという、5段階の練習問題に取り組みやすいようにつくられている。これらの練習問題は、この教材付属のCDとビデオに収録されているので、映像と音声に親しみながら、大いに耳を鍛えてゆこう。毎時間の授業は、

- (1) まず予習と宿題の成果と、内容の理解を確かめ、
- (2) CDとビデオを交互に聴いたり見たりしながら、練習問題の流れに沿った各種のドリルを展開し、
- (3) 仕上げとまとめの段階では、さらに音声を聴きながら、練習用紙 (小テスト用紙を兼ねる) への記入も同時に進めていって、
- (4) 最後に次週の授業に向けての予習と宿題のポイントを確認する

—という順序で展開してゆく予定。いい英語をたくさん聴いて、英語の表現力のゆたかさを実感しながら、毎週着実に、リスニングの力をつけてゆくことを目指す。

【評価方法】

小テストおよび宿題の得点の集積と、出席状況・受講状況を総合して評価する。

【テキスト】

Let's See the World (染谷正一他編 成美堂)

リスニングⅠ

(環境CD) 稲生幹雄

【授業の概要】

英語を正確に聞き取れるようになるための、基礎的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業計画】

授業は、LL教室で行なう。いろいろな速度で話される、生き生きとした英語を聴きながら、英語独特の音声組織やリズムに慣れ親しむための練習を積んでゆこう。

テキストは、*Hit Parade Listening - Second Edition*を使用する。このテキストは、有名なポップ・ソング20曲と各種の練習問題で構成されていて、英語の音声の「聞き取りのコツ」や、「短縮形の音」「ひとつになる音」「聞こえなくなる音」「つながる音」などの音声変化を具体的に学べるよう工夫されている。この教材のCDやテープを活用し、多彩な練習問題に取り組んで、音楽を楽しみながら、大いに耳を鍛えてゆこう。毎時間の授業は、

- (1) まず予習と宿題の成果と、内容の理解を確かめ、
- (2) この教材の音楽を聴きながらポイントとなる音声変化の特徴を理解し、
- (3) 付属のCDやテープを用いて、練習問題の流れに沿った各種のドリルを展開し、
- (4) 仕上げとまとめの段階では、さらに音声を聴きながら、練習用紙(小テスト用紙を兼ねる)への記入も同時に進めていって、
- (5) 最後に、次週の授業に向けて予習・宿題の要点を確認する

— という順序で展開してゆく予定。いい英語をたくさん聴いて、英語の表現力のゆたかさを実感しながら、毎週着実に、リスニングの力をつけてゆこう。

【評価方法】

小テストおよび宿題の得点の集積と、出席状況・受講状況を総合して評価する。

【テキスト】

Hit Parade Listening - Second Edition (熊井信弘他編
マクミラン・ランゲージハウス)

リスニングⅠ

スティーヴン・E. クアシャ

【Course Content】

英語を正確に聞き取れるようになるための、基礎的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【Schedule】

The goal of this course is for students to improve listening skills and increase confidence in listening to authentic English. Students will be introduced to and encouraged to apply listening strategies to improve their comprehension. Students will watch a number of English language movies in their entirety. Students will complete previewing reading and vocabulary exercises. They will then watch the movie and answer comprehension questions after each section. Although this course focuses on listening, other skills of speaking, reading and writing will also be a part of this course.

- Listening strategies
- “Shortcuts” in spoken English
- Phrasing and idioms
- Making predictions
- Listening: a movie

【Assessment】

Assessment will be based on class participation, attendance, and quality of work accomplished.

【Textbooks】

The movie guide textbook will be sold to students on the first day of class. The cost will be ¥2000.

リスニングⅠ

隈井清臣

【授業の概要】

英語を正確に聞き取れるようになるための、基礎的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業計画】

- 1) 大量の英語を聴取することを第一目標とする。
- 2) さまざまな形式の英語を聞いて理解する練習をさせる。
- 3) 理解を助ける音変化のしくみを学ばせる。
- 4) さまざまなスピードの英語を聞いて理解する練習をさせる。
- 5) 英語のリズムを身につけさせ、話し手の感情や意図を理解させる。
- 6) 可能な限りLL教室か視聴覚機器を使用する。
- 7) 音読も訓練する。

【評価方法】

テスト等の得点70%、授業の参加状況20%、出席の状況10%を総合して評価する。

【テキスト】

Primary Listening (A.Tsuda 金星堂)

【参考文献・資料】

授業の中で適宜指示または紹介する。

リスニングⅠ

安田千恵

【授業の概要】

英語を正確に聞き取れるようになるための、基礎的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業計画】

ビデオ、音声テープを利用し、会話、ナレーション等様々な形式、スピードの英語を聴き、理解する訓練を行う。又、聴解練習に加え、英語の音声的特徴—音変化、連結、弱形・強形、リズム等を音読の訓練を通じて、音声面からのリスニング力の養成を計る。

- | | |
|---------|--------------------------------------|
| 第1回 | 講義目標、進行、評価方法などの提示 |
| 第2回～6回 | テキストを利用してリスニング演習
音変化、連結、機能語の強形、弱形 |
| 第7回～12回 | テキストを利用してリスニング演習
リズム、イントネーション |

なお、第1回目の講義時に64分テープを持参すること。

【評価方法】

出席状況、平常点、試験等によって総合的に評価する。

【テキスト】

HEADWAY VIDEO ACTIVITY BOOK

PRE-INTERMEDIATE (Tim Falla Oxford University Press)

CUBIC LISTENING Closing the Culture Gap

(Timothy Kiggell, Kevin Cleary MACMILLAN LANGUAGEHOUSE)

リスニングⅠ

二村慎一

【授業の概要】

英語を正確に聞き取れるようになるための、基礎的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業計画】

- 第1講 オリエンテーション
授業計画などの指示
- 第2講～ テキストを使って演習。
又、ニュース、歌なども聴く予定である。

【評価方法】

出席状況、平常点、定期試験によって評価

【テキスト】

英語のリスニングストラテジー
ーコミュニケーションのための実践演習ー
(JACET関西支部リスニング研究会著 金星堂)

リスニングⅡ

大澤聡子

【授業の概要】

英語をより正解に聞き取れるようになるための応用的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業計画】

テキストに従って、各セクションを1回の授業で行う。はっきりと話される会話のリスニングから段階的にナチュラルスピードで話させる会話のリスニング演習に進むことで、実践的なリスニング力の養成を図る。また、実践に役立つ語彙力、会話における文法知識、聞き分け能力などの基本的項目を学習し、演習を通して身につける。できるだけ多く、様々な種類のリスニング演習を行い、メインとなる情報の聞き取り能力や特定の情報の聞き取り能力の訓練も行う。

【評価方法】

出席、授業態度、提出課題、小テスト、試験で総合評価する。

【テキスト】

Sound Bytes 1 (Longman)

リスニングⅡ

平林美都子

【授業の概要】

英語をより正確に聞き取れるようになるための応用的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業計画】

- ・耳で聞いた英文をそのまま繰り返すシャドウイングの訓練を通して英語の音を自分のものにする。
- ・ディクテーション・ドリルによって、会話のメッセージに即答できる力をつける。
- ・英語の長文を聞いて内容を理解する練習をする。

第1回 授業、評価方法などの説明。

第2回～12回 テキストを用いたリスニング演習と聞きとりテスト。

【評価方法】

出席状況、課題、毎回の聞き取りテストなどを総合して評価する。

【テキスト】

A New Approach to Natural English

(矢作三蔵、William Phalon、Edward Torrico 編 開文社)

Drills for Listening and Dictation

(船田秀佳編、弓プレス)

英会話Ⅰ

ベヴァリー・F. M. カレン

【Course Content】

自分の考えや意見を、英語で正確に伝達できるようになるため、基礎的な能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

The course will begin with a focus on listening and learning to control understanding through conversation management strategies. Speaking and reading will be combined using closed caption video to improve fluency and increase vocabulary. Weekly e-mail will be encouraged.

【Assessment】

Student assessment is ongoing, and based on effort and participation, as well as ability and attendance. There will be an oral interview at the end of the term.

【Textbooks】

There is no assigned textbook.

英会話 I

(多元E) ダニエル・ダンクリー

【Course Content】

自分の考えや意見を、英語で正確に伝達できるようになるための、基礎的な能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

The aim of this course is to develop students' oral skills and to help them express themselves in English. They will talk about the customs, practices and values of Japan and other countries.

Each class meeting will have a topic. Students begin with a "warm up" activity to make them think about the theme. Then they work on vocabulary for the theme.

A listening task helps them to understand everyday real-life conversation. Finally they do a communication task or survey in pairs or groups.

1. Names
2. Gestures and body language
3. Favorite things
4. Drinks
5. Festivals
6. First Dates
7. Part-time jobs
8. Gifts
9. Food
10. Looking good (clothes)
11. Cultural do's and don'ts
12. Television

【Assessment】

1. Attendance
2. Class work
3. Interview test

【Textbooks】

J-Talk (Lee, Yoshida, Ziolkowski Oxford University press)

英会話 I

(表現A) ダニエル・ダンクリー

【Course Content】

自分の考えや意見を、英語で正確に伝達できるようになるための、基礎的な能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

The aim of this course is: to develop students' communication skills, both speaking and listening, and to help them express themselves in English.

Students will practise pronunciation and intonation, vocabulary, grammar, and functions (for example, asking for information, explaining and inviting).

Each class meeting will have a topic. Students begin with a "warm up" activity to make them think about the theme. Then they work on the vocabulary for the theme.

Next students practice a short dialog in pairs, which shows one example of a natural interchange. They concentrate on pronunciation and intonation.

Listening activities will be used at this point, then finally students do an interchange activity, in which they must work independently.

1. Meeting people
2. Presents
3. Where are you from? (cities, countries)
4. Personalities
5. Clothing, colors,
6. Seasons, weather
7. Times of day, daily activities
8. Places and transportation
9. Family relationships
10. House and apartments
11. Rooms and furniture
12. Jobs and workplaces

【Assessment】

1. Attendance
2. Participation
3. Interview Test

【Textbooks】

New Interchange Intro students' book
(Richards C.U.P. 0-521-77396-2)

英会話 I

ラリー・A. バドウィル

【Course Content】

自分の考えや意見を、英語で正確に伝達できるようになるための、基礎的な能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

The first part of the course will be used to review fundamental English conversational patterns, particularly yes/no and WH... questions and answers. We will then go on to activities in which you can practice communicating in English.

【Assessment】

You will be graded on your desire to improve your English speaking and listening skills. This means actively participating in class activities. Improving your English is up to you.

【Textbooks】

A Japanese/ English, English/Japanese dictionary is highly recommended.

〈多元CDF〉

TOPIC TALK (David Martin EFL Press)

〈表現B〉

GATEWAYS Student Book (Victoria Kimbrough OUP)

GATEWAYS Workbook

英会話 I

アンソニー・P. ピッコロ

【Course Content】

自分の考えや意見を、英語で正確に伝達できるようになるための、基礎的な能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

During the first third of the class, students will be involved in speaking activities (information gap, role play, discussion, etc.) evolving out of the viewing of short video excerpts. In the second third of the class, students will prepare and present short individual movie reviews. The final third of the class will consist of small group skits to be performed, video taped, and critiqued in class.

【Assessment】

Attendance and participation; effort and improvement; individual and group presentations.

【Textbooks】

No text required. All materials will be provided by the instructor.

英会話 I

マシュー・ポウデン

【Course Content】

自分の考えや意見を、英語で正確に伝達できるようになるための、基礎的な能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

On this course, students will learn basic English through studying about the teacher's home country. The focus of the course will be on speaking, but will also involve listening activities. These activities center around the themes in an English teaching video that will be used in class. Students will be encouraged to talk about aspects of their own lives and culture. Activities may be conducted as a class, in pairs or in small groups. The topics will be as follows:

1. An Introduction to Britain
2. Schools
3. Food
4. Homes
5. Sport
6. Festivals
7. Pop
8. London

【Assessment】

Assessments will be based on a combination of attendance, participation in class activities, and a brief interview test in the final class

【Textbooks】

Window on Britain Activity Book (Richard MacAndrew OUP)

英会話 I

キンバリー・A. モリシー

【Course Content】

自分の考えや意見を、英語で正確に伝達できるようになるための、基礎的な能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

- 1 : Names
- 2 : Body Language
- 3 : Possessions
- 4 : Cheers
- 5 : Holidays
- 6 : Dating
- 7 : Jobs
- 8 : Gift Giving
- 9 : Food
- 10 : Fashion
- 11 : Customs
- 12 : Television

【Assessment】

Assessment will be based on class participation, attendance and weekly quizzes.

【Textbooks】

J-Talk

(L.Lee, K.Yoshida, and S.Ziolkowski, Oxford University Press)

英会話Ⅰ

テリー・ワコルツ

【Course Content】

自分の考えや意見を、英語で正確に伝達できるようになるための、基礎的な能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

The topics to be covered include: Family, Food, Home, Music, Vacation, Education, Shopping, Money, Health, Beliefs, TV, Opinions

【Assessment】

Assessment will be based on occasional vocabulary tests, attendance and class participation.

【Textbooks】

〈表現C・多元B〉

TOPIC TALK (David Martin EFL Press)

〈表現D・環境F〉

now you're TALKING (Chris Elvin EFL Press)

英会話Ⅱ

ベヴァリー・F. M. カレン

【Course Content】

自分の考えや意見を、より正確に伝達できるようになるための発展的な能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

The course will begin with a focus on listening and learning to control understanding through conversation management strategies. The course will develop from weekly topics to a more sustained speaking project. Speaking and reading will be combined using closed caption video to improve fluency and increase vocabulary. Weekly e-mail will be encouraged.

【Assessment】

Student assessment is ongoing, and based on effort and participation, as well as ability and attendance. There will be an oral interview at the end of the term.

【Textbooks】

There is no assigned textbook.

英会話Ⅱ

(環境A) ダニエル・ダンクリー

【Course Content】

自分の考えや意見を、より正確に伝達できるようになるための発展的な能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

The aim of this course is to develop students' oral skills and to help them express themselves in English.

Students begin with a "warm up" activity to make them think about the theme. Then they work on vocabulary for the theme. They practice a short dialog, which shows one example of a natural interchange. Each dialog has a special pronunciation point. Then a listening task helps them to understand everyday real-life conversation. Finally they do a communication task or survey in pairs or groups.

1. Favorite foods
2. Sports, abilities
3. Birthdays, dates
4. Weekend activities, what you're going to do
5. Health, advice
6. Shopping, asking for help
7. Street directions, New York
8. Weekend activities, talking about past events.
9. Dates, family history
10. Events in your life
11. Telephoning, giving messages
12. Invitations on the telephone

【Assessment】

1. Attendance
2. Class work
3. Interview test

【Textbooks】

New Interchange Intro students' book B
(Richards Cambridge University Press)

英会話Ⅱ

(表現A) ダニエル・ダンクリー

【Course Content】

自分の考えや意見を、より正確に伝達できるようになるための発展的な能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

Students will increase their confidence in speaking and listening in English.

They will use a number of essential conversation words which help them to sound natural in English. We will spend some time in each lesson on pronunciation and intonation.

The topics studied will be those related to the students' every day lives, so that they are able to talk about themselves in English.

1. Favorite foods
2. Sports, abilities
3. Birthdays, dates
4. Weekend activities, what you're going to do
5. Health, advice
6. Shopping, asking for help
7. Street directions, New York
8. Weekend activities, talking about past events.
9. Dates, family history
10. Events in your life
11. Telephoning, giving messages
12. Invitations on the telephone

【Assessment】

1. Attendance
2. Class Participation
3. Examination

【Textbooks】

New Interchange Intro students' book
(Richards Cambridge University Press ISBN 0-521-77396-2)

英会話Ⅱ

ラリー・A. パドウィル

【Course Content】

自分の考えや意見を、より正確に伝達できるようになるための発展的な能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

The first part of the course will be used to review fundamental English conversational patterns, particularly yes / no and WH... questions and answers. We will then go on to activities in which you can practice communicating in English.

【Assessment】

You will be graded on your desire to improve your English speaking and listening skills. This means actively participating in class activities. Improving your English is up to you.

【Textbooks】

A Japanese/ English, English/Japanese dictionary is highly recommended.

〈表現D・多元CF〉

TOPIC TALK (David Martin EFL Press)

〈表現B〉

GATEWAYS Student Book (Victoria Kimbrough OUP)

GATEWAYS Workbook

英会話Ⅱ

アンソニー・P. ピッコロ

【Course Content】

自分の考えや意見を、より正確に伝達できるようになるための発展的な能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

This course will be based on the film *Mr.Holland's Opus*. We will make use of both the video and the film script for in-class conversations activities. A typical class session will consist of a brief pre-class reading assignment, viewing of ten to fifteen minutes of the film, and one or more of a variety of conversation-based activities: pair work, small group discussions, role playing, individual and group presentations, drama activities.

【Assessment】

Attendance and participation, effort and improvement, end of term exam.

【Textbooks】

Mr.Holland's Opus: Screenplay Workbook (Screenplay Publishing Co.)

英会話Ⅱ

マシュー・ポウデン

【Course Content】

自分の考えや意見を、より正確に伝達できるようになるための発展的な能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

The aim of the course is for students to practice speaking as much as possible. The point of the lessons will be to communicate in English on familiar topics.

Lessons will emphasize grammar and fluency exercises. There will be a lot of pair and group work involved. Classes will be conducted only in English.

Topics to be covered include:

1. Talking about yourself-family, hobbies.
2. Personal experiences-holidays, activities.
3. The future-hopes and ambitions.
4. Culture-comparing Western and Japanese lifestyles.
5. School life and work.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation and a brief interview in the last class.

【Textbooks】

No text will be used, but students are advised to bring a file in which to keep the materials provided.

英会話Ⅱ

キンバリー・A. モリシー

【Course Content】

自分の考えや意見を、より正確に伝達できるようになるための発展的な能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

- 1 : Getting Acquainted
- 2 : Looks and Personality
- 3 : Free time Activities
- 4 : Weather and Climate
- 5 : Shopping and Spending Money
- 6 : Food and Drink
- 7 : Travel and Tourism
- 8 : Entertainment
- 9 : Health and Fitness
- 10 : Self-Improvement
- 11 : In the City
- 12 : Foreign Customs

【Assessment】

Assessment will be based on class participation, quizzes, tests and class participation.

【Textbooks】

Let's Talk 1

(L.Jones, Cambridge University Press)

英会話Ⅱ

テリー・ワコルツ

【Course Content】

自分の考えや意見を、より正確に伝達できるようになるための発展的な能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

The topics to be covered include: Family, Food, Home, Music, Vacation, Education, Shopping, Money, Health, Beliefs, TV, Opinions

【Assessment】

Assessment will be based on occasional vocabulary tests, attendance and class participation.

【Textbooks】

〈表現C・多元B〉

TOPIC TALK (David Martin EFL Press)

〈表現E・多元E〉

now you're TALKING (Chris Elvin EFL Press)

ライティングⅠ

ベヴァリー・F. M. カレン

【Course Content】

自分の考えや意見を、英語で正確に書いて表現できるようになるための基礎的な英作文の能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

Students will write a number of essays over the course of the semester, including a narrative; description; comparison; and opinion paper. The principal goal of each paper is to be interesting, and students will be urged to consider their audience as they write. Students will also be taught to consider their introduction and conclusion; the organization of their paper; and choice of words. Throughout the course, students will learn from models or examples of student writing, and be encouraged to develop their papers through peer review and thoughtful revision.

【Assessment】

Student assessment will be ongoing, and based on effort and ability, completion of writing assignments, and attendance.

【Textbooks】

No textbook is required.

ライティング I

ヘザー・ドイロン

【Course Content】

自分の考えや意見を、英語で正確に書いて表現できるようになるための基礎的な英作文の能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

Students will continue to improve their English writing skills on the computer by writing a story about themselves; describing their favourite thing; reviewing a movie; and doing a short Internet research project.

【Assessment】

Students will be required to complete a number of writing assignments. Assessment will be based on class work and writing assignments. There will be no final test.

【Textbooks】

Words in motion (Olsher, David Oxford England: Oxford University Press, 1994)

ライティング I

ミカ・トフ

【Course Content】

自分の考えや意見を、英語で正確に書いて表現できるようになるための基礎的な英作文の能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

- Writing and revising papers on a variety of topics
- Using the computer to write
- Writing and sending e-mail

Students will be encouraged to think about their audience and to make their writing interesting for people to read, and at the same time to increase their vocabulary and knowledge of expressions through reading and through the use of dictionaries.

【Assessment】

Assessment will be based on the content of the papers written by the student, and on the amount of work a student puts into writing and improving the papers.

【Textbooks】

No textbook required.

ライティングⅡ

ベヴァリー・F. M. カレン

【Course Content】

自分の考えや意見を、より正確に書いて表現できるようになるための発展的な英作文の能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

The course will focus on the writing of personal essays. In writing their first essay, students will consider how detail makes any event vivid and memorable reading; the second essay will concentrate on description; later essays will include stories and observations. Throughout the course, students will be shown models of interesting writing, and be encouraged to develop their papers through peer review and thoughtful revision.

【Assessment】

Student assessment will be ongoing, and based on effort and ability, completion of writing assignments, and attendance.

【Textbooks】

No textbook is required.

ライティングⅡ

ヘザー・ドイロン

【Course Content】

自分の考えや意見を、より正確に書いて表現できるようになるための発展的な英作文の能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

In this course students will use computers to write in English about themselves, and express opinions and ideas. Students will work individually with the guidance of the instructor to improve their language skills. Special attention will be paid to organization and editing to make content more interesting.

Lesson 1 : Basic punctuation.

Lesson 2 : Self-Introductions

Lesson 3 : Self-Introductions

Lesson 4 : organizing information (journals)

Lesson 5 : organizing information (journals)

Lesson 6 & 7 : Internet research project

Lesson 9 : Organizing Internet information

Lesson 9 & 10 Writing

Lesson 11 & 12: Editing & Revision

【Assessment】

Students will be required to complete a number of writing assignments. Assessment will be based on class work and writing assignments. No final test.

【Textbooks】

Words in Motion. (Olsher, David Oxford, England: Oxford University Press, 1996)

ライティングⅡ

ミカ・トフ

【Course Content】

自分の考えや意見を、より正確に書いて表現できるようになるための発展的な英作文の能力を、演習形式で身につける。

【Schedule】

- ・ Writing and revising papers on a variety of topics
- ・ Using the computer to practise basic desktop publishing
- ・ Writing and sending e-mail.

This semester will offer practice so that students can refine their writing skills and take more responsibility in choosing a topic and developing the content.

【Assessment】

Assessment will be based on the content of the papers written by the student, and on the amount of work a student puts into writing and improving the papers.

【Textbooks】

To be announced later.

英語発音トレーニング

中郷 慶

【授業の概要】

日本人が英語を話したり読んだりするときに誤りやすいリズム、イントネーション、発音の問題などに留意し、学生のレベルに合わせながら、演習形式で英語の発音訓練を行う。

【授業計画】

英語（および日本語）音声の特徴は何かという理論を解説するとともに、それが実践できるようなさまざまな訓練を行う。学習者はそれぞれ、さまざまな発音上の問題を抱えているが、その中には日本人（日本語母語話者）に広く共通する間違いや、思いこみも観察される。例えば、[v]と[b]、see (sea)とsheを正しく発音し分けたり、聞き分けたりすることは、多くの日本人が不得手とする。[v]は上の歯で下唇を噛むとか、[r]は舌を巻いて発音するなども、典型的な思い込みである。そのような理解のどこがどのように間違っているかを考えることも、この授業の大きなテーマのひとつである。

この授業では、映画・ドラマ・歌などを題材としながら、次のような項目を扱う：

1. 英語と日本語の発音の違いと特徴
2. 英語のリズムとイントネーション
3. 日本人（日本語母語話者）が不得手とする発音

授業では、自信を持って発音できるようになるための指導を行うが、発音する力を上達させるためには、週に1回の授業に出席していればよいというものではない。音に対する不断の意識 (awareness) とねばり強い実践 (practice) が必要となる。課された課題は必ずやってくること。

【評価方法】

出席状況と授業外での課題を指示通りに行っているかを特に重視する。出席状況、課題、定期試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

こうすれば英語が聞ける：Ways to be better listeners
(中郷安浩、中郷 慶共著 英宝社)

TOEIC トレーニング I

大野清幸

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い英語検定試験 TOEIC に向けての基礎的な能力を身につける。

【授業計画】

- 第1講 授業計画指示など。必ず出席すること！
第2講～テキストなどを利用して演習

【評価方法】

出席状況、平常点、課題などによる。

【テキスト】

CNN ビデオで見る世界のニュース (3)
(関西大学英語教育研究会 朝日出版社)
TOEIC 公式ガイド&問題集 Vol.2
(財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会 国際
コミュニケーションズ)

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。第1回目から60分音声カセットテープ（ノーマルタイプ）を2本持参して下さい。

TOEIC トレーニング I

中川直志

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い英語検定試験 TOEIC に向けての基礎的な能力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 授業計画指示
第2回～第7回 基礎演習：TOEIC テストの問題構成、各セクションの解説を含む。
第8回～第13回 実践演習：よりレベルの高い問題に取り組む。

備考 リーディング問題については自宅で解答してくることを前提とする。リスニング問題については問題の解答とは別に英文の詳しい聞き取り練習も行う予定である。

【評価方法】

出席状況、平常点、試験を総合的に評価する。

【テキスト】

Successful Steps for the TOEIC Test (塚野寿一他著
成美堂)

TOEIC トレーニング I

槇田裕加

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い英語検定試験 TOEIC に向けての基礎的な能力を身につける。

【授業計画】

- | | |
|----------|---------------|
| 第1回 | 授業計画指示 |
| 第2回～第6回 | テキストを利用して基礎演習 |
| 第7回 | 小テスト |
| 第8回～第11回 | テキストを利用して実践演習 |
| 第12回 | 小テスト |

【評価方法】

出席状況、平常点、小テスト、定期試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

Successful Steps for the TOEIC Test

(塚野壽一、山本厚子、大須賀直子、Robert Van Benthuyssen 著 成美堂)

TOEIC トレーニング I

大澤聡子

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い英語検定試験 TOEIC に向けての基礎的な能力を身につける。

【授業計画】

授業では TOEIC の形式に慣れながら、リスニング力を伸ばし、語彙を増やし、構文把握力を養うことを目指す。

- | | |
|----------|-------------------------|
| 第1回 | 前期授業・学習計画の指示、TOEICの概要説明 |
| 第2回～第12回 | テキストを利用して演習 |

リーディング部分は、宿題であらかじめ解答をしていくことが求められるため、予習は必須である。

【評価方法】

出席状況、小テスト、学期末テストの成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

大学生の TOEIC: TOEIC Practice for College Students
(町田哲司、Rex A. Tanimoto、宮野智靖、川村一代著 朝日出版社)

TOEIC トレーニング I

柳 朋宏

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い英語検定試験 TOEIC に向けての基礎的な能力を身につける。

【授業計画】

第1回：授業の進め方などの説明。受講生は必ず出席すること。

第2回以降：下記テキストを使った演習。

この授業では、TOEICの問題形式に慣れることと、全般的英語力を身につけることを目指す。

リーディングの問題は各自で解いてきてもらい、授業中に答え合わせと解説を行なう。

リスニングの問題は授業中にテープを聞いて解答してもらう。

適宜別教材を用いる。

【評価方法】

出席状況・授業への貢献度・小テスト・定期テスト等を総合して評価する。

【テキスト】

TOEIC テストリーディング基礎演習 (石井隆之・宮野智靖著 英宝社)

The Essence of College English Dictation (Ed Martin and Tsukasa Matsui Asahi Press)

TOEIC トレーニング I

二村慎一

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い英語検定試験 TOEIC に向けての基礎的な能力を身につける。

【授業計画】

第1講 オリエンテーション

授業計画などの指示

第2回～ テキストを使って演習

【評価方法】

出席状況、平常点、定期試験によって評価

【テキスト】

Enjoy Learning the TOEIC Test Book 2

(Takayuki Ishii, Akira Nakagawa, Thomas Koch 著 三修社)

TOEIC トレーニングⅡ

加藤貞通

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い英語検定試験 TOEIC に向けての発展的な能力を身につける。

【授業計画】

- 第1講 TOEIC 基礎文法の攻略
Unit 1 時制 (Tenses) の解説とトレーニング。
- 第2講 Unit 2 仮定法 (Subjunctive)
- 第3講 Unit 3 受動態 (Passive)
- 第4講 Unit 4 関係詞 (Relatives)
- 第5講 Unit 5 5分詞 (Participles)
- 第6講 Unit 6 助動詞 (Auxiliary Verbs)
- 第7講 Unit 7 主語と動詞の一致
(Subject / Verb Agreement)
- 第8講 Unit 8 不定詞・動名詞
(Infinitives and Gerunds)
- 第9講 Unit 9 比較 (Comparison)
- 第10講 Unit 10 形容詞・副詞
(Adjectives and Adverbs)
- 第11講 Unit 11 名詞・冠詞 (Nouns and Articles)
- 第12講 Unit 12 接続詞 (Conjunctions)
- 第13講 Unit 13 否定 (Negation) と試験

【評価方法】

平常点重視。各Unitのスコア、および最後の試験による。

【テキスト】

「TOEIC テスト基礎文法トレーニング」
(ESSENTIAL GRAMMAR FOR THE TOEIC TEST、
島本たい子、宮野智晴、Jodi Flowers 著、Macmillan
Languagehouse)

TOEIC トレーニングⅡ

隈井清臣

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い英語検定試験 TOEIC に向けての発展的な能力を身につける。

【授業計画】

- 1) TOEIC Part 2 : READING の強化を行う。
- 2) 問題形式を熟知させる。
- 3) 英語の読解力を増進させる。
- 4) 英語の文法知識を増進させる。
- 5) 英語の語い力を増進させる。

【評価方法】

テスト等の得点70%、授業の参加状況20%、出席の状況10%を総合して評価する。

【テキスト】

TOEICのためのリーディング演習 (北尾 金星堂)

【参考文献・資料】

授業の中で適宜指示または紹介する。

TOEIC トレーニングⅡ

中郷 慶

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い英語検定試験 TOEIC に向けての発展的な能力を身につける。

【授業計画】

TOEIC (Test of English for International Communication) は、国際社会で必要とされる「英語によるコミュニケーション能力」を測定するためのテストである。多くの企業が新入社員の採用時、入社後の研修、昇進などに際して TOEIC を受験し、ある一定のレベルを超えることを必須にしている。この授業の目標は、「TOEIC トレーニングⅠ」に引き続き、受講生が TOEIC の形式に慣れ、より高いスコアを取るステップとすることである。特に、リーディング・セクションの実力をつけることに主眼を置く。そこで、この授業では重要な文法項目を整理しつつ、無味乾燥な内容にならないように配慮し、英語の運用を中心とした学習を進めながら、英語が使えるようになることを目指す。基礎的な文法力なくして、本当の英語の実力は実には付かないものである。

授業では、以下の内容を複合的に組み合わせて扱う。

1. テキストを用いた演習
2. 文法知識の整理
3. パラグラフを読みとる力の養成
4. 単語力の増強

【評価方法】

この種の授業では、継続的な勉強が不可欠な要素である。出席と課題を特に重視する。評価は平常点とテストによって行う。

【テキスト】

TOEIC テストリーディング基礎演習：文法、語彙、読解の総合演習 (石井隆之、宮野智靖共著 英宝社)

13 Grammatical Keys to the TOEIC Test : TOEIC テスト頻出文法13ポイント (西谷敦子著 朝日出版社)

TOEIC トレーニングⅢ

稲生幹雄

【授業の概要】

TOEIC 形式の問題に万全に対処できるように、さらに、英語の総合力を高めることを目標に学ぶ。

【授業計画】

TOEIC の得点力アップを目指して、英語力に磨きをかけよう。テキスト *Successful Steps for the TOEIC Test* (『テーマ別 TOEIC テスト総合演習』) は、「映画や音楽などの娯楽」、「電話や Eメールなどのオフィスメッセージ」、「ランチやパーティーなどの外食」、「コンピューターなどの科学技術」、「交通機関や旅行関連」など、15種類のテーマ別に TOEIC 形式の多彩な練習問題を配列したもの。このテキストの巻末には、学生用の CD も 1 枚付いていて、予習や復習の際にもリスニングの練習に取り組めるよう工夫されているので、各自がこの CD も聴きながら、楽しく効果をあげてゆけると思う。毎時間の授業は、

- (1) 〈練習1〉(予習) の答合わせをして、
- (2) 授業用の CD を聴きながら、テキストの問題の流れに沿った各種のドリル (リスニングのパートに重点を置く) を展開し、
- (3) 仕上げの段階では、さらに音声聴きながら、〈練習2〉の用紙 (小テスト用紙を兼ねる) への記入も同時に進めていって、
- (4) 最後に次週の授業に向けての予習のポイントを確認する

— という順序で展開してゆく予定。こうやって、テキスト付属の 2 種類の CD を使いこなしてゆこう。そして、いろいろなスピードで話される、生き生きとした英語の音声に親しみ、TOEIC 形式の問題によく慣れて、リスニング力を効率的に強化してゆこう。

【評価方法】

上記の練習 1 (予習) と練習 2 (授業時に記入) の得点の集積と、出席状況・受講状況を総合して評価する。

【テキスト】

Successful Steps for the TOEIC Test (塚野壽一他編成美堂)

TOEIC トレーニングⅢ

加藤貞通

【授業の概要】

TOEIC形式の問題に万全に対処できるように、英語の総合力をさらに高めることを目標に学ぶ。

【授業計画】

第1講 TOEIC TESTリスニング問題Part 1 - Part 4
の解説

第2講～第12講 テキストを利用し各Unitの解説と聴
解力トレーニング

第13講 まとめと試験

【評価方法】

平常点重視。各Unitのスコア、および最後の試験による。

【テキスト】

「TOEIC TEST やさしいリスニング」

(多賀谷真吾・小畑拓也・吉野成美編注、北星堂)

TOEIC トレーニングⅢ

ベヴァリー・F. M. カレン

【Course Content】

TOEIC形式の問題に万全に対処できるように、英語の総合力をさらに高めることを目標に学ぶ。

【Schedule】

The course will begin by focussing on listening practice to improve understanding of more extended spoken discourse. In the following weeks, students will explain their general knowledge and improve their English cultural literacy in order to more fully understand the cultural contexts of the TOEIC listening problems. These skills will continue to be practised in the course, along with activities designed to develop predicting skills, and other test-taking strategies.

【Assessment】

Student assessment is ongoing, and based on effort and participation, as well as ability and attendance.

【Textbooks】

To be announced.

TOEIC トレーニングⅢ

丹邊文彦

【授業の概要】

TOEIC形式の問題に万全に対処できるように、英語の総合力をさらに高めることを目標に学ぶ。

【授業計画】

現在TOEIC (470~600) の力を持つ幅広い受講者を対象とする。

下記のテキストの編者国弘正雄氏は、同時通訳の草分けで、アポロ宇宙船の月面着陸の際、微弱な電波で送られて来たメッセージを同時通訳して一躍有名になった第一人者である。氏は言う——「(英語を理解する) 基礎回路を身につける最も簡単で効果的な方法が“音読”なのです。目で見ただけを口から音声で発する、つまり(脳)の言語理解領野と言語運動領野の間でInteractionを引き起してやることです」その方法を氏は「只管(しかん)朗読」、「只管筆写」と称する。

トレーニングの手順は指導の千田潤一氏に概ね従って——①CDを聞き内容を推測 ②CDを聞きながら音読 ③テキスト精読、内容理解 ④自力で音読 ⑤音読筆写 ⑥再度CDで内容推測——となる。

【評価方法】

Dictationと出席点の総合

【テキスト】

英会話・ぜったい・音読(標準編・CD付) 国弘正雄他編著 講談社 TOEIC Friends Club推薦

時事英語

中村幸子

【授業の概要】

新聞・雑誌・衛星放送などの各種メディアでの英語ニュースを理解する能力を身につける。

【授業計画】

上記各種メディアによる報道を通して日本や国際社会の諸問題を理解し、実用的な英語力を身に付ける。

- | | |
|---------|---|
| 第1回 | マスメディア英語概論 |
| 第2回~4回 | 新聞記事 週刊ST、Asahi、Yomiuri等 |
| 第5回~11回 | ニュース放送 VOA News in Special English、ABC、CNN、CBS、BBC、NHK等 |
| 第12回 | 復習 |
| 第13回 | 単位認定試験 |

【評価方法】

出席状況、授業態度、課題への取り組み、単位認定試験の結果より、総合的に評価する。

【テキスト】

固定テキストは使用しない。教材は授業中に配布する。

時事英語

難波豊子

【授業の概要】

新聞・雑誌・衛星放送などの各種メディアでの英語ニュースを理解する能力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 ニュース英語の特徴
1. 新聞記事及び放送ニュース、雑誌等の構成
 2. タイトルのつけ方
 3. 内容を理解する上での注意点
- 第2～5回 第1回の特徴を念頭に置いて、一般的な記事の読解
- 第6～8回 文化・科学面
- 第9～12回 政治・経済面

但し up-to-date な記事を取り扱うため、上記区分の変更は有りうる。時々、日英の記事を対照させながら、語彙、表現、背景知識などの強化に努める。

【評価方法】

日常の授業態度、宿題に対する姿勢、授業中に行う小テスト、単位認定試験などにより、総合的に評価。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

上級英会話

ミカ・トフ

【Course Content】

さらに自分の英会話力を高めたいと希望する学生が、特別編成クラスで演習形式で学ぶ。

【Schedule】

In this course, students will develop the ability to exchange ideas and opinions in group discussions. Students will research various topics; exchange information with each other; gather knowledge on a topic; and develop their opinions. They will learn to participate constructively and cooperatively by presenting their own ideas and opinions, listening to what other students have to say, and reacting to ideas being expressed.

Students will be responsible for choosing topics which interest them, and preparing for discussions. Topics will be chosen to inform, persuade and describe experiences.

【Assessment】

Assessment will be based on participation and preparation. Attendance will also be considered.

上級ライティング

ミカ・トフ

【Course Content】

さらに自分の英作文力を高めたいと希望する学生が、特別編成クラスで演習形式で学ぶ。

【Schedule】

In this course, students will practise writing more extensively and with greater sophistication. Students will refine their skills in written analysis and argument; comparison and contrast; and description. Time will be spent on developing essays through revision and discussion of organization. Emphasis will be placed on interesting content and convincing support in the form of persuasive reasons and vivid examples. There will also be a focus on how to write effective introductions and conclusions.

【Assessment】

Assessment will be based on the content of the papers written by the student, and on the amount of work a student puts into writing the essays.

韓国・朝鮮語 I

飯田秀敏

【授業の概要】

韓国・朝鮮語の初級講座として、文法・読解を中心とする基礎的な能力を、演習形式で身につける。

【授業計画】

- 第1回 年間授業計画指示および韓国・朝鮮語の概説
- 第2回 文字と撥音 (1)、簡単な日常表現練習 (1)
- 第3回 文字と撥音 (2)、簡単な日常表現練習 (2)
- 第4回 文字と撥音 (3)、簡単な日常表現練習 (3)
- 第5回 文字と撥音 (4)、簡単な日常表現練習 (4)
- 第6回 文字と撥音 (5)、簡単な日常表現練習 (5)
- 第7回 文法と表現 [丁寧体平叙形 (1)]
- 第8回 文法と表現 [丁寧体平叙形 (2)]
- 第9回 文法と表現 [丁寧体疑問形]
- 第10回 文法と表現 [漢数詞]
- 第11回 文法と表現 [漢数詞の使い方]
- 第12回 文法と表現 [固有数詞]
- 第13回 文法と表現 [固有数詞の使い方]
- 第14回 前期のまとめ
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験の成績により総合的に評価する。レポートは参考図書の読後感。

【テキスト】

自家版テキストとプリント教材を用いる。詳しくは第1回目の授業で説明する。

【参考文献・資料】

朝鮮語のすすめ (渡辺吉鎔著 講談社)

韓国・朝鮮語Ⅱ

飯田秀敏

【授業の概要】

韓国・朝鮮語の中級講座として、作文・会話を中心とする応用的な能力を、演習形式で身につける。

【授業計画】

- 第1回 文法と表現 [丁寧体命令文]
- 第2回 文法と表現 [丁寧体勧誘文]
- 第3回 文法と表現 [過去形 (1)]
- 第4回 文法と表現 [過去形 (2)]
- 第5回 文法と表現 [親しみのある丁寧体 (1)]
- 第6回 文法と表現 [親しみのある丁寧体 (2)]
- 第7回 文法と表現 [会話体 (1)]
- 第8回 文法と表現 [会話体 (2)]
- 第9回 文法と表現 [会話体 (3)]
- 第10回 文法と表現 [連体形]
- 第11回 重要な構文 (1)
- 第12回 重要な構文 (2)
- 第13回 重要な構文 (3)
- 第14回 1年間のまとめと今後の学習方法
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験の成績により総合的に評価する。レポートは授業中に指定する参考図書の後感。

【テキスト】

自家版テキストとプリント教材を用いる。詳しくは第1回目の授業で説明する。

韓国・朝鮮語Ⅲ

曹述燮

【授業の概要】

韓国・朝鮮語の上級講座として、理解する力と表現する力をさらに向上できるように、演習形式で学ぶ。

【授業計画】

韓国語の学習をとおして自然に韓国社会と文化に親しめる授業を心がけ、生活に密接したトピックを取りあげ、それに関連する表現を学んでいく。

- 第1回-第2回：韓国の観光名所と食べ物に関する表現
- 第3回-第4回：大学生活と買い物に関する理解
- 第5回-第6回：韓国人と約束を交わす時の表現
- 第7回-第8回：趣味生活の紹介
- 第9回-第10回：韓国の伝統を尋ねる表現
- 第11回-第12回：新世代の意識と生活から見る韓国社会
- 第13回-第14回：最新の音楽と映画から見る韓国語表現
- 第15回：単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、単位認定試験の成績などにより総合的に評価する。時にレポートあり。

【テキスト】

自家版プリント教材を用いる。

中国語Ⅰ

河井昭乃

【授業の概要】

中国語の初級講座として、文法・読解を中心とする基礎的な能力を、演習形式で身につける。

【授業計画】

発音練習を通じて、中国語の発音並びに発音記号を正確に把握すると同時に簡単な挨拶用語を練習し、さらに会話や作文を通して、判断文・描写文・叙述文の基本パターンを活用できるよう講義を進める。

1. 母音の発音練習と簡単な挨拶用語
2. 母音の発音練習と綴り
3. 子音の発音練習と簡単な挨拶用語
4. 子音の発音練習と綴り
5. 中国語の基本語順
6. 形容詞述語文
7. 名前のきき方・こたえ方
8. 指示代名詞の用法
9. 所有を表わす表現
10. 存在を表わす表現
11. 前置詞の用法（1）
12. 助動詞の用法
13. 試験

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況によって総合的に評価する。

【テキスト】

北京物語 話す中国語（董燕 遠藤光暁著 朝日出版社）

辞書： 学習者の選択に任せる。

中国語Ⅱ

河井昭乃

【授業の概要】

中国語の中級講座として、作文・会話を中心とする応用的な能力を、演習形式で身につける。

【授業計画】

会話文と叙述文を通して、前置詞や常用文型及び慣用語の使い方の説明と練習を中心に授業を進め、中国語の基礎文法を体系的に把握できるようくり返し練習を行う。

1. 日時のいい方
2. 禁止の表現
3. 比較の表現
4. 時量補語
5. 前置詞の用法（2）
6. 完了の表現
7. 進行の表現
8. 経験の表現
9. 存現文
10. 持続の表現
11. 結果補語
12. 程度補語
13. 試験

【評価方法】

単位認定試験と出席状況によって総合的に評価する。

【テキスト】

北京物語 話す中国語（董燕 遠藤光暁著 朝日出版社）

辞書： 学習者の選択に任せる。

中国語Ⅲ

河井昭乃

【授業の概要】

中国語の上級講座として、理解する力と表現する力をさらに向上できるように演習形式で学ぶ。

【授業計画】

- 第一講 因果関係に関する学習と練習
- 第二講 同上
- 第三講 補語に関する学習と練習
- 第四講 同上
- 第五講 仮定に関する学習と練習
- 第六講 同上
- 第七講 受け身・使役に関する学習と練習
- 第八講 同上
- 第九講 比較に関する学習と練習
- 第十講 同上
- 第十一講 選択に関する学習と練習
- 第十二講 同上
- 第十三講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合評価する。

【テキスト】

これからの中国語（高峰・近藤正子 白帝社）

辞書：学習者の選択にまかせる

ロシア語Ⅰ

杉本一直

【授業の概要】

ロシア語の初級講座として、文法・読解を中心とする基礎的な能力を、演習形式で身につける。

【授業計画】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができるところは本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？

この授業では、初歩のロシア語を学びながらロシアの芸術や文化について楽しく紹介していきます。

まず、例の不思議な形をした「キリル文字」をおぼえ、発音をおぼえ、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」をどんどん集めていきます。学ぶ項目は以下のとおりです。

- ・キリル文字と発音
- ・大きな声であいさつしよう
- ・買い物にいてみよう
- ・乗り物に乗ろう
- ・おなかがすいたら
- ・自分について話してみよう
- ・手紙を書こう

【評価方法】

定期試験の成績による

【テキスト】

1年生のロシア語（戸辺又方著 白水社）

ロシア語ミニ辞典（白水社）

ロシア語Ⅰ

丹邊文彦

【授業の概要】

ロシア語の初級講座として、文法・読解を中心とする基礎的な能力を、演習形式で身につける。

【授業計画】

第1～4回 授業計画ガイダンス、および文字と発音。

以下、下記教科書を3限に2課の進度で授業を行う。

期末試験は実施する

新出単語はあらかじめ説明しておき、練習問題には解説とヒントを与えて学習者の負担を軽減する。文法解説は必要最小限に止め、本文（テキスト）中心に重点学習し、朗読の習慣を養成することにより、運用能力の基礎を養成する。副教材としてロシア民謡を活用する。

【評価方法】

平常授業の出席点、発音・朗読能力、期末テストの結果を総合評価する。

【テキスト】

ロシア語初級クラス 佐藤純一著 白水社

【参考文献・資料】

ロシア語ミニ辞典 灰谷慶三著 白水社

ロシア語のすすめ 講談社現代新書

《エクスプレス》ロシア語 桑野隆著 白水社（CD付）

英語の話し方 国弘正雄著 たちばな出版——外国

語全般の学習に適用できる方法論として推薦できる好著

ロシア語Ⅱ

丹邊文彦

【授業の概要】

ロシア語の中級講座として、作文・会話を中心とする応用的な能力を、演習形式で身につける。

【授業計画】

ロシア語Ⅰ履修を前提として、同じ教科書（ロシア語初級クラス）の継続。

第1回～3回 第10、11課

第4回～6回 第12、13課

第7回～9回 第14、15課

第10回～12回 補助的読物（プリント）

【評価方法】

ロシア語Ⅰと同様、期末テスト、出席点等を含めた総合評価

【テキスト】

ロシア語初級クラス（ロシア語Ⅰからの継続）

【参考文献・資料】

ロシア語ミニ辞典（灰谷慶三著 白水社）

《エクスプレス》ロシア語（桑野隆著 白水社）CD付

ロシア語Ⅲ

杉本一直

【授業の概要】

ロシア語の上級講座として、理解する力と表現する力をさらに向上できるような能力を、演習形式で学ぶ。

【授業計画】

毎回の授業を前半と後半に分け、前半に会話練習、後半に購読をおこなう。

＜会話練習＞会話には、リスニング能力と発話能力（作文能力）のふたつが必要とされるが、この授業では主に発話能力のブラッシュ・アップをする。つまり、自分が言いたいことをすべてロシア語で言えるようになることを目指す。まず、私たちが日常生活において友人や家族と日本語で交わす会話において、どんなテーマがよく現れるか、どんな語彙や構文が多用されるかをリストアップし、それをロシア語に置き換えていくという方法で授業を進めていく。

＜購読＞ロシアのフォークロア（昔話）やアネクドートなどを中心に、短くてわかりやすい物語をできるかぎりたくさん読んでいく。

【評価方法】

授業態度と期末試験の成績による。

【テキスト】

プリント配布。

ロシア語Ⅲ

丹邊文彦

【授業の概要】

ロシア語の上級講座として、理解する力と表現する力をさらに向上できるような能力を、演習形式で学ぶ。

【授業計画】

第1回～2回 移動の動詞を含む表現・読物

第3回～4回 完了・不完了体動詞の用法を含む表現・読物

第5回～6回 形動詞・副動詞表現を含む読物

第7回～8回 仮定法の表現を含む読物

第9回～12回 平易な読本“百万人のロシア語”（プリント）を用いて、読解、書取り、朗読、口頭表現の習得、復文練習等を行ない、運用能力の基礎教育をおおむね完成する。

【評価方法】

ペーパーテスト、朗読、書取り、出席点の総合

【テキスト】

プリント教材

“百万人のロシア語”読本（プリント）

【参考文献・資料】

インデックス式 ロシア文法表（白水社）

コンピュータ実技Ⅰ

内海和彦 川澄未来子
中村剛士 ポール・ルイス

【授業の概要】

文書作成ソフトや表計算ソフトなどを活用して、効果的な学術論文作成の技能を身につける。

【授業計画】

第1回	基本操作
第2回～第8回	MS-Word入門
第9回～第10回	MS-Excelによる作表・作図
第11回～第12回	ファイルの結合

ただし、第2回～第8回までのいずれかにおいて、学内LANによるインターネット利用および電子メール利用に関する基本的な講習（LAN講習）を実施する。LAN講習未受講者は、学内LANの利用が許可されないため、必ず受講すること。LAN講習の実施については、各担当者の指示に従うこと。

また、各パソコンに対応した2HDの3.5インチフロッピー・ディスクを各自用意すること。

なお、ルイス先生担当クラスは、英語による授業である。

【評価方法】

出席状況、授業態度および提出課題によって、総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてハンドアウトを配布する。またテキストが必要な場合は、授業時間内に指示する。

【参考文献・資料】

MS-WordおよびMS-Excelの基礎的な入門書を授業時間内に紹介する。

コンピュータ実技Ⅱ

川澄未来子

【授業の概要】

種々のアプリケーションソフトを有効利用して、より説得力のある文書を作成する技能を身につける。

【授業計画】

コンピュータ実習室における実習を中心に行う。なお、課題制作には授業時間外の作業が必要になる場合もある。

- 1 OSの基本操作
- 2 PowerPointを使ったプレゼンテーション1
- 3 PowerPointを使ったプレゼンテーション2
- 4 PowerPointを使ったプレゼンテーション3
- 5 課題制作
- 6 HTMLを使ったホームページ作成1
- 7 HTMLを使ったホームページ作成2
- 8 HTMLを使ったホームページ作成3
- 9 課題制作
- 10 ホームページビルダーを使ったホームページ作成1
- 11 ホームページビルダーを使ったホームページ作成2
- 12 ホームページビルダーを使ったホームページ作成3
- 13 課題制作

【評価方法】

出席状況、受講態度、提出課題、定期試験の総合評価によって決める。

コンピュータ実技Ⅱ

鬼頭英嗣

【授業の概要】

種々のアプリケーションソフトを有効利用して、より説得力のある文書を作成する技能を身につける。

【授業計画】

表計算ソフト（Microsoft EXCEL）の基本的な使い方と考え方の実習を中心に行う。なお、課題制作には授業時間外の作業が必要になる場合もある。

- 1：OSの基本概要
- 2：Microsoft Office の概要
- 3：EXCELを使った演習（基本操作その1）
- 4：EXCELを使った演習（基本操作その2）
- 5：EXCELを使った演習（関数の使い方）
- 6：EXCELを使った演習（グラフその1）
- 7：EXCELを使った演習（グラフその2）
- 8：EXCELを使った演習（グラフその3）
- 9：EXCELを使った演習（集計・分類法その1）
- 10：EXCELを使った演習（集計・分類法その2）
- 11：他のソフトとの連携利用
- 12：課題制作

【評価方法】

出席状況、提出課題作品の総合評価により決める。

【テキスト】

授業内で参考資料を紹介する。

コンピュータ実技Ⅱ

ポール・ルイス

【Course Content】

種々のアプリケーションソフトを有効利用して、より説得力のある文書を作成する技能を身につける。

【Schedule】

このコースは英語による授業です。

Lesson 1：Review of Office

Lessons 2-4：Advanced work with spreadsheets

Lessons 5-8：Using presentation software

Lessons 9-12：Project work

【Assessment】

Assessment will be by attendance, class participation, work produced during the term, and final project work.

【Textbooks】

The textbook will be announced later.

コンピュータ演習（通信）

川澄未来子

【授業の概要】

ネットワーク環境における様々なコミュニケーションメディアの基本的な利用技術を身につける。

【授業計画】

コンピュータ実習室における実習を中心に行う。使用するツールは、wwwブラウザのNetscape Navigatorなどである。次の項目に沿った内容を取り上げる。

- 1 インターネット
- 2 ブラウザ
- 3 ホームページ
- 4 情報検索
- 5 メーラー
- 6 電子メール
- 7 ネチケット
- 8 セキュリティ
- 9 パソコン通信
- 10 ワイヤレス通信
- 11 モバイルコンピューティング

【評価方法】

出席状況、受講態度、提出課題、定期試験の総合評価によって決める。

コンピュータ演習（通信）

鬼頭英嗣

【授業の概要】

ネットワーク環境における様々なコミュニケーションメディアの基本的な利用技術を身につける。

【授業計画】

コンピュータ実習室における実習を中心に行う。実習には、WEB閲覧などにはNetscape Navigatorを、メール送受信には基本的に学校設備のものを使用する。また、ホームページ制作に必要なグラフィックソフトの操作なども習得する。

1. インターネットについて
2. ブラウザーソフトの利用 その1
3. ブラウザーソフトの利用 その1
4. メールソフトの利用 その1
5. メールソフトの利用 その2
6. ネチケットについて
7. HTMLを使ったホームページ制作 その1
8. HTMLを使ったホームページ制作 その2
9. HTMLを使ったホームページ制作 その3
10. HTMLを使ったホームページ制作 その4

11～ 課題制作

【評価方法】

出席状況、提出課題作品の総合評価により決める。

【テキスト】

授業内で参考資料を紹介する。

プログラミング演習Ⅰ

加納政芳

【授業の概要】

コンピュータの基本構造、データの表現、論理の表現を演習を通じて学ぶ。

【授業計画】

現代社会において、コンピュータを使用した業務は一般的なものとなってきている。本講義では、プログラミング演習を通じて、コンピュータの基本構造などを理解するとともに、受講者が就職した後にも活用できる基本的なソフトウェア技術を習得することを目指す。

具体的には、毎回の講義中に講義内容に沿ったプログラミング課題が与えられ、受講者はその課題を解くためのプログラムを作成することでコンピュータに対する理解を深めていく。

プログラミング言語には、一般に普及している表計算ソフト Excel 上で稼動する VBA を使用する。

また、本講義は、コンピュータに対する知識が浅い受講者にも講義内容が理解できるように、入門という形式をとり、Windows および Excel の基本操作を復習しつつ講義を進める。

【評価方法】

出席および課題を総合して評価する。

【テキスト】

講義中に指示する。

【参考文献・資料】

講義中に指示する。

プログラミング演習Ⅱ

加納政芳

【授業の概要】

「プログラミング演習Ⅰ」で習得した知識・技能に基づいて独自のプログラムを作成する。

【授業計画】

現代社会において、コンピュータを使用した業務は一般的なものとなってきている。しかしながら、コンピュータの機能を独学で学ぶ場合にはインターネットの操作やワープロ、表計算といった応用ソフトの使用方法を理解するにとどまる場合が多い。本講義では、プログラミングの本質を理解することによって、一般的なコンピュータ利用よりも更に高度な情報処理を行う方法を習得することを目指す。

本講義には、演習段階と独自プログラム作成段階の2つの段階が2対1程度の期間で設けられ、この過程を通じて受講者はプログラミングに対する理解を深めていく。

演習段階では、その講義内容に沿ったプログラムを作成することでプログラミングの基礎を理解する。その後、独自プログラム作成段階に入り、受講者は各自にテーマを策定し、そのテーマに沿ったプログラムを作成する。受講者は独自のプログラムを作成することで、プログラムの本質を理解する。

プログラミング言語には、「プログラミング演習Ⅰ」（以下、演習Ⅰ）と同様の言語 VBA を使用する。

本講義では、演習Ⅰを受講していない学生も講義内容を理解できるように、演習Ⅰの内容を復習をしつつ講義を進める。ただし、受講者は、Windows および Excel の基本操作を習得していることが必要とされる。

【評価方法】

出席および課題を総合して評価する。

【テキスト】

講義中に指示する。

【参考文献・資料】

講義中に指示する。

総合科目

文化創造総論

篠弘

【授業の概要】

伝統文化の継承の問題および現代文化のあるべき姿や方向に関する具体的な問題の検討を踏まえながら、文化創造学部の基本理念「文化創造」の意義やあり方について学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 概論：日本語の現在
- 第2講 各論：美しい日本語
- 第3講 各論：詩的表現
- 第4講 各論：辞典の効用
- 第5講 概論：四季と風土
- 第6講 各論：古代人の感性
- 第7講 各論：日本人の死生観
- 第8講 概論：知的好奇心
- 第9講 各論：差別的表現
- 第10講 各論：組織と人間
- 第11講 各論：ボーダレスの時代
- 第12講 各論：プランニング
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験によって、総合的に評価。

【テキスト】

集英社新書 疾走する女性歌人
(篠弘著 集英社刊 680円+税)
必要に応じて、プリントを配布する。

表現文化創造 I (総論)

篠弘

【授業の概要】

文学的ないしは創造的な文章表現を対象として、言語を媒介とする創造的行為の原理や仕組みを学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 概論：リアリズムの現在
- 第2講 各論：歴史感覚
- 第3講 各論：感性と美意識
- 第4講 各論：事実のウェート
- 第5講 各論：描写力
- 第6講 各論：身体感覚
- 第7講 概論：創造的な表現
- 第8講 各論：幻想力と想像力
- 第9講 各論：フィクション
- 第10講 各論：喩的技法
- 第11講 各論：オノマトペ
- 第12講 各論：作品上の「私」
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験によって、総合的に評価。

【テキスト】

NHK 短歌入門 生き方の表現
(篠弘著 日本放送出版協会刊 1,300円+税)
必要に応じて、プリントを配布する。

多元文化創造 I (総論)

皆川修吾

【授業の概要】

多種多様な国家・民族・地域文化の存在、それぞれが自存と共存を模索し、互いに進化し、変容している。そのプロセスを実証的且つ体系的に学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 文化の意味
- 第2講 個人、社会、国家のアイデンティティ
- 第3講 社会科学としての多元文化論
- 第4講 思想としての多元文化論
- 第5講 異文化間関係
- 第6講 文化と地域・階級・性別・職業・世代
- 第7講 言葉と文化
- 第8講 日本文化の社会的特徴「イエ」
- 第9講 政治文化
- 第10講 文化と文明の位置付け
- 第11講 文化・文明の変容
- 第12講 多元文化社会(国・国際)の条件と限界
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による。

【参考文献・資料】

- 知的複眼思考法(刈谷剛彦著 講談社)
多文化世界(G.ホフステッド著、岩井紀子他訳 有斐閣)
文化論のアリーナ(文化論研究会 晃洋書房)
地球時代の民族=文化理論(西川長夫 新潮社)
タテ社会の人間関係(中根千枝 中央公論)
日本文化のゆくえ(河合隼雄著 岩波書店)
文明の生態史観(梅棹忠夫著 中公叢書)
日本人と「日本病」について(岸田秀・山本七平著 文春文庫)
異文化理解の座標軸(浅間正通編著 日本図書センター)

環境文化創造 I (総論)

多田萬里子

【授業の概要】

現代社会が直面している環境問題を、主に生体に及ぼす影響の観点から学び、我々の生活、健康と環境の関わりについて学ぶ。

【授業計画】

1. 地球の生物システム
地球環境と生物の進化
生物システムの中のヒト
ヒトから文化・文明を環境とする人間に、
生物の共通性と多様性
ゲノム(DNA)に書き込まれた生命の歴史
2. 地球環境と人の生活
地球規模の環境問題
酸性雨、温暖化、海洋汚染など
オゾン層破壊と紫外線障害
環境汚染物質の人体への影響
内分泌攪乱物質、発癌物質など
3. 科学技術の発展と環境問題
バイオテクノロジーと生態系
21世紀の人の生活

【評価方法】

出席状況、授業内の小テスト、学期末テストにより総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。講義の要旨はプリントを配布する。

【参考文献・資料】

- 明日の環境と人間(川合真一郎ら著 化学同人)
環境生物学(松原聡著 裳華房)
岩波講座:科学/技術と人間(岩波書店)
その他授業中に適宜紹介する

表現文化総合講座Ⅰ

篠弘 島田修三 清水良典
西田勝 馬場伸彦 矢頭純

【授業の概要】

古典文学・現代文学・現代メディア表現を対象に、主として言語に拠る表現ジャンルの創造上の現実的・実践的な諸問題を最新の情報を通してオムニバス方式で学ぶ。なお、本学専任教員島田修三教授が本講座のコーディネーターとなり、各講義の調整及び試験の評価に関する責任を負う。各担当者の講義概要は、以下の通り。

(篠弘教授) 主として現代短歌とその展開を題材として、戦後から現代に至る歴史社会的な状況と文学的創造との関係の諸相について学ぶ。

(清水良典教授) 主として現代小説とその批評を題材として、ポストモダン状況における新しい文学的創造の試みについて学ぶ。

(島田修三教授) 主として古代歌謡から万葉和歌を題材として、古典文学における創造の仕組みを修辭的な側面から学ぶ。

(西田勝教授) 主として近世の散文文学を題材として、古典文学における表現の特色や時代社会との相関性について学ぶ。

(馬場伸彦兼任講師) 主として現代の広告コピーや商業表現を題材として、現代の社会的構造の諸問題と上記の表現との関係について学ぶ。

(矢頭純教授) 主として新聞記事を題材として、現代社会における政治的・社会的な情報とその表現に関わる諸問題について学ぶ。

【授業計画】

第1回	講座の説明・篠弘教授講義
第2回	篠弘教授の講義
第3～4回	清水良典教授講義
第5～6回	島田修三教授講義
第7～8回	西田勝教授講義
第9～10回	馬場伸彦兼任講師講義
第11～12回	矢頭純教授講義

【評価方法】

第1回の授業において説明する。

【テキスト】

授業中に指示する。

表現文化総合講座Ⅱ

川澄未来子 酒井晶代 角田達朗
たかべしげこ 榎村さとる 李相美

【授業の概要】

演劇・絵本・舞台芸術・映画・コンピュータグラフィックス等を対象に、主として身体・映像表現に拠るジャンルの創造上の現実的・実践的な諸問題を最新の情報、ビジュアルな資料等を通してオムニバス方式で学ぶ。なお、本学専任教員酒井晶代助教授が本講座のコーディネーターとなり、各講義の調整及び試験の評価に関する責任を負う。各担当者の講義概要は、以下の通り。

(たかべしげこ兼任講師) 主として演劇を題材として、演技する者における脚本の解釈、役作りの方法といった実践的な諸問題について学ぶ。

(酒井晶代助教授) 主として絵本を題材として、文字と絵画の連動に拠る創造的表現の特質やそれが子供に及ぼす影響の諸問題について学ぶ。

(角田達朗助教授) 主として舞台芸術を題材として、演劇空間を創造する多様な意匠や技術の特色や効果について学ぶ。

(川澄未来子助教授) 主としてコンピュータグラフィックスを題材として、電子メディア表現の創造的特質や可能性について学ぶ。

(李相美兼任講師) 主として映画を題材として、現代の映像表現における映画の意味や映画の表現の独自性に関わる諸問題について学ぶ。

(榎村さとる兼任講師) 主としてアニメ・コミックを題材として、サブカルチャーとしてのアニメ・コミックが現代文化に果たす役割やその創造的な意味について学ぶ。

【授業計画】

※担当者の都合により、順番が変更される場合があるので注意すること。

第1回	講座の説明・酒井晶代講義
第2回	酒井晶代講義
第3～4回	李相美講義
第5回	予備日
第6～7回	たかべしげこ講義
第8回	予備日
第9～10回	角田達朗講義
第11回	予備日
第12～13回	川澄未来子講義
第14～15回	予備日
集中授業期間中	
7月30日	榎村さとる講義
(3・4限連続2コマ)	

【評価方法】

第1回の授業において説明する。

【テキスト】

授業中に指示する。

多元文化総合講座Ⅰ

榎田勝利 杉本一直 曹述變

【授業の概要】

現代日本をとりまくさまざまな文化的事象を対象に、主として、日本と海外との交流や国際理解、現代日本文化などの諸問題をオムニバス方式で学ぶ。なお、本学専任教員榎田勝利教授が本講座のコーディネーターとなり、各講義の調整及び試験の評価に関する責任を負う。各担当者の講義概要は、以下の通り。

(榎田勝利教授) 国際ボランティア活動や国際協力の立場から、日本が現在直面している課題と、今後のあり方について学ぶ。

(杉本一直助教授) 日本文学とロシア文学とのこれまでの関係、現状、今後の課題について学ぶ。

(曹述變講師) 日本と韓国・朝鮮、中国とのこれまでの関係、現状、今後の課題について学ぶ。

【授業計画】

第1講	ロシア史の3つの時代	杉本一直
第2講	20世紀のロシア芸術①(バレエ、映画)	杉本一直
第3講	20世紀のロシア芸術②(建築、美術)	杉本一直
第4講	20世紀のロシア芸術③(文学)	杉本一直
第5講	東アジアの衣生活 ①人の生活と衣装	曹述變
第6講	東アジアの衣生活 ②韓国・朝鮮人の衣装	曹述變
第7講	東アジアの衣生活 ③中国人とその周辺民族の衣装	曹述變
第8講	東アジアの衣生活 ④日本人とその周辺民族の衣装	曹述變
第9講	日本の国際貢献①(O DA)	榎田勝利
第10講	日本の国際貢献②(NGO)	榎田勝利
第11講	日本の国際貢献③(ボランティア)	榎田勝利
第12講	日本の国際貢献④(O DAとNGOとの連携)	榎田勝利

【評価方法】

レポートと授業への参加状況等により総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

授業開講時に指示する。

多元文化総合講座Ⅱ

稲生幹雄 大野清幸 久野幸子
中郷慶 平林美都子 宮田Susanne

【授業の概要】

世界を構成しているさまざまな要素のうち、特に言語を対象に、主として、言語の文学的・文化的・言語的意味や特徴に関する諸問題をオムニバス方式で学ぶ。なお、本学専任教員久野幸子教授が本講座のコーディネーターとなり、各講義の調整及び試験の評価に関する責任を負う。各担当者の講義概要は以下の通り。

(久野幸子教授) 多元文化総合講座Ⅱ全体のプロローグとエピソードを担当し、プロローグにおいて、講座の狙いと問題意識を明らかにする。また、本講座の1トピックを担当し、イギリス文学を題材に、イギリス文学の言語的特徴、歴史、ヨーロッパ地域や世界におよぼした文化的影響について学ぶ。

(稲生幹雄教授) 英米演劇を題材に、その成立や伝統、英米文化におよぼした影響について学ぶ。

(平林美都子教授) カナダ文学を題材に、カナダ文学の言語的特徴、歴史、北米地域や世界におよぼした文化的影響について学ぶ。

(大野清幸助教授) 主として、日本語と英語を対象に、人間の言語獲得の特徴に関する初歩的な問題を学ぶ。

(宮田Susanne助教授) 異文化間の人間のコミュニケーションの際に生じる問題を取り上げ、その原因の一つとして考えられる親子の接し方の問題を、主として会話のスタイルの文化差を分析しながら学ぶ。

(中郷慶助教授) 生成文法理論の枠組では、人間の言語獲得のシステムをどのようにとらえているのか、普遍文法と個別文法概念などを解説し、言語に対する新しい見方を学ぶ。

【授業計画】

第1講	ガイダンス、イギリス文学と新世界・ユートピア(1)	久野幸子
第2講	イギリス文学とコロニアリズム・ユートピア(2)	久野幸子
第3講	イギリスの文化と演劇 - 中世からルネッサンスへ	稲生幹雄
第4講	シェイクスピア演劇が示唆するもの、アメリカ演劇と文化の変遷	稲生幹雄
第5講	移民文化-翻訳とポストコロニアリズム	平林美都子
第6講	カナダ文学とポストモダニズム	平林美都子
第7講	言語の習得と生成文法理論	中郷慶
第8講	自然言語の体系と特徴	中郷慶
第9講	Nature 対 Nurture: 言語はどのように頭に入るのか?	宮田Susanne
第10講	母親の喋り方と子どもの言語獲得	宮田Susanne
第11講	言語科学	大野清幸
第12講	言語獲得研究	大野清幸

【評価方法】

レポートと授業への参加状況により総合的に評価する

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業開始時に指示する

環境文化総合講座Ⅰ

杉浦信彦 多田萬里子 棚橋昌子
土田正子 楊 衛平

【授業の概要】

現代社会における環境問題を主に「健康と環境」との視点を軸として、健康に生活するための環境のあり方について、オムニバス方式によって学ぶ。なお、本学専任教員多田萬里子教授が本講座のコーディネーターとなり、各講義の調整及び試験の評価に関する責任を負う。各担当者の講義概要は、以下の通り。

(多田萬里子教授) 環境文化総合講座Ⅰ全体のプロローグとエピローグを担当し、プロローグにおいて、講座の狙いと問題意識を明らかにする。また、本講座の1トピックスを担当し、外的環境要因と人体内部環境との関係性をホメオスタシスの観点から学ぶ。

(杉浦信彦教授) 日常生活における様々な身体的リスクへの対処法について、主に衛生科学の観点から学ぶ。

(棚橋昌子教授) 主に日常生活を取り巻く様々な次元の環境の問題を生活者の視点から学ぶ。

(楊衛平教授) 健康な日常生活のハード、ソフトの整備を主に医学的な観点から学ぶ。

(土田正子兼任講師) 豊かで快適な生活環境の設計について、主に衣環境の側面から学ぶ。

【授業計画】

第1講	ガイダンス：健康と環境	多田萬里子
第2講	環境要因としての水	
	1. 地球環境としての水	杉浦信彦
第3講	2. 生命と水	杉浦信彦
第4講	食生活と健康	
	1. 伝統医学に見る食養	楊 衛平
第5講	2. 生活習慣病に対する伝統食養法	楊 衛平
第6講	生活環境と疲労	
	1. 疲労のメカニズム	棚橋昌子
第7講	2. 文明の発達と疲労	棚橋昌子
第8講	3. 身体的疲労から精神的疲労へ	棚橋昌子
第9講	衣と人の生活	
	1. 衣生活と健康	土田正子
第10講	2. 現代衣生活の諸問題	土田正子
第11講	地球環境と人の生活	
	1. 環境化学物質と健康	多田萬里子
第12講	2. 環境要因と疾患	多田萬里子
	まとめ	

【評価方法】

各教官による評価（レポートまたはテスト）を総合して評価する。

【テキスト】

使用せず。講義の要旨はプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

環境文化総合講座Ⅱ

杉浦淳吉 高橋啓介 永田忠夫
ポール・ルイス 若松孝司 渡辺達

【授業の概要】

現代社会における環境を1つの文化として捉え、「生活と人間」との視点を軸として、人間性豊かな生活文化のあり方について、オムニバス方式によって学ぶ。なお、本学専任教員永田忠夫教授が本講座のコーディネーターとなり、各講義の調整及び試験の評価に関する責任を負う。各担当者の講義概要は以下の通り。

(永田忠夫教授) 環境文化総合講座Ⅱ全体のプロローグとエピローグを担当し、プロローグにおいて、講座の狙い、問題意識を明らかにする。また、本講座の1トピックスを担当し、ストレスがもたらす様々な心理的問題を主に臨床心理学の観点から学ぶ。

(Paul Lewis助教授) マルチメディアの急速な進歩が、今日の情報社会の環境に及ぼす影響について学ぶ。

(高橋啓介教授) 外的環境の知覚・認知処理の様式や特性を心理学の観点から学ぶ。

(若松孝司講師) 開発に伴って生じる多様な生活・文化に関わる環境問題を、国際開発論の視点から学ぶ。

(渡辺達兼任講師) より快適で豊かな住環境のデザインやコーディネイトの方法について学ぶ。

(杉浦淳吉兼任講師) 環境問題を、主に地域固有の特性と関連づけて理解し、その解決策について学ぶ。

【授業計画】

以下のテーマで講義する。

1. 「人間性豊かな生活文化」を考える視点について
2. 人は、外的環境をどのように認知しているのか
3. 人は、ストレス社会でどのように心理的な適応を保つのか
4. より快適で豊かな住環境をどのように整えていったらいいのか
5. 人は、地域社会の環境問題にどう立ち向かうのか
6. 国際開発が、生活・文化環境にどのような影響をもたらすのか
7. 情報社会のなかで、マルチメディアの発展がなにをもたらすのか

※なお、ルイス先生担当授業は、英語による授業である。

【評価方法】

出席状況、各授業内容ごとのレポートやテスト等の成績を総合して評価する。

【参考文献・資料】

各担当教官が授業時に指示する。

文化創造ワークショップⅠ

稲生幹雄 酒井晶代 篠弘 島田修三
清水良典 中郷慶 西田勝

【授業の概要】

各自で立案し設定した卒業研究のテーマが、当該専攻を越えて複数の専攻にまたがる学生のために開設する科目であって、専攻を越えた複数の専任教員の共同指導のもとに、各自のテーマを深める。

【授業計画】

（レトリック研究）

以下の研究グループを置き、学生の研究・制作テーマに応じて指導を行う

- (1) 散文ジャンル研究グループ
西田勝教授、清水良典教授
- (2) 韻文ジャンル研究グループ
篠弘教授、島田修三教授
- (3) ミックスジャンル研究グループ
稲生幹雄教授、酒井晶代助教授
- (4) 文章習得過程・文章解析研究グループ
清水良典教授、中郷慶助教授

【評価方法】

ワークショップに参加する研究態度・制作態度によって評価する

文化創造ワークショップⅠ

榎田勝利 大野清幸 皆川修吾 若松孝司

【授業の概要】

各自で立案し設定した卒業研究のテーマが、当該専攻を越えて複数の専攻にまたがる学生のために開設する科目であって、専攻を越えた複数の専任教員の共同指導のもとに、各自のテーマを深める。

【授業計画】

（グローバル・ガバナンス時代）

ワークショップのテーマは、「グローバル・ガバナンスの時代」とし、4名の教員が指導にあたる。

<専攻分野と指導可能な分野>

（皆川修吾）

専攻分野 ・国際政治、比較政治学・地域政治（欧米・オセアニア・東欧・ロシア・日本）、国際法、制度論、非公式政治（人脈政治）

指導可能な分野 ・個人情報データベース作成、資料（欧文）収集・分析手法

（大野清幸）

専攻分野 ・発達言語心理学、英語学、日英対照言語学、コーパス言語学、英語教育学、情報収集方法論

指導可能な分野 ・情報解釈論、一般的な政治・経済情報、日本経済新聞の読み方・活用法、近未来予測論

（若松孝司）

専攻分野 ・国際政治・国際関係、ラテン・アメリカ地域研究、国際機構、環境政治

指導可能な分野 ・発展途上地域の研究、先進国＝途上国関係の政治学、地球環境問題への各国の対応

（榎田勝利）

専攻分野 ・国際交流論、国際文化交流論、国際協力論、非営利組織論、ボランティア論、NGO・NPO論、開発教育

指導可能な分野 ・アジア・大太平洋のNGO、ボランティア事情、世界の政府開発援助（ODA）の研究、自治体の国際政策、戦後の国際文化交流史、フィールドワーク・インターナショナルの理論と実践

【評価方法】

自主研究レポートと平常点で評価する。

文化創造ワークショップⅠ

川澄未来子 杉浦信彦 杉本一直 角田達朗
多田萬里子 棚橋昌子 永田忠夫 楊衛平

【授業の概要】

各自で立案し設定した卒業研究のテーマが、当該専攻を越えて複数の専攻にまたがる学生のために開設する科目であって、専攻を越えた複数の専任教員の共同指導のもとに、各自のテーマを深める。

【授業計画】

(文化システムとしての生命)

[文化システムとしての生命 (いのち)] ワークショップは以下のグループによって学生の研究・制作の指導を行う。

- 1、リアリティ研究グループ
担当：川澄未来子助教授、角田達朗助教授、杉本一直助教授
- 2、食と健康の研究グループ
担当：杉浦信彦教授、多田萬里子教授、楊衛平教授
- 3、人間と環境の研究グループ
担当：棚橋昌子教授、永田忠夫教授

【評価方法】

授業態度と研究レポート・制作作品などによって評価する。

【テキスト】

各担当教員の指示による。

文化創造ワークショップⅠ

高橋啓介 曹述燮 平林美都子
宮田Susanne 矢頭純

【授業の概要】

各自で立案し設定した卒業研究のテーマが、当該専攻を越えて複数の専攻にまたがる学生のために開設する科目であって、専攻を越えた複数の専任教員の共同指導のもとに、各自のテーマを深める。

【授業計画】

(メディアにおける差別表現)

本「メディアにおける差別表現」ワークショップは、以下の各サブ・テーマについて、各担当教員が自らの専門分野の視座から指導を行う。

- テーマⅠ「印刷媒体における差別表現」
主担当：矢頭純教授・平林美都子教授・曹述燮助教授
- テーマⅡ「映像媒体における差別表現」
主担当：高橋啓介教授
- テーマⅢ「マルチ・メディアにおける差別表現」
主担当：高橋啓介教授・宮田Susanne助教授

【評価方法】

授業でのレポート、期末レポート、および出席状況によって総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて、適宜授業において指示する。

文化創造ワークショップⅡ

稲生幹雄 酒井晶代 篠弘 島田修三
清水良典 中郷慶 西田勝

【授業の概要】

前期の「文化創造ワークショップⅠ」の内容を後期において継続的に開設する科目であって、専攻を越えた複数の専任教員の共同指導のもとに各自の卒業研究テーマを完成させる。

【授業計画】

（レトリック研究）

「文化創造ワークショップⅠ」に引き続き、学生の研究・制作テーマに応じ、以下の研究グループによって指導を行う

- （1）散文ジャンル研究グループ
西田勝教授、清水良典教授
- （2）韻文ジャンル研究グループ
篠弘教授、島田修三教授
- （3）ミックスジャンル研究グループ
稲生幹雄教授、酒井晶代助教授
- （4）文章習得過程・文章解析研究グループ
清水良典教授、中郷慶助教授

【評価方法】

ワークショップを通して制作された研究論文または作品によって評価する

文化創造ワークショップⅡ

榎田勝利 大野清幸 皆川修吾 若松孝司

【授業の概要】

前期の「文化創造ワークショップⅠ」の内容を後期において継続的に開設する科目であって、専攻を越えた複数の専任教員の共同指導のもとに各自の卒業研究テーマを完成させる。

【授業計画】

（グローバル・ガバナンス時代）

ワークショップのテーマは、「グローバル・ガバナンスの時代」とし、4名の教員が指導にあたる。

<専攻分野と指導可能な分野>

（皆川修吾）

専攻分野 ・国際政治、比較政治学・地域政治（欧米・オセアニア・東欧・ロシア・日本）、国際法、制度論、非公式政治（人脈政治）

指導可能な分野 ・個人情報データベース作成、資料（欧文）収集・分析手法

（大野清幸）

専攻分野 ・発達言語心理学、英語学、日英対照言語学、コーパス言語学、英語教育学、情報収集方法論

指導可能な分野 ・情報解釈論、一般的な政治・経済情報、日本経済新聞の読み方・活用法、近未来予測論

（若松孝司）

専攻分野 ・国際政治・国際関係、ラテン・アメリカ地域研究、国際機構、環境政治

指導可能な分野 ・発展途上地域の研究、先進国＝途上国関係の政治学、地球環境問題への各国の対応

（榎田勝利）

専攻分野 ・国際交流論、国際文化交流論、国際協力論、非営利組織論、ボランティア論、NGO・NPO論、開発教育

指導可能な分野 ・アジア・大太平洋のNGO、ボランティア事情、世界の政府開発援助（ODA）の研究、自治体の国際政策、戦後の国際文化交流史、フィールドワーク・インターンシップの理論と実践

【評価方法】

自主研究レポートと平常点で評価する。

文化創造ワークショップⅡ

川澄未来子 杉浦信彦 杉本一直 角田達朗
多田萬里子 棚橋昌子 永田忠夫 楊衛平

【授業の概要】

前期の「文化創造ワークショップⅠ」の内容を後期において継続的に開設する科目であって、専攻を越えた複数の専任教員の共同指導のもとに各自の卒業研究テーマを完成させる。

【授業計画】

（文化システムとしての生命）

「文化創造ワークショップⅠ」に引き続き、学生の研究・制作テーマに応じ、以下の研究グループによって指導する。

- 1、リアリティ研究グループ
担当：川澄未来子助教授、角田達朗助教授、杉本一直助教授
- 2、食と健康の研究グループ
担当：杉浦信彦教授、多田萬里子教授、楊衛平教授
- 3、人間と環境の研究グループ
担当：棚橋昌子教授、永田忠夫教授

【評価方法】

授業態度と研究レポート・制作作品などによって総合的に評価する。

【テキスト】

各担当教員の指示による。

文化創造ワークショップⅡ

高橋啓介 曹述變 平林美都子
宮田Susanne 矢頭純

【授業の概要】

前期の「文化創造ワークショップⅠ」の内容を後期において継続的に開設する科目であって、専攻を越えた複数の専任教員の共同指導のもとに各自の卒業研究テーマを完成させる。

【授業計画】

（メディアにおける差別表現）

「文化創造ワークショップⅠ（メディアにおける差別表現）」での内容を、さらに深め、よりハイレベルな「卒業プロジェクト」として完成することを目標とする。

ワークショップⅠと同様、サブ・テーマおよび担当教員は以下に示した通りである。

- テーマⅠ「印刷媒体における差別表現」
主担当：矢頭純教授・平林美都子教授・曹述變助教授
- テーマⅡ「映像媒体における差別表現」
主担当：高橋啓介教授
- テーマⅢ「マルチ・メディアにおける差別表現」
主担当：高橋啓介教授・宮田Susanne助教授

【評価方法】

授業でのレポート、期末レポート、および出席状況によって総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて、適宜授業において指示する。

関連科目

日本語論

山本雅子

【授業の概要】

日本語学的な観点から、日本語の成立や史的展開をたどり、現代日本語の文法や語彙又は音韻の性格について学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 言語と話者
- 第2講 文法と話者1
- 第3講 文法と話者2
- 第4講 文法と話者3
- 第5講 文法と話者4
- 第6講 メタファーの意義1
- 第7講 メタファーの意義2
- 第8講 メタファーの意義3
- 第9講 日本語の歴史1
- 第10講 日本語の歴史2
- 第11講 話し言葉と書き言葉1
- 第12講 話し言葉と書き言葉2

【評価方法】

出席状況・プレゼンテーション・レポートによって総合的に評価する

【参考文献・資料】

授業中に配布、及び指示する。

国語学

広瀬英史

【授業の概要】

国語学的な観点から、日本語の語彙の成立過程およびその固有の性格について体系的な語彙論のもとに学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 各論1 : 語の性質
- 第2講 各論2 : 単語とは
- 第3講 各論3 : 単語の認定基準
- 第4講 各論4 : 日本語の語形
- 第5講 各論5 : 語の数
- 第6講 各論6 : 語のつながり
- 第7講 各論7 : 語種1
- 第8講 各論8 : 語種2
- 第9講 各論9 : 語の意味1
- 第10講 各論10 : 語の意味2
- 第11講 各論11 : 語の意味3
- 第12講 各論12 : 語構成1
- 第13講 各論13 : 語構成2

【評価方法】

授業中の確認テストと試験によって評価する。

【テキスト】

よくわかる語彙（アルク）

詩学

荒川洋治

【授業の概要】

主として日本の詩作品を対象とし、詩の本質や詩の言葉の構成等に関する批評的読解の方法について学ぶ。

【授業計画】

- 1 近・現代詩の歴史と形勢
- 2 最初の自由詩、最初の個人詩集
- 3 詩集と美術
- 4 詩と流通
- 5～7 現代詩を読む
黒田三郎、石原吉郎ほか
- 8 海外の現代詩
- 9 フィクションとしての詩
- 10 ことばの化学
- 11 詩を「思う」こと
- 12 まとめ

【評価方法】

- ・レポートによる

【テキスト】

- ・なし（プリントを配付）

【参考文献・資料】

- ・その都度指示する。

詩学

柏木義雄

【授業の概要】

主として日本の詩作品を対象とし、詩の本質や詩の言葉の構成等に関する批評的読解の方法について学ぶ。

【授業計画】

- 1 近・現代詩の詩史概観
- 2 詩による意味の創出
- 3～5 「時」をどのように捉えて表現したか
有明、白秋、達治、犀星らの技法について
- 6 歌の姿 詩の形
- 7 リズム、響きの働き
- 8～9 現代の詩人の作品を読む～読みの試み
谷川俊太郎「母を売りに」「わらべうた」他
- 10 定型詩の試みの意味するもの
- 11 ウソがウソでなくなるとき
- 12 まとめ

【評価方法】

- ・テスト、出席状況による

【テキスト】

- ・なし（プリントを配付する）

【参考文献・資料】

- ・内容によりその都度指示する。

日本文学史Ⅰ

篠弘

【授業の概要】

明治から大正、昭和初期に至る日本の近代文学の史的展開を、主として詩歌の視点からとらえ、近代文学史の諸問題を学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 概論：新体詩と短歌
- 第2講 各論：ナショナリズムと詩歌
- 第3講 各論：「明星」のロマン
- 第4講 概論：自然主義文学の影響
- 第5講 各論：短歌滅亡論の系譜
- 第6講 各論：「写生」の展開
- 第7講 各論：シュルレアリスムの技法
- 第8講 各論：プロレタリア短歌
- 第9講 概論：日中戦争と歌人たち
- 第10講 各論：戦中・戦後の言論統制
- 第11講 各論：知性の抒情化
- 第12講 各論：想像力の拡大
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験によって、総合的に評価。

【テキスト】

現代秀歌百人一首
(篠弘・馬場あき子編著 実業之日本社刊 2,000円＋税)
必要に応じて、プリントを配布する。

日本文学史Ⅱ

篠弘

【授業の概要】

「日本文学史Ⅰ」における「近代文学史」を受け、第二次世界大戦前後から現在に至る現代文学史の諸問題を、主として詩歌の視点から学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 概論：第二芸術論議
- 第2講 各論：戦後派の誕生
- 第3講 各論：思想的抒情詩
- 第4講 各論 女性歌人の興隆
- 第5講 概論 現代短歌の運動
- 第6講 各論 方法意識の獲得
- 第7講 各論 社会性俳句
- 第8講 各論 詩における身体感覚
- 第9講 各論 自己劇化の試み
- 第10講 各論 自然観の変容
- 第11講 各論 口語とライトバース
- 第12講 概論 作品上の「私」
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験によって、総合的に評価。

【テキスト】

現代秀歌百人一首
(篠弘・馬場あき子編著 実業之日本社刊 2,000円＋税)
必要に応じて、プリントを配布する。

比較文学論

杉本一直

【授業の概要】

欧米と日本の近代小説を対象として、欧米からの影響関係や日本独自の展開、また欧米に与えた影響について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 概論 20世紀の世界文学
- 第2回 各論1 「ラテン・アメリカ文学」
J.L.ボルヘス、J.コルタサル
- 第3回 各論2 「アメリカ文学」
P.オースター、N.ベイカー
- 第4回 各論3 「イタリア文学」
I.カルヴィーノ、A.タブッキ
- 第5回 各論4 「フランス文学」
A.カミュ、P.モディアノー
- 第6回 各論5 「ロシア文学1」
V.フレープニコフ、V.マヤコフスキイ
- 第7回 各論6 「ロシア文学2」
E.ザミャーチン、V.ペレーヴィン
- 第8回 各論7 「ポーランド文学」
S.レム、V.ゴンブローヴィチ
- 第9回 各論8 「チェコ文学」
K.チャベック、M.クンデラ
- 第10回 各論9 「亡命者文学」
V.ナボコフ、S.ベケット
- 第11回 各論10 「日本文学1」
安部公房、芥川龍之介
- 第12回 各論11 「日本文学2」
村上春樹、高橋源一郎

【評価方法】

出席状況とレポートによって評価する。

【テキスト】

プリント配布

中国文学 I

曹 述 雙

【授業の概要】

中国の古典文学作品の原文をテキストとして、訓読による講読を行いながら、近代以前の中国の歴史社会状況を理解し、作品の文学的意味や価値について学ぶ。

【授業計画】

テーマ：『論語』を読んで見よう。

内容：『論語』は孔子及びその弟子達の言行録で、中国及び漢字文化の及ぶ諸地域でもっとも広く読まれた書物である。その愛読された理由は、この書物が、人間の生き方についての智恵を、広範に縦横に与えるという魅力のためである。その『論語』に盛られて智恵にみずから接してみる。

第1・2講：学習について

第3・4講：朋友について

第5・6講：対人関係について

第7・8講：適時について

第9・10講：悦楽について

第11・12講：紳士・淑女について

第13・14講：親孝行について

第15講：単位認定試験

進め方：それぞれの学習者がテキストを予習し発表する形式を取るが、概論に属するものは講義・解説していく。中国文学史概論の講義を並行する予定。

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、レポート、そして単位認定試験などを総合して評価する。

【テキスト】

『論語』上（吉川孝次郎 朝日選書）

【参考文献・資料】

中国文学史（前野直彬 東京大学出版社）

中国文学Ⅱ

曹 述 變

【授業の概要】

中国の近代以降の文学作品の原文をテキストとして、訓読による講読を行いながら、19世紀から20世紀に至る中国の近代・現代の歴史社会的な変遷を理解し、作品の文学的な意味や価値について学ぶ。

【授業計画】

- 第1・2講：総論
- 第3・4講：近代文学の胎動期の文学
- 第5・6講：文学革命と5・4運動期の文学
- 第7・8講：左翼文芸運動期の文学
- 第9・10講：抗日戦争の時代の文学
- 第11・12講：人民文学の誕生と展開における文学
- 第13・14講：現今の紙上の文学
- 第15講：単位認定試験

概論に属するパートは講義・解説していくが、その他は学習者がそれぞれテキストを予習し発表する形式を取る。

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、レポート、そして期末の単位認定試験の総合で評価する。

【テキスト】

プリント教材を用いる。

【参考文献・資料】

中国文学史（前野直彬 東京大学出版社）

中国思想史

角田達朗

【授業の概要】

主として儒教思想の成立と展開をたどり、中国社会および周辺諸国に儒教の果たした役割と意味について学ぶ。

【授業計画】

中国思想の展開を概観した後、それが日本にどのような影響を与えたかを知るための手立てとして、江戸時代の代表的な陽明学者であり、大塩平八郎の乱の首謀者としても知られる大塩中斎の著作を選読する。

- 第1～6回 概説
- 第7～8回 大塩中斎の学問観
- 第9～13回 反乱への傾斜

【評価方法】

レポート

*受講状況によっては試験に変更することがある。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

児童文化論

酒井晶代

【授業の概要】

児童文化といわれる具体的な事象を対象として、広く子供の文化を形成している原理を探り、その価値と意味について学ぶ。

【授業計画】

子どもの文化、文化財をめぐる諸事象のなかで、この講義では特に、絵本をはじめとする映像メディアとその周辺の問題を取りあげる。

講義では絵本を中心に、紙芝居、アニメーション等の表現上の特徴を、具体的な作品を通して検討するとともに、多様なメディアが氾濫する現代社会のなかで、子どもたちがそれぞれの表現をどのように受容しているのか、さらには、個々のメディア間をどのように繋ぎあわせながら、物語を享受しているのか、受講者の意見交換を通して考えてみたい。

- | | |
|---------|-----------------|
| 第1回 | 子ども文化とは何か |
| 第2～5回 | 絵本の表現をめぐって |
| 第6～7回 | 紙芝居の表現をめぐって |
| 第8～9回 | アニメーションの表現をめぐって |
| 第10～11回 | 子ども文化とメディア |
| 第12回 | 講義のまとめ |

【評価方法】

出席状況、レポート、試験等により総合的に評価する。

【参考文献・資料】

絵本づくりトレーニング（長谷川集平著 筑摩書房）

絵本はいかに描かれるか—表現の秘密—

（藤本朝巳著 日本エディタースクール出版部）

絵本の視覚表現—そのひろがりとはたらき—

（中川素子ほか著 日本エディタースクール出版部）

絵本の表現（竹内オサム著 久山社）

紙芝居・共感のよろこび（まついのりこ著 童心社）

物語の放送形態論—仕掛けられたアニメーション番組—

（島山兆子・松山雅子共著 世界思想社）

子どものメディアを読む（ドルフマン著 晶文社）

演劇文化論

安田徳子

【授業の概要】

主として歌舞伎・浄瑠璃等の日本の演劇を対象として、演劇が歴史的に果たして来た文化的な意味や価値について学ぶ。

【授業計画】

- | | |
|--------|---------------|
| 第1回 | 演劇鑑賞の手引き |
| 第2回 | 浄瑠璃の展開と意義 |
| 第3回 | 歌舞伎の始まり |
| 第4回 | 野郎歌舞伎まで |
| 第5回 | 和事と荒事 |
| 第6回 | 歌舞伎の音楽 |
| 第7回 | 劇場について |
| 第8～11回 | 歌舞伎・浄瑠璃の興行と作品 |
| 第12回 | 村芝居 |

4月中の講義で、御園座の歌舞伎の劇場鑑賞を行います。

【評価方法】

出席状況と課題レポートによる。

【テキスト】

歌舞伎入門（安田文吉・安田徳子著 おうふう）

演出論

角田達朗

【授業の概要】

演劇や映画において果たす演出の意味や機能を検討し、具体的な作品に即して演出の実際について学ぶ。

【授業計画】

演劇史においては二十世紀は「演出の時代」と言われる。いわゆる近代劇の成立に伴って近代的戯曲から近代的上演を実現するために、近代的造形理念に基づいて劇作りの過程を監督する者が必要不可欠となったことにより、二十世紀初頭に演出という役割が確立し、現在に至るまで、演出者の指導的地位は揺るぎないものとなっている。しかしながら、演出という役割がいかなる内実を持つかということ、例えば、演出の作業は戯曲創作の作業と連続するべきか、あるいは断絶するべきか、演出者は主に俳優の演技を指導するのか、あるいは様々な舞台効果の総合化に努めるのか。そうした基本的問題も必ずしも明確に規定されていない。

この講義では演劇における演出の役割について通史的観点をまじえつつ、可能な限り客観的かつ明確に説明する。そして、映画やマンガにおける演出についても参照して、演出という営為一般に通ずる特徴や心得について提示したいと考える。

主としてビデオ・静止画等の視聴覚資料を用いて講義するが、上演芸術の理解には当然ながら生の上演に接することが不可欠である。そこで講義内容に沿って二つの鑑賞課題を設定し、その都度レポートの提出を求めるものとする。

(上演鑑賞のため、5～7千円の経費を要する。)

【評価方法】

レポート

【テキスト】

プリントを配布する。

* 授業内で参照する映像もテキストに準ずる意味を持つ。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

映像文化論

吉村英夫

【授業の概要】

主として映画作品を対象として、映像が作品のストーリーやテーマを具体的に具象化する原理や仕組みについて学ぶ。

【授業計画】

日本映画の魅力の再発見を中心にする。黒澤明と山田洋次監督作品を参考上映しながら日本映画の魅力をさぐる。同時に、映画と日本映画の21世紀を考察する。

第1回～第6回

黒澤ワールドとは何かを、黒澤映画を楽しみながら考えてみる。参考上映は『天国と地獄』『椿三十郎』『赤ひげ』『夢』など。

第7回～第12回

山田洋次の世界とその系譜を考える。

『男はつらいよ』を中心に参考上映しながら、寅さん映画が現代の若者文化、若い人の感性と無縁な映画でないことを知る。山田洋次映画についても考察する。

また、山田洋次につらなる系譜とは松竹大船映画であるが、大船映画の歴史をひもとき、小津安二郎・木下恵介の映画についても知る。本年は小津安二郎生誕100年であることにも留意する。

第13回は、テストを予定。

【評価方法】

テスト、出席、レポート（雑文風感想）などによる。

【参考文献・資料】

松竹大船映画 小津安二郎・木下恵介・山田太一・山田洋次の描く「家族」（吉村英夫 創土社）

【その他】

学生参加の授業通信「Limelight」を随時発行配布する。この通信は先輩諸君から引き続いての通信である。

伝統芸能論

安田文吉

【授業の概要】

主として歌舞伎を対象として、伝統的な様式・作法・所作等によって成立する表現芸術の意味について学ぶ。

【授業計画】

歌舞伎・人形浄瑠璃を中心とする近世芸能は、それに先行する諸々の文化・芸能・文学を取り込んで成立している。本講義では、歌舞伎・人形浄瑠璃の成立と展開を中心に、VTRを見ながら、所作・台詞・衣裳・音楽・効果（お囃子）・大道具その他の表現方法を考え、あわせて近世芸能文化の特色を検討する。取上げる代表的作品は『けいせい仏の原』『雷神不動北山桜』『助六』『勅進帳』『菅原伝授手習鑑』など。

歌舞伎の成立

歌舞伎独特の表現方法（女方・和事・荒事）

VTR：女方・和事・荒事の代表作品の鑑賞

所作・台詞・囃取り・衣裳・音楽・効果・大道具・小道具にも注意する。

和事・荒事の代表作品を構成する先行の文学作品・文化の研究

芸能伝承のありよう（家元制度など）の研究

御園座の十月興行「吉例顔見世」夜の部の鑑賞と研究

上演作品の梗概と見どころなどの解説

近世芸能文化が表現するところの特色

【評価方法】

レポート試験

【テキスト】

歌舞伎入門（おうふう）

歌舞伎のたのしみ（北白川書房）

声楽

志水博子

【授業の概要】

人間の身体を楽器として成立する最古の音楽である声楽を題材として、発声の基本的メカニズムやさまざまな唱法を具体的な音楽資料に基づきながら検討し、その芸術的特徴を学ぶ。

【授業計画】

第1回 発声についてのトレーニング方法と演習。

第2～4回 個々の声質、声部を1人づつ声を出して調べてみる。声の使い方のアドバイス。

第5～7回 それぞれ自分の好きなジャンルから1曲を選び課題曲とする。テープ等使用。

第8～9回 色々なジャンルの歌手による演奏を聴いて研究する。

第10～12回 課題曲の練習成果を発表演奏する。長所、短所を知ってくり返し練習する。

【評価方法】

個々に選曲した課題曲の演奏評価と出席状況。

【テキスト】

イタリア古典歌曲等のプリント配布

出版文化論

篠 弘

【授業の概要】

急速に変化する情報社会において、出版が直面する多様な問題・現代文化との関連・影響関係について学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 概論：出版文化
- 第2講 各論：書籍と雑誌
- 第3講 各論：印刷技術と出版
- 第4講 各論：出版権
- 第5講 各論：著作権
- 第6講 各論：流通のシステム
- 第7講 各論：ベストセラー
- 第8講 各論：外国との共同出版
- 第9講 概論：現代の編集作業
- 第10講 各論：プランニング
- 第11講 各論：判型・組み方
- 第12講 各論：装本・割付
- 第13講 各論：写真・イラスト

【評価方法】

出席状況と出版企画に関するレポートによって、総合的に評価。

【テキスト】

必要に応じて、プリントを配布する。

マスメディア

遠藤雄久

【授業の概要】

主としてテレビというマスメディアの現代社会において果たす意味や役割、その可能性について学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 マスメディアの効果理論－弾丸効果理論
- 第2講 マスメディアの効果理論－限定効果理論
- 第3講 マスメディアの効果理論－強力効果理論（1）
- 第4講 マスメディアの効果理論－強力効果理論（2）
- 第5講 カルチュラル・スタディーズ（1）「エンコーディング」
- 第6講 カルチュラル・スタディーズ（2）「デコーディング」
- 第7講 テレビドラマの分析
- 第8講 テレビドラマの分析
- 第9講 新聞記事の内容分析
- 第10講 新聞記事の内容分析
- 第11講 メディアイベントの考察
- 第12講 メディアイベントの考察
- 第13講 まとめ

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合判断する

【テキスト】

使用せず

国際政治学

皆川修吾

【授業の概要】

冷戦時の国際権力政治構造から相互依存の国際体系へ移行するなかで、国家の存在意義と、民主制や市場経済のグローバル化、国際秩序形成過程等を学ぶ。

民営化・民主化・分権化が地球的規模で進行している。そのプロセスでの国家の存在意義と、新たな国際秩序の仕組みを学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 国際政治理論：安定と秩序、戦争と平和、無政府国際社会論
- 第2講 2つの世界大戦
- 第3講 冷戦構造とその教訓
- 第4講 軍縮と安全保障
- 第5講 国際法
- 第6講 主権国家のタイポロジー：米国
- 第7講 ソ連／ロシア
- 第8講 中国
- 第9講 地域機構の存在意義(1)：欧州 (EU)
- 第10講 地域機構の存在意義(2)：アジア・太平洋地域 (ASEAN, APEC)
- 第11講 国際機構の存在意義(1)：国連
- 第12講 国際機構の存在意義(2)：WTO
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による。

【参考文献・資料】

- 国際社会論 (ヘドリー・プル著 岩波書店)
比較政治学
(ジョヴァンニ・サルトーリ著 早稲田大学出版部)
参照専門誌：
外交フォーラム (外務省編 都市出版社)
国際政治 (日本国際政治学会編 有斐閣)
政治学 (日本政治学会編 岩波書店)

国際協力論

榎田勝利

【授業の概要】

台頭するアジア諸国のNPO、NGOと日本との国際文化交流・文化協力の歴史的背景および現状と課題について学ぶ。

【授業計画】

- 1. ガイダンス 国際協力に関する用語解説
- 2. 国際協力の概念
 - (1) 定義 (途上国、開発、協力)
 - (2) 国際協力の役割
- 3. 国際協力の主体
 - (1) 国連、国際機関
 - (2) 政府援助機関 (日本／米国／仏／英／独)
 - (3) NGO (定義、歴史、国連NGO、日本のNGO)
- 4. 国際協力の方法
 - (1) 政府開発援助 (ODA) と JICA
 - (2) 地方自治体
 - (3) NGO、ボランティア
- 5. 国際協力の活動分野
 - (1) 発展途上国の現状
 - (2) 貧困問題
 - (3) 人口問題
 - (4) 難民問題
 - (5) 環境問題
 - (6) 在日外国人支援
- 6. 国際協力事業の評価
 - (1) JICAの事業評価
 - (2) NGOの事業評価

【評価方法】

課題研究レポートと平常点で評価する。

【参考文献・資料】

- 国際協力用語集 (プリント)
世界の国一覧表 (外務省編集協力、世界の動き社)
国際協力 (下村恭民他 有斐閣選書)
わが国の政府開発援助 ODA 白書 (外務省経済協力局)

フェミニズム概論

中島美幸

【授業の概要】

よりよい社会を形成する一助とするために、女性と男性のあり方とさまざまな問題点を学ぶ。

【授業計画】

1. フェミニズムとは
2. フェミニズムの歴史①
3. フェミニズムの歴史②
4. 多様なフェミニズム
5. 日本のフェミニズム①
6. 日本のフェミニズム②
7. 日本のフェミニズム③
8. 精神分析とフェミニズム
9. フェミニズム神学
10. フェミニズム文学
11. フェミニズム・アート
12. フェミニズム映画
13. まとめ

【評価方法】

出席状況とレポートなどにより、総合的に評価。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で、その都度紹介する。

民主主義と人権

本 秀紀

【授業の概要】

多元化する今日の文化状況の中で、異文化接触時に生じる様々な問題を、特に憲法における基本的人権の観点から検討し、その解決の方途について学ぶ。

【授業計画】

新聞報道などから、できるかぎり身近で具体的な素材を取り上げつつ、まずは現実を知り、その上で諸問題への対応を考える力を養う。

基本的には講義形式で行うが、受講生の問題関心を高めるため、適宜質疑をしたり、ビデオを観る予定である。

授業内容は現在のところ、おおよそ以下の通りだが、そのときどきのトピックによって変更もありうる。

- 1 はじめに：「民主主義と人権」って？
- 2 企業社会と人権：過労死、育児休業
- 3 女性と人権：セクシャル・ハラスメント
- 4 マスメディアと人権：プライバシー侵害
- 5 子どもと人権：校則・体罰、少年法
- 6 医療と人権：インフォームド・コンセント
- 7 外国人と人権：参政権、出入国管理
- 8 ゴミ問題と民主主義：廃棄物処分場と環境
- 9 政治の仕組みと民主主義：選挙制度、国会

【評価方法】

学期末の筆記試験（受講者数によってはレポート）を基本とし、ビデオへの感想などを加味する。

【参考文献・資料】

テキストブック現代の人権〔第2版〕（川人博編著 日本評論社〈1996年〉）、人権ウォッチング（前田朗 凱風社〈2000年〉）、ハンドブック国際化のなかの人権問題〔第3版〕（上田正昭編 明石書店〈2002年〉）、現代の人権と法を考える（中川義朗編 法律文化社〈1998年〉）など。なお、必要に応じて、講義の際に資料・レジュメ等を配布する。

外交史

皆川修吾

【授業の概要】

戦後日本外交史を考察し、日本外交の指向性と国際的な評価、意志決定の仕組み、そして環境問題など国際的な課題への今後の日本外交のあり方について学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 外交理論
- 第2講 外務省と外務職
- 第3講 対外政策意志決定過程
- 第4講 日本外交思想史
- 第5講 日本外交：戦前、戦間期、戦後、冷戦期、冷戦後
- 第6講 安全保障外交
- 第7講 通商外交
- 第8講 資源外交
- 第9講 主権外交：国交回復、領土問題
- 第10講 経済援助外交
- 第11講 グローバル外交：環境、人権問題等
- 第12講 統括：日本外交のゆくえ
- 第13講 単位認定試験

【参考文献・資料】

外交 (H. ニコルソン著 東大出版)
戦後日本外交史 (五百旗頭真著 有斐閣)
参照専門誌：
外交フォーラム (外務省編 都市出版社)
国際政治 (日本国際政治学会編 有斐閣)
政治学 (日本政治学会編 岩波書店)

アジア現代史

土屋 洋

【授業の概要】

第二次世界大戦後のアジアの歴史を振り返り、現状を理解するとともに、アジアの未来について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 期間計画指示・授業内容の説明
- 第2回 概論：中国、日本と東アジア
- 第3回 各論1：近代中国の形成
- 第4回 各論2：近代中国の展開から日中戦争
- 第5回 各論3：新中国の誕生と毛沢東
- 第6回 各論4：新中国の展開と鄧小平・江沢民
- 第7回 各論5：現代中国の諸問題(1)
- 第8回 各論6：現代中国の諸問題(2)
- 第9回 各論7：現代中国と東アジア
- 第10回 各論8：現代中国と日本(1)
- 第11回 各論9：現代中国と日本(2)
- 第12回 概論：21世紀の中国、日本と東アジア

【評価方法】

学期末に課すレポートの内容、ならびに授業の際、時に課す感想・意見等の提出状況によって評価する。

【参考文献・資料】

授業中に提示する。

ヨーロッパ現代史

中谷 毅

【授業の概要】

第二次世界大戦後のヨーロッパの歴史を振り返り、現状を理解するとともに、ヨーロッパ地域の未来について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回：2度の世界大戦とヨーロッパ
- 第2回： 〃
- 第3回：冷戦とヨーロッパ分断
- 第4回：西ヨーロッパ統合の動き
- 第5回： (前史、戦間期、戦後)
- 第6回： 〃
- 第7回：統合の拡大と深化
- 第8回： 〃
- 第9回： 〃
- 第10回： 〃
- 第11回：冷戦終結とヨーロッパ
- 第12回：ヨーロッパの今日と将来

【評価方法】

学期末試験が中心となるが、小レポートや出席状況なども加味する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業で参考文献リストを配布する。

文化人類学

稲村哲也

【授業の概要】

国際社会での人間理解の一助とするため、人間の身体構造から民族の慣習などの文化的側面まで、人間をさまざまな角度から学ぶ。

【授業計画】

1・2年次の「生活民族学」では様々な民族の生活様式の多様性を知ることにより、文化の相対性を学んできたが、この授業では、様々な民族・社会の事例を取りあげて比較しながら、世界の民族文化の多様性の基底に通じる共通性、規則性、モデルなどを分析する。とくに、生業形態、家族と親族、結婚、ジェンダー、コミュニティ、儀礼などを考察する。また、広い視点から日本社会の特質を考える。

- 1～2：生活の営みー狩猟・農耕・牧畜
- 3～5：身内と他人ーさまざまな家族、親族、婚姻
- 6～7：性と年齢による区分ージェンダーと年齢集団
- 8：社会階層
- 9～10：人の一生と通過儀礼
- 11～12：日本社会の特質

【評価方法】

授業中に適宜提出してもらいショート・レポート（平常点）、学期中に実施する小テスト、および学期末のレポートによる

【テキスト】

『社会人類学ーアジア諸社会の考察』（中根千枝著・講談社学術文庫）、

『タテ社会の人間関係』（中根千枝著・講談社現代新書）

異文化コミュニケーション

宮田Susanne

【授業の概要】

異文化接触場面の具体的事例を取り上げ、「文化」に対する意識を高める。さらに、異文化間の人間のコミュニケーションで生じる文化差を背景とした問題を、主として言語の特性の相違を分析することを通じて学ぶ。

【授業計画】

- | | |
|---------|--------------------------------|
| 第1回 | 異文化の「文化」：異文化コミュニケーションで問題になる文化差 |
| 第2回 | 「常識」も文化の一部 |
| 第3回 | コミュニケーションシステムの文化：テーブルマナー |
| 第4回 | コミュニケーションシステムの文化：時間概念 |
| 第5回 | コミュニケーションスタイルの文化差：自己開示 |
| 第6回 | コミュニケーションスタイルの文化差：対人関係 |
| 第7回 | 「偏見はヘンに見ること、差別は差をつけること」 |
| 第8回 | 在日外国人の実態：法律的な立場から |
| 第9回 | 在日外国人の実態：心理学的な立場から |
| 第10回 | 国際結婚：素肌で感じる異文化コミュニケーション |
| 第11～12回 | 異文化で生きる：カルチャーショック |

【評価方法】

出席状況・講義ノート作成など

【テキスト】

異文化コミュニケーション・入門
(池田理知子他著 有斐閣アルマ)

英文学史

稻生幹雄

【授業の概要】

英文学の歴史において、さまざまな作家と作品が、英語文化に及ぼした影響について考察し、英語文化をより深く学ぶ。

【授業計画】

遠い昔から現在へ、そして未来へと、今も変遷と発展を続けている〈英語圏の文化〉——そのパノラマ的な展望を視野に収めながら、〈文化現象〉の一環として〈英文学〉をとらえ、民族の歩みにつれて、それぞれの時代の文学と文化とが互いにどう関わり合ってきたのかを探っていく。講義の中の解説や、作品等の分析は、

- (1) “鯨の道”を渡る船、英文学の原風景
- (2) “英詩の父”の旅路、〈中期英語〉の文学、中世演劇の上演、言語事情、歴史的背景、中世の文化的遺産
- (3) 花開いた演劇、英国ルネッサンスの特色と〈近代英語〉の表現力、シェイクスピアとその周辺、ルネッサンス文化の特徴と影響、ルネッサンスの美術の世界
- (4) 〈ピューリタニズム〉の時代とは？、叙事詩の世界
- (5) 18世紀の種々相——詩・劇・散文、小説の世界
- (6) 〈ロマンティズム〉の情熱——“詩人の目”
- (7) ヴィクトリア時代の文化——時代思潮・文学・社会
- (8) 20世紀の変貌——現代イギリス文学の背景、多彩な〈表現技法〉の探究、英語圏文化の諸相と未来

——という順序で展開していく予定。特に、(3)のルネッサンス文化とシェイクスピアについては、ある程度詳しい解説を試みる。いつも問題点を整理して、各時代それぞれの文学と文化の特徴的な輪郭が、くつきりと把握されるよう心がける。特に、各種のビデオ教材を活用し、さまざまな映像を觀賞して、〈音声〉と〈視覚的な要素〉とが、いかに深く〈英文学〉の本質と関わり合っているかを、視覚的に理解・探究する手がかりとしたい。

【評価方法】

筆記テストの成績と、出席状況・受講状況などを総合して評価する。

【テキスト】

イギリス文学史 (川崎寿彦著 成美堂)

英文学史

横関美津紀

【授業の概要】

英文学の歴史において、さまざまな作家と作品が、英語文化に及ぼした影響について考察し、英語文化をより深く学ぶ。

【授業計画】

「イギリス文化」を知りたいと思う時、人々がどのような社会に生き、何を考え、どのように暮らしているのかを様々な表現方法で「再生」する手段である文学作品は、私達に幅広く情報を提供してくれる知的宝庫です。現在は、文学作品の映画化も盛んになっています。過去、現在、未来は連続したものであると考える時、各時代の文学の背景にある思潮および変遷と、相互の影響関係を広く見渡す視点を学ぶことは、複層的な英語文化を考えるのに有意義であると考えられます。

本講義では、以下の項目を学ぶ予定です。

- (1) 古英語・中英語の文学
- (2) ルネサンス期の散文、詩、演劇
- (3) 17世紀の散文、詩、演劇
- (4) 18世紀の散文、詩、演劇、小説
- (5) ロマン主義時代
- (6) ヴィクトリア朝期の詩、散文、小説
- (7) 20世紀から現代へ

【評価方法】

筆記試験、授業への積極的な参加、出欠席

【テキスト】

イギリス文学史 (川崎寿彦著 成美堂)

英文学

平林美都子

【授業の概要】

さまざまな文学研究方法の具体例とともに、英文学／映画から何をどのように読みとることができるのかについて学ぶ。

【授業計画】

テーマ：ゴシックの系譜—ゴシック小説からSF/ホラー映画

- 1 ゴシックの概念の説明
- 2 初期のゴシック小説
- 3 メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』
- 4 エドガー・アラン・ポー『アッシャー家の崩壊』
- 5 R. L. スティーヴンソン『ジェキル博士とハイド氏』
- 6 シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』
- 7 エミリー・ブロンテ『嵐が丘』
- 8 プラム・ストーカー『吸血鬼ドラキュラ』
- 9 デュ・モーリア『レベッカ』
- 10 映画『レベッカ』
- 11 『ブレッドランナー』
- 12 まとめ

【評価方法】

出席状況と授業参加態度（発言・発表）及びレポート内容によって総合的に評価する。

【テキスト】

フランケンシュタイン

(M. シェリー著 創元推理文庫)

ジェキル博士とハイド氏

(スティーヴンソン著 岩波文庫)

アッシャー家の崩壊

(エドガー・アラン・ポー著 新潮文庫)

ジェイン・エア

(シャーロット・ブロンテ著 集英社)

嵐が丘

(エミリー・ブロンテ著 新潮文庫)

吸血鬼ドラキュラ

(プラム・ストーカー著 創元推理文庫)

【参考文献・資料】

レベッカ 上下 (デュ・モーリア著 新潮文庫)

英語学概論

中郷 慶

【授業の概要】

英語のもつさまざまな言語学的特徴を、主として統語論と意味論を中心に学ぶ。

【授業計画】

世界には、4,000とも6,000とも言われる数の言語がある。人間言語の持つ特徴を、英語を中心とする観点から明らかにする。ことばについて、意識的に考えるきっかけを提供することがこの授業の目標である。ことばがわれわれの生活に深く息づいていることを実感として受け止め、ことばとは不思議でおもしろいものだと感じてもらいたい。主に扱うトピックは以下のとおりである。

1. ことばの起源
2. 人間言語と動物言語
3. 世界の言語
4. 音の構造
5. 語の構造
6. 文の構造
7. 意味の意味

【評価方法】

出席状況、レポート、定期試験の成績により、総合的に評価する。

【テキスト】

英語学セミナー：思考鍛錬のための言葉学（高橋勝忠、福田稔著 松柏社）

意味論

柳 朋宏

【授業の概要】

英語を中心として、さまざまな文が持つ意味とその用法を言語学的な立場から理論的に学ぶ。

【授業計画】

1回目の授業ではオリエンテーションを行い、2回目以降、下記項目について講義演習を行う（順不同）。

- ・日常の言語生活の中の「意味論」
 - ・意味の分解
 - ・語と語の関係
 - ・動詞の分類
 - ・テンスとアスペクト
 - ・ダイクシスの比較
 - ・曖昧性
 - ・メタ言語
- など

【評価方法】

授業への貢献度、不定期に行う小テスト／学期末のテストの成績などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

英語の論理・日本語の論理（安藤貞雄著 大修館書店）
ことばの仕組みを探る－生成文法と認知文法（原口庄輔他著 研究社）
動詞意味論（影山太郎著 くろしお出版）
日英対照動詞の意味と構文（影山太郎編 大修館書店）
その他、授業中に指示する。

環境生態学

林 進

【授業の概要】

人間の生産・消費活動により引き起こされる地球環境要因の汚染や破壊に伴う生態系の危機の現状を理解し、生態系との共生のための人間文明のあり方について学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 地球環境問題とは
- 第2講 オゾン層破壊の仕組み
- 第3講 地球温暖化に伴う問題
- 第4講 有害廃棄物問題
- 第5講 海洋・湖沼の汚染問題
- 第6講 森林破壊の動態
- 第7講 生物多様性保全問題
- 第8講 食糧・人口問題
- 第9講 発展途上国における問題
- 第10講 持続可能な発展を求めて
- 第11講 自然保護の経済学
- 第12講 自然との共生学
- 第13講 暮らしの場からの対応

【評価方法】

毎講時のミニレポート提出と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

書籍としてのテキストは使用しないが、講義時に論文等をプリントしたものを配布しテキストとする。

【参考文献・資料】

参考文献については授業中に必要に応じて指示する。参考資料については該当する講義においてプリント配布する。

環境保護論

田部一史

【授業の概要】

環境因子が人を含めた生態系に及ぼす影響について学ぶ。特に癌・免疫・生殖に関わる化学物質についての知識を得、人体と環境の保護に関する問題解決のための実践的な方途について学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 序論：自然に学ぶ
- 第2講 森林破壊：森はいのちの母である
- 第3講 砂漠化：世界は水を失いつつある
- 第4講 地球温暖化と異常気象：人為による地球の異常
- 第5講 大気汚染と酸性雨：自然も文明も溶かし去る
- 第6講 フロンとオゾンホール：降りそそぐ有害紫外線
- 第7講 いのちのしくみ1：細胞レベル
- 第8講 いのちのしくみ2：個体レベル
- 第9講 環境汚染とがん：人工化学物質の氾濫
- 第10講 環境ホルモン：いのちのつながりを絶つ
- 第11講 生態系のバランス：人の手で壊される自然
- 第12講 生命の多様性：大量絶滅
- 第13講 環境保護：いのちと自然を守る

【評価方法】

出席状況、レポートおよび単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

南北問題

若松孝司

【授業の概要】

先進国・途上国間、途上国相互間の経済格差を生む構造について理解し、それらに対処して、国際的なレベルでの豊かな生活文化を創造するために、各国・国際諸機関の果たす機能について学ぶ。

【授業計画】

開発途上国と先進国、ならびに開発途上国間における経済格差の原因と現状、あるいはそれらに対する国際的な取り組み等について、政治経済学的な論点から以下のような項目について講義する。

- (1) 南北問題とは
- (2) 南北問題を考える一視座としての世界システム論
- (3) 経済的民族主義の台頭と展開
- (4) 先進国と発展途上国との相互依存・協力関係
- (5) 南南問題と国際協力

【評価方法】

出席状況と小テスト、期末のレポートの結果を総合して評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

適宜プリントを配布してテキストとする。

【参考文献・資料】

- 川田侃著『国際学Ⅳ 南北問題研究』東京書籍
田中明彦著『現代政治学叢書19 世界システム』東京大学出版会
S.アミン著『開発危機—自立する思想・自立する世界』国連大学出版局
佐藤幸男著『開発の構造—第三世界の開発/発展の政治社会学』同文館

地域協力機構研究

若松孝司

【授業の概要】

国際機関が地球規模での人間的豊かさをもつ文化を創造するために、世界の各地域の開発と発展に果たしてきた政治的、経済的機能と今後の姿について学ぶ。

【授業計画】

地域協力における主要アクターである国際機構について、国際連合を中心として講義をする。講義の概要は以下のとおりである。

- (1) 地域協力機構とは
- (2) 国際機構小史
- (3) 事例研究①〈国際連合の構造・機能〉
- (4) 事例研究②〈各種の地域的国際機構〉

【評価方法】

出席状況と小テスト、期末に実施する試験の結果とを総合して評価する。

【テキスト】

最上敏樹著『国際機構論』東京大学出版会

【参考文献・資料】

- 横田洋三編『国際機構論』国際書院
安藤勝美編『地域協力機構と法』アジア経済研究所

現代都市文化

藤井誠二

【授業の概要】

教育環境や文化環境としての現代都市の現状をルポルタージュの方法を通して分析し、その問題点と改善の方途について学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス・ルポルタージュの方法を通じて都市文化を視るということ
- 第2講 学校を考える1
- 第3講 学校を考える2
- 第4講 学校を考える3
- 第5講 少年犯罪から視えてくること1
- 第6講 少年犯罪から視えてくること2
- 第7講 少年犯罪から視えてくること3
- 第8講 現代社会についてのルポルタージュを読む1
- 第9講 現代社会についてのルポルタージュを読む2
- 第10講 現代社会についてのルポルタージュを読む3
- 第11講 現代社会についてのルポルタージュを読む4
- 第12講 レポート作成についての説明

【評価方法】

レポートの成績によって総合的に評価する。レポートは身近なテーマを取材し、短いルポルタージュを書いてもらう。あるいは、藤井の著作についてのレポートを書いてもらう。詳細については授業中に指示する。

【参考文献・資料】

- 『17歳の殺人者』（自著・ワニブックス）
 - 『少年の罪と罰論』（宮崎哲哉氏と藤井の対談・春秋社）
 - 『人を殺してみたかった』（自著 双葉社）
 - 『少年に奪われた人生』（自著・朝日新聞社）
 - 『コリアンサッカーブルース』（自著・アートン）
 - 『いつの日にかきつと』（自著・アートン）
- 他は授業中に指示する。

電子メディア論

ポール・ルイス

【Course Content】

現代社会の特性である電子メディア社会の側面が我々の生活文化に対して有する問題点と可能性について主として語学教育の場面を対象に学ぶ。

【Schedule】

[This course is given in English]

- Lesson 1 : An Introduction to Electronic Media
- Lessons 2-10: Implementation of Electronic Media
- Lessons 11-12: Project work

【Assessment】

Assessment will be by attendance, class participation, work produced during the term, and project work.

関連

マルチメディア研究

ポール・ルイス

【Course Content】

今日の情報環境の問題を、語学習得に際してのマルチメディアの技術に焦点を当てて学ぶ。

【Schedule】

このコースは英語による授業です。

Lesson 1 : The meaning of multimedia

Lessons 2 - 3 : Examples of multimedia

Lessons 4 - 12 : Creating multimedia

【Assessment】

Assessment will be by attendance, class participation, work produced during the term, and final project work.

【Textbooks】

No textbook will be used, but instead students will use handouts.

生活民族学

稲村哲也

【授業の概要】

世界の民族の生活様式や文化の多様性を認識し、固定観念にとらわれない異文化観を身につける。

【授業計画】

文化人類学の基礎となるフィールドワークの記録である「民族誌」に基づき、多様な民族・社会の家屋と生活様式、生業、家族と親族、結婚、信仰などの文化の諸側面について考察する。地域はアジア及び南北アメリカとし、教授者が実際に調査を行った事例や、教授者が以前その設立に携わった野外民族博物館リトルワールドの展示に関連した事例を中心に、映像を交えながら紹介する。

1～2 : ネパールの文化と信仰

3～4 : インドの家族とカースト制度

5～6 : アメリカ先住民の歴史と文化

7 : 南米先住民の歴史と文化

8～9 : 日本の先住民族アイヌとその歴史と文化

10 : 中国漢民族の家族と親族

11～12 : 遊牧民の生活と文化ーモンゴル、アラブ

【評価方法】

授業中に適宜提出してもらうショート・レポート（平常点）、学期中に実施する小テスト、および学期末のレポートによる

【テキスト】

『リトルワールド・ガイドブック』（野外民族博物館リトルワールド）

ファッション・コーディネイト

村松世紀子

【授業の概要】

快適な服装や衣生活の心理的・社会的要因について分析し、服装に関する新しい知識を身につけるとともに、装いに関するコーディネイトの基礎理論を理解し、美的選択眼と構成力を実践的に身につける。

【授業計画】

1. 知っているのとたのしい話
 - ・服装史と文化
 - ・服装史と現代
2. バリコレクション
 - ・デザイナー
 - ・流行
 - ・ブランド
3. 創作
 - ・アクセサリー
 - ・Tシャツ

【評価方法】

レポートによる評価

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する

※作品を1、2点制作するための材料費が必要です

高齢化社会論

楊 衛平

【授業の概要】

来るべき高齢化社会に向けて、健康で豊かな生活を実現するための方法とその実践を東洋医学の視点から学ぶ。

【授業計画】

1. 高齢化社会に伴う医療の問題
2. 老人医療における漢方の役割
3. 東・西両医学の相違と融合へ
4. 高齢者の生理、病理学的な特徴
5. よくみられる老人病と漢方対策
6. 体質改善、老化防止と漢方補剤
7. 不定愁訴を解消する漢方の活用
8. 伝統医学による養生法A.B.C
9. 経絡とわかりやすい養生ツボ
10. 身近な動.植.食物と養生薬膳
11. 心身両面のバランスを調整する氣功術
12. QOLの向上をはかる健康福祉への展望

【評価方法】

出席状況、受講態度とレポートによる。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

老化を防ぐ漢方治療 (広瀬滋之 光雲社)
体系中国老人医学 (池上正治訳 エンタプライズ)

保健福祉論

榊原久孝

【授業の概要】

保健と福祉の統合化という社会動向を踏まえつつ、保健福祉の考え方、方法論、実践例等について学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 保健福祉論序論
- 第2講 人口・疾病統計からみた保健福祉の課題
- 第3講 生活習慣病対策
- 第4講 癌と生活習慣
- 第5講 喫煙と健康
- 第6講 母子保健対策
- 第7講 学校保健対策
- 第8講 高齢者保健
- 第9講 高齢者介護と介護保険
- 第10講 感染症予防対策
- 第11講 日本の社会保障制度
- 第12講 医療保険と社会福祉

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

国民衛生の動向（厚生統計協会）

家族関係論

永田忠夫

【授業の概要】

家族関係の分析方法と家族内の人間関係査定法とを学び、それによって様々な家族関係を具体的に学ぶ。

【授業計画】

以下のテーマで講義する。

1. 家族とは
2. 家族をめぐる社会状況と問題点
3. 家族関係をとらえる変数
4. 家族ダイナミックス
5. 家族内コミュニケーション
6. 家族の危機とコミュニケーション

【評価方法】

出席状況、レポートやテスト等の成績を総合して評価する。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

健康管理論

杉浦信彦

【授業の概要】

健康の維持と増進をめざす生活習慣の確立について、食生活・運動習慣など健康科学の基礎の理解を通して、実践する能力を身につける。

【授業計画】

以下のテーマを中心に講義を行う。

1. オリエンテーション

WHOのMagna Carta of Healthに沿って、健康の意義、現代生活における多様な健康の在り方について言及する。

2. からだのしくみ

人体を構成する元素や成分について学ぶ。特に体の主成分としてのミネラルの重要性について理解する。

3. 血液のしくみと働き

血液の性状やその働きを学ぶことにより健康管理の意義を理解する。

4. 消化と吸収

生命を支えるエネルギー源の獲得器官である消化管のしくみを理解し、生活習慣病予防に関する基礎知識を習得する。

5. 肥満と生活習慣病

肥満と生活習慣病との関わりを理解する。

授業の進め方は講義を主に、テーマによってはVTRの視聴や標本観察、簡単な実験・演習なども行う予定である。

※私語厳禁

【評価方法】

5～6回のメモリーシート（授業内容についてのレジュメ）および実験を含む3～4回の研究レポートの提出により評価する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

適時配布・供覧する。

公衆衛生論

棚橋昌子

【授業の概要】

健康の保持、増進、疾病予防の問題を中心に、公衆衛生の理論と実践について学ぶ。

【授業計画】

現代の文明社会が発展する過程で、生活環境が悪化し、国民の健康への影響が広がり、半健康状態が一般化している。この認識にたつて、各種の健康指標を検討し、事例を通して公衆衛生の課題を考える。

第1回 健康の定義

第2回 疾病予防の歴史

第3回 疾病構造の変化

第4回 人口・出生・死亡

第5回 健康指標の検討（1）

第6回 健康指標の検討（2）

第7回 国際比較 世界のなかの日本

第8回 文明の発展と健康被害（1）

第9回 文明の発展と健康被害（2）

第10回 文明の発展と健康被害（3）

第11回 国民健康づくり対策

第12回 公衆衛生の課題

第13回 まとめ

【評価方法】

テスト（持ち込み可）と授業内演習の総合評価

【テキスト】

使用しない。必要に応じプリントを配布する。

【参考文献・資料】

公衆衛生学（渡辺周一編 中央法規出版）

国民衛生の動向（厚生統計協会編）

地球規模の健康問題（小泉明・兜真徳編著
Therapeia）

東洋医学

楊 衛平

【授業の概要】

東洋医学の特性とその可能性について、特に西洋医学との比較において学ぶ。

【授業計画】

1. 東洋医学とは（中国医学と漢方医学）
2. 東洋・西洋医学の相違と接点
3. 東洋医学の二重構造と疾病観
4. 陰陽論・五行説の特徴と応用
5. 気血水の概念と臨床医学への応用
6. 生薬の自然属性と薬名の由来
7. 身近な薬用動・植・鉱物の紹介
8. 医食同源と薬膳の作り方・レシピ
9. 健康作りに役立つ簡単なツボ療法
10. 生活習慣病に対する東洋医学の対策
11. 女性の美容と痩身に役立つ伝統の知恵
12. 健康保険にキク漢方と選び方
13. 東洋医学の診療情報とQ&A

【評価方法】

出席状況、受講態度とレポートによる。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

漢方の選び方・使い方（広瀬滋之 医学書院）
漢方治療のABC（日本医師会）

現代マナー論

市原江美

【授業の概要】

人間関係を円滑に親和化する基本的な礼儀作法や挨拶を演習形式で学び、成熟した社会人としての良識を養う。

【授業計画】

- 第1講 マナーとは
学生と社会人の違いについて
- 第2講 第一印象の重要性
- 第3講 人と接するときの5つのポイント
- 第4講 職場におけるコミュニケーションマナー1
(電話応対のマナー)
- 第5講 職場におけるコミュニケーションマナー2
(来客応対のマナー)
- 第6講 職場におけるコミュニケーションマナー3
(訪問のマナー)
- 第7講 職場におけるコミュニケーションマナー4
(慶弔マナー)
- 第8講 職場におけるコミュニケーションマナー5
(文書のマナー)
- 第9講 職場の人間関係と基本的な仕事の進め方
- 第10講 自己分析
- 第11講 自己PR
- 第12講 プレゼンテーションスキル

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

現代マナー論

佐々木紀子

【授業の概要】

人間関係を円滑に親和化する基本的な礼儀作法や挨拶を演習形式で学び、成熟した社会人としての良識を養う。

【授業計画】

1. 何を、どう学ぶのか
2. 人生の目標をもつ
3. 円滑な人間関係とは、どういうことか
4. マナーの doing と being (基礎編)
 - (1) 価値ある人間関係を広げる
 - (2) 挨拶と返事
 - (3) 表情
 - (4) 態度
 - (5) 身だしなみ
 - (6) 言葉づかいと話し方
5. マナーの doing と being (応用編)
 - (1) 電話応対
 - (2) 訪問と来客応対
 - (3) 冠婚葬祭
6. 自己理解を深める

【評価方法】

出席状況、授業態度、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

詳しくは、1回目の授業で説明する。

【テキスト】

授業中に指示する。

現代マナー論

中郷佳子

【授業の概要】

人間関係を円滑に親和化する基本的な礼儀作法や挨拶を演習形式で学び、成熟した社会人としての良識を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 第一印象の重要性
- 第3回 好印象を与える5つのポイント
- 第4回 学生と社会人の違い
- 第5回 言葉遣いと話し方
- 第6回 効果的なコミュニケーション
- 第7回 電話応対のマナー
- 第8回 文書のマナー
- 第9回 来客応対と訪問のマナー
- 第10回 慶事・弔事のマナー
- 第11回 食事のマナー
- 第12回 面接のマナー

【評価方法】

出席状況、受講態度、試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

表現文化専攻中心科目

表現文化基礎演習

川澄未来子 酒井晶代 島田修三
清水良典 角田達朗 西田勝

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、表現文化に関する基本的な知識や技術を、各教員の専門分野の視点から学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 表現方法・技術に関する問題提起1
- 第3回 表現方法・技術に関する問題提起2
- 第4回 表現方法・技術に関する問題提起3
- 第5回 文献・資料の調査方法1
- 第6回 文献・資料の調査方法2
- 第7回 テーマ研究調査・演習1
- 第8回 テーマ研究調査・演習2
- 第9回 テーマ研究調査・演習3
- 第10回 テーマ研究調査・演習4
- 第11回 テーマ研究調査・演習5
- 第12回 テーマ研究調査・演習6
- 第13回 総括

授業概要の基本的な構成は上記の通りであるが、対象とする表現ジャンルは各担当教員が第1回の授業において説明する。

【評価方法】

各担当教員によって異なるが、基本的には出席状況・平常の授業における調査発表・課題レポートなどに対する総合的な評価による。

【テキスト】

各担当教員から授業中に指示がある。

【参考文献・資料】

各担当教員から授業中に指示がある。

映画・演劇史

ピーター・B. ハーイ

【授業の概要】

国内・国外の映画および演劇の歴史を実証的にたどり、映画・演劇の現代表現史における役割と意味を学ぶ。

【授業計画】

トーキー映画の発達史(1932~1965)

トーキー映画の到来(1927~31)によって、無声映画時代に高められた映画の「芸術」的な面は、一旦後退したかのように見えた。そのために、映画作家たちは、「映画とは何か」という問題を再検討しなければならなかった。1930年代は、映画において、再出発の時代になったのである。

この授業では、1930年代~60年代にむかえた映画の黄金期に焦点をあわせて、映画芸術はどのように形成されてきたかを検討すると同時に、映画分析の基礎的な方法を指導する。

授業のやり方としては、映画(全体又は部分)を見終わってから教室で、ディスカッションを行った後、各自、次の授業までに自分の分析を短い文章(原稿用紙2・3枚程度)にまとめて提出する。

1. 映画トーキー化による諸問題
 2. ルネ・クレール監督とトーキー映画芸術の確立
 3. 日本映画界のトーキー化
 4. ハリウッド映画の発展
 5. 戦後イタリア映画とネオ・レアリスマ
 6. フランス映画とヌーベル・ヴァーク
1. と2. は一週間ずつ、3~6は各2週間予定。

【テキスト】

テキストはありません。教材は適時配布します。

大衆文化論

岡本信也

【授業の概要】

主として近代・現代における日本の大衆文化を具体的に示し、文化の創造に果たす大衆の役割と意味を学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 大衆文化の成立について。大正・昭和初期の新聞・ラジオ・映画などに現れた文化を見る。
- 第2回 モダン都市の文化現象を考える。洋装化しはじめる衣風俗、喫茶店や食堂（デパート）など。
- 第3回 戦後の大衆文化のはじまり。アメリカン・ファッションと風俗。
- 第4回 映像とイメージ。テレビと家庭電化製品の普及、マンガ、イラストの隆盛。
- 第5回 大量生産システムとデザイン。浪費され続けるデザイン。
- 第6～8回 身近な暮らしを見つめて、文化とは何かを考える。外食風俗をめぐって。身体のおしゃれをふりかえって。住み方についてなどを具体的に考えてみる。
- 第9回 現代の風俗・生活を観察することから、文化創造となる問題点を発見する。流行と習慣。
- 第10回 続いて、風俗・生活の観察から課題の設定をする。情報と日常生活について。
- 第11回 自由討議「市民文化とは何か」
- 第12～13回 テーマごとに報告（型式は随時）する。

【評価方法】

出席状況と報告書の内容によって評価する。

【参考文献・資料】

しぐさの日本文化（多田道太郎著 筑摩書房）
戦後日本の大衆文化史（鶴見俊輔著 岩波書店）
超日常観察記（岡本信也・靖子著 情報センター出版局）

表現文化創造Ⅱ（小説）

清水良典

【授業の概要】

日本の現代小説作品を対象として、近代小説以来の理念および様式を再検討し、現代社会の多様な課題と切り結び得る新しい小説表現の方法を学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 <小説>とは何か
- 第2～6講 作品を読みながら——近代小説の起源と歴史
- 第7～10講 作品を読みながら——戦後から現代の小説
- 第11講 現代小説の問題点
- 第12講 小説の可能性

【評価方法】

出席状況と受講態度、レポートの内容評価による。

【テキスト】

超絶エロス講座（マナハウス）

【参考文献・資料】

高校生のための小説案内（筑摩書房）

表現文化創造Ⅲ (児童文学)

酒井晶代

【授業の概要】

日本を代表する近代・現代の児童文学作品を取り上げ、児童文学のもつ基本的主題の変遷や変容をつぶさに検討し、「子供の文学」創造の諸問題を学ぶ。

【授業計画】

わが国の児童文学は、戦後、1960年前後に大きな転換点を迎えている。講義では、主として短編作品を題材とし、作品に現れた子ども観、児童文学観の検討を通して、現代児童文学の特徴を明らかにしたい。同時に、明治・大正期の代表的な作品にも視野をひろげ、現在の到達点と課題を歴史的な視野からも考察していく。

- 第1～2回 現代児童文学の成立まで
- 第3回 ときありえ「森本えみちゃん」
- 第4回 那須正幹「六年目のクラス会」
- 第5回 森忠明「楽しい頃」
- 第6回 村中李衣「たまごやきとウインナーと」
- 第7回 岩瀬成子「ダイエットクラブ」
- 第8回 大石真「光る家」
- 第9回 薫くみこ「はじめての歯医者さん」
- 第10回 天澤退二郎「赤い嵐」
- 第11回 牧野節子「赤い靴」
- 第12回 上野瞭「ぼくらのラブ・コール」

【評価方法】

出席状況、レポート、試験等により総合的に評価する。

【テキスト】

児童文学——新しい潮流——（宮川健郎編著 双文社出版）

表現文化創造Ⅳ (詩歌)

島田修三

【授業の概要】

主として現代短歌を題材として、「第二芸術論」以降の戦後短歌の革新、前衛短歌の試行、ポスト前衛の多様な展開といったプロセスを史的にたどりながら、短歌の創造と時代・社会との密接な相互関連性を学ぶ。

【授業計画】

- 第1回～2回 現代短歌史概論
- 第3回～4回 第二芸術論と新歌人集団
- 第5回～7回 塚本邦雄と前衛短歌
- 第8回～9回 ポスト前衛の歌人たち
- 第10回～11回 女性短歌の時代
- 第12回～13回 ポスト・モダンの歌人たち

【評価方法】

出席状況および授業内のレポート・学期末のレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

現代短歌の鑑賞101（小高賢編著 新書館）

表現文化創造V (戯曲)

松本喜臣

【授業の概要】

日本現代戯曲の代表的作品を対象として、現代を劇的に表現する戯曲のさまざまな特質を踏まえ、新しい戯曲表現の創作に関する諸方法について学ぶ。

【授業計画】

- No.1 戯曲の本質
- No.2 戯曲と演劇
- No.3 戯曲と演技
- No.4 演劇の歴史
- No.5 ギリシア悲劇
- No.6 シェイクスピアの戯曲
- No.7 フランス古典戯曲
- No.8 近代劇の確立 イブセンの戯曲
- No.9 日本の新劇と戯曲
- No.10 現代劇と戯曲
- No.11 戯曲の創作1
- No.12 戯曲の創作2
- No.13 単位認定に関するレポート作成

【評価方法】

出席状況・学習の態度・レポートなどによる総合評価

【テキスト】

「コトバ・ことば・言葉」(本島勲著 桐原書店)

【参考文献・資料】

その都度授業内で紹介する

表現文化創造VI (広告・コピー)

馬場伸彦

【授業の概要】

サブカルチャー領域にあるとされてきた広告コピーにおける表現の諸相を実際の作品に触れながら検証し、大衆文化と不可分でありながら、それを越え導く言語表現としての新しい広告コピーの創造について学ぶ。

【授業計画】

広告は私たちの価値観や美意識の形成に大きく作用し、影響を及ぼしている。しかし、広告が表象する「場」は表現者側にあるのではない。広告は、メディアを介して、視覚的あるいは聴覚的に受容されたときにはじめて立ち現れる。つまり広告の表現上の本質は「つくられる意味」にあるのだ。本講義では、まず、広告コミュニケーションの構造を受容論の立場から検討し、次に、実例を参照しながら「広告」「コピー」の読解に対する諸問題を検討していく。

- ・ 広告の起源、広告の機能
- ・ 文案家(コピーライター)の登場と近代化
- ・ 近代広告理論の導入期(明治・大正・昭和初年代)
- ・ 広告の記号論的分析
- ・ 広告コミュニケーションの理論
- ・ 広告の公共性
- ・ 広告業界の現状と展望

【評価方法】

期末レポート(課題または小論文)、受講態度等を総合的に評価。講義形式ではあるが、積極的、能動的に参加すること。

【テキスト】

テキストは使用せず、随時プリントを配布。

【参考文献・資料】

広告コピー概論(上条則夫 宣伝会議)
記号論への招待(池上嘉彦 岩波新書)
現代広告学を学ぶ人のために(山本武利編 世界思想社)

言語表現Ⅰ（古典散文）

西田 勝

【授業の概要】

近世の古典散文作品を対象として、前代の和歌、物語、随筆といった伝統文学や江戸市民文化との関係を検討しながら、近世散文独特の主題や様式について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 授業についての指示
- 第2回 『雨月物語』巻二の講読
- ・
- 第6回
- 第7回 『雨月物語』巻五の講読
- ・
- 第12回

【評価方法】

- 出席点
- レポート点 による。

【テキスト】

雨月物語（森田喜郎校注 笠間書院）

言語表現Ⅱ（古典詩歌）

島田修三

【授業の概要】

『万葉集』の和歌を対象として、中国文学の受容、律令国家成立との関連、民俗的慣習や祭祀からの影響といった多様な視点を踏まえながら、古代和歌の成立およびその特質について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 『万葉集』概論
- 第2回 神婚歌謡の伝誦（1）
- 第3回 神婚歌謡の伝誦（2）
- 第4回 国見歌謡と天皇（1）
- 第5回 国見歌謡と天皇（2）
- 第6回 古代女歌の現場（1）
- 第7回 古代女歌の現場（2）
- 第8回 古代女歌の現場（3）
- 第9回 歴史と歌語り（1）
- 第10回 歴史と歌語り（2）
- 第11回 歴史と歌語り（3）
- 第12回 総括

【評価方法】

出席状況および学期末の単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

万葉 文学とその背景（島田修三ほか著 おうふう）

言語表現Ⅲ（近代小説）

小倉 斉

【授業の概要】

明治・大正文学を代表する小説を史的に展望しながら、日本の近代小説が時代・社会の問題とどのように切り結んだかという問題を検証し、近代小説における典型的な主題やモチーフを作品に即して学ぶ。

【授業計画】

〈近代文学の諸相〉

以下の各テーマにしたがって講義をおこなう。

- 1 〈書く〉ことと〈語る〉こと
村上春樹『風の歌を聴け』
- 2 〈模写〉の意味
坪内逍遙『小説神髓』・『当世書生気質』
二葉亭四迷『浮雲』
- 3 〈わたくし〉の発見
森鷗外『舞姫』
- 4 〈子ども〉たちの眼差し
谷崎潤一郎『小さな王国』
芥川龍之介『杜子春』
- 5 〈新しい女〉と戯画化された主人公
田山花袋『蒲団』
- 6 〈自然の愛〉と〈社会の掟〉
夏目漱石『それから』
- 7 観念の崩壊と〈新感覚〉
芥川龍之介『歯車』
横光利一『機械』

【評価方法】

授業への出席・参加状況、学期末の試験（自筆ノート持ち込み可・論述問題中心）によって評価する。

【テキスト】

舞姫・うたかたの記（森鷗外 岩波文庫）
蒲団・一兵卒（田山花袋 岩波文庫）
それから（夏目漱石 岩波文庫）
歯車（芥川龍之介 岩波文庫）
日輪・春は馬車に乗って（横光利一 岩波文庫）

言語表現Ⅳ（現代小説）

小倉 斉

【授業の概要】

高度経済成長後の日本の現代小説を取り上げ、現代の日本社会が抱える困難な問題を小説がどのように吸収し作品化しているか、あるいはどのように現代という時代を超える試みをしているか、といった点について具体的に学ぶ。

【授業計画】

〈現代小説の方法と課題—作品をどう読むか—〉

- 1 問題の所在：現代小説の方法と課題
- 2 後藤明生『挟み撃ち』（講談社文芸文庫）
- 3 宮本輝『螢川・泥の河』（新潮文庫）
- 4 日野啓三『砂丘が動くように』（講談社文芸文庫）
- 5 村上龍『希望の国のエクソダス』（文春文庫）

【評価方法】

授業への出席・参加状況、学期末の試験（自筆ノート持ち込み可・論述問題中心）によって評価する。

【テキスト】

挟み撃ち（後藤明生 講談社文芸文庫）
螢川・泥の河（宮本輝 新潮文庫）
砂丘が動くように（日野啓三 講談社文芸文庫）
希望の国のエクソダス（村上龍 文春文庫）

言語表現V (現代詩歌)

柏木義雄

【授業の概要】

戦後から現在に至る現代詩史を踏まえ、各時代を代表する優れた詩作品を取り上げながら、現代詩における主題や様式や修辞に関する諸問題を学ぶ。

【授業計画】

- 1 戦後詩の展開 (戦後詩史概要)
- 2～3 「荒地」グループと〈戦争〉
- 4～5 「歷程」「地球」「時間」と〈生の形〉
- 6～8 「権」のグループの清新なりリズムと社会性
- 9 嵯峨信之、金井直、村上昭夫らと〈死の姿〉
- 10 戦後詩に描かれた〈愛〉
- 11 戦後詩に描かれた〈ヒューモア〉
- 12 まとめ

【評価方法】

テストと出席状況による

【テキスト】

なし (プリントを配付する)

【参考文献・資料】

- ・各種の詩全集 (『日本の詩歌』31巻 中央公論社など)
- ・関連書籍はその都度指示する

視聴覚表現I (映画)

ピーター・B. ハーイ

【授業の概要】

戦後の日本映画黄金時代における代表的作品を対象として、ヨーロッパ・アメリカ映画などとの比較の視点を導入しながら、日本映画が編み出した独自の様式と美について学ぶ。

【授業計画】

世界映画形成期 (1895～1932)

世界映画史は、1895年12月28日のルミエール兄弟の映画上映会に始まる。1910年代まで「映画」というものは、ほんの5～6分程度の単純なものにすぎなかった。その後次第に、技術的にも「話術」的にも発達を遂げ、本格的な芸術媒体として展開していく。

この授業では、1920年代～30年代にむかえた映画の黄金期に焦点をあわせて、映画芸術はどのように形成されてきたかを検討すると同時に、映画分析の基礎的な方法を指導する。

授業のやり方としては、映画 (全体又は部分) を見終わってから教室で、ディスカッションを行った後、各自、次の授業までに自分の分析を短い文章 (原稿用紙2・3枚程度) にまとめて提出する。

1. 映画以前と映画誕生
 2. E.S.ポーターと映画編集
 3. D.W.グリフィスと「古典的ハリウッド作法」
 4. ドイツ映画の黄金期
 5. ロシア映画とモンタージュ論
 6. トーキョー映画の到来
1. と2. は一週間ずつ、3～6は各2週間予定。

【テキスト】

テキストはありません。教材は適時配布します。

視聴覚表現Ⅱ（舞台芸術）

角田達朗

【授業の概要】

舞台は演劇の重要な構成要素だが、その歴史的展開を東西に例を取って検討しながら、演技空間あるいは場面転換装置としての舞台がいかなる芸術的機能を果たすか、あるいは果たすべきかといった問題について学ぶ。

【授業計画】

私たちが通常目にする「舞台」は、上演を観客よりも一段高い所に置いて見えやすくするための台に過ぎないかのようである。しかし、歴史的に見れば、舞台の形は様々に変化している。そして、その変化は、上演そのものの変化に密接に対応している。この講義では、舞台および劇場の歴史的变化をたどりながら、舞台の形式や構造が上演とどのようにかわりあうかを論ずる。また、現代劇については、照明・音響並びに映像による舞台効果についても説明する。

主としてビデオ・静止画等の視聴覚資料を用いて講義するが、上演芸術の理解には当然ながら生の上演に接することが不可欠である。そこで、講義内容に沿って二つの鑑賞課題を設定し、その都度レポートの提出を求めるものとする。

（上演鑑賞のため、5～7千円の経費を要する。）

- 第1～5回 西洋演劇の歴史
- 第6～8回 日本演劇の歴史
- 第9～11回 現代劇の舞台効果 照明・音響・映像
- 第12～13回 多様化する舞台空間

【評価方法】

レポート

【テキスト】

プリントを配布する。

*授業内で参照する映像もテキストに準ずる意味を持つ。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

視聴覚表現Ⅲ（アニメ・コミック）

小菅健一

【授業の概要】

手塚治虫作品とその影響下にある典型的な現代コミック作品や宮崎駿などのアニメ作品を題材として、アニメ・コミック作品が現代文化の中で果たしている重要な役割やその新しい芸術的性格について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コミックとアニメーションの基本概念
- 第3回 手塚治虫論
- 第4回 手塚治虫のコミック（アニメーション作品）1
- 第5回 手塚治虫のコミック（アニメーション作品）2
- 第6回 手塚治虫のアニメーション論
- 第7回 宮崎駿論
- 第8回 宮崎駿のコミック（アニメーション作品）
- 第9回 宮崎駿のアニメーション論1
- 第10回 宮崎駿のアニメーション論2
- 第11回 現代文化におけるコミック
- 第12回 現代文化におけるアニメーション
- 第13回 授業のまとめ

【評価方法】

日頃の出席状況と講義に臨む授業態度、単位認定のためのレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

基本的にはプリント教材とビデオ教材を使用し、必要に応じて授業中に指示する。

【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

視聴覚表現Ⅳ（絵本・イラスト）

近藤文雄

【授業の概要】

絵本やイラストにおける絵画と言語表現との相互補完的な性格を理解し、絵画やイラストにおける想像力の問題や言語とは異なる芸術的特長といった基本的な問題を具体的作品に即しながら学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 授業展開の概要説明・絵本（イラスト）の特色と意義
- 第2回 絵本（イラスト）の分野と可能性
- 第3回 絵本（イラスト）の表現の多様性
- 第4～11回 オリジナル絵本の制作（アイデアから製本まで）
- 第12回 作品発表・合評会

【評価方法】

出席状況と課題（実作品）提出による。

【テキスト】

授業内でプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業内で実作品あるいはプリント等で紹介するが、各自、積極的に書店や図書館等で数多くの絵本やイラストに親しむように努めること。

メディア表現Ⅰ（編集・製本）

稲垣喜代志

【授業の概要】

現代メディアを代表する新聞や雑誌を対象として、それらがどのように編集され、完成した姿として製作されるかという具体的な過程および、その技術や方法に関する実践的な知識を学ぶ。

【授業計画】

1. オピニオンリーダーとしての新聞の理念と役割。
2. 新聞に何ができるか。
3. 日本の新聞の現実はどうか？ 紙面分析。
4. 新聞は庶民の味方か？ 真実を伝えているか？
5. 新聞はどのようにしてつくられるか。
6. 文化の中央集権とその弊害。
 - 合理化と地方の切り捨て。
 - 東京に行かなければ何もできない!?
7. アカデミズムと在野
8. 出版の理念とは？ 出版は文化の砦（とりで）である。
9. 出版における中央と地方。地方で何ができるか。
10. 編集者の「志」とは？
11. ものを書くという仕事とは？
12. 著名であることと人間の価値。
13. 出版のシステムとプロセス。

【評価方法】

受講態度（積極的発言など）、テストなどによる。

【テキスト】

新聞論をこえて（大橋弘著 風媒社刊 定価1,890円）

【参考文献・資料】

図書新聞（週刊、図書新聞社刊 定価240円 半年定期
講読料・送料共6,240円）

メディア表現Ⅱ（新聞）

岩崎建弥

【授業の概要】

主として現代メディアを代表する新聞を取り上げ、新聞ジャーナリズムが現代社会で果たす機能や課題について検討し、その具体的な紙面作りの知識や技術を実践的な視点を通して学ぶ。

【授業計画】

ジャーナリストのセンス、考え方を、新聞紙面や現場体験に基づいて伝え、身につけてもらう。

- 1、メディアとは何かー生活と情報
- 2、新聞はなぜ生まれたのかー権力との対決
- 3、新聞と放送はどこが違う？ー記録性と速報性
- 4、なぜ新聞記者になったのかー戦争と貧困
- 5、新聞はどう作られる？ー新聞社の仕組み
- 6、新聞作りの現場を見るー新聞社の見学（学外授業）
- 7、紙面はどう違うー1面から社会面まで
- 8、新聞は何を伝えてきたか（A）ー戦争と新聞
- 9、新聞は何を伝えてきたか（B）ー公害と新聞
- 10、新聞は何を伝えてきたか（C）ー人権と新聞
- 11、誤りはなぜ起きるのかー誤・虚報と紙面ミス
- 12、記事はどう書く？ー取材から原稿書きまで
- 13、記事を書こうー模擬記者会見をし、まとめる
- 14、単位認定レポートの提出

【評価方法】

受講態度、提出レポートなどでの総合評価

【参考文献・資料】

記者ハンドブック（共同通信社発行）と、講師作成のもの

メディア表現Ⅲ（ヴァーチャル表現）

川澄未来子

【授業の概要】

表現文化を伝達するメディア領域の、主にコンピュータによるヴァーチャル表現の分野について、技術と方法の可能性を学ぶ。

【授業計画】

コンピュータ教室で、電子的な教材や映像教材を利用しながら進める。

- (1) 拡大するCGの応用
- (2) 画像表現のための2次元画像生成処理
- (3) 図形の変換
- (4) 造形とCG
- (5) 立体の数値表現
- (6) 立体の表示方法
- (7) コンピュータアニメーション
- (8) CGシステム

【評価方法】

出席状況、受講態度、提出課題、試験結果などから総合的に評価する。

【テキスト】

Computer Graphics入門編CG標準テキストブック
(CG・ARTS協会)

表現創造原理Ⅰ（フィクション生成論）

清水良典

【授業の概要】

表現文化における戯曲や小説等のフィクション性の成り立ちと構造を原理的に学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 講義内容の説明
- 第2講 近代と〈文〉の関係について
- 第3～5講 谷崎潤一郎『文章読本』講読
- 第6～10講 作品批評の歴史
- 第11講 〈文〉と虚構
- 第12講 書くことの可能性

【評価方法】

出席状況と受講態度、およびレポート内容によって総合的に評価する。

【テキスト】

文章読本（谷崎潤一郎 中公文庫）
文学部唯野教授（筒井康隆 岩波書店）

表現創造原理Ⅰ（フィクション生成論）

三木卓

【授業の概要】

表現文化における戯曲や小説等のフィクション性の成り立ちと構造を原理的に学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 わたしという作家（自己紹介をかねて）
- 第2講 近代小説というもの
- 第3講 白樺派の文学史的的位置と志賀直哉
- 第4講 作品研究「小僧の神様」
- 第5講 作品研究「正義派」
- 第6講 作品研究「赤西蠟太」
- 第7講 作品研究「母の死と新しい母」
- 第8講 作品研究「清兵衛と瓢箪」
- 第9講 作品研究「范の犯罪」
- 第10講 作品研究「城の崎にて」
- 第11講 学生創作実習作 検討
- 第12講 学生創作実習作 検討

【評価方法】

レポート、実習作品、出席によって評価する。

【テキスト】

志賀直哉『小僧の神様』他十篇』（480円 岩波文庫）
三木卓『路地』（1,300円 講談社文芸文庫）

表現創造原理Ⅱ（身体美学）

勝部篤美

【授業の概要】

創造の過程で重要な役割を果たしている「イメージ」の構造を原理として定置し、そこから美しい身体と、運動が具現化される道筋を学ぶ。

【授業計画】

1. 身体イメージ論
 - (1) イメージとは何か
 - (2) イメージの明瞭性と統御可能性
 - (3) 身体運動のイメージの構成過程
2. 身体の静態美（美しいからだ）
 - (1) 姿勢の美
良い姿勢、伸展姿勢と屈曲姿勢、姿勢を規制する要因
 - (2) 体格の美
理想とされる体格、体格を規制する条件
 - (3) 体型の美
ボディ・プロポーション、頭身、彫刻に見る男女の理想像、体型の分類、スポーツと体型
 - (4) 身体各部の美
頭部、頸部、肩部、胸部、腹部、腰部、背部、殿部、上肢、下肢
 - (5) 理想的な身体形成
3. 身体の動態美（美しいからだの動き）
 - (1) 動きに見られる機能美
 - (2) 動きに見られる構成美
 - (3) 動きの美的カテゴリー
時間性、空間性、強靱性、巧緻性、愉悦性、雅味
 - (4) 動きに内在する美的要素
すばやさ、加速性、リズム、広さ、高さ、重さ、強さ、激しさ、しぶとさ、器用さ、正確さ、バランス、華やかさ、エロス、スリル、柔らかさ、滑らかさ、上品さ
 - (5) 動きの表現

【評価方法】

単位認定試験と宿題の成績および出席状況によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。ノート、プリント、VTRを使用する。

表現創造原理Ⅲ（記号論）

佐藤洋一

【授業の概要】

表現文化における言語と記号の構造を原理的に学んだ上で、記号論的な文化認識を深める。

【授業計画】

1. 現代における「表現」や「文化」の様相、そして私たちがそれらと関わりながら認識している〈現実〉〈世界〉〈自己〉〈他者〉等のありかたは、急速な勢いで多様な姿をみせはじめている。
2. 従来までの書籍（本）を読むこと・語ること・語り合う・書くこと等の、いわゆる文字言語中心の表現文化から、現代は映像・メディア・音声（音楽）・行為（ダンスやファッション）等による表現文化中心に拡大してきている。コンピュータやインターネットが子ども達のゲームレベルにまで浸透する一方、宇宙規模の情報戦略はサイバースペース（架空の脳空間）と真実の境界を曖昧にもしはじめている。
3. 講義内容は次のようなことを予定している。
 - (1) 主として「現代の文学」を記号論的に取り上げる。メディアコミュニケーションの一つの方法・現象として現代の文学・作家作品・方法や構造を扱う。
 - (2) 表現文化における言語と記号の構造（方法・スタイル・メッセージ・思想）等の原理の理解。
 - (3) 記号論的な文化認識のために、現代の文学（作家）をきっかけにしながら映画・演劇・音楽・ファッション・メディア等との関係、時代状況と文化形成（発信と受容・創造）のありかた等を、記号論的な文化認識論として考察する。

【評価方法】

1. 出欠席。毎回出欠を確認し講義や発表への意欲・講義内容への課題意識や考察等を平常点に加える。
2. 簡単な演習形式のため資料作成・報告や発表内容・小レポートの内容等を予定している。

【テキスト】

配布プリント、その他による。

表現創造原理Ⅳ（レトリック論）

柏木義雄

【授業の概要】

表現文化の主に言語表現におけるレトリックについて、体系的原理的な知識と方法の可能性を学ぶ。

【授業計画】

- 1 詩のことばと日常のことば
- 2～3 『ひきわり麦抄』（新川和江）によることば論
- 4 経験とことば
- 5 事物とことば
- 6～7 抽象と具象を往き来する
- 8 想像から創造へ
- 9 「イメージの歪曲」について
- 10 比喩の効用
- 11 神さまが吃るように書く（J.シュベルヴィエル）
- 12 まとめ

【評価方法】

- ・テスト、出席状況による

【テキスト】

- ・なし（プリントを配付する）

【参考文献・資料】

- ・その都度指示する

日本語表現法Ⅰ

梅田卓夫

【授業の概要】

言語による表現文化の要である文章表現における創造性と独創性を、さまざまな実践と思索を通して身につける。

【授業計画】

文章のジャンル（詩・小説・評論…）のワクを超えたすべての言語表現に共通する基本事項を学習する。ことばとの自由で柔軟な関係を回復しながら、創造的な文章をめざして、いくつかの作品（作文）を試みる。

- 第1回 概論 表現とは何か
- 第2回 自分にしか書けないことを書くために
- 第3回 実作「最初の記憶」
- 第4回 ことばは自分の中からやってくる
- 第5回 思考の先端としての「メモ」
- 第6回 実作「水の入ったコップ」
- 第7回 //
- 第8回 目と心と言葉と
- 第9回 文章の中の「私」
- 第10回 実作「私の出会った人物」
- 第11回 //
- 第12回 人間を描く

【評価方法】

授業の中で制作する作品群、および期末試験によって行う。

【テキスト】

文章表現・400字からのレッスン

（梅田卓夫著 ちくま学芸文庫）

高校生のための文章読本（梅田卓夫他編 筑摩書房）

日本語表現法Ⅱ

梅田卓夫

【授業の概要】

文章表現における創造性と独創性を、さまざまな実践と思索を通してさらに高める。

【授業計画】

ことばとの柔軟な関係を回復するトレーニングを経たうえで、創造的な文章（作品）の制作を試みる。制作経験を振り返りながら、意識の働きと技法の両面において普遍的法則を探り当てることをめざす。

- 第1回 ことばを使う自由と不自由
- 第2回 実作「ことばあそび」
- 第3回 演技することばたち～作品としての文章
- 第4回 「メモ」の本質
- 第5回 実作「街の断片を拾う」
- 第6回 一般概念からの脱却
- 第7回 実作「一瞬をすくう」
- 第8回 感性をみがく～レトリックと認識
- 第9回 文章は断片によって輝く
- 第10回 実作「もう一人の自分」
- 第11回 〈私〉の多重化
- 第12回 まとめ 創造的自己表現を楽しむ

【評価方法】

授業の中で制作する作品群、および期末試験によって行う。

【テキスト】

文章表現・400字からのレッスン
(梅田卓夫著 ちくま学芸文庫)
高校生のための文章読本 (梅田卓夫他編 筑摩書房)

映像表現法

吉村英夫

【授業の概要】

映像による表現文化の基礎的な技術と知識を学びながら、創造性と独創性を身につける。

【授業計画】

外国映画を題材にして考察をすすめる。クラシック映画を実際に見て楽しみながら、映像表現・映像文化について考えていく。

- 第1回 世界の楽しみ。21世紀、映画はどうなるのか。
- 第2～第5回 『ローマの休日』について語ろう。この映画は隠された奥深い意味を持っている。ヘアパーンについてももっと知ろう。監督ウィリアム・ワイラーを見直してみよう。1950年前後のハリウッドの歴史をひもとく。参考上映は、ヘアパーン作品、ないしはワイラー、その他の作品を予定。
- 第6回 新しい映像表現の試みをした作品の参考上映。作品は未定だが名作映画を鑑賞する。
- 第7回～第12回 チャップリンの映画とは何か。なぜチャップリンは、サイレント映画にこだわったか。『キッド』『黄金狂時代』『街の灯』『独裁者』及び短編映画等を参考上映。
- 第13回はテストを予定。

【評価方法】

テスト、出席、レポート（雑文風感想）などによる。

【参考文献・資料】

君はこの映画を見たか！ 若い世代の必見名画100選
(吉村英夫 大月書店 定価1600円)
誰も書かなかったオーディリー (吉村英夫 講談社+α
文庫 定価780円)

【その他】

学生参加の授業通信「Limelight」を随時発行配布する。この通信は先輩諸君から引き続いての通信である。

身体表現法

勝部篤美

【授業の概要】

身体の巧みな動作によって、理念・心情を的確に表現するための知識と技術を学び、個性的表現の創造性を身につける。

【授業計画】

1. 体格・体型論（からだつき）
 - (1) 子どもらしい体格・体型
 - (2) 男らしい体格・体型
 - (3) 女らしい体格・体型
 - (4) 老人らしい体格・体型
2. 姿勢表現論（姿勢が語るもの）
 - (1) 加齢による姿勢の変化
 - (2) 姿勢の諸相
直立姿勢、座位姿勢、臥位姿勢、伸展・屈曲姿勢
 - (3) 良い姿勢
3. 動作表現論（身振り、仕草、素振り、動作）
挨拶動作（会釈、低頭、腰かがめ、膝曲げ、握手、拳手、抱擁）、歩き方、座り方、話し方、口振り、
声、息づかい、手さばき、指使い
顔面表情（眼差し、口もと、頬、眉、額）
喜怒哀楽の全身表現
4. 心理表現論（彫像に見る）
高揚、喜び、憧れ、ためらい、嘆き、悲しみ、悔しみ、もだえ、あきらめ、考え、絶望、抗い、清純、
親しみ、激情、驚き、睦み、怒り、恐れ、恋しさ、
恥じらい、けだるさ、強さ、優しさ
以上のような心理状態にある場合、それが美術作品、
とくに幾多の彫刻にはどのように表現されているかを、
スライドやVTRによって詳細に観賞する。

【評価方法】

単位認定試験と宿題の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない。ノート取りは重要。授業時にプリントを配布する。スライドやVTRを多用する。

表現文化講読演習

麻創けい子

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

（シナリオ創作）

- 第1回 脚本の歴史（祭祀からテレビドラマまで）
- 第2回 脚本家の仕事とその実際
- 第3回 小説とシナリオの相違（作品を通して）
- 第4回 ジャンルによる脚本の書き分け方
- 第5回 シナリオ講読
- 第6回 シナリオ講読
- 第7回 シナリオの書き方（基礎技術）
- 第8回 シナリオの書き方（描写・手法）
- 第9回 演習（シーンを書く）
- 第10回 戯曲講読
- 第11回 戯曲講読
- 第12回 戯曲の書き方（シナリオとの対比）
- 第13回 演習（場を書く）

【評価方法】

出席状況と提出された演習課題などによる。

【テキスト】

新版シナリオの基礎技術（新井一著 ダヴィッド社）

【参考文献・資料】

あ・うん（向田邦子 文春文庫）

あ・うん（向田邦子 新潮文庫）

あ・うん（NHKビデオ）

表現文化講読演習

岩崎建弥

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

（新聞）

メディア表現Ⅱ（新聞）を受けて、より具体的、専門的にメディアの役割と表現について学ぶ。

- 1、私たちはいま、どこにいるのかー日本人の座標
- 2、新聞記者はどう考えるのかー世界を見る目
- 3、歴史に学ぼうー戦争と日本人
- 4、歴史に学ぼうー差別と日本人
- 5、取材の現場からー事件と新聞
- 6、取材の現場からー生活と新聞
- 7、取材の現場からー文化と新聞
- 8、取材の現場からースポーツと新聞
- 9、取材を学ぶー新聞の文章
- 10、取材を学ぶーインタビューの仕方
- 11、取材を学ぶー原稿の書き方
- 12、人権とプライバシーー事件報道から
- 13、人権とプライバシーー映画から
- 14、単位認定レポートの提出

【評価方法】

受講態度、提出レポートなどでの総合評価

【参考文献・資料】

ジャーナリズムを学ぶ人のために（田村紀雄、林利隆 編 世界思想社）と講師作成のもの

表現文化講読演習

梅田卓夫

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

（現代詩）

現代詩の実作を前提としつつ、各自が「詩とは何か」というとらえどころのない問いに、ただ「形」の上からだけでなく「詩精神（ポエジー）」においても迫ることができるように演習を積み重ねる。

そのために敢えて井上靖の散文詩を継続的に講読し、「散文の中の詩」「詩の中の散文」を考えていく。

一方、過去の代表的な詩人と作品をとり上げて、グループごとの発表形式と討論で、作品の分析・鑑賞・批評の目を養うとともに、実作への力量をたかめる。

- 第1回 授業の進め方、グループ分け
- 第2回 「現代詩」の歴史的位置づけ
- 第3回 萩原朔太郎の作品
- 第4回 金子光晴の作品
- 第5回 丸山薫の作品
- 第6回 西脇順三郎の作品
- 第7回 戦後の詩人（1）
- 第8回 戦後の詩人（2）
- 第9回 谷川俊太郎の作品
- 第10回 現代の詩人（1）
- 第11回 現代の詩人（2）
- 第12回 詩とは何かへ実作へむけて

*なお毎回の授業の一部を『井上靖全詩集』の作品分析にあて、詩とは何かを考える時間とする。

【評価方法】

授業中とその前後における各人の取り組み、およびレポート（作品）による。

【テキスト】

井上靖全詩集（新潮文庫）

【参考文献・資料】

詩ってなんだろう（谷川俊太郎著 筑摩書房）

表現文化講読演習

川澄未来子

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

(ヴィジュアル表現研究)

色彩に関する基礎知識の習得を目的として、次の手順で授業を進める。

(1) テーマ選定

提示されたいくつかのテーマの中から、取り組むテーマを選定する。自分の特性に合った目標を設定した上で、アプローチ手法・スケジュールなどをまとめた計画書を作成する。

(2) リサーチ

文献調査（検索・収集・講読）、アンケート・ヒヤリング調査など、適切な方法を駆使して調査を実施する。結果を各自の観点で十分に整理・分析・考察し、今後の課題・展望なども含めてまとめる。

(3) プレゼンテーション

リサーチ結果を伝える効果的なメディア（スライド・ポスター・映像など）を選定し、プレゼンの企画・準備をする。報告会での講評結果を踏まえて追加・修正し、最終状態に仕上げる。

随時、全員が進捗報告をし、議論を深め、互いの意見をフィードバックしながら進行させる。

また、ツールとして、WWWやデータベース、各種ソフトウェア（Word、PowerPointなど）を随時使用する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、途中報告、最終報告の様子などから総合的に評価する。

表現文化講読演習

木全純治

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

(映画研究)

映画を文化及び産業という側面からとらえ、映画がそれぞれの国で果たしている役割を、前期は日本映画、後期はアジア映画を中心に講義する。前期は日本映画の歴史、サイレントからトーキー、白黒からカラーへ変遷する技術の進歩と、政治、経済面から見た映画人の活動を考察する。特に、彼らがそれぞれの時代をどうとらえたか、物の見方（視点）を中心に話を進める。又、撮影所、シネマコンプレックスなどの現場を訪れ、映画の産業的な側面にふれる。

1. 日本映画の現状。製作、配給、興行について
2. 日本映画の誕生とその展開
3. サイレントからトーキーへ
4. 戦時下の日本映画
5. 戦後映画の展開
6. 黄金時代を築いた監督たち
7. 松竹ヌーベルバーグのもたらしたもの
8. 80年代から90年代の監督たち
9. 撮影所、シネマコンプレックス訪問
10. 小津安二郎、今井昌平、大島渚、北野武の監督研究

【評価方法】

日本映画を3本鑑賞して、そのレポートで判断する。

【参考文献・資料】

授業中に指示。教材は適時配布します。

表現文化講読演習

小菅健一

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

(コミック・アニメ研究)

- 第1回 オリエンテーション (コミックとアニメ)
- 第2回 大友克洋 (1) 「童夢」
- 第3回 大友克洋 (2) 「MEMORIES」
- 第4回 大友克洋 (3) 「AKIRA」
- 第5回 押井守 (1) 「人狼」
- 第6回 押井守 (2) エトセトラ
- 第7回 士郎正宗 (1) 「攻殻機動隊」
- 第8回 士郎正宗 (2) エトセトラ
- 第9回 岡崎京子 (1) 「PINK」
- 第10回 岡崎京子 (2) 「リバーズエッジ」
- 第11回 大島弓子 (1) 「綿の国星」
- 第12回 大島弓子 (2) エトセトラ
- 第13回 授業のまとめ

【評価方法】

日頃の出席状況と講義に臨む授業態度、単位認定のためのレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

基本的にはプリント教材とビデオ教材を使用し、必要に応じて授業中に指示する。

【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

表現文化講読演習

酒井晶代

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

(児童文学)

＜日本児童文学の代表作を読む＞

子どもの文学は、近代以降、一方では教育と、他方では文学と密接な関わりを持ちながら変化してきた。近代を中心に代表的な児童文学作品を読みあいながら、日本児童文学史の流れを把握すると同時に、教育や文学、あるいは文化のなかの「子どもの文学」の位相と変容を考察したい。同時に、それぞれの作者たちが子ども読者に向けて「なにを」「どのように」手渡そうとしたのかを探り、子どもの文学の独自性を考える場としたい。

授業では、グループ発表の形式で、時代順に作品を読み進めていく。テキストと丁寧に向き合い、自らの問題意識を発見すること。問題を解くための手がかりを収集し、分析すること。質疑応答を通して、さらに考察を深めること。これらを通して、作品を主体的かつ創造的に読み解く面白さを発見できたらと思う。

なお、夏休みを利用して児童文学関連施設の見学旅行を実施する予定。

- 第1回 半期間の計画提示、文献検索方法など
- 第2～5回 明治期の作品
- 第6～9回 大正期の作品
- 第10～12回 昭和戦前期の作品

【評価方法】

出席状況、グループ発表や質疑応答の様子、レポート等により総合的に行う。

【テキスト】

日本児童文学名作集〈上・下〉

(桑原三郎・千葉俊二編 岩波文庫)

はじめて学ぶ日本児童文学史

(鳥越 信編 ミネルヴァ書房)

表現文化講読演習

島田修三

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

(短歌)

- | | |
|----------|-----------------|
| 第1回 | 授業計画に関する討議 |
| 第2回 | 前衛短歌に関する基礎講義 |
| 第3回 | ポスト前衛短歌に関する基礎講読 |
| 第4回～11回 | テキスト講読演習と討議 |
| 第12回～13回 | 総括討議 |

【評価方法】

出席状況・授業内の調査発表・授業内のレポート・学期末のレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

現代歌人文庫 村木道彦歌集 (国文社)

表現文化講読演習

清水良典

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

(小説)

本講座では、現代文学の代表的な作家、村上春樹、村上龍、笹野頼子、川上弘美、町田康らの代表作品を研究討議することを通して、現代小説の特質と技法を学ぶ。

- | | |
|------|----------------------|
| 第1回 | 概要説明とグループ分け |
| 第2回 | 村上春樹『羊をめぐる冒険』研究発表 |
| 第3回 | 同 共同討議 |
| 第4回 | 村上龍『69』研究発表 |
| 第5回 | 同 共同討議 |
| 第6回 | 笹野頼子『レストレス・ドリーム』研究発表 |
| 第7回 | 同 共同討議 |
| 第8回 | 川上弘美『物語が、始まる』研究発表 |
| 第9回 | 同 共同討議 |
| 第10回 | 町田康『くっすん大黒』研究発表 |
| 第11回 | 同 共同討議 |
| 第12回 | 現代文学の転換点概説 |

【評価方法】

出席状況とレポートの内容、討議への参加態度で総合的に評価する。

【テキスト】

羊をめぐる冒険 (村上春樹 講談社文庫)
69 (村上龍 集英社文庫)
レストレス・ドリーム (笹野頼子 河出文庫)
物語が、始まる (川上弘美 中公文庫)
くっすん大黒 (町田康 文春文庫)

【参考文献・資料】

文学がどうした!?(清水良典 毎日新聞社)

表現文化講読演習

角田達朗

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

（演劇研究）

戯曲解釈と演技とがどのように関連するかを知るために、演技することを想定して戯曲を実践的に読む。演技力の向上を第一義とするものではなく、したがって演技の優劣を競うものではないが、演技するという主体的契機を伴わない机上の解釈に止まることは許されない。

また、上演芸術の理解には当然ながら生の上演に接することが不可欠である。そこで月1～2本程度の鑑賞課題を設定し、その都度レポートの提出を求めるものとする。

（上演鑑賞のため、1万円程度の経費を要する。）

【評価方法】

レポート・平常点

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

表現文化講読演習

西田 勝

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

（古典文学研究）

第1回 年間計画指示

第2～12回 一九の『膝栗毛』を読む

【評価方法】

出席状況とレポートの成績により総合的に評価する。

【テキスト】

東海道中膝栗毛（新編日本古典文学全集81 小学館）

表現文化講読演習

馬場伸彦

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

(編集・広告)

現在、私たちは情報消費社会のなかにいる。多くの事象は、身体的経験に先行し、メディアを媒介に「情報」としてもたらされ、消費されている。本来、現実と地続きであった出来事は、情動的体験として転倒する。ここにリアリティの混乱が生起する要因がある。「表現」という問題を考えるとき、メッセージが表出される場である「メディア」の問題を抜きにして語ることはできない。しかもそれは編集された構造物なのである。従って表現において重要なのは、第一にメディアの理解であり、次に編集によって方向づけられたメッセージがどのように作用するのかを考察することである。本授業では「メディア論」の基本文献であるマクルーハンの『メディア論 人間の拡張の諸相』を読むことを通じて、メディア（広告、新聞・雑誌、テレビ、映画）の理解を深めると共に、メディア受容に対する批判能力を養うことを目的とする。

【評価方法】

発表、および期末のレポートによって評価する。

【テキスト】

メディア論 人間の拡張の諸相 (M.マクルーハン 栗原裕・河本仲聖訳 みずず書房)

【参考文献・資料】

メディアの理論 (フレッド・インクス 伊藤誓・磯山基一訳 法政大学出版局)

メディアと情報化の社会学 (岩波講座現代社会学22) (井上俊、上野千鶴子他編 岩波書店)

社会情報学2メディア (東京大学社会情報研究所編 東京大学出版会)

表現文化特殊演習

麻創けい子

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

(シナリオ創作)

- 第1回 オリジナル作品創作に向けて
- 第2回 講読と演習 (テーマの発見)
- 第3回 講読と演習 (アイデアの創出)
- 第4回 講読と演習 (ストーリー作り)
- 第5回 講読と演習 (構成)
- 第6回 講読と演習 (人物描写)
- 第7回 講読と演習 (時代考証・取材)
- 第8回 講読と演習 (シーンとカット)
- 第9回 講読と演習 (ファーストシーン)
- 第10回 講読と演習 (回想と時間処理)
- 第11回 講読と演習 (クライマックス)
- 第12回 講読と演習 (セリフとト書きの間)
- 第13回 講読と演習 (裏切りと沈黙の効果)

【評価方法】

出席状況と提出されたオリジナル作品によって総合的に評価する。

【テキスト】

新版シナリオの基礎技術 (新井一著 グヴィッド社)

【参考文献・資料】

ふじたあさやの体験的脚本創作法 (ふじたあさや著 晩成書房)

映画テレビシナリオの技術 (新井一著 グヴィッド社)

表現文化特殊演習

岩崎建弥

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

（新聞）

表現文化講読演習で学んだことを、より実践的に深め、ジャーナリストのセンスを身につける。

- 1、新聞を読む－1面から社会面、経済面、生活面、文化面、運動面、地域版までを読み、その性格や記事表現の違いなどを知る。
- 2、インタビューをする－テーマを与え、受講生同士の取材や模擬記者会見を通じて、事前の準備や対応の態度、質問の仕方、内容などを学ぶ。
- 3、写真を撮る－人物撮影や季節のスケッチの仕方を学ぶ。
- 4、原稿を書く－インタビューしたことや模擬事件を限られた時間内に原稿にまとめる。
- 5、単位認定レポートの提出。

1、2、4は、2～4回続ける。

【評価方法】

受講態度、提出レポートなどでの総合評価

【参考文献・資料】

中日新聞ほかの紙面と、講師が用意する資料その他による。

表現文化特殊演習

梅田卓夫

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

（現代詩）

受講者が原則として全員、現代詩の実作を継続的に行うものとして、授業を組み立てる。

詩の形式や技法をいくつかの課題（テーマ）として設定した上で、各自が実作を試み、提出された作品を合評形式により分析・批評・評価し合い、さらに優れたものへと練り上げていく。

一方、詩の創作・合評の過程で、各自がとらえた詩作上の問題や、過去の詩人たちの作品についての、自分の考えを深めて初歩的な詩論を試みる。

- | | |
|---------|---------------------------------|
| 第1～3回 | 発想～詩（ポエジー）のとらえ方、描写、韻律、比喩 |
| 第4～6回 | 詩の＜一行＞、「自由詩」の形、「内在律」という考え方 |
| 第7～9回 | 定型詩、短詩、アフォリズム、定義論理性と飛躍 |
| 第10～12回 | 散文詩、詩のことば・散文のことば
アレゴリー、メタファー |

* なお上記のブロックごとに作品の実作と合評（相互批評）をおこなう。

【評価方法】

作品（レポート）の質および提出状況、授業中とその前後の取り組み、によって評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

表現文化特殊演習

川澄未来子

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

(ヴィジュアル表現研究)

学術論文を読みこなすことを目的として、次の手順で授業を進める。

(1) テーマ選定

提示されたいくつかのテーマの中から、取り組むテーマを選定する。自分の特性に合った目標を設定した上で、アプローチ手法・スケジュールなどをまとめた計画書を作成する。

(2) リサーチ

文献調査(検索・収集・講読)、アンケート・ヒヤリング調査など、適切な方法を駆使して調査を実施する。結果を各自の観点で十分に整理・分析・考察し、今後の課題・展望なども含めてまとめる。

(3) プレゼンテーション

リサーチ結果を伝える効果的なメディア(スライド・ポスター・映像など)を選定し、プレゼンの企画・準備をする。報告会での講評結果を踏まえて追加・修正し、最終状態に仕上げる。

随時、全員が進捗報告をし、議論を深め、互いの意見をフィードバックしながら進行させる。

また、ツールとして、WWWやデータベース、各種ソフトウェア(Word, PowerPointなど)を随時使用する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、途中報告、最終報告の様子などから総合的に評価する。

表現文化特殊演習

木全純治

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

(映画研究)

80年代後半よりアジア映画の躍進が目覚ましい。中華圏では、中国の陳凱歌(チェン・カイコー)、張芸謀(チャン・イーモウ)、香港のジョン・ウー、ウォン・カーウアイそして俳優・監督として活躍するジャッキー・チェン。台湾では侯孝賢(ホウ・シャオシェン)、エドワード・ヤンが活躍する。そしてここ2、3年、驚くべきパワーを発揮しているのが韓国映画。これらの国の映画人は、文化大革命、光州事件、天安門事件など政治に大きな影響を受けながらも、着実に自分たちのメッセージを発信している。その活力の源泉を、歴史、時代背景そして民族的観点から考察する。

1. アジア映画の現状。製作、配給、興行について
2. 中国第五世代の誕生
3. 香港映画の魅力
4. 台湾映画の光と影
5. 躍進する韓国映画
6. 現代史とアジア映画
各コマ2週間の予定

【評価方法】

アジア映画を3本鑑賞して、そのレポートで判断する。

【参考文献・資料】

授業中に指示。教材は適時配布します。

表現文化特殊演習

小菅健一

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

(コミック・アニメ研究)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コミックの作品をめぐる共同討議
- 第3回 アニメーションの作品をめぐる共同討議
- 第4～12回 受講者の発表演習
- 第13回 授業のまとめ

【評価方法】

日頃の出席状況と講義に臨む授業態度、発表レポートの内容、単位認定のためのレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント教材とビデオ教材。受講者各人の選択した発表作品。

表現文化特殊演習

酒井晶代

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

(児童文学)

＜児童文学の創作と研究・評論＞

子どもの文学は、従来、大人の文学とは異なる特性を持つものとされてきた。子ども文化の多メディア化が進出し、子どもと大人の境界が問われる時代を迎えたいま、子どもの文学とは何か。「なぜ」、「なにを」、子どもに向けて書くのか。講読演習で学んだ歴史的知識を踏まえながら、作品を読み、書き、相互に批評する営みを通して、子どもの文学の面白さや可能性を問う場としたい。

授業は、受講者が執筆した児童文学作品と評論の合評を中心に進めていく。あわせて近年の創作児童文学を批評的に読みあい、一連のプロセスを通して、自作の推敲や、作品を研究・批評する態度を身につけていきたい。

第1回 半期間の計画提示など

第2回～ 創作と評論の執筆・推敲・合評

- ・前半は課題に沿った作品を、後半は自由テーマでの作品をそれぞれ執筆する。いずれも主に自宅で執筆し、授業では合評が中心になる予定。

【評価方法】

出席状況、提出作品、合評会での発言などにより総合的に行う。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

表現文化特殊演習

島田修三

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

(短歌)

- | | |
|---------|-----------------|
| 第1回 | 演習のテーマに関する調整と討議 |
| 第2回 | 受講者の課題の確認と方向づけ |
| 第3回～12回 | 創作実習と発表演習 |
| 第13回 | 総括 |

【評価方法】

出席状況・授業内の調査発表および創作作品によって総合的に評価する。

【テキスト】

短歌入門（島田修三著 池田書店）

表現文化特殊演習

清水良典

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

(小説)

本講座では、小説を主とする散文創作を試み、相互批評と推敲を重ねることによって、各自の個性と主題を探求する。

あらかじめ夏期休暇中に20枚程度の創作を書いて提出すること。

- | | |
|-------|-------------|
| 第1回 | 現代文学と〈純文章〉 |
| 第2～3回 | 夏季作品相互批評 |
| 第4回 | 対物描写とイメージ |
| 第5回 | 相互批評 |
| 第6回 | 対人描写 |
| 第7回 | 相互批評 |
| 第8回 | 自然描写 |
| 第9回 | 相互批評 |
| 第10回 | 話体について |
| 第11回 | 自由作品相互批評(1) |
| 第12回 | 同(2) |

【評価方法】

出席状況と作品、授業態度によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業中にプリント等で示す。

表現文化特殊演習

角田達朗

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

（演劇研究）

戯曲解釈と上演とがどのように関連するかを知るために、上演することを想定して戯曲を実践的に読む。上演のための技能の向上を第一義とするものではなく、したがって演技やスタッフ・ワークの優劣を競うものではないが、キャストやスタッフとして上演に従事するという主体的契機を伴わない机上の解釈に止まることは許されない。なお、戯曲は「表現文化講読演習」と同じものを継続して使用する予定である。

また、上演芸術の理解には当然ながら生の上演に接することが不可欠である。そこで月1～2本程度の鑑賞課題を設定し、その都度レポートの提出を求めるものとする。

（上演鑑賞のため、1万円程度の経費を要する。）

【評価方法】

レポート・平常点

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

表現文化特殊演習

西田勝

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

（古典文学研究）

第1回 年間計画指示

第2～12回 研究者の論文を演習形式で読む。受講者は、各自担当の論文を調査し発表する。

【評価方法】

出席状況、発表点、レポート点で総合的に評価する。

表現文化特殊演習

馬場伸彦

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

（編集・広告）

たとえば、広告は社会的なコミュニケーション制度のひとつだが、従来「広告論」として扱われる研究領域は商学および経営学の延長上に位置することが多かった。しかし、広告を表現文化という側面から捉え直した場合、そこには「文化」をめぐる様々なコンテクションが重層化していることに気づくはずだ。大衆消費社会を迎えた現在、サブカルチャーとしての広告は私たちの生活様式や価値観の形成に多大な影響力を与えている。本授業では、「表現文化講読演習」で得た問題意識を演習によって具体化することを目標とする。編集された構造物、すなわち雑誌、広告、映画、webなど、各自の興味に従い課題を決定、進展に合わせて個人発表を行い、最終的には、論文または作品の制作に結びつけたい。

【評価方法】

出席状況、発表の内容、討論への参加態度、具体的な成果（論文または作品）によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。その都度指示する。

【参考文献・資料】

現代広告学を学ぶ人のために（山本武利編 世界思想社）

「広告」への社会学（難波功士 世界思想社）

広告表現を科学する（山田理英 日本経済新聞社）

表現文化研究 I

麻創けい子

【授業の概要】

「表現文化講読演習」「表現文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

（シナリオ創作）

- 第1回 脚色技術と作品分析（映像）
- 第2回 脚色技術と作品分析（映像）
- 第3回 脚色技術と作品分析（演劇）
- 第4回 脚色技術と作品分析（演劇）
- 第5回 ドキュメンタリー作品分析
- 第6回 ドキュメンタリー作品分析
- 第7回 テレビドラマ作品分析
- 第8回 テレビドラマ作品分析
- 第9回 映画作品分析
- 第10回 映画作品分析
- 第11回 演劇作品分析
- 第12回 演劇作品分析
- 第13回 ラジオドラマ作品分析
- 第14回 ラジオドラマ作品分析

【評価方法】

出席状況と提出レポートなどによる

【テキスト】

テレビドラマ代表作選集1998年版 日本脚本家連盟
銀河鉄道の夜 宮沢賢治著 角川文庫

【参考文献・資料】

ドラマ 映人社

シナリオ シナリオ作家協会

銀河鉄道の夜（VHS）

表現文化研究 I

岩崎建弥

【授業の概要】

「表現文化講読演習」「表現文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

（新聞）

新聞記者になったつもりで、各新聞の主にニュース面を比べて批評しながら、そこに取り上げられている現代の課題の核心に迫り、それぞれの研究テーマを探る。外部講師へのインタビューや学外研修も行う。

- 第1回 オリエンテーリング
- 第2～6回 相互の批評と討論、原稿書き
- 第7回 総合批評と討論
- 第8～12回 外部講師と学外研修、原稿書き
- 第13、14回 個別指導
(夏休みにゼミ研修旅行を予定)

【評価方法】

出席の状況と原稿、レポートで総合的に評価する。

【テキスト】

一般紙各紙と講師作成のものを中心に

表現文化研究 I

梅田卓夫

【授業の概要】

「表現文化講読演習」「表現文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

（現代詩）

「表現文化講読演習」および「表現文化特殊演習」で得た現代詩への問題意識を深めつつ、受講者が自分の興味と個性を確認し、さらに創造的な詩作（研究）へむけて継続的な取り組みができるよう、授業をすすめる。

個別指導を基本としながらも、教室という場を生かして、各自の作品（研究）を他の受講者との相互批評・鑑賞にもゆだね、作品をより客観的・普遍的にするための手がかりを得られるようにする。

- 第1～3回 現代詩の歴史を概観しつつ、各自の創作テーマを設定して詩作（研究）をすすめる。
- 第4～6回 習作の提出、発表。テーマ・方法の軌道修正。
- 第7～8回 特定の優れた先達詩人あるいはエコールをとりあげ各自にその姿勢・思想・技法を研究する。
- 第9～11回 当初に設定した各自の創作テーマによる作品の発表。合評会を経てさらなる推敲を試みる。
- 第12回 これまでの創作を振り返り、今後の詩作への手がかりと可能性を探る。

【評価方法】

作品（研究）の質および提出状況、授業中とその前後の取り組み、によって評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

表現文化研究 I

川澄未来子

【授業の概要】

「表現文化講読演習」「表現文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

(ヴィジュアル表現研究)

ヴィジュアル表現に関する研究を目的として、次の手順で授業を進める。

(1) テーマ選定

提示されたいくつかのテーマの中から、取り組むテーマを選定する。自分の特性に合った目標を設定した上で、アプローチ手法・スケジュールなどをまとめた計画書を作成する。

(2) リサーチ

文献調査(検索・収集・講読)、アンケート・ヒヤリング調査など、適切な方法を駆使して調査を実施する。結果を各自の観点で十分に整理・分析・考察し、今後の課題・展望なども含めてまとめる。

(3) プレゼンテーション

リサーチ結果を伝える効果的なメディア(スライド・ポスター・映像など)を選定し、プレゼンの企画・準備をする。報告会での講評結果を踏まえて追加・修正し、最終状態に仕上げる。

随時、全員が進捗報告をし、議論を深め、互いの意見をフィードバックしながら進行させる。

また、ツールとして、WWWやデータベース、各種ソフトウェア(Word, PowerPointなど)を随時使用する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、途中報告、最終報告の様子などから総合的に評価する。

表現文化研究 I

木全純治

【授業の概要】

「表現文化講読演習」「表現文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

(映画研究)

卒論及び卒業制作にむけて具体的な準備を始める。卒論は①監督研究②テーマ別研究③映像制作からなる。①の監督研究は、日本及びアジアの監督作品を研究し、その監督の時代とのかかわり、その影響などを考察する。②のテーマ別研究は、広範囲の映画の中から特徴となるものを選び、それを重点に考察する。③映像制作は、自らのシナリオを基に、30分以上の劇映画又はドキュメンタリーを制作する。授業はこれらの参考になるための指針を示す。又、各自30分程度の個別発表をする。

1. 監督研究 : 小津映画における家族のあり方
2. 監督研究 : 黒澤映画のダイナミズム
3. 監督研究 : 張芸謀の色彩と思想の関係
4. テーマ別研究: 映画の配給・宣伝・興行について
5. テーマ別研究: 在日の日本映画との関わり
6. テーマ別研究: 戦争映画の視線について
7. 映像制作実習(2コマ)

【評価方法】

個別の研究発表と課題のレポートで判断する。

【参考文献・資料】

授業中に指示。教材は適時配布します。

表現文化研究 I

小菅健一

【授業の概要】

「表現文化講読演習」「表現文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

(コミック・アニメ研究)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 話題作(コミック)をめぐる共同討議
- 第3回 話題作(アニメーション)をめぐる共同討議
- 第4回 卒業研究・卒業制作の計画発表
- 第5回 卒業研究・卒業制作の内容構成(目次)の作成
- 第6～12回 受講者の研究・制作発表
- 第13回 授業のまとめ

【評価方法】

日頃の出席状況と講義に臨む授業態度、研究・制作発表、それをまとめた単位認定のためのレポートの内容などによって、総合的に評価する。

【テキスト】

受講者各人が卒業研究・卒業制作の主題に設定した、作家・作品・テーマに関するもの。

【参考文献・資料】

特になし。

表現文化研究 I

酒井晶代

【授業の概要】

「表現文化講読演習」「表現文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

(児童文学)

<子ども論を読む(1)>

私たちが「子ども」を捉えるまなざしは、近代に誕生したとされる。近年、その近代的孩子も観が様々な場で問い直され、新たな子ども-大人関係の模索が始まりつつある。近代的孩子も観のもとで発展してきた児童文学もまた、内外からの捉え直しが必要であろう。授業では子ども論を主な手がかりとして、子ども観の変遷をたどり、児童文学成立の基盤とその歴史性を探る。合わせて卒業論文・卒業制作執筆に向けて、研究や創作の合評を進めていく。理論書の精読と作品合評とが個々に完結するのではなく、相互に影響しあいながら深化していく授業を目指したい。

なお、夏休み等を利用して、集中的な合評形式の授業を実施する予定。

- 第1回 半期間の計画提示など
- 第2～10回 理論書の精読(グループ発表)と研究・創作の合評
- 第11～12回 卒業論文・卒業制作の中間発表(1)

【評価方法】

出席状況、発表内容や提出作品、質疑応答の様子、レポート等により総合的に行う。

【テキスト】

子ども100年のエポック(本田和子著 フレーベル館)

表現文化研究 I

島田修三

【授業の概要】

「表現文化講読演習」「表現文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

(短歌)

- | | |
|---------|------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回～6回 | 課題創作演習1 |
| 第7回～8回 | 研究・創作テーマの中間発表と討議 |
| 第9回～11回 | 課題創作演習2 |
| 第12回 | 研究・創作テーマの最終発表 |
| 第13回 | まとめ |

【評価方法】

出席状況および授業内のレポート・学期末のレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する

表現文化研究 I

清水良典

【授業の概要】

「表現文化講読演習」「表現文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

(小説)

小説を主とする散文創作を試みながら、相互批評と推敲を重ねることによって、各自の個性と主題を更に高める。

20～30枚の短編小説を持ち寄って、批評を交しながら、卒業制作へ向けての計画を立てていく。

- | | |
|--------|----------|
| 第1～6回 | 相互批評 |
| 第7回 | 総評と問題点討論 |
| 第8～12回 | 創作と批評 |
| 第13回～ | 個別指導 |

なお夏期休暇中にゼミ旅行をおこなう。

【評価方法】

出席状況と作品、授業態度によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

表現文化研究 I

角田達朗

【授業の概要】

「表現文化講読演習」「表現文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

（演劇研究）

戯曲解釈と上演とがどのように関連するかを知るために、上演することを想定して戯曲を実践的に読む。上演のための技能の向上を第一義とするものではなく、したがって技能の優劣を競うものではないが、キャストやスタッフとして上演に従事するという主体的契機を伴わない机上の解釈に止まることは許されない。

また、上演芸術の理解には当然ながら生の上演に接することが不可欠である。そこで月1～2本程度の鑑賞課題を設定し、その都度レポートの提出を求める。

（上演鑑賞のため1万円程度の経費を要する。）

【評価方法】

レポート

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

表現文化研究 I

西田 勝

【授業の概要】

「表現文化講読演習」「表現文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

（古典文学研究）

第1回 年間計画指示

第2～12回 各人の研究テーマに関して発表を行う。発表者は発表時点までの自己の成果を他のゼミ生達に分かりやすく説明をする。

【評価方法】

出席状況、発表点で総合的に評価をする。

【学外教育】

古典文学の背景となる地への研修旅行を行う可能性もある。

表現文化研究Ⅰ

馬場伸彦

【授業の概要】

「表現文化講読演習」「表現文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

（編集・広告）

「表現」とは、作品そのもの、あるいは作者自身を示すのではなく、読者（観察者）との関係によって生起するものである。すなわち受容とコミュニケーションを前提としている。従って、表現者が最も重視しなければならぬ点は、作品が「外なる形」として現れた場合を想定し、それがどのような環境に置かれ、どのような受容者に対し、どのような意味作用をもたらすかについて、十分な検討を行うことである。

本授業においては、前授業において継続されている問題である「メディアの理解」を踏まえた上で、各自の興味に従い、具体的な作品制作、または関連領域における論文を作稿することを目標とする。なお、作品の制作は、多様な形式が予想されるため、専門知識ならびに個別的助言が必要となる。そのため積極的な授業態度で臨むことが求められる。

表現文化研究Ⅱ

麻創けい子

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

（シナリオ創作）

- 第1回 卒業創作に向けてジャンルの選択
- 第2回 講読と個別指導（演劇）
- 第3回 講読と個別指導（演劇）
- 第4回 講読と個別指導（テレビドラマ）
- 第5回 講読と個別指導（テレビドラマ）
- 第6回 講読と個別指導（ラジオドラマ）
- 第7回 講読と個別指導（ラジオドラマ）
- 第8回 講読と個別指導（映画）
- 第9回 講読と個別指導（映画）
- 第10回 講読と個別指導（構成もの）
- 第11回 講読と個別指導（構成もの）
- 第12回 講読と個別指導（ミュージカル）
- 第13回 講読と個別指導（歌舞伎・その他）

【評価方法】

出席状況と提出作品などによる

【テキスト】

テレビドラマ代表作選集1998年版 日本脚本家連盟

【参考文献・資料】

ドラマ 映人社
シナリオ シナリオ作家協会

表現文化研究Ⅱ

岩崎建弥

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

(新聞)

卒業論文と卒業制作(グループによる新聞製作)に向け、前期までの蓄積に基づいて各自、各グループのテーマごとに、取材、編集、論文(紙面)作りへと作業を進める。

- 第1回 オリエンテーリング
- 第2-6回 論文作成へのテーマ別討論
- 第7回 総合討論
- 第8-12回 新聞製作へのグループ別討論
- 第13、14回 個別指導

【評価方法】

出席の状況、論文、製作した新聞などで総合的に評価する。

【テキスト】

講師作成のものを中心に

表現文化研究Ⅱ

梅田卓夫

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

(現代詩)

「表現文化研究Ⅰ」で試みた創作(研究)を推し進めつつ、具体的な作品群を完成させる中で、受講者が自分の個性を一層輝かせ、詩作の手応えと喜びを実感できるよう授業を組み立てる。卒業制作に際しては、作品を各自一冊の詩集として形あるものにして提出する。その過程で、詩的言語と、文化の詩的領域への感性を磨き、生涯にわたって詩作とともにある生活を送ることができるような礎を築くことをめざす。

- 第1-3回 現代詩創作(研究)の目的・意義の確認。これまでに自分の作った作品を振りかえり、各自の個性を磨きつつ、テーマを継続して詩作(研究)をすすめる。
- 第4-6回 詩的言語の研究。自分の作品をさらに個性あるものとするために、それぞれにふさわしい語法・文体・形式を追求する。
- 第7-9回 合評会。作品の批評と鑑賞。一人ひとりがすすめてきた作品とその問題点を交流しあい、創作(研究)の完成へ向けて課題を確認する。
- 第10-12回 詩集の完成。これまでに創作してきた作品をまとめて、一冊の詩集として提出する。編集・造本・装丁・レイアウト等についても研究し、可能なかぎり自分の作品にふさわしい発表形態を追求する。

【評価方法】

提出された詩集(研究)の質、および創作への取り組み、によって評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

表現文化研究Ⅱ

川澄未来子

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

(ヴィジュアル表現研究)

ヴィジュアル表現に関する論文作成を目的として、次の手順で授業を進める。

(1) テーマ選定

提示されたいくつかのテーマの中から、取り組むテーマを選定する。自分の特性に合った目標を設定した上で、アプローチ手法・スケジュールなどをまとめた計画書を作成する。

(2) リサーチ

文献調査(検索・収集・講読)、アンケート・ヒヤリング調査など、適切な方法を駆使して調査を実施する。結果を各自の観点で十分に整理・分析・考察し、今後の課題・展望なども含めてまとめる。

(3) プレゼンテーション

リサーチ結果を伝える効果的なメディア(スライド・ポスター・映像など)を選定し、プレゼンの企画・準備をする。報告会での講評結果を踏まえて追加・修正し、最終状態に仕上げる。

随時、全員が進捗報告をし、議論を深め、互いの意見をフィードバックしながら進行させる。

また、ツールとして、WWWやデータベース、各種ソフトウェア(Word, PowerPointなど)を随時使用する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、途中報告、最終報告の様子などから総合的に評価する。

表現文化研究Ⅱ

木全純治

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

(映画研究)

前期の個別テーマ研究をふまえ、さらに深く考察する中から、卒論を完成させる。後期は、各自の発表が中心となる。

【評価方法】

卒論と卒業制作作品(シナリオ付)を見て判断する。

【参考文献・資料】

授業中にアドバイスをする。

表現文化研究Ⅱ

小菅健一

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

(コミック・アニメ研究)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業研究・卒業制作の内容構成の最終決定
- 第3～7回 受講者の研究・制作発表
- 第8～9回 卒業研究・卒業制作のグループ相談
- 第10～12回 卒業研究・卒業制作の個人相談
- 第13回 授業のまとめ

【評価方法】

日頃の出席状況と講義に臨む受講態度、研究・制作発表、それをまとめた単位認定のための卒業研究レポートや卒業制作レポートの内容などによって、総合的に評価する。

【テキスト】

受講者各人が卒業研究・卒業制作の主題に設定した、作家・作品・テーマに関するもの。

【参考文献・資料】

特になし。

表現文化研究Ⅱ

酒井晶代

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

(児童文学)

<子ども論を読む(2)>

前期「表現文化研究Ⅰ」に引き続き、子ども論の精読と作品の合評を同時進行で行う。歴史的事象に言及した前期のテキストに対して、後期は現代の子ども文化や子ども－大人関係を考察した評論を取り上げる。卒業論文・卒業制作の仕上げに向けて、研究・創作の合評のほか、進捗状況の発表会なども随時行っていく予定。

第1～2回 卒業論文・卒業制作の中間発表(2)

※以後も、随時中間発表を行う。

第3～11回 理論書の精読(グループ発表)と研究・創作の合評

第12回 全体のまとめ

【評価方法】

出席状況、発表内容や提出作品、質疑応答の様子、レポート等により総合的に行う。

【テキスト】

「子ども」の消滅(斎藤次郎著 雲母書房)

表現文化研究Ⅱ

島田修三

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

(短歌)

- | | |
|----------|-----------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回～6回 | 自由創作演習1 |
| 第7回～9回 | 研究・創作テーマの討議 |
| 第10回～11回 | 自由創作演習2 |
| 第12回 | 卒業創作・研究作品の発表と質疑 |
| 第13回 | まとめ |

【評価方法】

出席状況および授業内のレポート・卒業研究創作レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する

表現文化研究Ⅱ

清水良典

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究として提出する。

【授業計画】

(小説)

- 卒業研究もしくは作品を完成するための立案計画、創作、批評、推敲のプロセスを実行する。
- あらかじめ卒業制作の予備作品を提出し、相互に批評しながら改善点、反省点を探っていく。
- | | |
|--------|----------|
| 第1～6回 | 相互批評 |
| 第7回 | 総評と問題点討論 |
| 第8～12回 | 個別指導と討論 |
| 第13回～ | 個別指導 |

【評価方法】

出席状況と作品、授業態度によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

表現文化研究Ⅱ

角田達朗

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

（演劇研究）

戯曲解釈と上演とがどのように関連するかを知るために、上演することを想定して戯曲を実践的に読む。上演のための技能の向上を第一義とするものではなく、したがって技能の優劣を競うものではないが、キャストやスタッフとして上演に従事するという主体的契機を伴わない机上の解釈に止まることは許されない。

また、上演芸術の理解には当然ながら生の上演に接することが不可欠である。そこで月1～2本程度の鑑賞課題を設定し、その都度レポートの提出を求める。

（上演鑑賞のため1万円程度の経費を要する。）

【評価方法】

レポート

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

表現文化研究Ⅱ

西田 勝

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

（古典文学研究）

第1回 年間計画指示

第2～12回 前期に引き続いて、各人の研究に関して発表を行う。

【評価方法】

出席状況、発表点を総合的に評価点とする。

【学外教育】

古典文学の背景となる地への研修旅行を行う可能性もある。

表現文化研究Ⅱ

馬場伸彦

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

(編集・広告)

すでに前期において、各自の目標は確認済みである。専門性を深めた上で、最終的な目標である卒業作品の制作、または卒業論文へと結実するよう、個別の指導と助言を行う。

表現文化卒業プロジェクト

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」で立案し設定したテーマないしは独自に設定した当該領域のテーマを、専任教員の指導のもとに問題意識や創造的意匠を深めながら、卒業論文ないしは卒業制作として完成させる。評価は専攻の全専任教員によって行う。

【授業計画】

本授業は「表現文化研究Ⅱ」の教科担当者によって、原則的に指導される。授業内容は「表現文化研究Ⅱ」に準じ、また担当者の指示によって適宜行われる。

【評価方法】

「表現文化研究Ⅰ」で計画された研究・制作および活動を対象とし、「表現文化研究Ⅱ」での研究および制作を総合的に評価して履習単位が与えられる。

【テキスト】

担当者の指示による。

【参考文献・資料】

担当者の指示による。

国文学史概説

西田 勝

【授業の概要】

上代から現代にいたる各時代の国文学の代表的文字作品を取り上げ、その国文学的な意味や価値を学ぶとともに、国文学の歴史の変遷を学び、国文学への理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 授業展開に関する指示
- 第2・3回 上代文学について
- 第4～6回 中古文学について
- 第7・8回 中世文学について
- 第9～11回 近世文学について
- 第12・13回 近代文学について

【評価方法】

- 出席点
- 筆記試験点による。

【テキスト】

日本文学史（久保田淳編 おうふう）

漢文学概説

角田達朗

【授業の概要】

中国及び日本の代表的な漢文を教材として、その音読、朗読により漢文の調子を学ぶとともに、漢文における基本的な語句の意味、用法及び文の基本的な構造についての理解を深める。

【授業計画】

『論語』公治長篇から高等学校の漢文の教科書に採られている章を選び、それぞれにどのような解釈が提起されて来たか、そして、解釈の相違がどこから生じるのかについて、検討する。一つの章につき三～四回の講義を当てるので、全部で三～四の章を扱うことになる。

『論語』は中国の古典の中でも最もよく読まれた文献であり、したがって、数多くの注釈が存在する。注釈は本文の正しい意味を説き明かすという建前をもつと同時に、注釈者自身の思想を反映する器でもあるから、注釈が正確な本文理解を提示しているとは限らない。しかしながら、本文理解において正確でない注釈であろうと、注釈という形を借りた思想表現と見れば、一定の価値を認めることは十分可能である。むしろ、注釈という形によって思想表現をするのに特に適したテキストであったからこそ、言い換えれば、それだけ多様な解釈が可能な書物であったからこそ、『論語』は時代を超え、地域や民族も越えて読み継がれたのだと言うこともできるであろう。この講義では、『論語』を一つのモデル・ケースとして、古典解釈が思想的営為としてどのような意味を持つかを考えて行く。

高等学校で学習する章を敢えて選ぶのは、いわゆる「教科書的」な「正しい解釈」が実は多様な解釈の一つに過ぎないことを、受講者に具体的に認識してほしいからである。

【評価方法】

- レポート
- *受講状況によっては試験に変更することがある。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

多元文化専攻中心科目

多元文化基礎演習

稲生幹雄 榎田勝利 大野清幸 杉本一直 曹述雙
中郷慶 平林美都子 ベヴァリー・F. M. カレン 宮田Susanne

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、多元文化研究の基礎となる文献検索法や、レポート作成の基礎的な知識を学ぶ。

このうち、大野清幸助教授は、主として人間の言語獲得における発語資料をデータとして指導する。

宮田Susanne助教授は、主として言語獲得論の立場から、言語学の初歩的な問題を提示し、その調査や発表を通して研究の基礎的な方法を指導する。

中郷慶助教授は、主としてインターネット上での言語資料の入手や、コンピュータを用いた初歩的な言語分析を題材として、文献の検索やレポート作成の基本を習得させるための実践的な訓練を行う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 問題の把握1
- 第3回 問題の把握2
- 第4回 文献検索・データ収集法1
- 第5回 文献検索・データ収集法2
- 第6回 文献検索・データ収集法3
- 第7回 テーマ研究演習1
- 第8回 テーマ研究演習2
- 第9回 テーマ研究演習3
- 第10回 テーマ研究演習4
- 第11回 テーマ研究演習5
- 第12回 テーマ研究演習6
- 第13回 まとめ

授業の概略は、上記のようなものになるが、具体的な内容については、各担当者が第1回の授業で説明する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、プレゼンテーション、課題レポートなどによって総合的に評価する。詳細は各担当者が第1回の授業で説明する。

【テキスト】

各担当から指示がある。

【参考文献・資料】

各担当から指示がある。

言語科学

大野清幸

【授業の概要】

言語データベースの構築や検索・分析を通して、言語獲得の問題を中心に考察することで、言語を科学的に分析することとは何かというテーマに関する基礎を学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 授業計画指示など。必ず出席すること！
- 第2講— テキストなどを利用して演習

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

洋書。ただし、未定。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

国際関係論

若松孝司

【授業の概要】

共生、国際化、グローバル化、インターネット、大競争、ビッグ・バンなどがキーワードとなる21世紀の国際関係を学ぶ。

【授業計画】

以下の項目について講義する。

- (1) 国際関係論とはいかなるガクモンか
- (2) 国際関係理論概説
- (3) 第2次世界大戦後の国際関係
- (4) 現代国際関係の諸断面

【評価方法】

出席状況と期末に行う試験の結果とを総合して判断する。

【テキスト】

国際関係学講義 (原彬久編 有斐閣)

【参考文献・資料】

国際関係論 同時代史への羅針盤

(中島嶺雄著 中公新書)

国際関係論 第2版

(衛藤藩吉ほか著 東京大学出版会)

講座国際政治①国際政治の理論

(有賀貞ほか編 東京大学出版会)

多元文化創造II (国際ボランティア論)

榎田勝利

【授業の概要】

地域市民社会形成のキーワードとしての国際ボランティアとNGOの理念、目的、役割、さらに日本の現状を具体例を通して学ぶ。

【授業計画】

講義と学生によるプレゼンテーションにより授業を展開する。

1. ガイダンス 用語解説
 - ・国際協力の仕事とは
 - ・NGO、ボランティア活動の活発化の背景
2. NGOとは何か？
 - (1) 国連とNGO
 - ・国連会議とNGO
 - ・国連とNGOのパートナーシップ
 - (2) 日本のNGOの現状と課題
3. ボランティアとは何か？
 - (1) ボランティアの基本的条件と活動動機
 - (2) ボランティアコーディネーター
4. 国際ボランティアとは？
 - (1) なぜ国際ボランティアをするのか？
 - (2) 国際ボランティア活動のタイプ
 - (3) 日本の国際ボランティア団体
 - ・スタディツアーを実施している団体
5. 国際ボランティアの活動
 - (1) 開発・人権ボランティア
 - (2) 開発NGOとボランティア
 - (3) 難民・災害医療ボランティア
 - (4) 国連ボランティアと青年海外協力隊
6. 海外のボランティア事情
 - (1) ヨーロッパ
 - (2) アメリカ
 - (3) アジア

【評価方法】

課題研究レポート、プレゼンテーションおよび平常点にて評価する。

【参考文献・資料】

ボランティアの考え方 (秦辰也 岩波書店)

ボランティア学を学ぶ人のために

(内海成治他編 世界思想社)

NGOとは何か

(伊勢崎賢治 藤原書店)

ボランティアが変える世界

(ケン・アレン著 アルク)

多元文化創造Ⅲ (国際交流)

皆川修吾

【授業の概要】

国際社会の多元性は異文化間の衝突を多元・多層的に発生させている。異文化間の対話と共有できる文化創造の過程を通して近代文明の意義を学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 国際交流の意味：ヒト、モノ、カネ、情報の流れとの関連
- 第2講 国家形成期における文化交流：情報受信
- 第3講 近代国家体制期の国際文化交流政策：情報発信
- 第4講 国際交流活動のキーコンセプト・キーワード
- 第5講 国内での国際交流
- 第6講 グロバリゼーションと国際交流：光と陰
- 第7講 グローバル化とグローバル・ガバナンス
- 第8講 情報の流れのグローバル化：IT社会
- 第9講 経済のグローバル化
- 第10講 国際援助体制
- 第11講 地球環境問題
- 第12講 危機管理システム
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による。

【参考文献・資料】

- 国際交流の理論－交流から協力へ（高橋直子著 勁草書房）
- 日本からの新しい文明の波（伊藤重行著 勁草書房）
- 国際文化交流の政治経済学（平野健一郎編著 勁草書房）
- 日本文化交流小史（上垣外憲著 中公新書）
- 文化の戦略（加藤淳平 中公新書）
- グローバル・ガバナンス：政府無き秩序の模索（渡辺昭夫編著 東大出版）
- 日本人と多文化主義（石井米雄・山内昌之編著 山川出版社）

多元文化創造Ⅳ (イデオロギー)

大野波矢登

【授業の概要】

19世紀的以降のイデオロギーの変遷を史的に検証しながら、マルキシズムが退潮しポータレス化した現代の世界において、なお果たすべき役割や意義について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 20世紀欧米の思想状況
- 第2回 イデオロギーという言葉の多義性
- 第3回 イデオロギー概念の起源
- 第4回 マルクスのイデオロギー概念
- 第5回 マルクスとマルクス主義
- 第6回 「イデオロギーの終焉」について
- 第7～8回 アルチュセールとフーコー
- 第9～10回 ハーバーマスとフランクフルト学派
- 第11～12回 現代におけるイデオロギーの意義と役割
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績をもとに評価する。

【参考文献・資料】

- イデオロギーとは何か（テリー・イーグルトン著、大橋洋一郎訳 平凡社）
- イデオロギー／脱イデオロギー（佐伯啓思著 岩波書店）
- その他の参考文献については授業中に指示する。

多元文化創造Ⅴ（翻訳）

ベヴァリー・F. M. カレン

【授業の概要】

異言語・異文化間の翻訳をさまざまな側面から考察し、多元化する現代社会における文化創造過程について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 紹介
- 第2-3 異文化翻訳：
Nosferatu（ドイツ）
Bram Stoker's Dracula(USA)
Hollywood/Bollywood
- 第4 ゲスト・スピーカー
- 第5-6 異言語翻訳／翻訳化対脚本化：
Harry Potter/ハリー・ポッター
- 第7-8 ジェンダー・トランスレーション
James Bond 007/ Austin Powers
Hedwig and the Angry Inch
- 第9-11 メディア・トランスレーション
Romeo and Juliet（劇）
West Side Story（映画／ミュージカル）
- 第12 創造翻訳

【評価方法】

授業中の参加度、レポート

【テキスト】

なし

言語文化Ⅰ（英語表現）

ミカ・トフ

【Course Content】

英語での作文や会話において、効果的な表現方法とは何かを考察することによって、英語という言語の持つ言語文化を学ぶ。

【Schedule】

Life writing includes writing about yourself, and the lives of others, as well as letters and diaries. As one of the most personal genres, it gives student writers a chance to write about their own lives in English, and reconsider events in their lives. In this course, we will focus on autobiography, writing about your own life, and examine how to render special memories as interesting written stories. We will consider the effect of writing in the first person; to effectively express feelings and thoughts related to an event in your life; how to link events into a coherent narrative; and begin and end autobiographical writing in a compelling way.

【Assessment】

Assessment will be based on the content of the essays written by the student, and on the amount of work a student puts into writing the essays.

言語文化Ⅱ（言語解析）

宮田 Susanne

【授業の概要】

日本語・英語の例を使いながら、言語解析の目的と可能性について考える。女性ことば、幼児の言語、母親の言語、第2言語話者の言語などを取り上げ、その特徴（または習得過程）をとらえるさまざまな方法を学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 言語を計る：何を？何のため？
- 第2回 数字化の必要性・危険性；結果のプレゼンテーション法
- 第3回 言語を領域別に計る：代表的なアイテム；信頼性；Interrater-Reliability
- 第4－6回 語彙を計る：理解語彙と表出語彙；TTR；VOCD；MCDI；Peabody；BVAT
- 第7－9回 文法能力を計る：MLU；DSS，IPSyn
- 第10回 プロファイリング：SALT
- 第11回 言語運用と会話能力を計る
- 第12回 まとめ

【評価方法】

宿題；授業内課題

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

なし

言語文化Ⅲ（コーパス言語学）

大野清幸

【授業の概要】

英語、日本語の獲得過程を分析するための言語データベースの構築の諸問題を扱う。また、インターネットやCD-ROMで利用可能な電子コーパスの分析方法も学び、コーパス言語学を実践的に学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 授業計画指示など。必ず出席すること！
- 第2講 電子コーパスなどを利用して演習

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

未定。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

言語文化Ⅳ（ヨーロッパ文芸思潮）

杉本一直

【授業の概要】

20世紀ロシア文学における文芸理論や小説作品の動向および西欧社会との相互的な影響関係を分析し、ロシアを基点にした現代ヨーロッパ文芸思潮の展望を学ぶ。

【授業計画】

文学だけでなく、ヨーロッパおよびロシアの芸術（美術、映画、音楽、バレエなど）と思想を取り上げる。その主な項目を挙げておく。

- ・19世紀末から20世紀初頭にかけてのシンボリズム（象徴主義）芸術
- ・ロシア未来派芸術とロシア・フォルマリズム批評
- ・ダダイズムとシュールレアリズム
- ・「モダニズム」と呼ばれる文学、そして「ポスト・モダニズム」
- ・思想と批評の交わり（記号論から構造主義へ）
- ・「現代音楽」というジャンル（無調音楽、十二音技法、フリージャズなど）
- ・20世紀小説の概観

【評価方法】

レポートによる

【テキスト】

プリント配布、および授業中に指示した書籍

言語文化Ⅴ（イギリス文学）

横関美津紀

【授業の概要】

17世紀、18世紀から現代にいたるイギリス小説を題材として、イギリス文学と社会・歴史・風俗・生活習慣といった様々な角度からイギリス文学の特徴を学ぶ。

【授業計画】

今年度は、20世紀のイギリス文学およびアイルランド文学に描かれた、過去の文学作品との、あるいは、異言語や異文化との接触や影響関係を分析し、文化の創造に向かうどのような視点を読み取ることができるのかを、学生の皆さんとともに考えたい。関連する映像や音楽の鑑賞も取り入れる予定である。

- (1) イギリス小説
ヘレン・フィールディング
『ブリジット・ジョーンズの日記』
- (2) アイルランド演劇
ブライアン・フリール
『トランスレーションズ』
- (3) 他に詩を数篇（音楽の歌詞も含める）

【評価方法】

レポート、授業中の積極的な参加、出欠席

【テキスト】

ブリジット・ジョーンズの日記（ヘレン・フィールディング著 亀井よし子訳 ソニー・マガジズ）
Translations (Brian Friel Faber Paperbacks)

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

外国文化Ⅰ（北米）

平林美都子

【授業の概要】

カナダ現代文化が抱える諸問題を、主として文学やフェミニズムなどの社会思潮、ヨーロッパやアメリカ合衆国との関係及び日本との比較といった観点から学ぶことにより、異文化理解を深める。

【授業計画】

アメリカ合衆国の強烈なイメージの陰に隠れがちなカナダ文化の独自性とは何か。多民族が共存するカナダの移民の歴史や先住民について学びながら、カナダの多元文化をイギリス・アメリカの文化と対比しながら理解していく。

- 1 概論
- 2 歴史と地理
- 3 先住民とその文化
- 4 初期の移民
- 5 日系移民
- 6 「カナダ」のメンタリティ
- 7 英語系カナダ文学

【評価方法】

出席状況、授業内のプレゼンテーション、テストなどにより評価する。

【テキスト】

とくに使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

外国文化Ⅱ（ヨーロッパ）

稻生幹雄

【授業の概要】

主としてイギリスの戯曲や演劇活動にスポットを当て、その社会への影響力や社会の諸事情の反映の分析を通して、イギリス文化の在り方や性格を学ぶことにより異文化理解を深める。

【授業計画】

〈文化〉と〈演劇〉と〈社会〉——ヨーロッパ文化の広々とした展望を背景に、英国演劇の成長と変遷を考察しよう。視覚的・具体的な理解を助けるために、各種のビデオ教材（シェイクスピア関連の映像や、BBC制作の *The Story of English* 全9巻、広くヨーロッパの芸術や文化を探る映像、など）も活用しながら、次のような5つの視点を設定して毎週の講義を組み立ててゆく。

- (1) アングロ・サクソン民族の文化と文学の原風景を探り、中世演劇への展開やルネッサンス演劇の誕生を、ヨーロッパ各国の文化と比較しながら考える視点。
- (2) 初期から円熟期を経て晩年にいたるシェイクスピアの歩みを、各時期の主要な作品の印象的な場面に注目しながら、パノラマ的にとらえてゆく視点。
- (3) いくつかの作品、とくに『ロミオとジュリエット』をある程度詳しく鑑賞して、英国ルネッサンス期のドラマと文化の特質を、より深く探究する視点。
- (4) その後の各時期におけるヨーロッパの文化の状況や、そこに含まれているいろいろな問題を、特に〈劇場と舞台〉という見地から考えてゆくとする視点。
- (5) 〈文化〉と〈社会〉の関係を総合的にとらえる視点。

テキストとしては、大修館シェイクスピア双書版の『ロミオとジュリエット』を使用する。このテキストの詳しい注釈や解説を理解して、広く英国演劇の理解・鑑賞にもつながるいろいろな基礎知識を身につけてゆく。

【評価方法】

筆記テストの成績と、出席状況・受講状況などを総合して評価する。

【テキスト】

大修館シェイクスピア双書：ロミオとジュリエット（岩崎宗治編注 大修館書店）

外国文化Ⅲ（韓国・朝鮮）

曹 述燮

【授業の概要】

第2次世界大戦後の朝鮮半島の文化を、主として韓国現代社会の歴史および社会の動向を通して学ぶ。

【授業計画】

現代社会にとって重要な課題として浮上してきている福祉、教育、環境、女性、市民団体などのことがらを中心に現代の韓国社会を見つめる。

第1回－4回：韓国の成り立ち

（歴史からたどる韓国の姿）

第5回－7回：韓国人の暮らし

（経済成長をベースに）

第8回－10回：韓国社会の伝統

（活きている儒教思想を中心に）

第11回－14回：韓国の新世代

（日本の新世代と比較して）

第15回：単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、レポート、そして期末の単位認定試験の総合で評価する。

【テキスト】

自家版プリントなどを用いる。

【参考文献・資料】

現代韓国を知るための55章

（石坂浩一他編著 明石書店）

韓国百科（大修館書店 秋月望他編著）

朝鮮を知る事典（平凡社）など

外国文化Ⅳ（中国）

楊 衛平

【授業の概要】

文化大革命後の中国現代文化に関して、都市および農村部の生活文化の変化や刷新の様相を分析しながら学ぶ。

【授業計画】

1976年（文化大革命後）

1. 都市・農村改革と経済構造の変化
2. 国民経済の発展と農村経済の改革
3. 計画経済と主導文化の役割
4. 高雅文化と精英文化の主流

1986年（政治経済変革期）

5. 都市・内陸農村・沿海農村の変革
6. 農村部過剰労働力の転移と都市化
7. 市場経済と消費文化へ転換
8. 大衆文化と民間文化の興起

1996年～現在

9. 都市農村青年の配偶者選択の変容
10. 中国の西部大開発とWTOの加盟
11. 三足鼎立・多様性文化共存
12. 伝統文化と外来文化の挑戦

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず、参考資料を配布する。

外国文化V (ロシア)

丹邊文彦

【授業の概要】

主として文学作品を題材に、ソビエト連邦の時代からその崩壊後の現代ロシアにいたる現代ロシア文化の変遷の諸相を学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 近代ロシア文学の登場人物シキンの役割
- 第2回 グロテスクな諷刺一涙をたたえた笑いのゴゴリ
- 第3回 農奴解放令の切っ掛けを創ったツルゲーネフ
- 第4回 ツルゲーネフの問題作『父と子』、『ルージン』他
- 第5回 幕末の長崎に來航したゴンチャロフ
- 第6回 霊の世界開示の天才ドストエフスキー
- 第7回 『カラマゾフの兄弟』を頂点とする大作の数々
- 第8回 肉体描写を通じた心理分析の天才トルストイ
- 第9回 その大作『アンナ・カレニナ』、『戦争と平和』など
- 第10回 世界的短篇作家・人間通チェーホフ
- 第11回 ソ連政権下の作家たち—政治と文学の関係
- 第12回 ソ連崩壊を予言し促進したソルジェニーツィン

【評価方法】

授業の内容を理解し、まとめるだけでなく、展開学習の成果を重視する。期末試験時間内に、資料持込み(ノート、コピーに限る)でレポートをまとめる。出席点は当然考慮する。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

- ロシア文学案内(岩波文庫)
- ロシア文学史(スローニム 新潮社)
- ソビエト文学史(同上)

現代文化I (ジェンダー)

中島美幸

【授業の概要】

近代主義の終焉によって展望を見失ったといわれる現代社会の諸問題をジェンダー論の視点から分析し、新たな社会的展開の可能性について学ぶ。

【授業計画】

1. ジェンダーとは
2. ジェンダー/セックス/セクシュアリティ
3. スポーツとジェンダー
4. 刷りこまれるジェンダー
5. 学校教育とジェンダー
6. 労働の場のジェンダー
7. 犯罪にみるジェンダー
8. メディアとジェンダー
9. 文学・芸術とジェンダー
10. 近代結婚イデオロギーとジェンダー
11. 母性神話というジェンダー
12. 老いとジェンダー
13. まとめ

【評価方法】

出席状況とレポートなどにより、総合的に評価。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で、その都度紹介する。

現代文化Ⅱ（考現学）

岡本信也

【授業の概要】

考現学の方法による社会・生活風俗の観察を通して、現代日本に混在する新旧の大衆文化とその特徴を学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 考現学の成立について。大正末期から昭和初期にかけて、はじめた今和次郎・吉田謙吉らの活動を紹介し、その成立した社会背景を解説する。
- 第2回 その方法について。細部の社会現象、生活風俗の事象を克明に観察し、記録採集する手法について、いくつかの事例をあげて、解説。
- 第3～4回 身近な生活風俗について、実際に観察・記録採集の作業を体験してみる。カメラ・スケッチ・メモの仕方学ぶ。
- 第5回 考現学とは何か。これまでの研究成果の中から事例をあげて、社会学の補助学としての有用性について解説。
- 第6～8回 具体的な観察対象を決めて、考現学採集を体験する。研究対象については、そのとりあげる視点が大切なので、指導をする。
- 第9～11回 考現学の発展とその成果について。昭和40年以降、考現学が再評価されはじめ、生活学、現代風俗学、文化人類学諸学の中で活用されて来た。現代都市生活者の暮らし方、その中から生まれた現代文化を読み取る方法を紹介し、その知的好奇心を抱くようにする。
- 第12～13回 各自で行なった観察・記録採集の報告。

【評価方法】

出席状況と報告書の内容によって評価する。

【参考文献・資料】

生活学の方法（川添 登・岡本信也ほか共著 光生館）
考現学・今和次郎集1（ドメス出版）
路上観察学入門（赤瀬川原平ほか共著 筑摩書房）
万物観察記（岡本信也・岡本靖子著 情報センター出版）
今和次郎・その考現学（川添 登・リプロボート）

現代文化Ⅲ（芸能文化）

村上雅子

【授業の概要】

1980年代、90年代を象徴すると思われる芸能界のタレントや特徴的現象を題材として、現代日本における芸能文化の浸透とその影響の実態を学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 テレビ局の仕組み——民放キー局の組織構成から外部の番組制作プロダクションとの関係まで全体構図を把握
- 第2講 ドラマの仕掛け人たち（1）——制作現場スタッフたちの具体的な仕事内容
- 第3講 ドラマの仕掛け人たち（2）——80年代から現在までのテレビを支えてきたプロデューサー・ディレクターたち
- 第4講 テレビマーケティングの要「視聴率」の意味するところ
- 第5講 テレビ番組の変遷（1）——お笑いバラエティ篇
- 第6講 テレビ番組の変遷（2）——ホームドラマ篇
- 第7講 テレビ番組の変遷（3）——2時間ドラマ篇
- 第8講 テレビ番組の変遷（4）——連続ドラマ篇
- 第9講 トレンディドラマの時代——トレンディドラマの台頭と衰退
- 第10講 テレビ誌誕生の背景——乱立の80年代
- 第11講 時代が求めるタレントたち——番組キャスティングのためのタレントランキングの推移
- 第12講 21世紀のテレビに与えられる課題

【評価方法】

出席状況とレポートによって評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリント配布。ビデオの視聴を予定している。

現代文化Ⅳ（宗教）

磯部 隆

【授業の概要】

現代人の心の拠り所としての宗教が抱える諸問題を、既成宗教のみならずカルトなどの新興宗教の動向なども踏まえながら、具体的に学ぶ。

【授業計画】

第一回は授業概要の具体的な説明を行いません。

第二回以降は、テキストに既して、宗教の問題を考えます。本年度はとくに儒教と宗教との関係について考えてみたいと思います。孔子から始まる儒教は、天という観念を中心にして独特な宗教意識をもち、民間の呪術や鬼神信仰と対立してきました。そうした伝統のもつ意味を考えたいと思います。

【評価方法】

毎回の出席状況を基本とします。

【テキスト】

孔子と古代オリエント（磯部隆著、大学教育出版）

多元文化創造原理Ⅰ（言語獲得論）

大野清幸

【授業の概要】

多角的な文化創造の基本の一つを言語理論の理解とする立場から、主として日本語と英語を対象に、「動的文法理論」や認知言語学などの成果に基づいて言語獲得の問題について学ぶ。

【授業計画】

第1講 授業計画指示など。必ず出席すること！

第2講— テキストなどを利用して演習

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

洋書。ただし、未定。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

多元文化創造原理Ⅱ（言語能力論）

宮田 Susanne

【授業の概要】

多元的な文化創造の基本の一つを言語理論の理解とする立場から、人間固有の性質である体系としての言語の使用にはどのような特徴があるのかについて学ぶ。特に、子供の言語獲得と大人の第2言語習得の事例を取り上げ、人間が生得的に持つ言語能力の本質を学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 言語の本能；子どもはなぜしゃべり出すか
- 第2回 言語における創造性
- 第3回 言語能力対言語運用
- 第4回 言語の価値：「言語経済学」
- 第5回 普遍性；パラメータ
- 第6回 臨界期；ビジン・クレオール
- 第7回 機能主義
- 第8回 コネクションイズム
- 第9回 テストケースである言語獲得：初期文法
- 第10回 テストケースである言語獲得：初期語彙
- 第11回 テストケースである言語獲得：初期会話
- 第12回 言語能力論：まとめ

【評価方法】

講義ノート；宿題；小テスト

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

なし

多元文化創造原理Ⅲ（生成文法論）

中郷 慶

【授業の概要】

多元的な文化創造の基本の一つを言語理論の理解とする立場から、英語のさまざまな構文を生成文法理論に基づき考察し、統語構造の特徴や規則性を学ぶ。

【授業計画】

生成文法理論は、人間の言語能力の 解明を目標とし、英語学・言語学を学ぶ学生だけではなく、英語や言語一般に関心を持つ者が一度は必ず触れておかなければならない理論である。この授業では、生成文法理論の中で、いわゆる 統率 束縛 理論 (government and binding theory: GB理論) として知られている文法理論についての理解を深め、自然言語の普遍性を探っていく。主に扱うトピックは以下のとおりである。

1. 統語論とは
2. 生成文法の目標と枠組み
3. 普遍文法と個別文法
4. 文構造の規則性と Xバー理論
5. 変形と移動
6. 統率と束縛

【評価方法】

出席状況、レポート、定期試験の成績により、総合的に評価する。

【テキスト】

現代の英文法：新しい文法理論へのいざない
(齋藤興雄、佐藤 寧、佐藤裕美共著 金星堂)

英語表現法 I (通訳 1)

中村幸子

【授業の概要】

スラッシュ・リーディングやノートテイキングなどの通訳基礎技能を中心に、英語表現法を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

通訳者養成のための訓練法を利用して効果的に総合的英語コミュニケーション能力を向上させることを授業の目的とする。

通訳とは、話された内容をまず自分が理解し、咀嚼し、それを自分の言葉で第三者に伝えることであり、何よりも正確な理解力が求められるとともに、情報を正確にかつ聞き手にとってわかりやすく聞きやすい形で訳さなければならない。さらに、通訳はコミュニケーションを成立させることである、との観点から、柔軟な英語表現力を養うことも重視する。

国内・世界の情報を通訳訓練のトピックとしてリアルタイムで採用するため、固定テキストは使用せず、授業内で随時指示していく。語彙の定着をはかるため毎授業で小テストを行う。

- 第1回 通訳訓練法の概要
- 第2回～4回 リーディングを中心とした訳出演習
- 第5回～8回 リスニングを中心とした訳出演習
- 第9回～11回 応用
- 第12回 まとめ

【評価方法】

出席状況、受講態度、小テスト、単位認定試験の成績などを総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

英語表現法 I (通訳 1)

難波豊子

【授業の概要】

スラッシュ・リーディングやノートテイキングなどの通訳基礎技能を中心に、英語表現法を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

日本語を英語に訳すには、それに見合う英語の表現力が必要である。英文を読み、聞き、英文の構成に慣れ、語彙をインプットすることを目的とした口頭練習を中心に授業を行う。

第1～5回 通訳の為の勉強方法概略紹介

- ・シャドーイング(フォロー):
テープから聞こえて来る英文を、継続的に口頭でリピートすることにより、集中力を高める。
- ・リプロダクション:
聞いた英文を、もう一度言い直す事により、頭の記憶維持力を高める。
- ・基本的な会話文を反復練習し、日英置き換え練習を行う。

第6～9回 長文練習

- ・英文スラッシュ・リーディング:
情報を頭からまとめ、構文把握及び内容理解を正確にする。
- ・クイック・レスポンスによる語彙力強化。
- ・聞き手に伝わり易い日本語を考える。

第10～12回 リーディング、リスニングを通しての訳出演習。

【評価方法】

日常の授業態度、宿題に対する姿勢、授業中に行う小テスト、単位認定試験などにより、総合的に評価。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

英語表現法Ⅱ（通訳2）

中村幸子

【授業の概要】

シャドーイングや逐次通訳などの通訳基本技能を中心に、英語表現法を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

通訳者養成のための訓練法を利用して効果的に総合的英語コミュニケーション能力をさらに向上させることを目的とする。

授業では、リポート練習（同時・逐次）、センテンス通訳、サイトトランスレーション、ノートテイキング等の基本技能訓練を行い、一般的内容の逐次通訳に取り組む。またビジネスの場で必要とされる日英双方の商談・交渉通訳の基本についても学んでいく。

内外の最新情報を通訳訓練のトピックとしてリアルタイムで採用するため、固定テキストは使用せず、授業内で随時指示していく。語彙の定着をはかるため、毎授業で小テストを行う。

第1回	概要説明
第2回～3回	基礎的訓練
第4回～6回	英日通訳法
第7回～9回	日英通訳法
第10回	グループ内プレゼンテーション
第11回	クラス内プレゼンテーション
第12回	まとめ

【評価方法】

出席状況、受講態度、小テスト、単位認定試験の成績などを総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

英語表現法Ⅱ（通訳2）

難波豊子

【授業の概要】

シャドーイングや逐次通訳などの通訳基本技能を中心に、英語表現法を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

通訳とは単に言葉の置き換えではない。よく聞いて話し手の意図を理解し、分かりやすい表現を使って別の言語で聞き手に伝える、という使命が与えられている。その為には、話し手の言葉を聞く態度、表現力強化、そして明確に話す習慣が最低限不可欠である。期間中出来るだけ多くの通訳練習を行いたい。

- 第1～6回 英語表現法Ⅰで学習したスラッシュ・リーディング、シャドーイング、リプロダクション、ディクテーションなどの基礎訓練を基に、簡潔な文章で訳出練習を行う。ダイアログ形式で、適宜ロールプレイも導入し、訳出表現、通訳のタイミングを検討。
- 第7～10回 身近な話題を取り上げ、日本を英語で紹介する表現を学習する。
- 第11～12回 総まとめとしてスピーチ形式で通訳逐次習を行う。

【評価方法】

日常の授業態度、宿題に対する姿勢、授業中に行う小テスト、単位認定試験などにより、総合的に評価。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

英語表現法Ⅲ (プレゼンテーション)

ベヴァリー・F. M. カレン

【Course Content】

プレゼンテーション技能を中心に、英語表現法を演習形式で学ぶ。

【Schedule】

The class will focus on the key features of an effective oral presentation: brevity, interest, clarity, persuasive power, and speaker confidence.

Week 1

Introduction

Week 2

Self Introductions

Weeks 3 - 4

Interesting Storytelling

Weeks 5 - 6

Explaining Effectively

Weeks 7 - 8

Presenting Your Opinion Persuasively

Weeks 9 - 11

Free Topic

Week 12

Reflection

【Assessment】

Student assessment is ongoing, and based on effort and attendance, as well as the preparation and delivery of oral presentations in class.

【Textbooks】

No text is required.

英語表現法Ⅲ (プレゼンテーション)

ミカ・トフ

【Course Content】

プレゼンテーション技能を中心に、英語表現法を演習形式で学ぶ。

【Schedule】

In this course, students will learn to make presentations on a variety of topics focusing on their interest, clarity and persuasive power. Topics will include 1) self introductions; 2) stories; 3) explanations; 4) opinions; and 5) subjects of the student's research and personal interest. Time will be spent on presentation practice and delivery to increase confidence and establish rapport with the audience.

Students will be encouraged to use visual aids, and learn how to use presentation software.

【Assessment】

Assessment will be based on the content of the presentation made by the student, and on the amount of work a student puts into preparing the presentation.

多元文化講読演習

稲生幹雄

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

〈文化現象としてのシェイクスピア〉というテーマを設定し、セミナー形式による研究活動を、今期のこの授業からスタートさせる。このテーマは、多様な展開の可能性を持っている。各自が、自分の興味のある方向や、焦点を合わせたいと思う対象を自由に選定できるようになることを目標に、いろいろな知識を身につけてゆこう。今期は特に、シェイクスピアの作品の鑑賞や分析の基本的・具体的な方法や、ルネッサンス文化の理解に関わる基礎的な知識を学んでゆく。毎時間の授業は、下記の(1)～(3)を組み合わせたかたちで展開してゆく予定。

- (1) [テキスト]の項に記した3つの作品を中心に、ビデオなどの視聴覚教材も参考にしながら、シェイクスピアのドラマを分析・鑑賞して、印象的な場面や、記憶に残る台詞を、各自が探してゆく。
- (2) 注釈書の解説や、参考書籍にも目を通し、授業で学んだ基礎的な知識にもとづいて、かたよりのない見方をする目を養ってゆく。順次、英国ルネッサンスの種々相や、英国の歴史・文化・文学思潮・批評史なども視野に入れて、考察をすすめる。
- (3) 上記の(1)と(2)で各自が得た成果や感想を、発表やディスカッションを通じて、深めてゆく。

【評価方法】

平常の活動（分析レポートやミニ・エッセイなどを含む）と出席状況・受講状況などを総合して評価する。

【テキスト】

シェイクスピア：お気に召すまま、十二夜、リア王（いずれも小田島雄志訳・白水Uブックス版 白水社）

【参考文献・資料】

授業の中で順次指示します。

多元文化講読演習

榎田勝利

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

グローバル化に伴い、日本の国際交流・国際協力の新たな理念と戦略が求められている。アジア太平洋地域を視野に入れた様々なアクター（政府、自治体、企業、国際NPO、NGO等）における国際交流・国際協力の総合的な戦略づくりのための理念学習と国内でのフィールドワークを実施する。学生各自で調査研究テーマを決め、報告書を作成し発表する。

【評価方法】

授業への参加態度とレポートで総合的に評価する

【テキスト】

国際交流入門（榎田勝利監修 アルク）
国際協力（下村・辻・稲田・深川共著 有斐閣）

【参考文献・資料】

国際文化論（平野健一郎 東京大学出版会）
自治体の国際政策（松下圭一 学陽書房）
国際開発学と人間（渡辺利夫 三五館）

多元文化講読演習

大野清幸

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

言語獲得の問題をテーマとし、言語学や言語心理学など多領域にわたる最新情報の文献を講読する。

【授業計画】

- 第1講 授業計画指示など。必ず出席すること！
- 第2講— 論文などを利用して演習

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

授業において、指示する。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

多元文化講読演習

ベヴァリー・F. M. カレン

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

This class will look at translation in terms of language, culture, and media. Students will have the chance to work on making a literary translation and subtitles for a short film.

- 第1回 紹介
- 第2 翻訳と文化の関係
- 第3-6 翻訳：(小説)
- 第7-10 字幕翻訳：(映画)
- 第11-12 レポート

【評価方法】

授業中の参加度、グループ・プロジェクト

【テキスト】

なし

多元文化講読演習

杉本一直

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

さまざまな国の短編小説を講読し解釈することを通して、批評理論の基礎を学ぶ。また、それぞれの作品の文化的背景を考察することで、比較文化の視点をも解釈の要素にくわえていく。アメリカ、アルゼンチン、ロシア、チェコ、フランス、イタリア、ポーランド、アイルランドなどの国々の作品を取り上げる予定。

【評価方法】

授業態度とレポートによる。

【テキスト】

プリント配布。

多元文化講読演習

中郷 慶

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

最新の生成文法理論を学ぶために専門書の講読を行い、理論の枠組みの理解につとめながら、学生指導を行う。

【授業計画】

生成文法理論の入門書をテキストとして、いわゆる統率束縛理論 (government and binding theory: G B 理論) として知られている文法理論のアウトラインを体系的に学ぶ。主に扱う内容は、以下のとおりである。

1. X⁰理論
2. α 移動
3. 統率理論と障壁
4. 束縛理論
5. 構文研究

オーラルレポートによって輪読していくので、受講生は担当箇所についての入念な準備が必要となる。

この授業を通して、本の読み方、参考文献の調べ方、分かりやすい発表の仕方などを学ぶ。

【評価方法】

出席状況、レポート、定期試験の成績により、総合的に評価する。

【テキスト】

Cowper, E. A. (1992) *A Concise Introduction to Syntactic Theory — The Government-Binding Approach*, The University of Chicago Press.

【参考文献・資料】

生成文法用語辞典 (安藤貞雄、小野隆敬著 大修館書店)
チョムスキー理論辞典 (原口庄輔、中村 捷 (編)、研究社出版)

英語学用語辞典 (荒木一雄 (編)、三省堂)

多元文化講読演習

平林美都子

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

表象文化論Ⅰ

「表象」＝描写する、象徴するということは言語によって表現されるものだけではなく歪曲されたり省略されたり、表現「しえなかった」言語も含む。それは文字を使った文学だけでなく、視覚イメージから構成される絵画や映画も対象となる。表象されたものは時代の政治的・経済的・社会的影響を受けつつ、逆に制度変革の可能性をも孕んでいる。本授業では、文化の受容者である私たちの思考形式／内容を支配するこうした文化装置を、批判的に分析していくことを学ぶ。

テーマ：「女」の表象。

19世紀の英国の文学作品や絵画から、「隠遁する女」「死んだ女」「眠る女」「救出される女」などさまざまな「女」の表象がどのように形成されていったのかを考える。またそうした表象がいかに権力と結びついていたのかを分析する。

- ・「家庭の天使」
- ・「死んだ女の肖像画」
- ・「ピグマリオン」
- ・「水死した女」
- ・「新しい女」など

【評価方法】

出席状況、授業への積極的な参加、レポートによる総合評価。

【テキスト】

授業内にて指示する。

多元文化講読演習

皆川修吾

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

国際政策の意思決定過程と外交プロセスに関する文献を講読し、諸問題を分析する理論的枠組みを修得する。前期の前半は政治制度：選挙制、大統領制、議院内閣制などに関する文献を講読し、前期の後半は現代日本の国際政策に関する文献を講読するが、演習時間ごとに報告者とテーマを定め、議論しあいながら理解を深めていく。

【評価方法】

授業内で指示する

【テキスト】

比較政治学（ジョヴァンニ・サルトーリ 早稲田大学出版部）

現代日本の国際政策（渡辺昭夫 有斐閣選書）

国際紛争（ジョセフ・S・ナイ 有斐閣）

多元文化講読演習

宮田 Susanne

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

子供の言語獲得、母親の言語、日本語第2言語習得、会話分析（第1、第2言語話者）に関する先行文献を中心に講読し、索引の使用法、図の見方、結果と解釈の見分け方などを学ぶ。

【授業計画】

言語データベースを利用し、データの作り方および解析プログラムの使い方を実習する。

第1-3回 講読1（分野の紹介；英語）

第4-6回 CHILDESシステムの紹介：CHAT入力フォーマット；CLANコマンドとオプション（コンピュータ実習）

第7-9回 講読2（CHILDESの研究例；英語）

第10-12回 講読3（言語獲得論；日本語及び英語）

【評価方法】

課題

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

MacWhinney, B. 2000. *The CHILDES Project: Tools for analyzing talk. Third Edition.* Mahwah, N.J.: Lawrence Erlbaum Associates.

Oshima-Takane, Y., B. MacWhinney, H. Sirai, S. Miyata & N. Naka (eds). 1998. *CHILDES Manual for Japanese.* (2nd ed.). The JCHAT Project. Nagoya: Chukyo University.

Sokolov, J. L. & C. Snow (eds.) *Handbook of Research in Language Development Using CHILDES.* Mahwah, N. J. : Lawrence Erlbaum Associates.

多元文化講読演習

曹 述變

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

古代以来日本と特に密接な交流があった朝鮮半島。その朝鮮の歴史と文化、人々の生活様式とその背景を理解しその国の魅力を知ると同時に、日本史や日本文化をよりよく知るための基盤を固めるために、関連する資料を講読しながら朝鮮文化を一つの偉大な異文化として見つめる作業を行う。

第1回-第4回：朝鮮半島の自然環境と韓国・朝鮮人の生活

第5回-第8回：韓国・朝鮮の民族と文化の源流

第9回-第12回：韓国文化と日本文化

第13回-第14回：伝統と現代のさなかで

第15回：まとめ

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、単位認定試験の成績などにより総合的に評価する。時にレポートあり。

【テキスト】

授業中のプリント教材を用いる。

多元文化特殊演習

稲生幹雄

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「多元文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

この授業は、前期の「多元文化講読演習」からの発展である。「ゼミ」が、いわば第2段階を迎えるわけである。前期の「講読演習」で自分が身につけた基礎知識にもとづいて、〈文化現象としてのシェイクスピア〉というゼミ・テーマの持つ、多様な可能性を実感しよう。どの対象に焦点を絞り、どのような角度からその対象を掘り下げてゆくと、自分の論考をしっかりと展開できそうか？——という問を各自が心の中であたためながら、さらに学習をすすめてゆこう。毎週の授業では、

- (1) 下の[テキスト]の項に記してある作品を中心に、前期の「講読演習」のときに実践したアプローチをさらに深化させる。例えば、400年前のロンドンの舞台での演出法を視野に取めた台詞の鑑賞法をマスターするなど、多様な鑑賞・解釈の可能性を探ろう。そして、
- (2) 「講読演習」の(2)でスタートした、広いバックグラウンドに関わる学習も、継続して行ない、
- (3) 上記の(1)と(2)で各自が得た成果や感想を、発表やディスカッション、および鑑賞レポートの作成などを通して高めながら、批評眼を磨いてゆこう。

【評価方法】

平常の活動（鑑賞レポートなどの提出物を含む）と出席状況・受講状況を総合して評価する。

【テキスト】

大修館シェイクスピア双書：十二夜（安西徹雄編注 大修館書店）

【参考文献・資料】

授業の中で随時指示します。

多元文化特殊演習

榎田勝利

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「多元文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

グローバル化に伴い、日本の国際交流・国際協力の新たな理念と戦略が求められている。アジア太平洋地域を視野に入れた様々なアクター（政府、自治体、企業、国際NPO、NGO等）における国際交流・国際協力の総合的な戦略づくりのための理念学習と海外におけるフィールドワークを実施する。本年度は東南アジア・タイでのフィールドワークを実施する予定である。学生各自あるいはチームで調査研究テーマを決め、報告書を作成し発表する。

タイでのフィールドワークは、全員参加を原則とする。

【評価方法】

授業への参加態度とレポートで総合的に評価する

【参考文献・資料】

アジアのNPO（GAP国際公益活動研究会 アルク）
 アジア太平洋のNGO（日本国際交流センター編 アルク）
 もっと知りたいタイ（綾部恒雄・石井米雄編 弘文堂）
 アジア読本・タイ（小野澤正喜編 河出書房新社）
 国際協力のフィールドワーク（庄野 護 南船北馬舎）
 アジア・共生・NGO・タイ、カンボジア、ラオス 国際教育協力の現場から（曹洞宗国際ボランティア会編 明石書店）

多元文化特殊演習

大野清幸

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「多元文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

主としてCHILDESシステムを応用した演習授業を進めていく。

【授業計画】

- 第1講 授業計画指示など。必ず出席すること！
- 第2講一 論文などを利用して演習

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

授業において、指示する。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

多元文化特殊演習

ベヴァリー・F. M. カレン

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「多元文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

この授業では、異文化、とくにカナダやオーストラリアの文化を扱う。担当教員の専門分野は、カナダとオーストラリアの文学や映画および、言語・文化・メディアのトランスレーション（翻訳）である。

この授業を受講する学生は、それぞれが文化に関するあるトピックを選択して、担当教員の指導のもとに、インターネットなどを活用して資料を収集し、レポートを作成する。担当教員からの指導は行うが、学生は各自でスケジュールを立て、自ら進んで研究を進め、メールで定期的に進行状況を報告しなければならない。

【評価方法】

授業における参加度およびレポートによって評価する。

多元文化特殊演習

杉本一直

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「多元文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

批評理論をより深く学ぶため、ロシア・フォルマリズムとその後の批評体系を学ぶ。それと同時に各自の興味あるテーマに基づいて研究発表をおこなう。

【評価方法】

授業態度、研究発表およびレポートによる。

【テキスト】

プリント配布。

多元文化特殊演習

中郷 慶

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「多元文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

言語を生成文法理論で分析するための理論を深く学ぶとともに、コーパスを用いた言語資料の分析についても学び、自己選択のテーマに向けての学生指導を行う。

【授業計画】

学生が興味を持った言語に関するテーマについて発表をするレポート形式と、受講生全員が共通の論文を読み進めていく輪読形式を交互に行う。各自が、研究テーマを設定していくことが大きな目標である。

コンピュータを用いたコーパス分析の方法も指導する。受講生は、各自の分析結果もレポートする。

【評価方法】

出席状況、レポートなどにより、総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

多元文化特殊演習

平林美都子

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「多元文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

表象文化論2

「表象」＝描写する、象徴するという事は言語によって表現されるものだけではなく歪曲されたり省略されたり、表現「しえなかった」言語も含む。それは文字を使った文学だけでなく、視覚イメージから構成される絵画や映画も対象となる。表象されたものは時代の政治的・経済的・社会的影響を受けつつ、逆に制度変革の可能性をも孕んでいる。本授業では、文化の受容者である私たちの思考形式／内容を支配するこうした文化装置を、批判的に分析していくことを学ぶ。

テーマ：英米文化における「母性」。

母性という制度がどのように誕生し、時代とともにどう変遷したのかを考えながら、文学作品や映画からその「表象」を分析する。

- ・「母性神話」
- ・「母性の概念の誕生」
- ・「母娘の葛藤」
- ・「母性とテクノロジー」
- ・「母とフェミニズム」
- ・「母性理論」

【評価方法】

出席状況、授業への積極的な参加、レポートによる総合評価。

【テキスト】

授業内に指示する。

多元文化特殊演習

皆川修吾

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「多元文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

研究テーマ選択の準備として、国際政策に関する先行研究、資料収集、分析手法、起承転結の仕方について学び、演習で具体化する。演習時間ごとに報告者とテーマを定め、議論しあいながら理解を深めていく。

【評価方法】

授業内で指示する

多元文化特殊演習

宮田 Susanne

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「多元文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

「多元文化講読演習」で学んだ子供の言語獲得、母親の言語、日本語第2言語習得、会話分析（第1、第2言語話者）に関する先行研究を踏まえ、学生自身が問題を選択できるよう指導する。

【授業計画】

CHILDES 言語データベースのデータおよび解析プログラムを使い、子供の言語獲得、母親の言語、日本語第2言語習得、会話分析、異文化コミュニケーションの研究に利用する。選択した領域に関してデータベース利用マニュアルをまとめ、利用者にやさしい形にする（デスクトップパブリッシング）。

第1－2回 JCHAT（日本語）マニュアル紹介

第3－6回 講読4（言語獲得論）；各種プログラムの実習

第7－12回 講読5（言語獲得論）

【評価方法】

課題

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

MacWhinney, B. 2000. *The CHILDES Project: Tools for analyzing talk. Third Edition.* Mahwah, N.J.: Lawrence Erlbaum Associates.

Oshima-Takane, Y., B. MacWhinney, H. Sirai, S. Miyata, N. Naka (eds). 1998. *CHILDES Manual for Japanese.* (2nd ed.). The JCHAT Project. Nagoya: Chukyo University.

多元文化特殊演習

曹 述燮

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「多元文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

一つの異文化として見つめた朝鮮文化の枠を広げ、朝鮮と日本文化の交流、朝鮮と中国文化の交流に留意して、東アジア文化の全体像と固体像を探っていく作業を行う。

第1回－第4回：文化に主流、亜流の分別は可能であるか。

第5回－第8回：21Cの中国

第9回－第12回：中国文化の探索、ベトナムの様子

第13回－第14回：日韓関係と日中関係、中韓関係

第15回：まとめ

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、単位認定試験の成績などにより総合的に評価する。時にレポートあり。

【テキスト】

授業中のプリント教材を用いる。

多元文化研究 I

稲生幹雄

【授業の概要】

「多元文化講読演習」「多元文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

3年次の「多元文化講読演習」と「多元文化特殊演習」に続いて、“ゼミ”がいわば第3段階を迎えることとなる。この「多元文化研究I」では、3年次での授業内容からの発展として、

- (1) 作品そのものの分析・鑑賞・評価に直接関わる批評技術や方法論をさらに深化させてゆくと同時に、
- (2) 広義の〈バックグラウンド〉に関わる多様な事象を捉える視界をさらに拡げて、〈文化現象としてのシェイクスピア〉の多岐にわたる論点を、視野の中にしっかりと位置づけるよう心がけてゆく。

また、これと平行して今学期は、各自が自分のいままでの研究活動にもとづいて、〈研究テーマ〉を絞り込んでゆくことにも着手しよう。早目早目に考察を積み重ねていって、各自のテーマに、具体的な〈輪郭〉を与えてゆこう。

【評価方法】

レポート等の提出物の得点と、出席状況・受講状況などを総合して評価する。

【テキスト】

授業の中で指示します。

【参考文献・資料】

授業の中で随時指示します。

多元文化研究 I

榎田勝利

【授業の概要】

「多元文化講読演習」「多元文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

個別の研究テーマを決定するための数回にわたるガイダンスと個別面談を行う。

研究テーマの決定過程で、学生による個別研究テーマの発表と討論を行う。

個別の研究テーマを指導する上で、情報収集の方法、調査訪問先やフィールドワーク先等を指導する。

その都度学生からはフィードバックの時間を設け指導する。

【評価方法】

平常点と研究テーマのレポートにより評価する。

多元文化研究 I

大野清幸

【授業の概要】

「多元文化講読演習」「多元文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

- 第1講 授業計画指示など。必ず出席すること！
- 第2講～ 論文などを利用して演習

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

授業において指示する。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいてください。

多元文化研究 I

ベヴァリー・F. M. カレン

【授業の概要】

「多元文化講読演習」「多元文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

- 第1回 紹介
- 2・3 テーマ
- 4・5 研究の計画をたてる
- 6 インタビュー
- 7・10 研究中
- 11 Progress Report
- 12 インタビュー

【評価方法】

研究の成果とその過程を評価の対象にする

【テキスト】

なし

多元文化研究Ⅰ

久野幸子

【授業の概要】

「多元文化講読演習」「多元文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

第1-4回

イギリスにおけるユートピア文学に加え、ヨーロッパにおけるユートピア文学についても概略を学ぶ。

第5-12回 個別指導と個別発表

第13-14回 個別指導

個人発表の機会をできるだけ多く提供する。

【評価方法】

平常点（出席、受講・発表態度など）とレポート、期末の筆記試験などで総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

多元文化研究Ⅰ

杉本一直

【授業の概要】

「多元文化講読演習」「多元文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

文学、映画、バレエ、音楽、絵画などの分野から、各自の研究テーマを設定し、専門的知識を深める。授業では、研究方法や論文作成の指導を行なうとともに、学生の研究発表をおこなう。

【評価方法】

研究発表および研究ノート提出

【テキスト】

なし

多元文化研究Ⅰ

中郷 慶

【授業の概要】

「多元文化講読演習」「多元文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

学生が各自で設定した言語に関するテーマについて、先行研究の分析にとどまらず、オリジナルな研究を進める。授業で毎時間行う研究発表に対する質問やコメントなどを通じて、ものごとを批判的・創造的にとらえる視点を養う。この授業が終了するまでに、卒業研究レポートの中間発表ができるようになるまでに研究を進めておくことを目標とする。

このほか、受講生全員が共通の論文（和文・英文）を輪読形式で読み進めていき、言語学的な思考方法を学ぶ。

【評価方法】

出席状況、レポートなどにより、総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

多元文化研究Ⅰ

中島美幸

【授業の概要】

「多元文化講読演習」「多元文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

各自の関心にそって研究テーマを探究するとともに、研究成果を発表する。それに基づいて参加者全員で討論しながら授業をすすめる。

【評価方法】

出席状況や授業への参加態度、ならびにレジュメ内容やレポートなどにより評価。

【テキスト】

授業において指示する。

多元文化研究 I

平林美都子

【授業の概要】

「多元文化講読演習」「多元文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

「表象研究」

前年次に引き続いて、社会文化現象としての「表象」について学ぶ。今年度は、共通の批評文献を輪読しつつ、各自が選択した英語圏文学・映画作品における表象のテーマをリサーチし、授業内で発表していく。

【評価方法】

出席状況、受講態度、討論への参加態度、リサーチの取り組みなどを総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

多元文化研究 I

皆川修吾

【授業の概要】

「多元文化講読演習」「多元文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

テクノロジーの普及、環境の破壊、人口の移動、政治の分解、経済の統合などが相互に影響しあい、国際社会に質的にも量的にも大きな変容をもたらしている。これら国際社会変容が国際秩序に与える影響について、各自テーマを設定し、研究方法について討議し、研究活動をする。

【評価方法】

テーマ設定や研究方法についての予備調査と学習内容につき評価する。

多元文化研究 I

宮田 Susanne

【授業の概要】

「多元文化講読演習」「多元文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

日本語の文法獲得・習得に関する各自の研究課題を決め、主な先行文献をまとめた上、仮説を立てる。適切な調査法（年齢層、観察か実験か、など）を用いて、各自で結果を出す。仮説の枠で解釈する。レポート形式でまとめる。

- 第1-3回 先行文献の収集とまとめ；発表
- 第4-7回 仮説と調査法の決定；データ収集
- 第8回以降 論文作成

多元文化研究 I

曹 述燮

【授業の概要】

「多元文化講読演習」「多元文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

卒業論文の個人テーマ別発表。その発表内容を中心に討論する。

- 第1回：テーマ選定の確認
期間授業のコーディネート
- 第2回～第6回：個人発表と討論
- 第7回：中間まとめ
- 第8回～第12回：個人発表と討論
- 第13・14回：フィールド学習
- 第15回：総合まとめ

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況などにより総合的に評価する。随時レポートあり。

【テキスト】

必要に応じてプリント教材を用いる。

多元文化研究Ⅱ

稲生幹雄

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

今学期のこの科目で、2年間にわたる“ゼミ”がいよいよ最終段階を迎えることとなる。この段階でのわれわれの目標は、〈卒業研究レポート〉の完成である。「多元文化講読演習」から「多元文化特殊演習」へ、そしてさらに「多元文化研究Ⅰ」へと、その範囲を徐々に拡げてきたわれわれの視界には、その地平に〈歴史〉と〈未来〉とを包含するような、かなりの広がりとかかなりの奥行きとを兼ね備えるパノラマ的なヴィジョンが見えるようになった。このヴィジョンの中で、各自が精一杯に、論考を展開してゆこう。原稿の完成に至るまでには、いくつかの段階と種々のチェック・ポイントを経ることが必要だから、前期と同様に“早目早目”をモットーとして、余裕のある原稿づくりを心がけよう。時間とエネルギーの適切な配分が、大切なのである。

【評価方法】

〈卒業研究レポート〉をはじめ、学期途中の小レポートなどをも含めた得点と、出席状況・受講状況などを総合して評価する。

【テキスト】

授業の中で指示します。

【参考文献・資料】

授業の中で随時指示します。

多元文化研究Ⅱ

榎田勝利

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

卒業研究レポート（卒業論文またはフィールドワーク調査・報告書）を作成する上での個別の指導を行い、卒業研究レポート提出する。

【評価方法】

卒業研究テーマをもって評価する。

多元文化研究Ⅱ

大野清幸

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

- 第1講 授業計画指示など。必ず出席すること！
- 第2講～ 論文指導

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

授業において指示する。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

多元文化研究Ⅱ

ベヴァリー・F. M. カレン

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

- 第1回 卒業レポートについて紹介
- 2 レポートの計画をたてる
- 3・5 レポートのさくせい
- 6 Report Check and Edit
- 7・10 レポートのさくせい
- 11 Final Check and Edit
- 12 卒業研究レポートを提出する

【評価方法】

レポートの内容

【テキスト】

なし

多元文化研究Ⅱ

久野幸子

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

第1-4回 講義

ジャンルとしてのユートピア文学及びユートピア文学と諷刺文学や旅行文学やサイエンス・フィクションとの関係について講義を行う。

第5-10回 個別指導と個別発表

第11-14回 個別指導

前期に引き続き、後期も、論文中間発表、論文最終発表など、個別発表の機会をできるだけ多く提供する。

【評価方法】

平常点（出席、受講態度、個別発表への参加状況）と論文により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業開始時に指示する。

多元文化研究Ⅱ

杉本一直

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

多元文化研究Ⅰにひきつづき、各自が設定した研究テーマについて発表をおこなう。また、最終的な研究成果となるレポート作成に向けて指導する。

【評価方法】

研究発表および卒業研究レポート

【テキスト】

なし

多元文化研究Ⅱ

中郷 慶

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

学生が各自で設定した言語に関するテーマについての研究を卒業研究レポートにまとめる。論旨の起承転結を考え、各章がつながるように編成して、説得力とオリジナリティのある卒業研究レポートの作成を目指す。

卒業研究レポートの作成と並行して、これまでに扱えなかった言語事象についても、討論形式で考察する。

【評価方法】

出席状況、レポートなどにより、総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

多元文化研究Ⅱ

中島美幸

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

前期に引き続き、各自の研究成果の発表と討論を進めるとともに、卒業研究レポートに向けて、論文の書き方を習得する。

【評価方法】

出席状況や授業への参加態度、ならびにレジュメ内容やレポートなどにより評価。

【テキスト】

授業において指示する。

多元文化研究Ⅱ

平林美都子

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

「表象研究」

学生各自が選択したテーマに従ってレポートを作成に従事する。授業は担当教員との個別指導が中心となる。

【評価方法】

出席状況、受講態度、討論への参加態度、リサーチの取り組みなどを総合的に評価する。

【テキスト】

とくに指示しない。

多元文化研究Ⅱ

皆川修吾

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

研究活動：問題提示、諸説の比較検討、情報収集、論点・論拠の提示、研究調査結果、成果の集約や発表などの基礎技術を習得しながら、各自のテーマ研究を完成させる。

【評価方法】

提出した卒業研究レポートが、歴史の視野とリアリズムに加えて、新たな視点・思考を発展的に提供しているかが評価の基準となる。

多元文化研究Ⅱ

宮田 Susanne

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

研究Ⅰでまとめたレポートを研究論文として完成させる。データの表示を改め、専攻文献を踏まえた考察を書く。論文にレジュメを加え、卒業研究レポートとして仕上げる。

- 第1～3回 レイアウトや図表を改善
- 第4～6回 先行文献の再読；考察の書き直し
- 第7～8回 レジュメ作成；論文を完成
- 第9回以降 ポスター発表を作成

多元文化研究Ⅱ

曹 述燮

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

卒業論文の個人テーマ別個別指導。各自の研究テーマが卒業研究レポートして完成できるように指導を行う。

- 第1回：テーマ別研究の進行状況の把握と
期間授業のコーディネート
- 第2回～第6回：討論と個人指導
- 第7回：中間まとめ
- 第8回～第12回：討論と個人指導
- 第13・14回：フィールド学習
- 第15回：総合まとめ

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況などにより総合的に評価する。随時レポートあり。

【テキスト】

必要に応じてプリント教材を用いる。

多元文化卒業プロジェクト

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」で立案し設定したテーマないしは独自に設定した当該領域のテーマを、専任教員の指導のもとに問題意識や創造的意匠を深めながら、卒業論文ないしは卒業制作として完成させる。評価は専攻の全専任教員によって行う。

【授業計画】

本授業は「多元文化研究Ⅱ」の教科担当者によって、原則的に指導される。授業内容は「多元文化研究Ⅱ」に準じ、また担当者の指示によって適宜行われる。

【評価方法】

「多元文化研究Ⅰ」で計画された研究・制作および活動を対象とし、「多元文化研究Ⅱ」での研究および制作を総合的に評価して履習単位が与えられる。

【テキスト】

担当者の指示による。

【参考文献・資料】

担当者の指示による。

環境文化専攻中心科目

環境文化基礎演習

杉浦信彦 高橋啓介 多田萬里子 棚橋昌子
永田忠夫 永田 祐 楊 衛平 若松孝司

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、環境文化研究の基礎となる文献検索法やレポート作成の基礎的な知識を学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 オリエンテーション
- 第2講 講義活用法1
- 第3講 講義活用法2
- 第4講 文献検索法1
- 第5講 文献検索法2
- 第6講 文献検索法3
- 第7講 テーマ研究演習1
- 第8講 テーマ研究演習2
- 第9講 テーマ研究演習3
- 第10講 テーマ研究演習4
- 第11講 テーマ研究演習5
- 第12講 テーマ研究演習6

なお、第7講から第12講は、各自が設定したテーマに関する文献研究を実施し、それをレポートにまとめる。

【評価方法】

出席状況、講義への取り組みおよび各自が設定したテーマに関する文献研究のレポートを総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

大学生の学習テクニック（森靖雄著 大月書店）
論文・レポートのまとめ方（古都廷治著 ちくま新書）
理科系の作文技術（木下是雄著 中公新書）

資料収集法

高橋啓介

【授業の概要】

研究資料を収集する技法として、主に、検査、実験、面接、調査の4技法の特性を学び、それらを運用する技能を身につける。

【授業計画】

本講座では、実験による心理測定の基礎的な技法を、課題研究およびグループ単位のテーマ研究を通して修得する。

演習は次のスケジュールを予定している。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2～4回 極限法1
- 第5・6回 学習実験
- 第7・8回 極限法2
- 第9回～第13回 テーマ研究
- 第14回 テーマ研究発表会（グループ単位）
- 第15回 レジメ作成

なお、進度によっては、補講を実施する。また、課題研究、テーマ研究のいずれにあっても、必要に応じて授業時間外の自主学習を課す。

【評価方法】

出席状況（10点）、課題・演習への取り組み姿勢（10点）、課題研究個人レポート（10点×3）、発表会（10点）、テーマ研究個人レポート（40点）とし、加点法により採点し、60点以上取得の場合、合格とする。

【テキスト】

心理学のための実験マニュアル
（利島保・生田秀和 北大路書房）

【参考文献・資料】

心理測定法への招待（市川伸一 サイエンス社）

資料収集法

棚橋昌子

【授業の概要】

研究資料を収集する技法として、主に、検査、実験、面接、調査の4技法の特性を学び、それらを運用する技能を身につける。

【授業計画】

官能検査法：人は5感（視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚）を使って生活している。主観的な感覚を客観的な数値として把握し、主観と測定値との関連を考察する技能を学習する。

第1回 はじめに：官能検査とは何か

第2～3回 触覚と温度
皮膚温、体温を例として

第4～5回 味覚（塩味と甘味）
塩分濃度、糖度を例として

第6～7回 聴覚
騒音を例として

第8回 測定値の解析の説明

第9～13回 テーマを決めてレポート作成

【評価方法】

レポートと受講態度の総合評価

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

官能検査ハンドブック

（日科技連官能検査委員会 日科技連出版社）

食品の官能評価・鑑別演習

（日本フードスペシャリスト協会編 建帛社）

官能検査入門

（佐藤信 日科技連出版社）

資料収集法

丹下智香子

【授業の概要】

研究資料を収集する技法として、主に、検査、実験、面接、調査の4技法の特性を学び、それらを運用する技能を身につける。

【授業計画】

以下のような流れに沿って進める。

1. 文献の収集
2. 調査テーマの決定
3. 研究仮説の設定
4. 測定尺度の作成
5. 調査票の作成
6. 調査票の印刷と製本
7. 調査の実施
8. データの入力
9. データの分析
10. 分析結果のまとめ
11. 報告書の作成
12. 研究発表

【評価方法】

出席状況（遅刻、欠席、早退の有無）、演習に対する取り組みの態度、および報告書の内容などにより評価する。

【参考文献・資料】

心理学マニュアル 質問紙法（鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤編著 北大路書房）

資料収集法

永田忠夫

【授業の概要】

研究資料を収集する技法として、主に、検査、実験、面接、調査の4技法の特性を学び、それらを運用する技能を身につける。

【授業計画】

データ収集法としての1つである面接を用いて、情報収集とその結果の整理・分析の仕方を学ぶ。

講義と実習・演習を有効に組み合わせ、「自由課題における面接法を用いた研究」を実施する。

1. 講義内容

- 1) 面接法について
- 2) 調査面接について（面接計画と評定法）
- 3) 量的データ処理（統計的手法）について
- 4) インタビュー計画および面接調査の心得について
- 5) 質的データの収集と整理方法について（プレインタビュー・逐語録・KJ法など）
- 6) レポートおよびレジュメの書き方

2. 実習および演習

自由課題：面接法を用いて明らかにしようとするテーマの決定／面接計画：課題を解決するためにどんな面接をすれば必要な情報が得られるか（誰にどのようなことをどのように尋ねたらよいか）の検討／インタビューや面接調査の準備／実施／被面接者から得られた情報（質的データや量的データ）の整理・まとめ／レポートおよびレジュメの作成

【評価方法】

課題への取り組みに対する態度、個人・グループレポート等により評価する。欠席・遅刻・早退や課題への消極的な態度など授業への関与の薄さは、この授業のグループ活動の進行を著しく困難にするので、単位授与の重要な判断材料とする。

資料分析法入門

西和久

【授業の概要】

収集した資料を適切に集計・分析し、そこに含まれる複雑な情報を解析する方法を学び、正しく解釈・推論する能力を身につける。

【授業計画】

- | | |
|------|------------------|
| 第1講 | イントロダクション |
| 第2講 | データの種類と処理、その入力方法 |
| 第3講 | 基本統計量と区間推定 |
| 第4講 | 2つの母平均の差の検定 |
| 第5講 | 対応のある2つの母平均の差の検定 |
| 第6講 | ウィルコクソンの順位和検定 |
| 第7講 | ウィルコクソンの符号付順位検定 |
| 第8講 | 1元配置の分散分析と多重比較 |
| 第9講 | 反復測定による1元配置の分散分析 |
| 第10講 | 2元配置の分散分析 |
| 第11講 | 繰り返しのない2元配置の分散分析 |
| 第12講 | 2つの母比率の差の検定 |

【評価方法】

出席状況・平常点・課題等により総合的に評価する。

【テキスト】

SPSSによる統計処理の手順 第3版
（石村貞夫著 東京図書）

【参考文献・資料】

すぐわかるSPSSによるアンケートの調査・集計・解析
（内田治著 東京図書）

SPSSによる分散分析と多重比較の手順
（石村貞夫著 東京図書）

環境文化創造Ⅱ（国際開発）

高木裕宜

【授業の概要】

多様な環境問題を解決し、地球規模での人間性豊かな生活文化を創造する上で必要性が高まる国際協力の問題を、主に国際開発の観点から学ぶ。

【授業計画】

はじめに一講義概要及び計画についてのガイダンス

国際開発とは？ 受講に関するアンケート

I 国際開発における諸問題

人口増加と所得分配の不平等

南北の経済格差の構造

国際関係のなかでの経済社会開発

II 開発政策の展開 1—東アジアの経済社会開発のケース

植民地経営から発展途上国の独立まで

農業化と工業化—農地改革と労働移動

輸入代替工業化・輸出指向工業化政策

III 開発政策の展開 2—国際開発における日本の役割

日本の経済社会開発とアジア

政府開発援助(ODA)と発展途上国の開発

日本の海外直接投資と経済社会開発

IV 国際開発と文化

宗教文化と経済発展—儒教倫理他 多国籍企業文化
おわりに

まとめ 今後の課題 単位認定試験

【評価方法】

受講においては、関連する情報に目を配り、自分で学び、考えることが基本姿勢として求められる。そこで評価については、受講者が自主的に思考する姿勢を問うことを目的とする。点数配分としては、出席・ミニットペーパー等の授業参加（40%）、試験（60%）とし、普段の受講姿勢から筆記試験まで総合的に評価を加える。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。

【参考文献・資料】

授業中に使用している参考文献や資料については適宜紹介する予定。

環境文化創造Ⅲ（環境デザイン）

渡辺 達

【授業の概要】

現代人にとって、より快適な生活環境を創出するために、環境をどのようにデザインし、コーディネートしてゆくことが好ましいかについて学ぶ。

【授業計画】

第1回 ガイダンス、講義予定、講義概要

第2回 新しい環境計画論（横浜港大棧橋国際客船ターミナル から）

第3回 モダンデザインについて（日米のデザイナーのコラボレーション：豊田市美術館 から）

第4回 墓地のランドスケープについて（風の丘葬祭場と森の葬祭場の比較を通して）

第5回 屋上庭園について（アクロス福岡の計画案と実施設計の比較を通して）

第6回 建築に自然を取り込む取り組み（落水荘 から）

第7回 ゴミ処理場と環境デザイン（大阪市環境事業局舞洲工場）

第8回 ビオトープ概論1

第9回 ビオトープ概論2

第10回 緑の環境デザインについてのまとめ

第11回 水の環境デザインについてのまとめ

第12回 今後のデザインについて

【評価方法】

出席状況と課題レポートにより評価する。

【テキスト】

なし

講義中にプリント配布

環境文化創造Ⅳ（科学技術文明と地球環境）

河宮信郎

【授業の概要】

多様な学問分野や技術を総合して、今日の環境問題を解決してゆく方途について学ぶ。

【授業計画】

人類は科学技術を利用して社会的なエネルギー代謝、物質代謝を飛躍的に拡大して来た。この結果、自然生態系（有機的自然）および地球システム（無機的自然）を大きく変容させ、人類自身もその影響（反作用）を受けるようになった。科学技術文明の特質とその限界を明らかにし、自然環境とて調和していく道を探る。

1. 現代科学技術の特性：情報・原発・建設等
2. 社会的物質代謝：エネルギー転換と物質循環
3. 水循環と生命系：砂漠・森林・都市・耕地
4. 資源枯渇・技術開発・資源代替：歴史における技術
5. エネルギー技術の歴史的発展と資源利用
6. 酸性雨・オゾン層・土壌破壊：大気／水圏／土壌
7. 地球生態系の化学汚染：発癌物質と環境ホルモン
8. 化石燃料依存と「代替エネルギー」の問題点
9. 地球温暖化問題とその対策
10. リサイクルの意義と限界
12. 高度成長の終焉と持続可能な社会の構想

【評価方法】

授業中随時小試験を行い、知識の確認と定着を計る。また出席状況、課題提出を求めて総合的に評価する。

【テキスト】

必然の選択－地球環境と工業社会（河宮信郎著 海鳴社）
授業で配布する。

環境文化創造Ⅴ（色彩学）

高橋啓介

【授業の概要】

現代社会の生活空間を構成する1要素である視環境について、特にそれを演出する色彩について、その心理学的側面を中心に学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 光学系1
- 第2回 光学系2
- 第3回 色の表示1
- 第4回 色の表示2
- 第5回 色の表示3
- 第6回 色と分光分布1
- 第7回 色と分光分布2
- 第8回 測色1
- 第9回 測色2
- 第10回 色感覚・色知覚1
- 第11回 色感覚・色知覚2
- 第12回 色の心理効果
- 第13回 色彩調和1
- 第14回 色彩調和2
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況（15点）、授業態度（15点）、レポート課題（10点×2）、単位認定試験（50点）とし、加算法によって、60点以上を取得の場合、合格とする。

なお、必要に応じて補講を実施することがある。

レポートの提出は、原則として、学内LANを利用する。

【テキスト】

新、基本色表シリーズ
（財団法人日本色彩研究所 日本色研事業株式会社）

【参考文献・資料】

- ・入門色彩心理学（滝本孝雄・藤沢英昭 大日本図書）
- ・色彩心理学入門（大山正 中公新書）

コミュニティー環境Ⅰ（生活環境）

棚橋昌子

【授業の概要】

日常生活を取りまく物理的、社会的、心理的環境の問題について、その地域に生活する人間を主体とする視点から理解し、現代における生活の質の向上の方途について学ぶ。

【授業計画】

私たちの生活は、近代科学の発展により物質的には豊かで便利になった。その反面、資源とエネルギーの消費は膨大なものになり、生活環境は汚染され、健康被害や人類の生存を脅かす問題もでてきた。本講では健康による生活術、地球にやさしい生活術の構築をめざす。

1. コミュニティー環境の実態
2. 健康からみた生活環境（1）
3. 健康からみた生活環境（2）
4. 環境基準の意義
5. 衣食住からみた生活環境（1）
6. 衣食住からみた生活環境（2）
7. 消費型生活から循環型生活へ（1）
8. 消費型生活から循環型生活へ（2）
9. 環境家計簿の意義
10. 地球にやさしい生活術（1）
11. 環境にやさしい生活術（2）
12. 21世紀型生活の意義
13. まとめ

【評価方法】

テストとレポートの総合評価

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

生活環境論（岩槻紀夫編 南江堂）
地球にやさしい生活術（John Seymour & Herbert Girardet、鶴田栄作訳 TBSブリタニカ）
生活環境の科学（佐島群巳、横川洋子編著、学文社）

コミュニティー環境Ⅱ（地域環境）

杉浦淳吉

【授業の概要】

コミュニティーとしての地域における多様な次元での環境問題を現実的に理解し、主として地域住民の安全と健康を保全する実践的な問題解決の方途について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 社会的ジレンマとしての環境問題（1）
- 第4回 社会的ジレンマとしての環境問題（2）
- 第5回 環境配慮行動の規定因
- 第6回 環境配慮行動の普及に向けた説得的コミュニケーション
- 第7回 環境配慮行動の実行と態度形成
- 第8回 グリーンコンシューマーの普及（1）
- 第9回 グリーンコンシューマーの普及（2）
- 第10回 環境ボランティアによるリサイクルの普及
- 第11回 行政による環境政策と住民による評価
- 第12回 企業における環境対策
- 第13回 行政・企業・NPOの連携
- 第14回 大学における環境対策
- 第15回 総括

【評価方法】

出席状況（授業への積極的参加）、レポートなどにより総合的に評価

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

環境と消費の社会心理学（広瀬幸雄著 名古屋大学出版会）
快適環境の社会心理学（岩田紀編著 ナカニシヤ出版）
社会的ジレンマの仕組み（山岸俊男著 サイエンス社）
シミュレーション世界の社会心理学（広瀬幸雄編著 ナカニシヤ出版）
影響力の武器（ロバート・B・チャルディーニ著 誠信書房）

コミュニティー環境Ⅲ (民族文化)

稲村哲也

【授業の概要】

民族に固有の文化の特性を、その民族の様々な次元の環境との関係において学ぶ。

【授業計画】

関連科目の「生活民族学」では様々な民族の生活様式の多様性を知ることにより、文化の相対性を学んできたが、この授業では、特定の社会に絞り込み、環境との関わりの中での文化の諸側面をより深く理解することを目的とする。具体的には、教授者がこれまで現地調査を実施してきた、南米アンデス高地の先住民ケチュア族を主に取りあげ、まず民族誌（現地調査の記録）をしっかりと読みとり、異文化理解の視点を身につける。さらに、同じ高地環境に暮らすヒマラヤ高地の山岳民族シェルパ族やモンゴル草原の遊牧民の社会を比較材料としてとりあげながら、自然環境、生活・社会環境ないしコミュニティ環境としての家族・親族・共同体、信仰と世界観（人々が形成する内なる環境）、外部世界との関係（広い枠組みでの社会環境）などを検討しながら、一つの社会の人びとがどのように暮らし、どのような文化を持ち、どのような社会を形成し、どのように外の世界とつながり、また変化しているかを総合的に考察する。

1～3：アンデス高地の環境と古代文明

4～7：アンデス高地の人々：生業・家族・親族・コミュニティ

8～9：モンゴルやヒマラヤとの比較

10～12：コミュニティの変化と世界との繋がり

【評価方法】

授業中に適宜提出してもらうショート・レポート（平常点）及び学期末のレポートなどによる。

【テキスト】

『リヤマとアルパカーアンデスの先住民社会と牧畜文化』（稲村哲也著、花伝社）

コミュニティー環境Ⅳ (社会システム論)

山口 宏

【授業の概要】

日本の社会システムの構造的な本質と、その問題点について学ぶ。

【授業計画】

「社会システム論」などというと、とても難しそうに聞こえますが、この授業では、「システム」という見方を踏まえたうえで、内容としては、社会の身近な問題について考えていくつもりです。扱うテーマは、自己の内面や、家族・学校・企業と個人、差別など、様々です。考えるための枠組みをお話するときには、少し抽象的になるかもしれませんが、分かりやすくお話するつもりです。

第1回 社会学とシステムの考え方

第2回 現代の自己像とコミュニケーション（1）

第3回 現代の自己像とコミュニケーション（2）

第4回 身体と間身体性

第5回 宗教と現代社会

第6回 コミュニケーションシステムとしてのメディア

第7回 現代家族の諸問題

第8回 教育・学校と現代社会

第9回 労働をとりまく環境

第10回 ジェンダーと感情労働

第11回 経済と共同性

第12回 差別の論理

第13回 まとめ

流れとしては、身近なコミュニケーションの場から、だんだんと大きな制度へという感じです。

授業の流れによって、若干変わってくる場所があるかもしれませんが。

【評価方法】

試験と出席状況によります。

【参考文献・資料】

授業のなかで紹介していきますが、まず例えば『別冊宝島176 社会学・入門』（宝島社）などは読みやすいでしょう。

コミュニティ環境V (コミュニティ福祉論)

永田 祐

【授業の概要】

本講義では、日本と海外におけるさまざまなコミュニティレベルのイニシアティブの事例の紹介と検討を通じて、コミュニティレベルにおける福祉実践の理論と実際を検討することを目的とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コミュニティとは何か。
- 第3回 福祉概念の検討
- 第4回 コミュニティにおける福祉実践 (日本) I
- 第5回 コミュニティにおける福祉実践 (日本) II
- 第6回 コミュニティにおける福祉実践 (日本) III
- 第7回 グローバルコミュニティにおける福祉実践 (海外) I
- 第8回 グローバルコミュニティにおける福祉実践 (海外) II
- 第9回 グローバルコミュニティにおける福祉実践 (海外) III
- 第10回 コミュニティ福祉の理論と実際 (まとめ)
(上記に加えてゲストスピーカーを招いて実践事例の報告を考えている。)

【評価方法】

出席、レポート、数回の感想文などの提出などにより総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない。参考書は授業時に随時指示する。

環境アメニティーI (食環境)

楊 衛平

【授業の概要】

生活環境の基礎的要素のひとつである「食」について、東洋医学の側面から学ぶ。

【授業計画】

1. 伝統食生活と食文化
2. 近代食の変遷と現状
3. 栄養学と伝統の認識
4. 薬食同源の薬膳思想
5. 食物素材の五味五性
6. 春夏秋冬の変化と食
7. 生活習慣病と食関係
8. 精神的健康と食生活
9. 疾病予防の養生飲食
10. 症状別の食療と処方
11. 美容とダイエット食
12. 寒温別の食素材リスト

【評価方法】

出席状況、受講態度とレポートによる。

【参考文献・資料】

中国薬膳大辞典 (楊衛平他編集 MEK出版局)
FOOD AND HEALING
(Annemarie Colbin 世界文物出版社)

環境アメニティーⅡ (モード環境)

加藤國男

【授業の概要】

生活環境の基本的要素の一つである「衣」について理解を深め、より豊かで快適な衣生活のあり方を実践的に学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 衣生活の今—環境の重要性が言われる現在
私たちの衣を中心とした生活の現状
- 第2講 人は何を着てきたのか？
(1)木綿・麻
- 第3講 (2)ウール・獣毛
- 第4講 (3)絹
- 第5講 (4)化学繊維
- 第6講 絹織の歴史—中国からパリモードまで
(1)中国・西アジア
- 第7講 (2)ビザンチン・スペイン・イタリア
- 第8講 (3)フランス・ヨーロッパ・パリモード
- 第9講 小袖とTシャツ—和装の歴史とTシャツとの関連
- 第10講 洗濯と環境汚染
- 第11講 衣類の加工とアレルギー
- 第12講 パリ—江戸 循環の暮らしを考える
- 第13講 環境アメニティーと暮らし 資源浪費の上に成り立つ豊かさの今、未来へ向けた環境循環、サステイナブルな暮らしと衣生活の為に

【評価方法】

出席状況と随時行うレポートの成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

- カラー版 世界服飾史 (深井晃子監修 美術出版社)
- 日本服装史 (佐藤泰子著 建帛社)
- 織りと染めの歴史 西洋編 (佐野敬彦著 昭和堂)
- 織りと染めの歴史 日本編 (河上繁樹他著 昭和堂)
- 衣生活論—装いを科学する (小林茂雄編 弘学出版)
- 被服材料・整理学 (弓削治編著 朝倉書店)
- おしゃれの社会史 (北山晴一著 朝日新聞社)

環境アメニティーⅢ (住居環境)

西和久

【授業の概要】

生活環境の基本的要素の一つである「住」について理解を深め、主として人間の快適で健康的な生活を保障する住居機能について学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 イントロダクション
- 第2講 環境心理学のアプローチ
- 第3講 人と家との心理的つながり
- 第4講 ライフサイクルから見た住まいの私的空間
- 第5講 住居環境と人間関係 (1)
- 第6講 住居環境と人間関係 (2)
- 第7講 子供と高齢者の住居環境 (1)
- 第8講 子供と高齢者の住居環境 (2)
- 第9講 高層住宅と精神衛生
- 第10講 住まいの過密がもたらすもの
- 第11講 住まいの安全—防犯と防災—
- 第12講 まとめ

【評価方法】

受講態度、レポート、及び学期末試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

住まいとところの健康 (小俣謙二編著、ブレーン出版)
その他、適宜紹介します。

環境アメニティーⅣ（都市環境）

渡辺 達

【授業の概要】

健康被害や安全危機をもたらす都市型公害をはじめとする現代都市の諸問題を明らかにし、より快適で健康的な生活環境としての都市のあり方について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス、講義予定、都市環境に於ける現状の問題点
- 第2回 住まいの健康問題の具体例1
- 第3回 住まいの健康問題の具体例2
- 第4回 環境に配慮した建築材料について
- 第5回 温熱環境計画1
- 第6回 温熱環境計画2
- 第7回 自然との共生
- 第8回 環境に配慮した地域計画
- 第9回 都市防災と防災計画の基本
- 第10回 都市防災計画の実例1
- 第11回 都市防災計画の実例2
- 第12回 都市環境における今後の課題

【評価方法】

出席状況と課題レポートにより評価する。

【テキスト】

なし

講義中にプリントを配付

環境アメニティーⅤ（健康科学）

楊 衛平

【授業の概要】

健康な日常生活を営むために必要な生活活動条件の追求および快適な暮らしを営むための生活環境条件の整備について、主に医学的な視点から実践的に学ぶ。

【授業計画】

- 1. 医療と未病医学
- 2. 養生と道教思想
- 3. 「天人合一」論
- 4. 自然環境と健康
- 5. 心身両面の調節
- 6. ストレス解消法
- 7. 米と茶の食文化
- 8. 春夏秋冬の養生
- 9. 運動と予防治療
- 10. 太極拳及び気功
- 11. 身近な生薬紹介
- 12. 滋養剤の活用法
- 13. 健康生活の秘訣

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず、参考資料を配布する。

環境アセスメントⅠ（生活衛生）

杉浦信彦

【授業の概要】

日常生活において生命や健康を脅かす眼に見えない様々な身体的リスクから身を守り、健康な生活を営むための知識と能力を実践的に身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 生活の安全(1)
添加物の功罪を中心に実生活の化学的安全について学ぶ。
3. 生活の安全(2)
病原微生物等による感染症予防を中心に実生活の生物学的安全について学ぶ。

授業の進め方は講義を主にテーマによってはVTRの視聴、資料供覧や課題レポートの作製などを行う予定である。

【評価方法】

授業において提示される課題についての研究レポート提出およびメモリーシート（授業内容についてのレジュメ）提出

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

適時配布・供覧する

環境アセスメントⅡ（人体環境）

多田萬里子

【授業の概要】

人間の生命を支える人体の仕組みと働きについて学び、様々な外的環境要因と人体内部環境との関わりを、ホメオスタシスの視点から実践的に学ぶ。

【授業計画】

外的要因に対して人体がいかに対応するかを学び、健康を維持して行くためには多様な環境変化にどのように対応すればよいかを考える。

- 1、生体を維持する機構
からだのホメオスタシス
- 2、内分泌系による生体調節機構
ホルモンの働き
生活環境と内分泌系
- 3、刺激の受容と反応
神経系の情報伝達
ヒトの知覚作用
- 4、生体防御機構
免疫のしくみ
環境要因とアレルギー

【評価方法】

出席状況・授業内小テスト・期末テストを総合して評価する

【テキスト】

使用せず。講義の要旨はプリントを配布する。

【参考文献・資料】

免疫の意味論（多田富雄著 青土社）
人体の構造と機能（エレイン・マリーブ著 医学書院）
その他授業中に適宜紹介する

環境アセスメントⅢ（心理環境）

永田忠夫

【授業の概要】

現代社会の特性となっている、ストレス社会の問題をメンタルヘルスの観点から学ぶ。

【授業計画】

1. 環境と人間のかかわり
2. 人と環境との調和（適応過程）
3. ストレスという考え方からとらえた適応
 - 1) ストレッサー
 - 2) ストレス反応
 - 3) ストレス対処
4. 欲求という考え方からとらえた適応
 - 1) 欲求とは
 - 2) 欲求不満・葛藤
 - 3) 心理的問題の解決過程
5. 心理アセスメントについて

各テーマの中で、「心の健康」に関与する原因・結果（反応）・対処法をアセスメントできる測定尺度や心理検査を実施し、それに基づいて報告するレポートを提出してもらう。

【評価方法】

出席状況を含む受講態度、アセスメントレポート、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業中に示す。

環境アセスメントⅣ（情報環境）

ポール・ルイス

【Course Content】

マルチメディア技術の確立に伴う高度情報化社会の問題点と可能性について主として語学習得の場面を対象として学ぶ。

【Schedule】

このコースは英語による授業です。

Lesson 1 : Analyzing hyperMedia environments.

Lessons 2-12 : Learning & the www : Individual case studies.

【Assessment】

Assessment will be by attendance, class participation, work produced during the term, and final project work.

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class meeting.

環境文化創造原理Ⅰ（生命科学）

多田萬里子

【授業の概要】

現代の生命科学における最先端の研究成果を紹介し、生命現象の科学的な考察によって現代の生活環境が抱える根源的な諸問題を学ぶ。

【授業計画】

生物に共通に見られる生命現象を科学的に理解し、日々進展する科学技術が人の生活にどう貢献できるか、人との新たな関係をいかに築いて行くかを探っていく。

- 1、人体のなりたち
- 2、ゲノム・DNA・遺伝子
- 3、ヒトの遺伝
- 4、がん
- 5、DNA技術：遺伝子診断など医学への応用
- 6、ヒトの生殖と発生
- 7、生殖工学技術：クローン技術など
- 8、ヒトの寿命と老化
- 9、生命科学と人間の社会：新しい研究成果と人の生活

【評価方法】

出席状況・授業内小テストと学期末テストを総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。講義の要旨はプリントを配布する。

【参考文献・資料】

現代生物学（ウォーレス著 東京化学同人）
 生命科学（中村 運著 化学同人）
 分子生物学（田沼靖一編 丸善）
 生命の意味論（多田富雄著 新潮社）
 その他、授業中に適宜指示する。

環境文化創造原理Ⅱ（心理学）

高橋啓介

【授業の概要】

外的環境の評価の基礎となる人間の認知情報処理および外的環境への対処様式の問題を心理学の観点から学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 科学的に人間を理解すること
- 第2回 環境の認知1：ゲシュタルト
- 第3回 環境の認知2：錯視
- 第4回 環境の認知3：恒常現象
- 第5回 環境の認知4：知覚の生態学的妥当性1
- 第6回 環境の認知5：知覚の生態学的妥当性2
- 第7回 環境の認知6：知覚の生態学的妥当性3
- 第8回 情動的適応1：情動のメカニズム
- 第9回 情動的適応2：防衛機制1
- 第10回 情動的適応3：防衛機制2
- 第11回 心理学の応用1：高度情報化社会1
- 第12回 心理学の応用2：高度情報化社会2
- 第13回 心理学の応用3：高度情報化社会3
- 第14回 単位認定試験1
- 第15回 単位認定試験2

なお、進度に応じて補講を実施することがある。また講座の途中で4回の課題レポートの提出を求める。

【評価方法】

出席状況（15点）、授業態度（15点）、レポート課題（10点×2）、単位認点試験（50点）とし、加点法によって、60点以上を取得の場合、合格とする。

なお、レポートの提出は、原則として学内LANを利用する。

【テキスト】

人間行動の心理学（原岡一馬 ナカニシヤ出版）

【参考文献・資料】

- ・サブリミナル・マインド（下條信輔 中公新書）
- ・「成熟」へのレッスン（高橋啓介 ナカニシヤ出版）

環境文化創造原理Ⅲ (人間工学)

神作 博

【授業の概要】

より快適な生活環境創出のための基礎的な視点と技能を人間工学や応用心理学の観点から学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 総論1：人間工学・応用心理学の目的・視点・考え方
- 第2講 総論2：人間工学・応用心理学の歴史・方法
- 第3講 総論3：人間工学・応用心理学の研究の進め方
- 第4講 各論1：視覚
- 第5講 各論2：聴覚・触覚・その他の感覚
- 第6講 各論3：視覚表示
- 第7講 各論4：快適視環境
- 第8講 各論5：環境の影響
- 第9講 各論6：生活・行動空間
- 第10講 各論7：姿勢・動作・動作時間
- 第11講 各論8：疲労と能率
- 第12講 各論9：ヒューマン・エラー
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況・受講状況・単位認定試験の成績によって総合的に評価する

【テキスト】

人間工学入門 (人間工学教育研究会編 日刊工業新聞社)

【参考文献・資料】

- 人間工学チェックポイント
(小木和孝訳 労働科学研究所出版部)
- 人間工学 (正田亘著 恒星社厚生閣)
- 人間工学 (大島正光著 コロナ社)
- 知覚工学 (大山正・秋田宗平編 福村出版)

資料分析法特論

小村賢二

【授業の概要】

表計算および統計解析ソフト等を利用して、大量のデータの縮約的表現の方法を学ぶ。

【授業計画】

毎時間授業の前半は統計的な考え方と理論を学び、後半はコンピュータ実習を行う。インターネット時代の新しい資料(データ)収集の方法としてwebデータベース(インターネット上にあるデータの集積)からftp(ファイル・トランスファー・プロトコル)によって資料を取得しSPSSを使った分析も学ぶ。実習の内容について進捗度により一部変更することもあります。(多変量解析)

- 第1回 コンピュータの基本操作(キーボード、マウス、ディスクの初期化、ファイルの保存、印刷)と日本語入力について
- 第2～3回 資料の整理の方法とEXCEL(エクセル)の基本操作の実習。情報のグラフ表現、円グラフ、ヒストグラム、立体(3D)図、散布図。
- 第4～5回 EXCELによる定量的および質的(カテゴリ)資料(データ)の分析。(基本統計量とクロス表分析)
- 第6～7回 2変量および多変量データの分析(相関分析、単回帰、重回帰分析)
- 第8～9回 SPSSの基本操作と実習
データファイルの扱い方、データの出入力(データ・エディタと変数ビュー、出力ビュー)。webデータベースからftpによってSPSSデータの取得。
- 第10～11回 SPSSによる資料分析(記述統計、クロス集計、多重回答分析)とシンタックスエディタ。
- 第12～13回 SPSSによる平均の比較と分散分析(一元配置、二元配置)注：分散分析はEXCELでも行います。
- 第14回 多変量解析(因子分析とクラスター分析)の実習と結果の解釈について。(因子分析またはクラスター分析を扱います。)
- 第15回 レポート課題の作成と方法。
注：SPSSは社会科学のための統計ソフトです。

【評価方法】

出席状況と実習課題の提出とレポートの評価によって行う。(注意)：毎回実習を行いますので、欠席をしないこと。

【テキスト】

授業の始めに指示します。(特にEXCELの教材)

【参考文献・資料】

- データ科学 (小村賢二著 晃洋書房)
- SPSSによるデータ解析の基礎
(宮脇・和田・阪井著 培風館)
- データとデータ解析 (栗原考次著 日本放送出版協会)

資料分析法特論

西 和久

【授業の概要】

表計算および統計解析ソフト等を利用して、大量のデータの縮約的表現の方法を学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 インTRODクシヨN
- 第2講 因子分析（1）－主成分分析
- 第3講 因子分析（2）－その他の因子分析
- 第4講 共分散分析
- 第5講 相関分析
- 第6講 単回帰分析
- 第7講 重回帰分析
- 第8講 判別分析
- 第9講 独立性の検定
- 第10講 同等性の検定
- 第11講 適合度検定
- 第12講 まとめ

【評価方法】

出席状況・平常点・課題等により総合的に評価する。

【テキスト】

SPSSによる統計処理の手順 第3版
(石村貞夫著 東京図書)

【参考文献・資料】

実践心理データ解析 (田中敏著 新曜社)

プレゼンテーション演習

内海和彦

【授業の概要】

パーソナルコンピュータ及び視聴覚機器を利用して、有効なプレゼンテーションの技能を身につける。

【授業計画】

- 第1～2回 スライド作成の基本を学ぶ。
- 第3～4回 Excelで作ったグラフや、CD-ROM (MAPIO JAPAN, MAPIO WORLD) から地図を取り込む演習をする。
- 第5～6回 デジタルカメラやスキャナーから画像を取り込む演習をする。
- 第7～10回 テーマを選んで、発表のためのスライドを作り、プリントする。
- 第11～12回 各自がスライドを試写し、内容を発表する。

【評価方法】

出席、受講態度、レポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず、適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

- ステップ図解 PowerPoint 2000 でプレゼンテーション (C&R 研究所著 ナツメ社)
- 超図解 PowerPoint 2000 for Windows (エクスメディア著 X-media)
- ひと目でわかる Microsoft PowerPoint 2000 (Perspection, Inc. 著 オブスキュアインク 訳 日経BPソフトプレス)
- できるPowerPoint 2000 (田中 亘&できるシリーズ編集部編 インプレス)

プレゼンテーション演習

川澄未来子

【授業の概要】

パーソナルコンピュータおよび視聴覚機器を利用して、有効なプレゼンテーションの技能を身につける。

【授業計画】

コンピュータ実習室における実習を中心に行う。使用するツールは、プレゼンテーションソフトのMicrosoft PowerPoint、ペイント・フォトレタッチソフトのAdobe PhotoDeluxe、液晶プロジェクターなどである。

- 1 プレゼンテーションの基礎
- 2 ポスターの作成 1
- 3 ポスターの作成 2
- 4 課題の制作
- 5 課題の発表
- 6 スライドの作成 1
- 7 スライドの作成 2
- 8 課題の制作
- 9 課題の発表
- 10 共同発表の基礎 1
- 11 共同発表の基礎 2
- 12 課題の制作
- 13 課題の発表

【評価方法】

出席状況、受講態度、制作課題の総合評価によって決める。

プレゼンテーション演習

ポール・ルイス

【Course Content】

パーソナルコンピュータおよび視聴覚機器を利用して、有効なプレゼンテーションの技能を身につける。

【Schedule】

このコースは英語による授業です。

Lessons 1-12: Representing print media in electronic/on-line form

【Assessment】

Assessment will be by attendance, class participation, work produced during the term, and final project work.

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class meeting.

ゲーム・シミュレーション演習

奥田達也

【授業の概要】

教育ゲームの体験を通して、環境問題の構造を理解し、その有効な対策の方法について学ぶ。

【授業計画】

- 第1週 ゲーム・シミュレーションとは何か
第2週 ゲーム・シミュレーションの有効性と意義
第3週 ゲーム1の実施、解説と分析
第4週 ゲーム2の実施
第5週 ゲーム2の解説と分析
第6週 ゲーム3の説明
夏季集中期間 2日間集中でゲーム3の実施と解説を行う（日程：7月30・31・8月1日）
詳細は授業中に指示する。

【評価方法】

各ゲームに参加することと、それに関するレポートにより評価する。

【テキスト】

シミュレーション世界の社会心理学 広瀬幸雄編著 ナカニシヤ出版

【参考文献・資料】

特に定めない。必要な資料等は講義中適時指示する。

環境文化講読演習

杉浦信彦

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

健康科学、生活衛生学領域に関するやさしい科学論文（和文・英文）の講読を通して、文献読解力を養い受講生各自が関心をもっている専門分野の研究内容やその学問的水準の概要を理解する。

1. オリエンテーション
2. 授業担当者が提示する教材資料の輪読および要旨のレポート作成
3. 受講生が選択したテーマに関する講読文献の検索および収集
4. 講読要旨の作成および発表
5. 研究結果報告書の作成および提出

上記の基礎的トレーニングを通して各自が獲得した知識や技術を次年度以後に予定されている卒業研究に資することを目標とする。

【評価方法】

講読レポートおよび発表成績等により総合評価する。

【テキスト】

配布プリントを使用し、参考書籍等は授業時に指示する。

環境文化講読演習

高橋啓介

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回～第8回 和書講読
- 第9回～第15回 論文講読

いずれの回も、指名された複数のレポーターのサマリーに基づいて、議論する。レポーターは「和書講読」で各自1回、「論文講読」で各自1回となるよう割り当てる。

「和書講読」には、指定テキストを用い、「論文講読」は、教員が各自に学術論文を割り当てる。

【評価方法】

出席状況(20点)、レポーター(口頭報告とレジюме)(20点)×2、単位認定レポート(40点)で評価し、60点以上を合格とする。

【テキスト】

心理学ラボの内外：課題研究のためのガイドブック
(辻敬一郎編著 ナカニシヤ出版 2,500円+税)

環境文化講読演習

多田萬里子

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

生命科学分野の論文を講読し、資料の収集・整理・分析・評価するための手法を習得する。

取り上げる課題

- 1、ヒトゲノム
- 2、遺伝子組換え食品などバイオテクノロジー
- 3、突然変異の誘発と疾患(がん)
- 4、環境破壊因子 環境ホルモンと生殖
- 5、環境改善策
- 6、その他、各自の興味ある課題を取り上げる

【評価方法】

論文講読・レポートなど総合的に評価する

【テキスト】

特に定めませんが、日経サイエンス・遺伝・科学・NEWTONなど生命科学領域の雑誌、学術雑誌(邦文・英文)を講読する予定。

環境文化講読演習

棚橋昌子

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

健康を保持増進する視点から生活環境を見直す。半健康状態が蔓延している現代を念頭において、疲労や生体リズムの変化を生活環境と関連させて理解する。各自の関心をもったテーマに関連する文献を探し出し、講読の結果を発表し意見交換を行う。

- 1、オリエンテーション
- 2、関心のあるテーマに関する総説を講読し、発表する
- 3、テーマごとに図書(授業時指定)を輪読し、発表する
- 4、文献検索演習
- 5、関心のあるテーマに関する学術論文を講読し、レポートを提出する

【評価方法】

レポートと発表等の受講態度の総合評価とする。

【テキスト】

随時指定する。

環境文化講読演習

永田忠夫

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

まず、対人行動や家族関係に関する専門書を講読し、心理学的用語・概念や心理学的研究方法を理解する。それにより、心理学的研究の対象となるこの分野のテーマを概観する。各自の研究関心領域を絞っていく。

次に、講読した書籍の引用・参考文献あるいは、絞られた領域の文献検索によって選択された研究論文の講読をおこなう。この段階で、質問紙調査法を中心とするデータ収集法やデータ分析の技法を習得することになる。

最終的には、各自が卒業研究のおおまかな企画を立てることが目標になる。

レポーターを決め、レジュメに基づく課題発表を行い、参加者全員で討論することによって、お互いに専門的知識や研究技法を習得し、心理学的研究の基礎を学ばせたい。

【評価方法】

授業に出席し、与えられた課題・レポートを提出し、レポーターの役割を果たすことは、単位取得として必須のことである。参加態度や成果が評価の対象となる。

環境文化講読演習

永田 祐

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

本演習では、広い意味での「福祉」に関わる文献を購読する。その中でも、地域における福祉問題、ジェンダーと福祉の問題、国内外における福祉政策の国際比較、非営利組織やボランティアの活動に関わる理論、社会保障政策などに関心のある学生を歓迎する。初回の講義で学生の関心聞き、購読する文献を決定する。授業は、同様の関心のある学生のグループもしくは個人が毎講、担当した文献について発表し、受講生の議論によって進める。

【評価方法】

出席、授業への貢献度により総合的に評価する。

【テキスト】

初回授業時に決定する。

【参考文献・資料】

福祉に関する基本的な文献として、ウェルビーイング・タウン社会福祉入門、岩田正美、上野谷加代子、藤村正之著、有斐閣の一読を薦める。

環境文化講読演習

若松孝司

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

本演習では、主として政治学や社会学といった社会科学の観点から、「環境」にかかわる諸問題を検討する。学期のはじめに、社会科学のものの考え方や分析方法を身につけるための文献を輪読する。その後、地球温暖化に対する政策や経済開発をめぐる諸問題といった「環境」に関わる問題について、受講生の興味・関心を考慮に入れた上で文献を決定し、輪読していく予定である。

演習の進め方については、まず、個人あるいはグループで文献の担当箇所を精読し、あるいは与えられたテーマについて調査を行い、関連事項や参考文献を調べた上でレジュメを作成し、それをういながら発表を行う。その後、その発表に対して受講生全員が討論を行い、各自の理解を深めていくこととする。

【評価方法】

出席状況、発表に対する取り組み、演習における発言状況等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

- 『環境政治への視点』（賀来健輔・丸山仁編 信山社）
- 『国際政治史としての20世紀』（石井修著 有信堂）
- 『講座国際政治（1） 国際政治の理論』（有賀貞ほか編 東京大学出版会）

環境文化講読演習

楊 衛平

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

前期は薬膳の基礎知識に関するの文献を講読し、その歴史背景及び理論構成を学ぶ。さらに、薬膳に用いる素材を調べ、それぞれの配合についての資料を収集・分類・整理するための能力を養成する。

1. 飲食と健康
2. 未病と予防
3. 薬膳の歴史
4. 医薬食同源
5. 薬膳の素材
6. 薬膳の処方
7. その他、各自の興味ある課題を取り上げる。

【評価方法】

文献資料講読・レポートなど総合的に評価する。

【テキスト】

中国薬膳大辞典を中心に抜粋したプリントを配布する予定。

環境文化特殊演習

杉浦信彦

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

既に獲得した当該専門領域に関する学問的知識をもとに各自の設定する研究テーマについて教育指導を行う。

1. オリエンテーション
2. 研究テーマの検討および研究計画の作成（要旨の提出）
3. 文献資料等の検索および収集。測定機器等の操作に必要な訓練指導についても併せて行う。
4. 研究結果の要旨作成および発表
5. 研究結果報告書の作成および提出

上記の学習を通して、その成果を次年度以後の卒業研究に資することを目標とする。

【評価方法】

研究レポートおよび発表成績等により総合評価する。

【テキスト】

使用せず。参考書籍等は授業時に指示する。

環境文化特殊演習

高橋啓介

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

- | | |
|-----------|----------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回～第4回 | 研究テーマの決定 |
| 第5回～第8回 | 研究報告1（文献研究報告1） |
| 第9回～第12回 | 研究報告2（文献研究報告2） |
| 第13回～第15回 | 卒業研究の研究計画報告 |

各自に4回の報告を行わせる。各報告は、作成したレジュメに基づき口頭で行う。

【評価方法】

出席状況、授業態度（20点）、各報告（レジュメと口頭発表）（10点×4）、卒業研究計画書（単位認定課題レポート）（40点）とし、60点以上を合格とする

【テキスト】

特に定めない

【参考文献・資料】

必要に応じて授業内で指示する

環境文化特殊演習

多田萬里子

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

講読演習で習得した知識をもとに生命科学の分野から各自テーマを選びレポートを作成する。

- 1、テーマの設定
- 2、資料の収集、関連文献の検索
- 3、資料の整理、分析、評価
- 4、論文にするための方法の検討
- 5、口頭発表するための方法の検討
- 6、論文の作成と口頭発表

【評価方法】

テーマについての進捗状況（随時行う）・レポート・口頭発表によって評価する。

【テキスト】

使用せず。

環境文化特殊演習

棚橋昌子

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

「講読演習」によって明確になった各自の関心を研究テーマに纏め上げ、論文に仕上げていく過程で必要となる調査法・測定法・実験法を習得する。

- 1、オリエンテーション
前期に提出したレポートの講評
- 2、研究テーマの設定
データの統計処理講義
- 3、文献検索を行い、仮アウトラインを作成し
発表する(主要文献を入手)
- 4、本アウトラインを作成し、レポートを提出
個別指導により調査法・実験法を明確にする

子どもの生活環境を理解するために保育園見学を予定している。

【評価方法】

「特殊演習」では研究を進める過程が大切であるので、受講態度・発表・レポートの総合評価とする。

【テキスト】

特に指定しない。

環境文化特殊演習

永田忠夫

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

「環境文化講読演習」によって絞り込まれた自分の研究テーマを仮説・検証する研究計画として発展させていく。そのために文献研究を進め、研究目的を明確にし、仮説をうち立てる。さらにその仮説を検証するための資料収集が可能な段階(観察記録票や質問紙の作成など)まで進める。予備調査できる状態、あるいは予備調査を実施し、それなりの結果の分析ができるまでをこの演習の目標とする。

ゼミ形式[司会者が、レポーター、コメンテーター(発表者の研究が発展するように報告内容や質問・問題点を指摘する役)の発表を中心に、参加者全員で討論させるような授業運営方式]で実施する。

【評価方法】

与えられた課題の達成度、参加態度、出席率等を総合的に評価する。

環境文化特殊演習

永田 祐

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

講読演習で学んだ知識をもとに広い意味での福祉に関わる問題の中から各自がテーマを選び、レポートを作成する。各自の研究テーマの設定、問題を探求するための方法、結果のまとめ方と発表の方法について学ぶ。①研究の目的と概要、②中間（経過）報告、③結果についてそれぞれ学生が発表し、受講生全員で討議する。

【評価方法】

出席、授業への貢献度、レポートの完成度により総合的に評価する。

【テキスト】

テーマに応じて各自に指示する。

環境文化特殊演習

若松孝司

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

本演習では、前期の環境文化講読演習で学んだ国際政治学の知識をもとに、受講生各自の興味、関心にそったテーマを決定し、各自でそのテーマについて調査する。

学期の初めは環境文化講読演習と同様に社会科学的視点から「環境」を論じた文献を精読する。その後、受講生の調査・研究の進捗状況により、個人あるいはグループによる研究発表を行い、それについて討議する。必要に応じて、授業時間以外にサブ・ゼミを行って発表・報告の準備をすることが要求される。

【評価方法】

出席状況、発表に対する取り組み、授業における発言状況等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

環境文化特殊演習

楊 衛平

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

講読演習で習得した薬膳の知識に基づいて、後期は病気別症状別の薬膳内容を纏め、現代社会の日常生活にどのように活用していけるかを、健康づくりの視野から各自のテーマを選びレポートを作成する。

1. 各自テーマを設定する
2. 資料と関連文献の収集
3. 資料の分析・評価整理
4. 論文を作成する方法論
5. 口頭発表の方法を検討
6. 現代社会の健康づくりに活用できる薬膳の知識を習得する。

【評価方法】

各自のテーマについての進展状況を把握し、具体的な内容については、レポート・口頭発表によって評価する。

【テキスト】

特に使用せず。

環境文化研究 I

杉浦信彦

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

健康科学および衛生学に関連する分野から、各自が学問的関心に基いて選定した研究テーマを、卒業研究の準備学習課題として位置づけ、綿密な教育指導を行う。

1. オリエンテーション。
2. 研究テーマの検討および選定。
3. 研究計画の検討（予備実験・調査法等の立案）。
4. 文献検索および資料収集。
5. 文献・資料の整理および分析。
6. 予備実験・調査の実施及び結果の整理。
7. 研究結果の中間報告書レポートの提出。

【評価方法】

授業への出席、受講姿勢、レポートにより総合評価する。

【参考文献・資料】

適時紹介・配付する。

環境文化研究 I

高橋啓介

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

- | | |
|-----------|--------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回～第6回 | 研究計画の報告 |
| 第7回～第10回 | 予備実験、予備調査の報告 |
| 第11回～第15回 | 「序論」の作成 |

各自に3回の報告を行わせる。各報告は、作成したレジュメに基づき口頭で行う。

【評価方法】

出席状況・授業態度(20点)、各報告(レジュメと口頭発表)(10点×3)、「序論」下書き(単位認定課題レポート)(50点)とし、60点以上を合格とする。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

必要に応じて授業内で指示する。

環境文化研究 I

多田萬里子

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

各自が設定した研究課題について指導する。

1. テーマの設定 研究目的の明確化と研究計画
2. 関連文献の調査と整理
3. 実験、調査など研究方法の検討
実験技術の習得
4. データーの収集、結果の分析と評価
5. 論文の構成要素、アウトラインの作成
6. 口頭発表による研究報告

【評価方法】

随時進捗状況を報告する
研究結果、論文・口頭発表によって評価する

【テキスト】

使用せず

環境文化研究 I

棚橋昌子

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

3年次の成果をもとに、各自の研究テーマに関する文献検索・文献講読を進める。さらに研究テーマについて、科学的仮説を明確にして、調査および実験計画をたて、パイロットスタディを経て、本調査および本実験を行う。

- 1、オリエンテーション
- 2、個別指導により、科学的仮説の明確化
- 3、パイロットスタディによるレポート作成
- 4、本調査および本実験
- 5、データ解析
- 6、レポート提出および発表（論文の中間報告）

【評価方法】

論文に仕上げていく大切な時期である。
レポートと発表等受講態度の総合評価とする。

【テキスト】

特に使用しない。

環境文化研究 I

永田忠夫

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

文献研究に基づく各自の研究目的の明確化と仮説を検証する資料収集と実施する段階の授業である。予備調査・予備実験・予備観察等の経過をふまえて、仮説を検証するにふさわしい本調査・実験等を行う。

ゼミ形式で各自の研究が進展するように相互に討論しあう授業形態と、各自の研究指導をする個別指導の形態とミックスさせる。

後期の「環境文化研究Ⅱ」で卒業研究レポートで完成させるために、収集したデータを分析する段階でもあるので、授業時間外の自己学習時間が多く必要とされる。

【評価方法】

ゼミ形式の授業における討論参加の積極性と、自己学習における成果によって評価する。

環境文化研究 I

若松孝司

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

3年次に履修した「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」にひきつづき、各自の研究テーマに基づいて卒業論文作成のための学習を深めていくことを目標とする。

演習においては、3年次と同様、個人あるいはグループで与えられた文献の担当箇所を精読し、あるいは与えられたテーマについて調査を行う。その上で関連事項や参考文献を調べてレジュメを作成し、それをを用いながら発表を行う。また、それと同時に、受講生各自の研究・卒業論文の進捗状況の報告と、それに対する指導教員のアドバイスを軸に進めていく。

【評価方法】

出席状況、発表に対する取り組みや演習における発言状況とともに、卒業論文に対する取り組みについて総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

環境文化研究 I

楊 衛平

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

前期の勉強・講読に基づいて、研究・調査の成果をまとめ、研究計画を立てる。

1. テーマの設定に従い、更に、研究目的を明確させる。
2. 文献の収集・整理・分析・分類を実施する。
3. 論文の構造及び書き方・参考文献の引用法を習得する。
4. プレゼンテーションのための資料を作成する。
5. 口頭発表などによる討論・評価を繰り返して行う。

【評価方法】

レポートなどのプレゼンテーションによって評価する。

【テキスト】

使用せず。

環境文化研究Ⅱ

杉浦信彦

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

前期開講の「環境文化研究Ⅰ」において習得した学習成果をもとに、最終目標である「卒業研究レポート」の作成に向けて研究活動を継続する。

1. 予備実験・調査研究結果の問題点の整理および検討。
2. 資料および文献の補足収集・検索。
3. 本実験・調査の実施および結果考察。
4. 研究結果報告書（卒業研究レポート）の作成。
5. 研究要旨の作成および発表。
6. 卒業研究レポート提出。

【評価方法】

提出された卒業研究レポートおよび発表により総合評価する。

【参考文献・資料】

適時紹介・配付する。

環境文化研究Ⅱ

高橋啓介

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回～第6回 「方法」「結果」の報告
- 第7回～第10回 「考察」「討論」の報告
- 第11回～第13回 個別指導
- 第14回・第15回 レジュームの作成

各自に2回の報告を行わせる。各報告は、作成したレジュームに基づき口頭で行う。

全員「卒業論文」あるいは「卒業制作」を提出し、「卒業プロジェクト」の単位を取得することを義務づける。さらに、「卒業論文」「卒業制作」の概要をレジュームにまとめ公刊されるレジューム集に投稿することを義務づける。

【評価方法】

出席状況、授業態度（20点）、各報告（レジュームと口頭発表）（15点×2）、卒論、卒制レジューム（50点）とし、60点以上を合格とする。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時間内で指示する。

環境文化研究Ⅱ

多田萬里子

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

研究の成果をまとめ卒業レポートを完成させるための指導をする。

- 1、データの整理、分析、評価、考察
- 2、論文の書き方、参考文献の引用法
- 3、論文の要旨の作成
- 4、プレゼンテーションのための資料の作成
- 5、口頭発表と全員による討論

【評価方法】

研究レポートとプレゼンテーションによって評価する

【テキスト】

使用せず

環境文化研究Ⅱ

棚橋昌子

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

各自の研究テーマに関する文献考察を行い、不備な部分を補う。研究テーマに関する本調査および本実験の解析結果をみて、補足調査および補足実験を行い、論文を完成させる。

- 1、オリエンテーション
- 2、個別指導により論文を完成させる
- 3、論文発表会（プレゼンテーション）
- 4、最終論文提出

【評価方法】

論文により評価する

【テキスト】

特に指定しない

環境文化研究Ⅱ

永田忠夫

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

各自の研究を卒業研究レポートとして提出する段階である。

科学的な実証方法で、仮説を証明する流れをきちんと守り、実行して、報告する。

個別指導が中心となる。

【評価方法】

卒業研究レポートの良否が評価対象となる。

環境文化研究Ⅱ

若松孝司

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

3年次に履修した「環境文化購読演習」「環境文化特殊演習」、4年前期の「環境文化研究Ⅰ」にひきつづき、各自の研究テーマに基づいて卒業論文作成のための学習を深めていくことを目標とする。

演習においては、受講生各自の研究・卒業論文の進捗状況の報告と、それに対する受講生による討論を基本とするが、必要に応じて個人あるいはグループで与えられた文献の担当箇所を精読し、あるいは与えられたテーマについて調査を行い、関連事項や参考文献を調べた上でレジュメを作成し、それをを用いながら発表を行う。

【評価方法】

出席状況、発表に対する取り組みや演習における発言状況とともに、卒業論文に対する取り組みについて総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

環境文化研究Ⅱ

楊 衛平

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

各自の設定したテーマによって、研究内容・卒論の作成についての指導を行う。

1. 関連文献の検索・収集・整理を行う。
2. 菜膳の資料を症状別に分類し、菜膳の実際を検討する。
3. 収集したデータの整理・分析・評価・選択を実施する。
4. 論文の構成要素を纏める。
5. 口頭発表などによる研究報告を行う。

【評価方法】

随時に進展状況をチェック、レポートの形で研究結果を発表する。

【テキスト】

使用せず。

環境文化卒業プロジェクト

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」で立案し設定したテーマないしは独自に設定した当該領域のテーマを、専任教員の指導のもとに問題意識や創造的意匠を深めながら、卒業論文ないしは卒業制作として完成させる。評価は専攻の全専任教員によって行う。

【授業計画】

本授業は「環境文化研究Ⅱ」の教科担当者によって、原則的に指導される。授業内容は「環境文化研究Ⅱ」に準じ、また担当者の指示によって適宜行われる。

【評価方法】

「環境文化研究Ⅰ」で計画された研究・制作および活動を対象とし、「環境文化研究Ⅱ」での研究および制作を総合的に評価して履習単位が与えられる。

【テキスト】

担当者の指示による。

【参考文献・資料】

担当者の指示による。

教職課程科目

教職入門

梅村敏郎

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実体を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

【授業計画】

- 1 教師像の変遷
- 2 現代の理想的教師像
 - (1) 教科指導者としての教師
 - (2) 特別活動の指導者としての教師
 - (3) 教師とカウンセリング
 - (4) 学級経営者としての教師
 - (5) 教師と校務
 - (6) 共生社会における教師の仕事
- 3 家庭人としての教師
- 4 市民としての教師
- 5 子どもの未来を開く魅力ある人間としての教師
- 6 まとめ

【評価方法】

筆答試験による。

【テキスト】

「教職入門」300円

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

教師論

佐藤実芳

【授業の概要】

日本における明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められていた資質等の歴史を学習する。

多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

【授業計画】

1. 日本における教員養成の制度
 - (1) 戦前の教員養成
 - (2) 戦後教育改革と教員養成
 - (3) 教職課程の仕組
 - (4) 教員の採用
2. 種々な教師に学ぶ
 - (1) 新採用教員の一年
 - (2) エリオット先生の差別体験授業
 - (3) 授業崩壊からの脱出
 - (4) 現職教員の研修
3. 教師物語に学ぶ

【評価方法】

レポート、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

教育原理

五島敦子

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思いうかべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめくり様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。本講義では、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業計画】

1. 教育とは何か
 - (1) 開発主義と注入主義
 - (2) 発達と環境
 - (3) 教育と教化
2. 学校とは何か
 - (1) 学校の登場と近代学校の性格
 - (2) 近代市民社会成立期の教育思想
3. 教育目的の変化
 - (1) 日本における近代公教育制度の成立
 - (2) 教育勅語体制から戦時体制へ
 - (3) 戦後新教育と戦後教育改革の修正
 - (4) 高度経済成長と教育爆発
4. 現代日本の教育改革
 - (1) 教育改革の背景
 - (2) ゆとりと新しい学力観
 - (3) 教育改革の功罪

【評価方法】

定期試験、授業内小テスト、出席状況による総合評価

【テキスト】

田嶋一他『やさしい教育原理』有斐閣アルマ

【参考文献・資料】

寄田啓夫・山中芳和『日本の教育の歴史と思想』ミネルヴァ書房

荻谷剛彦『教育改革の幻想』ちくま新書

教育原理

佐藤実芳

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思いうかべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめくり様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。本講義では、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 教育とは何か
3. 人間と教育
 - ・動物学からみた人間の特殊性
 - ・人間の成長と環境
 - ・教育の重要性
 - ・人間形成の場
4. 教育の本質
 - ・注入主義
 - ・開発主義
5. 教育の目的
 - ・教育目的とは
 - ・教育目的の歴史の変遷
6. 現代の教育

【評価方法】

試験、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

教育思想史

梅村敏郎

【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなくて、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあろうが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生は先ずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

【授業計画】

- 1 教育思想史を勉強することの意義
- 2 コメニウス
- 3 ルソー
- 4 ベスタロッチ
- 5 フレーベル
- 6 デューイ

【評価方法】

評価はレポートの提出、あるいは資料持ち込み自由の試験による。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。参考文献は授業中に適宜紹介する。

欧米教育文化史

江藤恭二

【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」とは具体的に何を意味するのか、という点に焦点をあて、欧米教育・文化の全体的・構造的な変遷過程に着目しつつ、比較教育史的なアプローチを試みる。

1. 欧米教育文化史の視点と課題
2. 中世後期の欧米教育・文化
3. ルネサンスと宗教改革
4. 近代教育・文化の生誕と展開
5. 啓蒙思想と教育
6. 市民革命期の教育思想
7. 産業革命と教育

【授業計画】

講義方式、時折、欧米文化に関する Video 教材を用いる。

【評価方法】

試験又はレポート。

【テキスト】

西洋近代教育史 (江藤他編 学文社 2,300円)

教育心理学Ⅰ

小池理穂

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ
 - ・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える
 - ・生涯発達の視点
 - ・障害の意味と発達可能性
 - ・発達段階と発達課題
 - ・認知の発達
3. 学習の過程を考える
 - ・学習の成立過程
 - ・学習における知識の役割
 - ・学習意欲を育てる
 - 外発的動機づけと内発的動機づけ／原因帰属をめぐって／知的好奇心の喚起／報酬の意味／目標のありかた

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学Ⅱ

富安玲子

【授業の概要】

人間を発達可能性をもつ存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的にしたい。自己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日の問題への理解を深めると共に、自分自身の自己形成のプロセスへの関心も深め、自己理解を促進していくことも視野にいれて学んでいく。

【授業計画】

- 1 教職課程の中での発達の心理学
 - －発達心理学を学ぶ／発達心理学から学ぶ－
 - (1)教育の対象者への理解
 - (2)教育対象の理解から自己理解へ
 - (3)発達の可塑性(可変性)の存在と限界
 - (4)青年期の意味
- 2 発達と学習
 - (1)発達を規定する要因
 - (2)成熟と学習
 - (3)発達の個人差
 - (4)発達と教育
- 3 自己意識の発達
 - (1)「自分」の諸相
 - (2)乳児期 「自分でない」世界の認識から
 - (3)幼児前期 第一「反抗」期
 - (4)幼児後期 自我と他我
 - (5)児童期 他律的規範への順応
 - (6)青年期 第二の誕生／アイデンティティの確立
 - (7)成人期以降
- 4 生涯発達の視点と生き方
 - －自分探しの旅と人間関係－

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

障害児の教育

加藤文子

【授業の概要】

障害児についての基本的理解をし、障害児の教育的環境、福祉施設の役割などの実情を理解する。また、就学指導の仕組みを理解し、特殊教育の現状と課題を認識するとともに、基本的には人間尊重の精神を涵養する。

【授業計画】

1 心身障害児の理解

- ・「心身障害児理解のために」VTR視聴（感想文）
- ・心身障害児と家族の関係 VTR視聴（感想文）

2 心身障害児の種類と程度

- ・心身障害児とは
- ・学校教育で対象とする障害児と児童福祉施設で対象とする障害児
- ・視覚・聴覚・肢体不自由・病虚弱児の障害の程度と発生原因
- ・知的障害児の障害の程度と発生原因
- ・言語障害・情緒障害・重度重複障害児の教育的環境

3 心身障害児の早期教育、後期中等教育の重要性

- ・なぜ早期発見、早期教育が必要か
- ・社会自立に向けた後期中等教育の現状

4 心身障害児の就学指導の仕組み

5 心身障害児（者）教育の歴史

- ・心身障害児（者）教育を開拓した人々
- ・心身障害児（者）教育の歴史の変遷

6 まとめ

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する

【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する

教育制度

五島敦子

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業計画】

1. 教育制度の概観

- (1) 学校教育制度の類型
- (2) 教育段階とその課題

2. 諸外国の教育制度

- (1) 世界の教育改革
- (2) 先進国
- (3) 発展途上国

3. 教育を受ける権利

- (1) 子どもの権利条約
- (2) 日本国憲法・教育基本法
- (3) 学校教育法
- (4) 教育的弱者のための権利保障

4. 教育行政と学級経営

- (1) 教育委員会
- (2) 学級経営と指導計画
- (3) 教育評価

【評価方法】

定期試験、レポート、受講態度による総合評価

【テキスト】

田嶋一他『やさしい教育原理』有斐閣アルマ

【参考文献・資料】

宮澤康人他『世界の教育』放送大学教育振興会
佐藤三郎編『世界の教育改革』東信堂
兼子仁『教育小六法』

教育制度

佐藤実芳

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業計画】

1. 教育制度の意義
2. 現代学校教育制度の起源
 - ・大学の成立
 - ・中等学校の成立
 - ・初等学校の成立
3. 学校教育制度の類型
4. 日本の学校教育制度
5. 教育法規
 - ・教育法規とは
 - ・日本国憲法
 - ・教育基本法
 - ・学校教育法
 - ・学校教育法施行令
 - ・学校教育法施行規則
 - ・地方教育行政の組織及び運営に関する法律
 - ・その他
6. 外国の学校教育制度

【評価方法】

試験、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

比較教育論

渡辺かよ子

【授業の概要】

進展する国際化・情報化の中であって、人間は次世代にどのような夢や願いを託すことができるのか。教育は、自らが社会問題であると共に、貧困や不平等など現代の社会問題に対する有力な解決方策でもある。本講では、日本を含む各国の教育と全世界的教育の状況の比較研究を通じて、日本の教育の特徴と現代教育の課題を明らかにしていく。

【授業計画】

1. 比較教育学の基礎理論
2. 社会発展論と教育
3. 近代化と各国の教育制度（識字と就学）
4. 「発展途上」国と「先進」国の教育の実態
5. 近現代日本の教育制度の成立と特徴
6. 文化と教育、異文化交流としての教育
7. 人権としての教育
8. 比較教育と教育改革

【評価方法】

試験とレポート。

【テキスト】

使用せず。（資料配布）

【参考文献・資料】

比較国際教育学（石附実編著 東信堂）
世界の学校（二宮皓編著 福村出版）
多文化教育（中島智子編著 明石書店）
学歴社会 新しい文明病（ドーア著 岩波書店）
外国の教科書と日本（吉沢柳子著 丸善ブックス）
比較高等教育論（アルトバック著 玉川大学出版部）
被抑圧者の教育学（フレイレ著 亜紀書房）
情報消費型社会と知の構造（中西新太郎 旬報社）
国際歴史教科書対話（近藤孝弘著 中公新書）
教育の比較文化誌（石附実著 玉川大学出版部）
比較教育学の理論と方法（シュリーバー編著 東信堂）

教育課程

梅村敏郎

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

【授業計画】

1. 教育課程とは
 - (1) 教育課程の原理と理論
 - (2) 教育課程の構造と種類
 - (3) 教育課程の歴史の変遷
2. 諸外国の教育課程の概観
3. わが国の教育課程
 - (1) 戦前の教育課程の構造
 - (2) 戦後の教育課程の構造
 - (3) 現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
 - (4) 現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4. 総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5. まとめ
 - (1) 教育課程研究と教師
 - (2) 望ましい教育課程の展開

【評価方法】

中間小テスト(レポート)及び期末考査

【テキスト】

「教育課程概説」資格教育センター編 300円

【参考文献・資料】

中学校学習指導要領(文部省)
高等学校学習指導要領(文部省)

教育課程

渡辺かよ子

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

【授業計画】

1. 教育課程とは
 - (1) 教育課程の原理と理論
 - (2) 教育課程の構造と種類
 - (3) 教育課程の歴史の変遷
2. 諸外国の教育課程の概観
3. わが国の教育課程
 - (1) 戦前の教育課程の構造
 - (2) 戦後の教育課程の構造
 - (3) 現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
 - (4) 現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4. 総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5. まとめ
 - (1) 教育課程研究と教師
 - (2) 望ましい教育課程の展開

【評価方法】

中間小テスト(レポート)及び期末考査

【テキスト】

「教育課程概説」資格教育センター編 300円

【参考文献・資料】

中学校学習指導要領(文部省)
高等学校学習指導要領(文部省)

国語科教育法Ⅰ

佐々木亜紀子

【授業の概要】

中学校学習指導要領には、「国語」の教科目標として、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。」とある。この目標を正しく理解して、高等学校あるいは中学校生徒にいかにかえるかを考える授業にしたい。具体的には、教材研究の方法、学習指導案の作成方法、板書方法、授業の進め方、評価の方法などを学び、教育現場に対応し得る力を養う。

【授業計画】

1 講 導入

国語科教育の概観

新・学習指導要領における国語科教育の目標

2 講 学習指導案の作成方法

3～5 講 「論説文」(中学校)の学習指導

(教材研究・指導案・授業・評価などの方法)

6～8 講 「評論」(高等学校)の学習指導

(同上)

9～10 講 古典導入教材の学習指導(中学校)

(同上)

11～12 講 古典導入教材の学習指導(高等学校)

(同上)

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点、及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

実践的国語科教育法—新・学習指導要領準拠—

(原國人編 新典社 2,000円)

【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 国語編

中学校学習指導要領解説 国語編

国語科教育法Ⅱ

佐々木亜紀子

【授業の概要】

中学校学習指導要領の趣旨に沿って、国語を正確に理解し、適切に表現する能力を高めるためにどのような授業を行えばよいのか、中学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

【授業計画】

1 講 導入

新・学習指導要領における中学校の国語科教育

2～4 講 「論説文」教材の学習指導

(教材研究・指導案・授業・評価などの方法と模擬授業)

5～8 講 「物語」「小説」教材の学習指導

(同上)

9～12 講 「詩」「俳句」「短歌」教材の学習指導

(同上)

13 講 「言語活動例」を用いた学習指導

(同上)

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点、及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

実践的国語科教育法—新・学習指導要領準拠—

(原國人編 新展社 2,000円)

【参考文献・資料】

中学校学習指導要領解説 国語編

国語科教育法Ⅲ

佐々木亜紀子

【授業の概要】

高等学校学習指導要領の趣旨に沿って、国語への関心を高め、表現力を伸ばし、日本の文化と伝統について理解を深める総合的な国語教育の在り方を求め、高等学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

【授業計画】

1 講 導入

新・学習指導要領における高等学校の国語科教育

2 講 『国語表現』の学習指導

(教材研究・指導案・授業・評価などの方法と模擬授業)

3 講 『国語総合』現代文教材の学習指導

(同上)

4～8 講 『国語総合』古文教材の学習指導

(同上)

9～13 講 『古典』漢文教材の学習指導

(同上)

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

実践的国語科教育法—新・学習指導要領準拠—

(原國人編 新展社 2,000円)

【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 国語編

英語科教育法Ⅰ

大野清幸

【授業の概要】

中学校及び高等学校の学習指導要領に準拠し、英語科教育法について目的論、技能論、方法論を中心にして、日本における英語教育の歴史、諸外国における言語政策と英語教育、マルチメディアを活用した英語教育等の話題を含めて、英語教育の在り方を考察する。

【授業計画】

1 日本の英語教育の目的と現状 **必ず出席すること!**

2 日本における英語教育の歴史

3 言語習得の原理と各種教授法

4 学習指導要領と英語科教育法

5 諸外国の言語政策と英語教育

6 マルチメディア活用の可能性と課題

7 ListeningとSpeakingの指導

8 ReadingとWritingの指導

9 Team-teaching

10 英語評価

11 学習指導案における指導課程の構成

12 中学校の英語授業と学習指導案の書き方

13 高等学校の英語授業と学習指導案の書き方

14 教育実習の意義

【評価方法】

出席状況、授業態度を厳しく評価する。定期試験を実施する

【テキスト】

新・英語科教育法の研究：改訂版

(片山嘉雄他編 大修館書店)

中学校学習指導要領解説—外国語編—

(文部省 東京書籍)

高等学校学習指導要領解説—外国語(英語)編—

(文部省)

英語科教育法Ⅱ

古井雅子

【授業の概要】

中学校学習指導要領の趣旨に沿って、特に必要性が高まっている国際理解とコミュニケーション能力を育成するためには、中学校において、どのような授業を行えばよいのか、中学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

【授業計画】

- 1 学習指導要領と英語科教育法
- 2 中学校英語教育と高等学校英語教育の展開
- 3 英語Ⅰ・Ⅱの指導
- 4 オーラルコミュニケーションの指導
- 5 ライティング、リーディングの指導
- 6 国際理解教育と英語教育
- 7 マルチメディアと情報通信ネットワークの活用方法
- 8 英語教科書と言語活動
- 9 高等学校英語授業と学習指導案
- 10 授業の観察と分析
- 11 教育実習に向けて
- 12 英語教育の諸問題と課題

【評価方法】

出席状況、授業参加態度と課題等により総合的に評価する。

【テキスト】

英語科教育実習ハンドブック（米山朝二 杉山 敏 多田 茂 大修館書店）

英語科教育法Ⅲ

影戸 誠

【授業の概要】

高等学校学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力を育成することに主眼をおいて、生徒の多様化した高等学校において英語教育を効果的に行うにはどのようにするか、高等学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

【授業計画】

- 第1回 英語の授業、海外では？（ESL）
- 第2回 ある生徒の英語プレゼンテーション
- 第3回 教員とインターネットリテラシー
- 第4回 コミュニケーションとしての英語
- 第5回 国際交流と英語
- 第6回 総合学習と英語教育、高校・大学との連携
- 第7回 生徒になってプレゼンテーション
- 第8回 他大学英語科教員養成課程とのオンラインプレゼンテーション
- 第8回 授業でのインタラクティブ
- 第9回 模擬授業 ロールプレイ1
- 第10回 模擬授業 ロールプレイ2
- 第11回 教師としてのプレゼンテーション1
- 第12回 教師としてのプレゼンテーション2

【評価方法】

ネットワークを通して情報共有を行い、提出された「まとめ・作品」を日常点として評価する。ネットワークに蓄積される学生相互の評価も参考とする。

【テキスト】

日本語・英語プレゼンテーション
（影戸 誠・渡辺浩行著 国際交流研究会）

【参考文献・資料】

よりよい英語授業を目指して
（斎藤英二・鈴木寿一 編著 大修館書店）
翼をもったインターネット
（影戸 誠 著 日本文教出版）
国際交流マニュアル
影戸 誠 編著 日本文教出版）

道徳指導法

加藤文子

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業計画】

- 1 道徳と道徳教育
- 2 児童・生徒を生かす道徳教育
- 3 公教育における道徳教育の歴史
 - ・ 明治5年学制公布から明治23年教育勅語発布までの過程
 - ・ 戦後の道徳教育の変遷
- 4 道徳性の発達理論と学校道徳教育
- 5 学校における道徳教育の実際
 - ・ 道徳教育の目標
 - ・ 道徳教育の内容
 - ・ 「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
 - ・ 「道徳の時間」の指導の実際、VTR視聴
 - ・ まとめ

【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する。

特別活動指導法

不破民由

【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察する。

そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

【授業計画】

1. 自由度の高い特別活動の可能性
 2. 特別活動の歴史の変遷
 3. 学級活動
 4. 生徒会活動
 5. 学校行事
 - (1) 儀式的行事 (2) 学芸的行事 (3) 健康安全・体育的行事 (4) 遠足・集団宿泊的行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事等
- 以上の内容の他に、各自のサークル、ゼミ、学園祭等の大学における活動を話題としてとり入れる。

【評価方法】

数回のレポート

【テキスト】

北杜夫『どくとるマンボウ青春記』（新潮文庫）
『特別活動への誘い』

【参考文献・資料】

高旗正人・倉田侃司編著『特別活動』（ミネルヴァ書房） 等

学級経営

前田勝洋

【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きした学級作りを具体的な事例から求めて行きたい。

【授業計画】

小学校・中学校の学級経営事例に学びながら、教師の資質向上を図る方策を探っていききたい。

- (1) 学級づくりと学級こわしの関係
- (2) 生徒理解と学級担任の役割
- (3) 共感的学級経営の実践
- (4) 成就型教育観と参加型教育観
- (5) 学級担任と言葉の問題

(6) カルテ（個人記録）と一人ひとりを生かす経営
以上のような視点を軸にしなが、互いに事例について意見交換を行うなど、担任教師としての資質を磨きたい。

【評価方法】

毎回の受講感想レポートと「事例に対する意見記述」を中心に行いたい。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

教育方法

東浦信博

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供の理解を深め、子供の立場に立つて教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方

- (1) 中学・高校における学力論と教師論の検討
- (2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法
- (3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
- (4) 生徒の側に立った学習指導技術

2. 情報機器及び教材の活用方法

- (1) 情報機器の特色とその効果的な利用方法
- (2) 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
- (3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法

3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは

- (1) 多様化した生徒への対応の仕方
- (2) 中学校における個を生かす学習集団
- (3) 高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

資料持込不可の論述式定期試験。

【テキスト】

教育の方法、技術を学ぶ。(福村出版 ¥1,700)

教育方法

霜田一敏

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供理解を深め、子供の立場に立つて教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方
 - (1) 中学・高校における学力論と教師論の検討
 - (2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法
 - (3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
 - (4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用方法
 - (1) 情報機器の特色とその効果的な利用方法
 - (2) 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
 - (3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは
 - (1) 多様化した生徒への対応の仕方
 - (2) 中学校における個を生かす学習集団
 - (3) 高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

【テキスト】

子どもの側に立つ授業論（霜田一敏著 明治図書 2,370円）

生徒指導（進路指導を含む）

不破民由

【授業の概要】

生徒指導を生徒の管理監督、青少年非行の防止といった消極的な視点からとらえるのではなく、21世紀に生きる生徒の健全な育成を目指す。進路指導においては、その理念及び目的を、具体的に学習する。こうした学習をとおして生徒に接する教員の在り方及び人間観についても具体的に指導する。

【授業計画】

1. 生徒指導の歴史の変遷
2. 生徒指導の国際比較（イギリスを中心に）
3. 生徒指導の難しさと喜び
4. 教育相談
5. 「生き方」指導としての進路指導
等

【評価方法】

数回のレポート

【テキスト】

佐野眞一『遠い「山びこ」』（文春文庫）
『生徒指導論の試み』

【参考文献・資料】

- 広田照幸『教員言説の歴史社会学』（名古屋大学出版会）
森嶋通夫『イギリスと日本』（岩波新書）
P. ウィルス『ハマータウンの野郎ども』（ちくま学芸文庫）
P. アリエス『<子ども>の誕生』（みすず書房）
本多和子『異文化としての子ども』（ちくま学芸文庫）
J.-J. ルソー『エミール』（岩波新書）
H. スペンサー『知育・徳育・体育』（明治図書）
天野正輝編『生徒指導・進路指導』（協同出版）
等

教育相談（カウンセリングを含む）

小池理穂

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 教師と生徒の人間関係
 - ・「自分」は他者との関係の中で育つ
 - ・教師－生徒の相互影響過程
 - ・生徒理解
3. 教育相談
 - ・学校における教育相談
教育相談の位置づけ
教育相談の特質
 - ・教育相談の進め方
カウンセリングの基礎
4. 学校という生活環境と適応
 - ・適応と不適応
 - ・問題行動のとらえ方とその対応
 - ・学校への不適応を考える
 - ・非行・いじめを考える

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

富安玲子

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 教師と生徒の人間関係
 - ・「自分」は他者との関係の中で育つ
 - ・教師－生徒の相互影響過程
 - ・生徒理解
3. 教育相談
 - ・学校における教育相談
教育相談の位置づけ/相談担当と学級担任の役割/
教育相談における人間関係の確立/教育相談の形態と場面構成/教育相談の特質
 - ・教育相談の進め方
カウンセリングの基礎
4. 学校という生活環境と適応
 - ・適応と不適応
 - ・問題行動のとらえ方とその対応
 - ・学校への不適応を考える
 - ・非行・いじめを考える

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

カウンセリング

富安玲子

【授業の概要】

我々が人の話を傾聴するとき、その話を自分にとって都合のよいように切り取って聞いているか、反対に自分に都合の悪い部分を切り捨てて聞いているか、という事実がある。そうした事実を体験的に理解するために試行カウンセリングを行い、傾聴の際の学生が陥りやすいタイプを学ばせたい。従来、ロジャースのいう受容、共感、自己一致の中でも受容と共感に力点が過重に置かれすぎてきたように思われるので、自己一致の重要性を伝えていきたい。

【授業計画】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていきたい。

1. 教育相談とカウンセリングを巡って
2. カウンセリングにおける人間理解
 - ・カウンセリングの歴史
 - ・カウンセリングの人間観
 - ・カウンセリングの理論
3. カウンセラーに必要な基本的態度・行動
4. 「聴く」練習－ロールプレー
5. カウンセリングの実際例
6. 応答訓練
7. ミニ試行カウンセリング
8. カウンセリングにおける諸問題
 - －試行カウンセリング／ロールプレイのまとめから考える－

【評価方法】

期末提出の課題レポートとロールプレイ・レポートに、授業への出席・関与度を加えて評価する。

【テキスト】

使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

総合演習

小木曾通男 梅村敏郎 富安玲子 佐藤実芳
加藤文子 霜田一敏 渡辺かよ子

【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の7テーマに別れて演習を行なう。(各テーマ20名以内)

- (1) いじめ問題 (梅村敏郎)
- (2) 福祉－障害のある人も健全な人も共に生きるコミュニティについて－ (加藤文子)
- (3) 国際化を考える (小木曾通男)
- (4) 社会と子育て (佐藤実芳)
- (5) 高齢者福祉の実態と未来 (霜田一敏)
- (6) ジェンダーと教育 (富安玲子)
- (7) 生涯学習における学校 (渡辺かよ子)

【授業計画】

※印は後期日程 (於 長久手)

1. 全体、各テーマ別 7月30日 ※1月28日
 - (1) 総合演習とは、これからのすすめ方
 - (2) 各テーマの概要説明 (各担当者)
 - (3) 希望テーマ提出、テーマ別編成
 - (4) 各テーマ別に課題設定と学習法の指導
2. 9月5日 ※2月27日
 - 課題レポートの提出 (必要部数の印刷)
3. 各テーマ別 9月12日 ※3月5日
 - (1) 課題レポートについて報告 (1人10～15分)
 - (2) 質疑応答、問題点について討議
4. 各テーマ別 9月19日 ※3月12日
 - (1) 問題点について分析検討
 - (2) グループとして課題について整理、代表者の選出
5. 全体 9月26日 ※3月19日
 - (1) グループ代表者の発表 (1名15～20分)
 - (2) 担当教員の指導
 - (3) 感想文の作成と提出

【評価方法】

レポートと感想文により評価

教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

加藤文子

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業計画】

- 1 教育実習の意義と目的
 - ・前年度実習者からのアンケート結果
 - ・「先輩からの一言」
- 2 教育実習の内容と方法
 - ・教育実習の領域
 - ・教育実習の方法
- 3 教育実習記録
 - ・実習記録の意義
 - ・実習記録の方法
- 4 授業研究
 - ・教材研究、教具の意義
 - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
- 5 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
- 6 介護体験事前指導
 - ・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
 - ・特殊教育諸学校教育の理解
 - ・障害児（者）介護への心構え
- 7 介護体験事後指導
- 8 まとめ、アンケート実施

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果（実習・体験評価を参考）により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布。介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」（全国特殊学校長会編著 ジアーズ教育新社）使用。

教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

小木曾通男

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業計画】

- 1 教育実習の意義と目的
 - ・前年度実習者からのアンケート結果
 - ・「先輩からの一言」
- 2 教育実習の内容と方法
 - ・教育実習の領域
 - ・教育実習の方法
- 3 教育実習記録
 - ・実習記録の意義
 - ・実習記録の方法
- 4 授業研究
 - ・教材研究、教具の意義
 - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
- 5 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
- 6 介護体験事前指導
 - ・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
 - ・特殊教育諸学校教育の理解
 - ・障害児（者）介護への心構え
- 7 介護体験事後指導
- 8 まとめ、アンケート実施

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果（実習・体験評価を参考）により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布。介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」（全国特殊学校長会編著 ジアーズ教育新社）使用。

教育実習Ⅰ

加藤文子

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での3週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

- (1) 学級担任として
朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。
また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたりるとともに学級事務を担当する。
- (2) 教科担任として
前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。
- (3) 特別活動として
学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』を活用する。

教育実習Ⅱ

小木曾通男

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での2週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

生涯学習概論

西田 勝

【授業の概要】

本講義では生涯学習の意味する点について理解を深めることをねらいとし、学習者個人々人にとっての生涯学習とは何なのかを問う契機としたい。

【授業計画】

- 第1回 年間計画指示
- 第2回 生涯学習とは
- 第3回 生涯学習の歴史(1)
- 第4回 生涯学習の歴史(2)
- 第5回 学校と生涯学習
- 第6回 社会と生涯学習
- 第7回 生育と生涯学習(1)
- 第8回 生育と生涯学習(2)
- 第9回 性差と生涯学習(1)
- 第10回 性差と生涯学習(2)
- 第11回 生涯学習の実践
- 第12回 まとめ

【評価方法】

出席状況と発表点とレポートによる総合評価とする。

【テキスト】

生涯学習論 (川野辺敏・山本慶裕編著 福村出版)

国際理解教育論

小木曾通男

【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような教育経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。中学校、高等学校の日常的な教科指導、特別教育活動等において、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

【授業計画】

1. 日本の近代化の過程における外国文明の摂取について、次の視点から考察する。
 - (1) 海外留学生の派遣と帰国後の活躍
 - (2) 外国人教員の雇用とその教育への影響
 - (3) 技術伝習による日本の産業の近代化
2. 現代の学校教育における国際化について次の視点から考察する。
 - (1) 教科教育における国際理解教育
 - (2) 特別活動、学校教育における国際理解教育
 - (3) 海外留学生の派遣と海外からの留学生の受け入れ
 - (4) 外国人英語教員の雇用とその役割
3. 現在の日本の国際化の現状を分析し、真の意味での日本の国際化について、教育の視点から考察する。
(授業において、皆さんの体験を踏まえて具体的な事例について、ともに考えて行きたい)

【評価方法】

授業中に課す「感想、意見」の提出及びレポートにより総合評価を行なう。

【テキスト】

国際理解教育論講義概要 (300円)

【参考文献・資料】

授業中にその都度紹介する。

読書指導

梅田卓夫

【授業の概要】

今日の中高校生は全くという程本を読まないといわれている。この実態を解明するために、本好きになった要因や本嫌いになった要因をまず明らかにしたい。そこで漫画本や少女小説が読書好きにさせるかなど具体的な問題も取り上げたい。本講義は、読書指導法の講義ばかりでなく、受講者自身が読書好きになるような参加型授業にしたい。特に学校内における制約のない読書の時間、「黙読の時間」や「自由選択読書の時間」などの実例を取り上げ、その実体と教育的な意義を論究する。

【授業計画】

1. 読書のよろこび
人はどのようにして読書の楽しみと出会うか
先人たちの例、受講者自身の場合
2. 人間形成と読書
読み聞かせの意味——幼児期の精神形成との関わり
黙読の意味——読書の本質。内言語・内省・思索の能力と読書
学校の中の読書指導——「読み聞かせ」「10分間読書」「朝の黙読」などの実践例
他人による助言——家庭、学校、図書館、読書の友
読書サークル
3. 読書の技術
情報化時代の読書——探す・調べる・読む・考える
本を読む生活——愛読書、「書物の敵」
4. 文化史の中の書物
古代アレキサンドリア大図書館から今日まで「英知の容れ物」に関わった人間の営み

【評価方法】

授業の中で与えるテーマに沿っての発表、および期末試験、によって行う

【テキスト】

本の歴史 (B. プラセル著、荒俣宏監修、木村恵一訳 創元社)

ほかに適宜プリントを配布する

学校図書館司書教諭課程科目

学校経営と学校図書館

小木曾通男

【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功事例を紹介し学習する。

【授業計画】

1. 学校図書館の管理運営組織
 - (1) 生徒の利用時間の設定
 - (2) 生徒への図書等の貸し出し方法
 - (3) 長期休業期間中の開館状況
2. 魅力ある学校図書館について
 - (1) 生徒が親しみやすい雰囲気の学校図書館
 - (2) 学校図書館の図書・資料等の整備拡充
 - (3) 生徒が利用しやすい学校図書館経営
3. 学校図書館と生徒会活動の連携
 - (1) 生徒会図書委員会の組織と活動
 - (2) 読書週間、読書コンクール、図書館日より
 - (3) 学校図書館の利用PR活動
4. 学校図書館の充実
 - (1) PTA組織を活用した寄贈図書等
 - (2) 地域社会への呼びかけによる寄贈図書等
 - (3) 関係機関への呼びかけによる寄贈図書等

【評価方法】

出席状況及び課題による。

【テキスト】

プリント配布。

学校図書館メディアの構成

中村和夫

【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

【授業計画】

1. 児童生徒が喜んで利用するメディア構成
 - (1) 現在の学校図書館メディア構成の実態分析
 - (2) 児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の資料選定
 - (3) 児童生徒の学校図書館に期待するものは何か
2. 教育課程にマッチしたメディア構成
 - (1) 教養中心から教科学習に必要な資料の収集
 - (2) 「総合学習の時間」の視点からのメディア構成
 - (3) 「情報」「オーラル英語」等の新しい教科科目の教材
3. 情報化時代にふさわしいメディアの特質の理解
 - (1) ビデオ、DVD、CD等の視聴覚的メディア
 - (2) CD-ROM、マイクロフィルム等の活字メディアに代わるもの
4. 学校図書館メディアの組織化
 - (1) 分類の意義と分類作業の基本
 - (2) 目録の種類と目録作業の基本、目録の機械化

【評価方法】

出席状況及びレポート等による。

【テキスト】

使用しない。

学習指導と学校図書館

加納篤憲

【授業の概要】

学校図書館は、児童生徒の豊かな人間性の育成に貢献することが必要であるのは論をまたないところであるが、同時に、学校における学習指導に深くかかわるものであることを看過してはならない。学習指導に効果的な学校図書館のあり方やその活用方法について、教育実践例に基づいて、次の視点に立って学習する。

【授業計画】

1. 学習活動を促進する学校図書館
 - (1) 利用しやすい本や資料の配架の工夫
 - (2) 教科・科目別の配架、コーナーの設定
 - (3) 教科・科目に関係のある本や資料の充実
2. 学習指導と学校図書館の利用
 - (1) 各教科・科目の課題学習と学校図書館の利用
 - (2) 学校図書館を利用した共同研究・グループ研究
3. 各教科・科目の学習指導
 - (1) 学校図書館を利用する各教科・科目の課題学習
 - (2) 学校図書館を利用する各教科・科目の予習課題
4. 新設された「情報」の学習指導
 - (1) 「情報」における学校図書館の活用方法
5. 新設された「総合的な学習の時間」
 - (1) 「総合的な学習の時間」における学校図書館の役割
 - (2) 学校図書館を利用した「総合的な学習の時間」におけるテーマ別学習、課題学習、グループ学習の展開

【評価方法】

試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

【テキスト】

自作プリント

読書と豊かな人間性

梅田卓夫

【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な事例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

【授業計画】

1. 読書のよろこび
 - (1) 人はどのようにして読書の楽しみと出会うのか
 - (2) 代表的な先人の読書経験から学ぶもの
 - (3) 受講者自身の学校図書館での本との出会い
2. 人間形成と読書
 - (1) 幼児期における読み聞かせの教育的意味
 - (2) 少年期の決定的・運命的な読書との出会い
 - (3) 読書における、内省、思索の意義
3. 学校教育における読書指導
 - (1) 教員による本の紹介、読み聞かせ
 - (2) 「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4. 読書と仲間作り
 - (1) 家庭での読書についての親子の対話
 - (2) 友達同士の読書グループ、読書会
 - (3) 学区図書館を利用した共同研究
5. 読書の技術
 - (1) 情報化時代の読書のあり方
 - (2) 愛読書、好きな作家

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

情報メディアの活用

東浦信博

【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

【授業計画】

1. 学校図書館と情報機器
 - (1)学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
 - (2)学校図書館に設置する情報機器
2. 学校図書館とコンピュータとの関わり
 - (1)図書検索とコンピュータ (OPAC)
 - (2)インターネットを使用する資料の収集
3. 学校図書館の情報メディアの活用
 - (1)視覚メディアとしてのVTR等
 - (2)聴覚メディアとしてのDVD、CD等
 - (3)活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等

【評価方法】

出席状況及び試験による。

【テキスト】

使用しない。

司書課程科目

生涯学習概論

古野有隣

【授業の概要】

生涯学習という言葉は最近かなり知名度が高くなってきているが、その意味や意義については必ずしも正確に理解されているとはかぎらない。

この講義では生涯学習の意味するところを、その理念の提唱時からの推移の説明をまじえて、理解を深めることをねらいとしたい。また、先の長い人生を持っている自分にとって生涯学習とは何なのかを考える契機となればとも思っている。

1. 生涯教育の理念～推移を含めて～
ユネスコ以降わが国における推移
生涯教育のめざすもの
生涯教育と生涯学習の関係
2. 生涯教育と社会教育・学校教育との関係
生涯教育と社会教育
生涯教育と学校教育
3. 社会教育の内容・方法・形態
行政社会教育の主要領域
社会教育の内容・方法・形態
4. 生涯学習関連施設の現状と展望
生涯学習関連施設の範囲
社会教育施設の種類と現状
5. 生涯学習指導者
生涯学習指導者の範囲
生涯学習指導者の役割

【授業計画】

講義。

【評価方法】

テスト。

【テキスト】

資料集（予価500円）を開始時に頒布。

図書館情報学概論Ⅰ

村主朋英

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅰでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野
図書館学／情報学／図書館情報学
図書館情報学を学ぶための情報源／指定図書
2. 情報の流過程
情報の流れ／情報メディア
事例：学術情報の流過程
3. 情報の概念
概念・考え方・観点・立場
定義の多様性と現象の多面性
情報概念の歴史／情報・知識・データ
定義の整理のための枠組み／構造的な理解
認識・認知・こころ／人間・人・ヒト

【評価方法】

定期試験

- 注1) 「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。
- 注2) 「図書館情報学概論Ⅰ」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同Ⅱ」の成績に組み込む。今年度「同Ⅱ」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

【テキスト】

『図書館情報学用語辞典』日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編 丸善 3,800円（税別定価）

図書館情報学概論Ⅱ

村主朋英

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅱでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

【授業計画】

1. 図書館・情報サービスの世界
構成要素と機能／情報システムとしての図書館
2. 館種ごとの概説
国立図書館／大学図書館／公共図書館／学校図書館／専門図書館
3. 協力と競合
図書館ネットワーク／
競合する情報サービスの中で／電子図書館の概念
4. 図書館員と情報専門職の世界
5. 図書館情報学の将来

【評価方法】

定期試験と夏休みレポート

- 注1) 「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。
- 注2) 「図書館情報学概論Ⅰ」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同Ⅱ」の成績に組み込む。今年度「同Ⅱ」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

【テキスト】

『図書館情報学用語辞典』日本図書館情報学会用語辞典
編集委員会編 丸善 3,800円（税別定価）

図書館経営論

山本 進

【授業の概要】

図書館の技術的な面—分類・目録等—資料組織とは別に図書館運営上の諸問題—司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

【授業計画】

- | | |
|--------------------------------|----|
| 0,オリエンテーション・図書館の経営論の意義 | 1回 |
| 1,図書館館種別の経営上の問題点と管理原則 | 1回 |
| 2,図書館学の五法則と図書館員の関わり | 1回 |
| 3,図書館の自由に関する宣言 | 2回 |
| 4,図書館員の倫理綱領 | 2回 |
| 5,図書館員と労働基準法解説 | 1回 |
| 6,図書館関係法規と図書館のサービス基準解説 | 1回 |
| 7,図書館サービスの測定と評価（実例課題によるレポート提出） | 1回 |
| 8,図書館計画の立案と実例解説 | 2回 |
| 9,生涯学習と図書館及び利用者教育 | 2回 |
| ※講義の中から関心のある事項についてレポート提出 | 2回 |

【評価方法】

期末テスト実施—記述式、前期全体の講義の中から問題を2～3問と、提出されたレポートと記述試験の採点とを併せて評価する。

【テキスト】

講義シラバスを配付する。

情報サービス基礎論Ⅰ

逸村 裕

【授業の概要】

情報化社会は社会における産業構造の変化をもたらしている。「情報」を扱う産業は、急速に増大し、社会に大きな影響力を与えている。この科目では、現代社会において特徴的な情報産業の現状を概観し、「情報」を商品化するプロセスを考察するとともに、すべての職業において進展している「情報化」の持つ意味を検討する。また進路としての情報関連産業について論じる。さらに、情報産業の事例紹介を論じ、職業倫理と勤労観についても言及する。

【授業計画】

1. 情報化社会と情報産業
 2. 情報産業の概況
 3. 産業と職業における情報の意味
 4. 情報産業とIT化
 5. 情報サービス事例1：ソフトウェア産業
 6. 情報サービス事例2：メディア産業
 7. 情報サービス事例2：通信産業
 8. 情報サービス事例2：出版産業
 9. 情報サービス事例3：図書館情報
 10. 情報サービス事例4：マルチメディアリソース
 11. 情報サービス事例5：情報分析・シンクタンク
 12. 情報産業におけるキャリアパターン
 13. 情報産業における勤労観と職業倫理
- 講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。
「インターネット講習会」を受講しておくこと。

【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による評価。
詳細は初回講義の際に説明する。

【テキスト】

使用せず。

情報サービス基礎論Ⅱ

逸村 裕

【授業の概要】

図書館で行われる情報サービスには幅広いものがある。また、これらのサービスはその対象、館種、主題、規模ごとに多くの特徴を持つ。さらに今日、伝統的な図書館サービスに加え、情報技術の普及発展に伴う新たな対応を迫られている。

これら図書館情報サービスの紹介と評価の視点から講義を行なう。

1. この講義の対象と範囲
2. パブリック・サービス（奉仕－直接サービス）
 - A. 貸出閲覧
 - B. レファレンスサービス
 - C. 相互協力
 - D. 視聴覚資料
 - E. パブリックサービスの今後
3. テクニカル・サービス（資料組織－間接サービス）
 - A. 選書
 - B. 収書
 - C. 整理
 - D. 雑誌
 - E. テクニカルサービスの今後
4. 評価の視点から見た情報サービス
 - A. 蔵書
 - B. 人的サービス
 - C. その他のサービス

【授業計画】

講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。
「インターネット講習会」を受講しておくこと

【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による評価。詳細は初回講義の際に説明する。

【テキスト】

使用せず。

レファレンスサービス論

杉江典子

【授業の概要】

図書館で実施されるレファレンスサービスについて、その意義とサービス内容を理解することを目的とする。この科目は、「レファレンスメディア論」と相互に補完するものとして扱う。講義を中心に進める。

【テキスト】

レファレンスサービス—図書館における情報サービス
(長澤雅男 丸善 2,369円)

レファレンスメディア論

杉江典子

【授業の概要】

レファレンス質問の回答に利用される情報源にはどのようなものがあるのか、それぞれの情報源にはどのような特徴があるのか、を理解することを目的とする。講義を中心に進めるが、講義で学んだ知識を生かして演習課題を解き、具体的な探索方法についても学ぶ。

【テキスト】

情報と文献の探索 第3版 (長澤雅男 丸善 3,296円)

情報検索演習Ⅱ

伊藤真理

【授業の概要】

学術論文を中心として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握と検索結果に対する評価について理解する。

当科目は、情報検索演習Ⅰ（図書館情報学科の学生のみ）、図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱの履修を前提条件とする。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術論文の検索
 - 2.1 インターネット検索
 - 2.2 CD-ROM検索
3. オンライン情報検索システム
 - 3.1 JOIS
 - 3.2 DIALOG
4. テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報メディア基礎論Ⅰ・Ⅱ

菅野育子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
 - (1) 図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
 - (2) 雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e-print
レター、editorial comment
 - (3) 新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
 - (4) 会議資料
学会、会議録
 - (5) 特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
 - (6) 規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
 - (7) データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
 - (8) インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

【評価方法】

期末試験と出席回数によって評価する。

【テキスト】

なし。

情報メディア論Ⅳ (人文社会情報メディア)

菅野育子

【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
 3. 1 美術分野
 3. 2 音楽分野
 3. 3 文学
 3. 4 ビジネス分野
 3. 5 法律分野
 3. 6 心理学
 3. 7 図書館情報学
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

【評価方法】

レポートと出席回数によって評価する。

【テキスト】

使用せず。

情報メディア論Ⅴ (科学技術情報メディア)

山崎茂明

【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。

1. 環境としての学術情報
2. 文献情報と文献調査
3. 学術雑誌の歴史と生態
4. 総合誌、レビュー誌、レター誌
5. 日本からの英文論文発表
6. 主要海外誌への日本からの発表傾向
7. 生物医学雑誌への統一投稿規程
8. オアサーシップからみた学術論文
9. 出版倫理と利害の衝突
10. ニュースメディアと学術雑誌
11. レフェリーシステム
12. 一流誌への発表
13. インパクトファクターの批判的吟味
14. 電子メディア (データベース、一次雑誌) の現在

【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関する資料を随時配付する。

【評価方法】

期末レポート、小レポート (授業時間内)

【テキスト】

山崎茂明『論文投稿のインフォマティクス』中外医学社

【参考文献・資料】

- Lambert, J. 『電子時代の学術雑誌』日本図書館協会
Thompson, J.W. 『出版産業の起源と発達』出版同人
中山茂 『歴史としての学問』中央公論社
山崎茂明 『生命科学論文投稿ガイド』中外医学社
山崎茂明 『医学文献サーチガイド 第2版』日本医書出版協会
根岸正光・山崎茂明 『研究評価』丸善

資料組織論

伊藤真理

【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。

目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
資料の組織化；資料組織業務の位置づけ
- 第2回 目録について
- 第3回 書誌コントロール
書誌ユーティリティ
- 第4回 目録規則の標準化、統一
- 第5回 記述目録と主題目録
記述目録（1）AACR 2r、NCR
- 第6回 記述目録（2）アクセス・ポイントの選定；標目形
- 第7回 記述目録（3）典拠コントロール
- 第8回 主題目録（1）分類法
- 第9回 主題目録（2）分類法
- 第10回 主題目録（3）件名標目表
- 第11回 MARC
- 第12回 インターネット情報資源の記述

【評価方法】

平常点、期末試験

【テキスト】

初回時にテキスト配布。

資料組織演習

岡澤和世 伊藤真理

【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、実習を通してより深い理解と習得することを目的とする。

講義内容は、記述目録法と主題目録法の2部から成り、オムニバス形式で授業を進める。主題目録法では日本十進分類法や基本件名標目表などを取り上げ、記述目録については、国際的な標準規則として認められている英米目録規則を用いる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・主題目録法
分類：NDC
主題件名標目表：BSH
- ・記述目録法
ISBD
アクセス・ポイント
標目形
- ・MARCについて

【評価方法】

出席、実習およびレポート提出

【テキスト】

「資料組織論」で配布したテキストを使用

図書館学特殊Ⅲ（児童サービス論）

福永智子

【授業の概要】

図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。具体的には、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・学校図書館における児童サービスの現状について検討する。とりわけ、学校図書館のサービスに重点を置いて解説する。

【授業計画】

1. 公立図書館の児童サービス
 - (1) 児童サービスの法的基盤
 - (2) 児童図書館員の役割と専門性
 - (3) サービス対象としての児童：読書興味の発達段階
 - (4) 児童用資料の特性とコレクション構築の実際
 - (5) 児童サービスの企画と運営、施設・設備
 - (6) 周辺領域：子ども文庫活動、ブックスタート活動
2. 学校図書館と情報活用能力の育成
 - (7) 戦後教育改革と学校図書館の制度化
 - (8) 1997年の学校図書館法改正と「人」の問題
 - (9) 情報センター、学習センター、読書センター機能
 - (10) 学校図書館における図書館利用教育のガイドライン
3. 公立図書館と学校図書館の協力的体制
 - (11) 異館種間ネットワーク構築の原理
 - (12) 地方自治体における先進事例の紹介
4. 試験（1.～13.）

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって、総合的に評価する。

【参考文献・資料】

- 児童サービス論（堀川照代編著 日本図書館協会）
児童サービス論（佐藤涼子編 教育史料出版会）
学校図書館論 補訂版（塩見昇編 教育史料出版会）

情報学Ⅲ（図書館と情報検索の歴史）

村主朋英

【授業の概要】

図書館サービスと情報検索サービスの発達過程を中心に図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。古代から、ルネサンス期までを対象とし、IVに引き継ぐ。

【授業計画】

0. オリエンテーション
歴史を学ぶ意義／情報化社会論と情報史
1. 古代文明のメディアと情報・知識
2. ギリシア・ローマにおける革新
3. 中世の学術と書物・図書館
4. 印刷革命
5. 学術情報流通システムの成立

【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

【テキスト】

『歴史のなかの科学コミュニケーション』勁草書房 税別定価3,800円

『図書館情報学用語辞典』丸善 税別定価3,800円

情報学Ⅳ（図書館と情報検索の歴史）

村主朋英

【授業の概要】

図書館サービスと情報検索サービスの発達過程を中心に図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。Ⅲに続き、近代および現代を対象とする。

【授業計画】

1. 図書館の世紀
近代公共図書館／国立図書館の確立／図書館界の成立／書誌の発達
2. 図書館学とドキュメンテーション
3. 情報技術の起源
4. 情報検索サービスの成立
5. 情報学の成立
6. 情報史の現在
7. 理想の情報検索システムを求めて
Vannevar BushとMemex構想をもとに

【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

【テキスト】

『歴史のなかの科学コミュニケーション』勁草書房 税別定価3,800円

『図書館情報学用語辞典』丸善 税別定価3,800円

個人コミュニケーション論Ⅰ（認知心理学）

岩原昭彦

【授業の概要】

見る、聞く、話す、覚える、考えるなどの知的機能を総称して認知という。認知心理学では、人間を高次な情報処理体として見なし、情報の入力と出力との間に生じるさまざまな認知的過程を実験とシミュレーションにより理論化している。本講義では、人間の記憶活動と言語活動がどのように営まれているのかを明らかにするとともに、それらの活動を支える基盤が、脳の中でどのように組織化されているのかを検討する。また、講義を通じて、我々が日常生活の中で体験する不思議な現象を認知心理学的に解明していきたい。

【授業計画】

1. 短期記憶
2. 長期記憶
3. 潜在記憶と顕在記憶
4. 符号化・処理・作業記憶
5. 想起と忘却
6. 日常記憶
7. 知識
8. 談話認知
9. 単語認知と読み
10. 理解
11. 発話と思考
12. 言語と意志伝達

【評価方法】

期末試験と授業中に実施する実験・調査への参加回数。

【テキスト】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

情報メディア論Ⅰ (マルチメディア)

三和義秀

【授業の概要】

社会、教育現場における情報機器の発展経緯、種類、機能、ならびに情報メディアの発達と変化について論じながら、情報メディアの特性、視聴覚メディア、図形処理と画像処理を中心とするソフトウェア、インターネットとシミュレーションに係るツールの活用方法、情報メディアと情報通信(ネットワーク)技術やマルチメディアとの関係について考察する。また、技術的な側面として、インターネットでの情報の検索手法、ハイパーテキスト・システムの本質的問題、およびその設計・開発手法についても触れていく。

【授業計画】

- 1) ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
- 2) メディアとは何か
- 3) 情報機器の発展経緯と種類、機能
- 4) 情報メディアの発展経緯と特性
- 5) 視聴覚メディアの種類と特性
- 6) 図形・画像処理とソフトウェア
- 7) 情報通信とメディア
- 8) マルチメディアと情報通信技術
- 9) ネットワーク技術とインターネット
- 10) 放送の高度化とマルチメディア
- 11) 通信の高度化とマルチメディア
- 12) インターネットとシミュレーション
- 13) インターネットでの情報の検索手法
- 14) ハイパーテキストの仕組みと本質的問題
- 15) ハイパーテキスト・システムの作成手法

【評価方法】

出席回数、レポート、および定期試験により評価を行う。

【テキスト】

授業時に提示する。

学芸員課程科目

博物館概論

長谷川 銑治

【授業の概要】

博物館とは何かからはじめて、その発達の歴史をたどり、日本と世界の博物館を概観する。

- ア はじめに…学芸員の資格、博物館学とは何かなど学習の基礎となる事項を説明する。
- イ 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に「博物館」とは何かを考えていく。
- ウ 博物館の始原…博物館の歴史を概観するにあたって、その始原をたずねてみる。
- エ 博物館の萌芽…ルネサンス期からの人々の文芸に対する態度の探求と博物館的な施設の形を探る。
- オ 近代博物館の発見Ⅰ…王権の誇示の手段としての財宝の展示などから博物館を考える。
- カ 近代博物館の発見Ⅱ…市民革命などの動きにあわせて市民への公開がなされていく過程を考える。
- キ ヨーロッパの博物館…近世から現代までを主要な博物館を例にとり、その特徴をまとめる。
- ク アメリカの博物館…独立から現代までをヨーロッパの博物館と対比しつつ、その特徴を探る。
- ケ 博物館の新しい波…企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど、今後の博物館の形態をみすえて、新しい動きをひろってみる。
- コ 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
 - ・大陸文化の請来から床の間の普及まで
 - ・幕末から明治期にかけての博物館の発見
 - ・国威の宣揚と博物館
 - ・通俗教育による教化と博物館
 - ・十五年戦争と博物館
 - ・戦後の再発見

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義する。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川 銑治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅰ

長谷川 銑治

【授業の概要】

博物館について、その機能、役割、組織、運営、学芸員、施設・設備、情報化、協力などにふれ、学芸員資格にかかわる基本的事項を学習する。

- ア 博物館の機能…生涯学習のための施設の一つと定義づけられていることを念頭におき、その機能について考える。
- イ 博物館の分類…種類別、設置者別、制度別などの分類わけをとおして、博物館の役割やあり方を考えていく。
- ウ 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織の状態をみていく。
- エ 博物館の運営…名古屋市博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- オ 学芸員考…現在、学芸員のおかれている地位、実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。外国のCURATORとも比較してみる。
- カ 予算など…博物館のマネージメントについて、予算を中心に考える。
- キ 博物館の施設・設備…人文系博物館・動物園・植物園・水族館などについて、その設置基準をもとに施設・設備についてみる。
- ク 博物館と情報…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探ってみる。
- ケ 博物館の協力…博物館はもちろんのこと、大学・研究機関などとの連携について考える。

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義する。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川 銑治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅱ

秋元悦子

【授業の概要】

博物館の活動の基礎は「資料」にあり、それを有効活用することではじめて博物館と言えよう。本講座では、その収集・取り扱い・整理・保存・活用について具体的な事例や実習を取り入れながら学んでいく。

【授業計画】

1. 博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的種類を知る。
 2. 資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
 3. 資料の取り扱い……基本資料の取り扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。やきもの、和装・卷子本、掛け軸その他で実習する。
 4. 資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
 5. 資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
 6. 資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
 7. 資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。
- また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、準備について説明する。

【評価方法】

実習態度、レポートおよび小テストで評価する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川鏑治）

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ・スライド等も利用する。

博物館実習

秋元悦子

【授業の概要】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習、博物館見学、博物館実習を中核に、具体的な学芸員活動を様々な観点から学習する。

【授業計画】

1. 展示とは……展示という手法について、その実際と未来像を考える。
2. 展示の実際……計画から、手法、条件などの展示の実際の概要を具体的な事例をふまえながら、学んでゆく。
3. 展示にかかわる事業……展示をとりまく、様々な事業（解説、広報、印刷物、講座など）の存在を知る。
4. 展示の実習……各自で模擬展示の計画書を作成し、展示方法やその活用法を実習する。
5. 展示と教育普及事業……展示を通じての生涯学習機関として、博物館の今後になう役割と未来を探る。

授業以外に、

- 土曜日に、博物館の展示・施設見学を行う。
- 夏休み中に、各博物館に依頼し館務実習を行う。

【評価方法】

授業および学外での研修の出席・レポート、模擬展示の口頭発表およびその計画書で評価する。

【テキスト】

博物館学概論（長谷川鏑治 戸谷印刷）

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ・スライド等も利用する。

生涯学習概論

西田 勝

【授業の概要】

本講義では生涯学習の意味する点について理解を深めることをねらいとし、学習者個人にとっての生涯学習とは何なのかを問う契機としたい。

【授業計画】

- | | |
|------|------------|
| 第1回 | 年間計画指示 |
| 第2回 | 生涯学習とは |
| 第3回 | 生涯学習の歴史(1) |
| 第4回 | 生涯学習の歴史(2) |
| 第5回 | 学校と生涯学習 |
| 第6回 | 社会と生涯学習 |
| 第7回 | 生育と生涯学習(1) |
| 第8回 | 生育と生涯学習(2) |
| 第9回 | 性差と生涯学習(1) |
| 第10回 | 性差と生涯学習(2) |
| 第11回 | 生涯学習の実践 |
| 第12回 | まとめ |

【評価方法】

出席状況と発表点とレポートによる総合評価とする。

【テキスト】

生涯学習論 (川野辺敏・山本慶裕編著 福村出版)

視聴覚教育メディア論

高橋啓介

【授業の概要】

「学芸員のための」を前提としながらも幅広く視聴覚教育メディア全般の特性を検討し、最近のマルチメディアまでの各視聴覚教育メディアを論ずる。

1. 視聴覚教育の意義と効果
2. 博物館と視聴覚教育メディア (手段としてのメディア、目的物としてのメディア)
3. 視聴覚教育メディア各論
領域と種類
録音メディア (レコード・テープ・CD等)
映像メディア1 (スライド・OHP等)
映像メディア2 (映画・ビデオ等)
マルチメディアと情報ネットワーク

【授業計画】

上記の教育目標を達成するために、特に「メディア・リテラシー」の問題に焦点を当て、実践的な分析を含めて、「メディア・リテラシー」教育について検討する。

- | | |
|------|------------------|
| 第1回 | メディア・リテラシーとは |
| 第2回 | メディア・リテラシーの基本概念 |
| 第3回 | メディア・リテラシーの枠組み |
| 第4回 | テレビ報道の分析1 (事例研究) |
| 第5回 | テレビ報道の分析2 (事例研究) |
| 第6回 | メディアの技術 |
| 第7回 | テレビCMの分析1 |
| 第8回 | テレビCMの分析2 |
| 第9回 | テレビCMの分析3 |
| 第10回 | テレビCMの分析4 |
| 第11回 | テレビCMの分析5 |
| 第12回 | テレビCMの分析6 |
| 第13回 | まとめ |

なお、必要に応じて受講者の発表を含む演習形式を取ることがある。また3回の課題レポートの提出を求める。

【評価方法】

出席状況 (10点)、授業態度 (10点)、課題レポート (10点×3)、自由課題研究レポート (50点)とし、加点法によって60点以上を取得の場合、合格とする。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

メディア・リテラシー (菅谷明子 岩波新書)

教育学概論

梅村敏郎

【授業の概要】

教育の概念の説明に始まって、教育の史的展開を日本を中心にして述べ、教育内容・方法の問題、教育行政のしくみを明らかにし、さらに現代教育の諸問題について触れる。教育の原理的・史的基盤から、実践的問題を明らかにして、教育学のパースペクティブの把握につとめる予定である。

【授業計画】

1. 教育とは何か (2回)
2. 教育のあゆみ (4回)
3. 教育内容と方法 (2回)
4. 教育行政のしくみ (3回)
5. 現代教育の諸問題 (4回)

【評価方法】

学期末の筆答試験による。

【テキスト】

とくに定めずプリントを適宜配布する。

民俗学

谷沢 明

【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

【授業計画】

1. 民俗学を学ぶ～方法論と調査研究法～
2. 稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3. 農耕儀礼～田遊びを中心に～
4. 年中行事～正月行事を中心に～
5. 年中行事～盆行事を中心に～
6. 人生儀礼～人生の折り目にあたって～
7. 暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8. 暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9. 庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10. 庶民信仰を探る～庚申信仰～
11. 日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12. 日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～

【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による

【テキスト】

『フィールドワークで探る民俗と地域文化』

日本美術史

四辻秀紀

【授業の概要】

平安時代には、和歌の心映えや情趣を絵にあらわした“歌絵”やつくり物語のなかの興味ある場面を選んで絵画化した“物語絵”が愛好された。これ以降、和歌や物語を絵画化したり意匠化して享受することは各時代を通じおこなわれてきた。本講座では、平安時代から江戸時代に至る“歌絵”や“物語絵”の系譜について現存遺品を中心に、文献資料をまじえながら考察し、各作品の制作・享受の背景や問題点について言及したい。

【授業計画】

1. やまと絵の成立と展開。物語絵と屏風絵・歌絵
 2. 和歌とかな
 3. 源氏物語絵巻
 4. 源氏物語絵巻
 5. 鎌倉時代以降の源氏絵の系譜
 6. 紫式部日記絵巻
 7. 伊勢物語絵巻
 8. さまざまな歌仙絵
 9. 鎌倉時代の白描絵巻
 10. お伽草子と小絵
 11. 近世初期の古浄瑠璃絵巻群について
 12. 工芸品にみる歌絵・物語絵の意匠
- ※スライド使用。学外授業として展覧会の見学を行う。

【評価方法】

レポートおよび出席状況により総合的にこなう。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

他学部・他学科開放科目

Practical English 1 G

間瀬欣英 今井加寿 村上洋子 鈴木哲至
山田 豊 山田久美子 天野純子 太田晶子

【授業の概要】

TOEICや英検等の資格試験に対応するための授業。週2回の授業で、総合的に英語の能力を向上させる。積極的に授業に参加してもらいたい。

【授業計画】

この授業は、文法、ヒアリングを中心に行う授業が週に1回、リーディング中心の授業が週に1回行われ、週2回で2単位の科目である。週2回の授業に参加して初めて単位が認められる。月曜日1限、水曜日1限のグループと火曜日1限、水曜日1限のグループがある。いずれも同じテキストを使用する。

* 文法、ヒアリング中心の授業 (週1回)

月曜日1限: 間瀬先生、村上先生

火曜日1限: 山田久美子先生、天野先生

テキストを中心に授業をおこなう。授業の進め方については、各先生の指示に従うこと。

* リーディング中心の授業 (週1回)

水曜日1限: 山田豊先生、太田晶子先生、今井先生、鈴木先生

テキストを中心に授業をおこなう。授業の進め方については、各先生の指示に従うこと。

月曜日1限 間瀬先生&水曜日1限 今井先生

月曜日1限 村上先生&水曜日1限 鈴木先生

火曜日1限 山田久美子先生&水曜日1限 山田豊先生

火曜日1限 天野先生&水曜日1限 太田晶子先生

(先生の組み合わせは決まっているが履修上、それを選択することはできない。)

テキストは、半期、各1冊、使用する。

【評価方法】

2日の授業の得点の平均で評価がでる。

間瀬先生: 定期試験、小テスト、発表、出席状況などによって総合的に評価。

村上先生: 出席、授業態度が30%、定期試験が70%。

山田豊先生: 出席やクラスでのパフォーマンス、ミニテストと定期試験を点数化して評価する。

太田先生: 出席、授業態度、定期試験を同等に評価する。

山田久美子先生: 出席状況、定期試験により総合的に評価する。

天野先生: 出席、ハーフテストスコア、定期試験による。

鈴木先生: 出席状況・授業態度・クイズ-30%、定期試験-70%

今井先生: 出席・授業態度30%、筆記試験70%

【テキスト】

- ・ K.Hashimoto, M.Yamauchi, K.Keane *Build Up Your TOEIC Vocabulary: A Basic Course* 松柏社、¥1,700
- ・ 石井隆之、宮野智晴 「TOEICテストリーディング基礎演習」英宝社、¥1,600

Practical English 1 H

間瀬欣英 今井加寿 村上洋子 鈴木哲至
山田 豊 山田久美子 天野純子 太田晶子

【授業の概要】

TOEICや英検等の資格試験に対応するための授業。週2回の授業で、総合的に英語の能力を向上させる。前期に履修した学生も、また新しい気持ちで後期も引き続き授業をうけてもらいたい。後期から履修する学生にも対応できるテキストを使用しているので、積極的に授業に参加してもらいたい。

【授業計画】

この授業は、文法、ヒアリングを中心に行う授業が週に1回、リーディング中心の授業が週に1回行われ、週2回で2単位の科目である。学生は、週2回の授業に参加して初めて単位が認められる。月曜日1限、水曜日1限のグループと火曜日1限、水曜日1限のグループがある。いずれも同じテキストを使用する。

* 文法、ヒアリング中心の授業 (週1回)

月曜日1限: 間瀬先生、村上先生

火曜日1限: 山田久美子先生、天野先生

テキストを中心に授業をおこなう。授業の進め方については、各先生の指示に従うこと。

* リーディング中心の授業 (週1回)

水曜日1限: 山田豊先生、太田晶子先生、今井先生、鈴木先生

テキストを中心に授業をおこなう。授業の進め方については、各先生の指示に従うこと。

月曜日1限 間瀬先生&水曜日1限 今井先生

月曜日1限 村上先生&水曜日1限 鈴木先生

火曜日1限 山田久美子先生&水曜日1限 山田豊先生

火曜日1限 天野先生&水曜日1限 太田晶子先生

テキストは、半期、各1冊、使用する。

(先生の組み合わせは決まっているが、履修上、それを選択することはできない。)

【評価方法】

2日の授業の得点の平均で評価がでる。

間瀬先生: 定期試験、小テスト、発表、出席状況などによって総合的に評価。

村上先生: 出席、授業態度が30%、定期試験が70%。

山田豊先生: 出席やクラスでのパフォーマンス、ミニテストと定期試験を点数化して評価する。

太田先生: 出席、授業態度、定期試験を同等に評価する。

山田久美子先生: 出席状況、定期試験により総合的に評価する。

天野先生: 出席、ハーフテストスコア、定期試験による。

鈴木先生: 出席状況・授業態度・クイズ-30%、定期試験-70%

今井先生: 出席・授業態度30%、筆記試験70%

【テキスト】

- ・ M.Aoki, *Communication in the Real World: Tasks for TOEIC Test Preparation* 成美堂 ¥1,900
- ・ 仙福健治、Evan Thomas, 「TOEICテストリスニング基礎演習」英宝社 ¥1,600

Practical English 2 G

山田 豊 太田晶子 鈴木哲至
野口朋香 今井加寿 松本一喜

【授業の概要】

TOEICや英検等の資格試験に対応するための授業。週2回の授業で、総合的に英語の能力を向上させる。

【授業計画】

この授業は、水曜日に文法、ヒアリングを中心に行う授業が、リーディングを中心の授業が金曜日に行われ、週2回で2単位の科目である。授業は、水曜日の2限と金曜日の1限に設定されている。学生は、週2回の授業に参加して初めて単位が認められる。

水曜日：山田豊先生、太田晶子先生、鈴木哲至先生
(文法)

金曜日：野口朋香先生、今井加寿先生、松本一喜先生
(リーディング)

授業は、テキストを中心に行われるが、詳しくは、担当の先生の指示にしたがうこと。

文法・リーディングの先生の組み合わせは、次のように決定されているが、履修上、学生はそれをする事はできない。きめられたところで受講すること。

水曜日の山田先生&金曜日の野口先生
水曜日の太田先生&金曜日の今井先生
水曜日の鈴木先生&金曜日の松本先生

【評価方法】

2日の授業の得点の平均で評価がでる。

松本先生：2/3以上の出席があり、定期試験で60点以上の得点を取ることが単位認定の基準。定期試験の点数を基準に出席率、発表等の日常点を加味した総合評価をする。

山田先生：出席やクラスでのパフォーマンス、ミニテストと定期試験を点数かして評価する。

太田先生：出席、授業態度、定期試験を同等に評価する。

鈴木先生：出席状況・授業態度・クイズ-30%、定期試験-70%

野口先生：出席20%、クラス小テスト+課題20%、定期テスト60%

今井先生：出席・授業態度30%、筆記試験70%。

【テキスト】

- ・ H.Hayase, M.Hiwatashi, Z.Mitchell *Reading Preparation Course for the TOEIC Test*、英宝社 ¥1,700
- ・ S.Matsuno, R.Howser *Cutting Edge in Science* 金星堂 ¥1,900

Practical English 2 H

山田 豊 太田晶子 鈴木哲至
野口朋香 今井加寿 松本一喜

【授業の概要】

TOEICや英検等の資格試験に対応するための授業。週2回の授業で、総合的に英語の能力を向上させる。

【授業計画】

この授業は、水曜日に文法、ヒアリングを中心に行う授業が、リーディングを中心の授業が金曜日に行われ、週2回で2単位の科目である。授業は、水曜日の2限と金曜日の1限に設定されている。学生は、週2回の授業に参加して初めて単位が認められる。

文法は各クラス等一のテキストを使用するが、リーディングは担当の先生によって異なる。

授業は、テキストを中心に行われるが、詳しくは、担当の先生の指示にしたがうこと。

文法・リーディングの先生の組み合わせは、次のように決定されているが、履修上、学生はそれをする事はできない。きめられたところで受講すること。

水曜日の山田先生&金曜日の野口先生
水曜日の太田先生&金曜日の今井先生
水曜日の鈴木先生&金曜日の松本先生

【評価方法】

2日の授業の得点の平均で評価がでる。

松本先生：2/3以上の出席があり、3回のレポート提出、定期試験で60点以上の得点を取ることが単位認定の基準。成績は試験結果を中心に日常点を加味した総合評価をする。

山田先生：出席やクラスでのパフォーマンス、ミニテストと定期試験を点数かして評価する。

太田先生：出席、授業態度、定期試験を同等に評価する。

鈴木先生：出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%

野口先生：出席20%、クラス小テスト+課題20%、定期テスト60%

今井先生：出席・授業態度30%、筆記試験70%。

【テキスト】

- ・ Joan McConnell, S.Takeda *Rapid Reading with TOEIC Test Vocabulary* 成美堂 ¥1,900
- ・ 西谷恒志、吉塚弘、Wayne Philips 「TOEIC Test 450 必須レッスン」 音羽書房鶴見書店 ¥1,750

Practical English 3 G

アレン・D. ウィリアムス キース・イーズリー ハリー・T. ノリス
サミュエル・ミラー リチャード・ハリス

【Course Content】

This course is available to all English Department students.

This course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills along with vocabulary, comprehension, and grammar will also be cultivated. The work will help students to prepare for Eiken and TOEIC /TOEFL.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching this course, providing a well-rounded consideration of contemporary themes.

The course will be graded and students will sit a placement test. (See student handbook for more detailed information.)

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION/EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

To be announced

Practical English 3 Gは、週2回コース授業である。月曜1限、木曜1限の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 3 H

アレン・D. ウィリアムス キース・イーズリー ハリー・T. ノリス
サミュエル・ミラー リチャード・ハリス

【Course Content】

This course is available to all English Department students.

Preference will be given to 1st and 2nd year students.

This course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills along with vocabulary, comprehension, and grammar will also be cultivated. The work will help students to prepare for Eiken and TOEIC /TOEFL.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching this course, providing a well-rounded consideration of contemporary themes.

The course will be graded and students will sit a placement test. (See student handbook for more detailed information.)

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION/EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

To be announced

Practical English 3 Hは、週2回コース授業である。月曜1限、木曜1限の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 4 G

キース・イズリー ジョナサン・E. ロング アラン・テイヴィーズ
ジョアン・M. ウッドマン ポール・ルイス

【Course Content】

This course is available to all English Department students.

Preference will be given to 1st and 2nd year students.

This course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills along with vocabulary, comprehension, and grammar will also be cultivated. The work will help students to prepare for Eiken and TOEIC /TOEFL.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching this course, providing a well-rounded consideration of contemporary themes.

The course will be graded and students will sit a placement test. (See student handbook for more detailed information.)

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION/EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

To be announced

Practical English 4 Gは、週2回コース授業である。火曜5限、金曜5限の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Practical English 4 H

キース・イズリー ジョナサン・E. ロング アラン・テイヴィーズ
ジョアン・M. ウッドマン ポール・ルイス

【Course Content】

This course is available to all English Department students.

Preference will be given to 1st and 2nd year students.

This course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural.

Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills along with vocabulary, comprehension, and grammar will also be cultivated. The work will help students to prepare for Eiken and TOEIC /TOEFL.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching this course, providing a well-rounded consideration of contemporary themes.

The course will be graded and students will sit a placement test. (See student handbook for more detailed information.)

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION/EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

To be announced

Practical English 4 Hは、週2回コース授業である。火曜5限、金曜5限の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

Rapid Reading 1

間瀬欣英

【授業の概要】

今世紀の著名な英米作家5人の短編小説を読んで英語の読解力を養うとともに、小説という言葉の芸術の醍醐味を味わい、人間や人生の機微にふれ、あわせて私達自身の生き方も考えていきたい。

テキストの各短編の直後には、アメリカ人編注者による、英語で書かれた詳注があり、また、日本人編注者の注も付加されていて、学生の予習復習のための便宜がはかられています。まず英語の注を熟読して、英語を英語として自然に味わい読むように努力しましょう。そうすることにより、自ずから作品の速読も可能になります。また、英語の苦手な学生のために、多少とも分かりにくい英語表現には、日本語の訳語が付されていますので活用していただきたい。

各作品には、そのテーマや英語の難易度を考慮して配列されており、統一テーマは〈人間の愛と幸福の探究〉です。ぜひ英米文学の魅力に触れ、人間と人生に思いを巡らせていただきたい。

【授業計画】

1. Saki
The Story-teller
2. William Saroyan
The Great Leapfrog Contest
3. Erskine Caldwell
Girl on the Road
4. Roald Dahl
The Landlady
5. James Joyce
The Boarding House

【評価方法】

定期試験、小テスト、発表、出席状況などによって総合的に評価する。

【テキスト】

Collected Modern Short Stories Vol.3 (Macmillan Languagehouse ¥1,600)

Rapid Reading 1

野口朋香

【授業の概要】

英語読解力を養うことはもとより、カナダやアメリカの家庭、学校生活、労働、経済、医療などのトピックに関して日本と比較しながら異文化を学び、また日本文化をも再認識する。

【授業計画】

受講者の予習を前提に Chapter を読み進める。テキストのテープを一通り聞いてからパラグラフごとに大意を把握していく。

- | | |
|----------|-------------------------|
| 第1回～第4回 | Chapter 1 – Chapter 5 |
| 第5回～第8回 | Chapter 6 – Chapter 10 |
| 第9回～第13回 | Chapter 11 – Chapter 16 |

【評価方法】

- | | |
|---------|-----|
| 出席・授業態度 | 30% |
| 筆記試験 | 70% |

【テキスト】

Beneath the Surface 日米文化比較論
(Paul Stapleton & Akira Ito, 成美堂)

Rapid Reading 1

鈴木哲至

【授業の概要】

現代アメリカを代表する人気商品が、どのように誕生しベストセラーになったかを説明するエッセイを読み、アメリカ文化の一面を読みとると同時に、速読の基本を身につける。

【授業計画】

各週の主なトピックは以下のとおりである。

McDonald's Big Mac
Nathan's Hot Dogs
Lipton Tea
Wrigley's Chewing Gum
Scrabble
Webster's Dictionary
Band-Aids
Nikes
Zippo Lighters
Levi's
Aunt Jemima Pancakes
Planters Peanuts
Kellogg's Cron Flakes

【評価方法】

出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%の割合で総合的に評価する。

【テキスト】

"A Mini History of America's Best Sellers"
(『アメリカーヒット商品ミニヒストリー』)
Christian Ames 著、松柏社、1,250円

Rapid Reading 1

松本一喜

【授業の概要】

1. 『Words to Remember』を講読します。この授業の目的の一つは、多様な英語との出会いです。授業では、スピーチ、エッセイ、映画の台詞、小説の一節などさまざまな文体の英語を読みます。いずれの英語も平易ではあっても、メッセージをよく伝える優れた英文です。
2. 授業では、目と耳と口、そして頭脳とハートを用いて勉強します。単なる英語の学習にせず、英語で何かを学ぶ授業にしたいと思っています。授業では、準拠テープを用いてのリスニング、リーディング、シャドウイングといった音声面の学習と構文の理解・和訳といったリーディングの学習を並行して行います。
3. 講師側からの一方的な講義形式の授業とはなりません。学生の側の積極的な授業参加が要求される授業になります。
4. 授業は、5～6人程度のグループに分かれて行います。これは学生の側からの授業参加の機会を増やすために行うものです。1回の授業で4～5回の口頭での発表が求められることになる。残念ですが、授業中に寝る暇はありません。予習して授業に参加しないと、グループの他の人に迷惑をかけることになります。

【授業計画】

テキストのほぼ前半をカバーする予定です。適時、テキスト内容に関連したビデオを見ます。

【評価方法】

単位取得は次の3点をクリアしてください。1、2/3以上の出席。2、3回のレポート提出。3、定期試験で60点以上とること。成績は試験結果を中心に日常点を加味した総合評価です。

【テキスト】

英米文化学会編『Words to Remember』桐原書店。

Rapid Reading 2

間瀬欣英

【授業の概要】

今世紀の著名な英米作家5人の短編小説を読んで英語の読解力を養うとともに、小説という言葉の芸術の醍醐味を味わい、人間や人生の機微にふれ、あわせて私達自身の生き方も考えていきたい。

テキストの各短編の直後には、アメリカ人編注者による、英語で書かれた詳注があり、また、日本人編注者の注も付加されていて、学生の予習復習のための便宜がはかられています。まず英語の注を熟読して、英語を英語として自然に味わい読むように努力しましょう。そうすることにより、自ずから作品の速読も可能になります。また、英語の苦手な学生のために、多少とも分かりにくい英語表現には、日本語の訳語が付されていますので活用していただきたい。

各作品には、そのテーマや英語の難易度を考慮して配列されており、統一テーマは〈人間の愛と幸福の探究〉です。ぜひ英米文学の魅力に触れ、人間と人生に思いを巡らせていただきたい。

【授業計画】

1. Sherwood Anderson
Paper Pills
2. Kurt Vonnegut
Adam
3. Raymond Carver
Everything Stuck to Him
4. Graham Green
Two Gentle People
5. Somerset Maugham
Mayhew

【評価方法】

定期試験、小テスト、発表、出席状況などによって総合的に評価する。

【テキスト】

Collected Modern Short Stories Vol.3 (Macmillan Languagehouse ¥1,600)

Rapid Reading 2

野口朋香

【授業の概要】

一般的な日本人の生活様式や考え方をアメリカ人と対比しながら、文化が人間の価値観や生活にどのように影響を与えているかを考察する。また、英文中の単語や熟語などの表現をしっかりと捉えた上で、英語の読解力・速読力を養っていく。

【授業計画】

受講者の予習を前提に Chapter を読み進めていく。

- | | |
|----------|-------------------------|
| 第1回～第4回 | Chapter 1 – Chapter 6 |
| 第5回～第8回 | Chapter 7 – Chapter 14 |
| 第9回～第13回 | Chapter 15 – Chapter 20 |

【評価方法】

- | | |
|---------|-----|
| 出席・授業態度 | 30% |
| 筆記試験 | 70% |

【テキスト】

Topic on Japanese and American Stereotypes

(Yoshinobu Takesue & Donald E. Barton、松柏社)

Rapid Reading 2

鈴木哲至

【授業の概要】

アメリカの大学への入学の仕方、生活への適応、勉強の仕方、課外活動など米国留学に役に立つ文章を読むことにより、日米のキャンパスライフの違いを探ると同時に、速読の技術をさらに高める。

【授業計画】

各週の主なトピックは以下のとおりである。

Getting Ready for College

How the Colleges Choose Students

On-Campus and Off-Campus Housing

Getting Oriented

Studying

Campus Activities

Off-Campus Activities

Paying for School

Sports – Varsity and Intramural

Majors

Summers

Bull Sessions

The Senior Year

Graduation and Beyond

【評価方法】

出席状況・授業態度・クイズ30%、定期試験70%の割合で総合的に評価する。

【テキスト】

“Study Hard, Play Hard — American Campus Life”
(『よく学び、よく遊べ アメリカのキャンパスライフ』)

James M. Vardaman, Jr. 著、松柏社、1,400円

Rapid Reading 2

松本一喜

【授業の概要】

1. 『Words to Remember』を講読します。この授業の目的の一つは、多様な英語との出会いです。授業では、スピーチ、エッセイ、映画の台詞、小説の一節などさまざまな文体の英語を読みます。いずれの英語も平易ではあっても、メッセージをよく伝える優れた英文です。
2. 授業では、目と耳と口、そして頭脳とハートを用いて勉強します。単なる英語の学習にせず、英語で何かを学ぶ授業にしたいと思っています。授業では、準備テープを用いてのリスニング、リーディング、シャドウイングといった音声面の学習と構文の理解・和訳といったリーディングの学習を並行して行います。
3. 講師側からの一方的な講義形式の授業とはなりません。学生の側の積極的な授業参加が要求される授業になります。
4. 授業は、5～6人程度のグループに分かれて行います。これは学生の側からの授業参加の機会を増やすために行うものです。1回の授業で4～5回の口頭での発表が求められることになる。残念ですが、授業中に寝る暇はありません。予習して授業に参加しないと、グループの他の人に迷惑をかけることになります。

【授業計画】

テキストのほぼ後半をカバーする予定です。適時、テキスト内容に関連したビデオを見ます。

【評価方法】

単位取得は次の3点をクリアしてください。1、2/3以上の出席。2、3回のレポート提出。3、定期試験で60点以上とること。成績は試験結果を中心に日常点を加味した総合評価です。

【テキスト】

英米文化学会編『Words to Remember』桐原書店。

Rapid Reading 3

森本素世子

【授業の概要】

(金曜3限)

日頃英語を学びながらも、英語の多様性について考える機会はあまり多いとはいえない。そこで、国際語としての英語を、文化や社会的背景を踏まえて、より広い視点から改めて眺めてみたい。

(金曜4限)

長年英語を学んでいるにもかかわらず、あくまで外国人である私たちには、英語を母語とする人々が常識としてもっている多くの文化的知識が欠落している。そこで、英語という言葉を通して彼らのもつ文化の一端に触れてみたい。

【授業計画】

下記のテキストを適宜、質疑応答を加えながら精読する。各自の予習を前提にテキストを読み進めるが、ただ字面だけを追うのではなく、パラフレーズを通して筆者の意図するところを読み取り、それに対する自らの意見も述べてもらいたい。

(金曜3限)

PP.1~36

(金曜4限)

PP.1~36

【評価方法】

定期試験および授業時の発表・参加度と出欠状況から総合的に評価する。

【テキスト】

(金曜3限)

English and Many Cultures (Joan McConnell, 成美堂)

(金曜4限)

The Background of English (Joan McConnell, 成美堂)

Rapid Reading 3

村上洋子

【授業の概要】

このクラスは比較的平易な英語で書かれたテキストを使用し、できるだけ多くの英文を読みこなすことで、英語読解力を高めることを目的とする。

【授業計画】

Unit 1 Fighting Disease

Unit 2 Genetic Testing

Unit 3 Organ Transplants

Unit 4 Insemination

Unit 5 Reproduction

Unit 6 Norplant

Unit 7 Air Bags

Unit 8 Official English

【評価方法】

出席状況・授業態度・定期テストによって総合的に評価する。

【テキスト】

Vital Issues in America

(Duppenthaler / 太田憲男 マクミランランゲージハウス)

Rapid Reading 4

森本素世子

【授業の概要】

(金曜3限)

日頃英語を学びながらも、英語の多様性について考える機会はあまり多いとはいえない。そこで、国際語としての英語を、文化や社会的背景を踏まえて、より広い視点から改めて眺めてみたい。

(金曜4限)

長年英語を学んでいるにもかかわらず、あくまで外国人である私たちには、英語を母語とする人々が常識として持っている多くの文化的知識が欠落している。そこで、英語という言葉を通して彼らのもつ文化の一端に触れてみたい。

【授業計画】

下記のテキストを適宜、質疑応答を加えながら精読する。各自の予習を前提にテキストを読み進めるが、ただ字面だけを追うのではなく、パラフレーズを通して筆者の意図するところを読み取り、それに対する自らの意見も述べてもらいたい。

(金曜3限)

PP.37~78

(金曜4限)

PP.37~82

【評価方法】

定期試験および授業時の発表・参加度と出欠状況から総合的に評価する。

【テキスト】

(金曜3限)

English and Many Cultures (Joan McConnell, 成美堂)

(金曜4限)

The Background of English (Joan McConnell, 成美堂)

Rapid Reading 4

村上洋子

【授業の概要】

このクラスは、比較的平易な英語で書かれたテキストを使用して、できるだけ多くの英文を読みこなすことで英語読解力を高めること目的とする。

【授業計画】

Unit 9 Illegal Immigrants

Unit 10 Temporary Workers

Unit 11 Gambling

Unit 12 Homosexuality

Unit 13 Gun Ownership (1)

Unit 14 Gun Ownership (2)

Unit 15 Smoking (1)

Unit 16 Smoking (2)

【評価方法】

出席状況・授業態度・定期テストによって総合的に評価する。

【テキスト】

Vital Issues in America

(Duppenthaler / 太田憲男 マクミランランゲージハウス)

英語コミュニケーション

デイヴィッド・アベ

【Course Content】

This course is design to develop the four-macro skills of speaking, listening, reading, and writing. In class work will be focusing on the speaking and listening, while homework will also be given to cover the reading and writing section. The goal is to use activities that engage in real-life situation using authentic materials, which will be interesting and motivational to students.

【Schedule】

Students will work in groups, and will select their own topics with a purpose and an objective in mind. The following are topic for the first semester.

- Current events
- Entertainment
- Business issues
- Cultural differences
- Traveling

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, homework, and a final test.

【Textbooks】

The book is to be announce on the first day of class.

英語コミュニケーション

リチャード・ハリス

【Course Content】

(1 st semester)

The aim of the course is for students to learn how to write in many different ways and styles, and to discuss their work in both small and large groups.

We will examine many different writing styles during the course. Students will be encouraged to explore different writing methods. The class will be exposed to both intensive and extensive writing, as well as some personal letter writing.

(2 nd semester)

The aim of this course is for students to practice speaking as much as possible. Students will learn how to be an active speaker and listener in both small group and large group interactions. Students will also learn how to write and perform small speeches and persuasive debates.

【Schedule】

(1 st semester)

- Lesson 1 - 2 telling a story
- Lesson 3 - 4 writing personal letters
- Lesson 4 - 5 Business letters
- Lesson 7 - 8 writing descriptions of people
- Lesson 9 writing about a fictional event in the future.
- Lesson 10-12 writing a technical paper.

(2 nd semester)

- Lesson 1 - 3 Stating personal opinions
- Lesson 4 - 5 The power of advertising
- Lesson 6 - 7 Radio announcing practice
- Lesson 8 How to write a speech outline
- Lesson 9 -10 Writing a speech
- Lesson 11-12 Speech presentations

【Assessment】

(1 st semester)

Students will be evaluated through their written work and class participation.

(2 nd semester)

Students will be evaluated through class participation, written work and course projects.

【Textbooks】

(1 st semester)

Textbook will be announced during the first class

(2 nd semester)

Textbook will be announced.

英語コミュニケーション

フランソワーズ・ダフ

【Course Content】

This course is aimed at students who wish to improve their ability to talk confidently about themselves, their friends and family, their occupation, leisure activities, likes and dislikes, etc. in English.

Everyday oral communication and listening skills will be the focus the class.

Discussion of cultural issues will also be included.

The students will be expected to be active participants in all class activities.

Frequent quizzes and regular written reports will be graded to encourage students to build up their confidence and vocabulary in English.

【Schedule】

People: self and others

Favorite things

Free time

Occupations

Celebrations

【Assessment】

- Class vocabulary quizzes: 30%
- Written reports: 30%
- Participation in class activities: 40%

【Textbooks】

J-Talk (Linda Lee et al. OUP)

英語コミュニケーション

スコット・R. グリーン

【Course Content】

The focus of this class will be on further development and expansion of previously acquired English skills.

Students will have the opportunity to discover, express and discuss different elements of language and culture. Development of vocabulary and critical thinking skills will be stressed.

【Schedule】

A variety of topics will be covered. The order in which they are covered in class will depend on students' level and interests.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, attitude and a final project or report at the end of the term.

【Textbooks】

To be announced at a later date.

中国語基礎会話 1 G

曹 述堯

【授業の概要】

始めて中国語に接する学生を対象に、中国語の子母音と声調による音声の成り立ち、その音節のローマ字表記法、正しい発音等の中国語学習の基礎知識を習得させ簡単な構文が理解できる実力を養成する。

【授業計画】

教科の進行中に中国語の読み方を身につける練習をおこなう。時に応じてビデオ教材を併用する予定。

第1回－4回：中国語学習の基礎としての声調・子母音・鼻音・声調変化など

第5回－7回：中国語の慣用的挨拶語句と基礎構文
多少钱一包？

第8回－14回：基本会話と中国人の生活習慣
中国的夏天怎么样？

第15回：単位認定試験

【評価方法】

出席状況、期末のテストと授業中の学習成果テストを総合して判定する。そして語学ははじめが肝心。基礎を築き上げるまで出席不可欠。

【テキスト】

初級中国語 郭春貴著 白帝社

中国語基礎会話 1 Gは、週2回コース授業である。曹先生（水3限）＋楊先生（金4限）または曹先生（水4限）＋楊先生（金3限）の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語基礎会話 1 G

楊 衛平

【授業の概要】

中国語の修得のために、発音・会話・文法・訳読を中心とする講義を行う。特に入門者やさしく楽しく学べるように、短い、実用的な日常会話の練習に重点を置く。単語、テキスト本文を説明する際、現在中国の実情を紹介し、短く、興味深いコミカルな事例を通して、異文化に対する理解を深め、学生諸君の中国への正しい関心を醸成する。同時に、中国語に対して興味と自信の持って貰うように、負担が軽く、なおかつ効率的な会話の復習を繰り返して行う。全講義を通じて、中国語の基礎会話の実力を身につけることを目指す。

【授業計画】

最初に中国語と日本語のちがいが、および中国語の特徴を紹介する。次に発音練習を中心に繰り返しながら、初対面からのあいさつと自己紹介用語を暗唱させ、毎回一人一人に日本語にない声調が発音でき、また、その違いを聞き取れるように指導を進める。その後、会話形式で、学生を中心にして本文を朗読、暗唱させ、一対一の会話練習を展開する。さらに、本文の翻訳は学生を主体に行い、日常会話の文法を解説し、文型と表現についてもよく理解できるように練習する。その他、ヒアリングの実力をアップするため、録音テープ、映画のビデオカセットも利用する。

【評価方法】

出席状況、授業での平常点を参考に、期末テストの成績を総合的に評価する。

【テキスト】

未定

中国語基礎会話 1 Gは、週2回コース授業である。曹先生（水3限）＋楊先生（金4限）または曹先生（水4限）＋楊先生（金3限）または楊先生（水1限）＋鄭先生（木3限）の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語基礎会話 1 G

鄭 澤善

【授業の概要】

一年間の勉強を通じて、中国語の基礎的な知識の把握と、初歩的な日常会話の習得を目指す。具体的には、中国語におけるピンイン及び四声の集中的練習を経て、単語から文章の構造へと段階的に理解させることによって、簡単な日常会話の応用能力の養成に努めたい。

【授業計画】

- 第1回：ガイダンス、中国語とは？ピンイン入門。
- 第2～5回：ピンインと四声の集中練習。
- 第6～13回：2回の授業につき、1課のペースで、テキストの内容の説明とともに、朗読させ、練習問題をやらせよう。
- 第14回：前期勉強の総括。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

【テキスト】

教室で指示する。

中国語基礎会話 1 Gは、週2回コース授業である。楊先生（水1限）、鄭先生（木3限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語基礎会話 1 H

曹 述燮

【授業の概要】

中国語学習の基礎知識を習得して簡単な構文が理解できる実力を持っている学生を対象に、中国語の会話を楽しみながら中国の社会と文化に接することができる授業をめざす。

【授業計画】

中国語の学習をとおして自然に中国社会とその文化がしたしめるように心がけ、授業ごとに身近なトピックを取りあげていく。

- 第1回～4回：中国人の大学生活と家庭生活
你家有几口人？
- 第5回～7回：中国での旅行
你去过长城了没有？
- 第8回～10回：中国人の食文化
水餃子很好吃。
- 第11回～14回：慣用表現と中国現代社会
她怎么了？
- 第15回：単位認定試験

【評価方法】

出席状況、期末のテストと授業中の学習成果テストを総合して判定する。そして語学ははじめが肝心。基礎を築き上げるまで出席不可欠。

【テキスト】

初級中国語 郭春貴著 白帝社

中国語基礎会話 1 Hは、週2回コース授業である。曹先生（水3限）+楊（金4限）または曹先生（水4限）+楊先生（金3限）の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語基礎会話 1 H

楊 衛平

【授業の概要】

中国語の修得のために、発音・会話・文法・訳読を中心とする講義を行う。特に入門者やさしく楽しく学べるように、短い、実用的な日常会話の練習に重点を置く。単語、テキスト本文を説明する際、現在中国の実情を紹介し、短く、興味深いコミカルな事例を通して、異文化に対する理解を深め、学生諸君の中国への正しい関心を醸成する。同時に、中国語に対して興味と自信を持って貰うように、負担が軽く、なおかつ効率的な会話の復習を繰り返して行う。全講義を通じて、中国語の基礎会話の実力を身につけることを目指す。

【授業計画】

最初に中国語と日本語の違い、および中国語の特徴を紹介する。次に発音練習を中心に繰り返しながら、初対面からのあいさつと自己紹介用語を暗唱させ、毎回一人一人に日本語にない声調が発音でき、また、その違いを聞き取れるように指導を進める。その後、会話形式で、学生を中心に本文を朗読、暗唱させ、一対一の会話練習を展開する。さらに、本文の翻訳は学生を主体に行い、日常会話の文法を解説し、文型と表現についてもよく理解できるように練習する。その他、ヒアリングの実力をアップするため、録音テープ、映画のビデオカセットも利用する。

【評価方法】

出席状況、授業での平常点を参考に、期末テストの成績を総合的に評価する。

【テキスト】

未定

中国語基礎会話 1 H は、週 2 回コース授業である。曹先生（水 3 限）＋楊先生（金 4 限）または曹先生（水 4 限）＋楊先生（金 3 限）または楊先生（水 1 限）＋鄭先生（木 3 限）の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語基礎会話 1 H

鄭 澤善

【授業の概要】

前期勉強の延長として、更なる基礎の勉強と会話の習得を目指す。具体的には、ピンインと四声の練習を集中的に行ない、単語から文章及び会話へ段階的に進め、中国語の応用能力の向上に努めたい。

【授業計画】

- 第 1 回：前期勉強した内容の復習、ピンインと正しい発音が主眼。
- 第 2 - 7 回：テキストの勉強とともに、年代、曜日、電話等の会話練習。
- 第 8 - 13 回：テキストの内容と関連する時刻、出身、年齢、買い物、挨拶、自己紹介等の会話練習に重点を置く。
- 第 14 回：一年間勉強した内容の総括。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

【テキスト】

教室で指示する。

中国語基礎会話 1 H は、週 2 回コース授業である。楊先生（水 1 限）、鄭先生（木 3 限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語会話 1 G

鄭 澤善

【授業の概要】

一年間の勉強を通じて、正しい中国語の発音及び基礎文法を身に付けるようにする。簡単な会話及び平易な読み物が理解できる程度の中国語能力の養成を目指す。

【授業計画】

第1回：ガイダンス、中国語とは？共通語と方言、ピンイン入門。

第2～5回：ピンイン及び発音の練習、一人一人に発音の練習を指導する。

第6～13回：2回の授業につき、1課のペースで、テキストの内容及び文法を詳しく説明するとともに朗読させ、練習問題をやらせよう。

第14回：前期勉強の総括。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

【テキスト】

教室で指示する。

中国語会話 1 Gは、週2回コース授業である。鄭先生（火4限）、時先生（木4限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語会話 1 G

時 衛国

【授業の概要】

本講義は初心者に現代中国語についての基礎知識を習得してもらうためのものである。具体的には発音・会話・朗読・文法などを中心に進め、受講者の中国語会話の基本能力を養成することが目標である。

【授業計画】

第1回 年間計画指示

第2～4回 母音・子音とそれらの組み合わせ方、四声、イントネーションなどの説明

第5～10回 初級の段階に入り、テキストを中心に進めるが、会話の練習にも力を入れる。

【評価方法】

出席を重視し、平常点と定期試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

中国語会話 1 Gは、週2回コース授業である。鄭先生（火4限）、時先生（木4限）の両方に出席し、その平均で評価がでる。

中国語会話 1 H

鄭 澤善

【授業の概要】

前期勉強の延長として、正しい中国語の発音の練習に重点を置きながら、簡単な会話ができるように指導するとともに、練習問題を通じて、文法と読解力の向上を目指す。

【授業計画】

- 第1回：前期勉強した内容の復習、ピンインと正しい発音の復習に重点を置く。
- 第2～7回：テキストの勉強とともに年代、曜日、電話等の会話練習。
- 第8～13回：テキストの内容と関連する時刻、出身、年齢、買い物、挨拶、自己紹介等の会話練習に主眼を置く。
- 第14回：一年間勉強した内容の総括。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

【テキスト】

教室で指示する。

中国語会話 1 Hは、週 2 回コース授業である。鄭先生（火 4 限）、時先生（木 4 限）の両方の授業に出席し、その平均で評価がでる。

中国語会話 1 H

時 衛国

【授業の概要】

本講義は現代中国語についての基礎知識を習得してもらうためのものである。発音・会話・朗読・文法などを中心に進め、受講者の中国語会話の基本能力を養成することを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 年間計画指示
- 第2～12回 テキストの内容を中心に読みの練習と短い会話の練習に力を入れるほか、基本文型や簡単な文法について説明し、練習をする。

【評価方法】

出席を重視し、平常点と定期試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

中国語会話 1 Hは、週 2 回コース授業である。鄭先生（火 4 限）、時先生（木 4 限）の両方に出席し、その平均で評価がでる。

中国語コミュニケーション1

陳佳平

【授業の概要】

中国語コミュニケーションをしようとするなら、まず正しい発音と声調を身に付けなければならない。そのため、色々な練習を用いて、出来るだけ早く、正しく拼音と声調及び変調などをしっかり覚え、それと共に基礎的な文法を踏まえながら、語彙力と表現力を養い、実践的なコミュニケーション能力の習得を目指す。

【授業計画】

1. 拼音、声調、変調
2. 挨拶語
3. 基本文型、基礎文法
4. 作文、会話
5. ヒアリング

【評価方法】

勉強意欲と平時成績と期末テストにより、総合評価する。

【テキスト】

中国語初級テキスト 生活の中の基礎会話
(丁秀山・坂井田ひとみ著 金星堂)

【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)

中国語コミュニケーション1

陳惠貞

【授業の概要】

中国語を勉強しようとする学生に、基本的な発音・文型・会話内容を理解し、楽しく学習できるよう努める。授業中にヒアリングの強化と正しい発音を身に付けるため、リピートをし、繰り返して練習をする。さらに、常時に復習することによって、無理なく基本的な会話が覚えられるよう心がける。

【授業計画】

1. 中国の紹介と中国語の特徴
2. 中国語の声調とピンイン
3. 子音と母音の発音
4. 簡単な挨拶語・会話
5. 基本的な文型
6. ヒアリング

最初の段階から、より正しい発音ができるように1人1人に練習させ、指導をする。随時、ヒアリングの練習をする。前期の目標としては、簡単な表現ができるようにする。

【評価方法】

授業への参加意欲と期末テストの成績による総合評価。

【テキスト】

中国語初級テキスト 生活の中の基礎会話
(丁秀山・坂井田ひとみ著 金星堂)

【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)

中国語コミュニケーション2

陳佳平

【授業の概要】

前期の学習を踏まえ、一を聞いて十を知るように様々な文型、表現を使って練習する。多様多彩かつ日進月歩の中国の事情を了解しながら、個性のある表現力を積極的に高めていくことを目指す。

【授業計画】

1. 復習
2. 様々な文型と表現方法
3. ふさわしい文法
4. 作文、会話
5. ヒアリング

【評価方法】

学習意欲と平時成績と期末テストにより、総合評価する。

【テキスト】

中国語初級テキスト生活の中の基礎会話
(丁秀山・坂井田ひとみ著 金星堂)

【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)

中国語コミュニケーション2

陳惠貞

【授業の概要】

前期で習得したものを更にレベルアップし、展開していく。基本的な発音・文型・会話内容を理解するのに加え、書くと朗読する能力を養う。授業中にヒアリングの強化と正しい発音を身に付けるため、リピートをし、繰り返して練習をする。さらに、常時に復習することによって、無理なく基本的な会話が覚えられ、楽しく学習できるよう努める。

【授業計画】

1. 前期の復習
2. より正確な声調とピンインと発音
3. ヒアリング
4. 基本的な文型で構文・応用
5. 会話の練習

一年間の努力を通して、より正しい発音で楽しく会話ができることと簡単な文を書けることを目指している。

【評価方法】

授業への参加意欲と期末テストの成績による総合評価。

【テキスト】

中国語初級テキスト生活の中の基礎会話
(丁秀山・坂井田ひとみ著 金星堂)

【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)

中国語コミュニケーション3

陳 佳平

【授業の概要】

中国語の学習には正しい発音、声調など基本的な表現力をしっかり覚えることが第一歩である。これは中国語コミュニケーションを始めようとする第一のステップでもある。

楽みにかつ早く中国語コミュニケーション能力を学生に習得させるため、色々な学習方法を通じて、学生の勉強の意欲と能力を出来るだけ効果的に生かしていくことを工夫する。

【授業計画】

1. 拼音、声調、変調
2. 挨拶語
3. 基本文型、基礎文法
4. 作文、会話
5. ヒアリング

【評価方法】

学習意欲と平常成績と期末テストにより、総合評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

中国語百問百答（丁秀山著 東方書店）

中国語コミュニケーション3

陳 惠貞

【授業の概要】

中国の文化や習慣に触れながら、楽しく語学を勉強しよう。まずは、基本的な発音・文型・会話内容を理解し、負担なく学習できるよう心がける。授業の進め方は、対話講義とし、それぞれ声を出し、積極的に参加することを望む。

授業中にヒアリングの強化と正しい発音を身に付けるため、リピートをし、繰り返して練習をする。さらに、常時に復習することによって、無理なく基本的な会話が覚えられるよう工夫する。

【授業計画】

1. 中国の紹介と中国語の特徴
2. 中国語の声調とピンイン
3. 子音と母音の発音
4. 簡単な挨拶語・会話
5. 基本的な文型
6. ヒアリング

最初の段階から、より正しい発音ができるように1人1人に練習、指導をする。随時、ヒアリングの練習をする。前期の目標としては、簡単な表現ができるようにする。

【評価方法】

授業への参加意欲と期末テストの成績による総合評価。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

中国語百問百答（丁秀山著 東方書店）

中国語コミュニケーション4

陳佳平

【授業の概要】

前期の学習を踏まえ、一を聞いて十を知るように様々な文型、表現を使って練習する。多様多彩かつ日進月歩の中国の事情を了解しながら、個性のある表現力を積極的に高めていくことを目指す。

【授業計画】

1. 復習
2. 様々な文型と表現方法
3. ふさわしい文法
4. 作文、会話
5. ヒアリング

【評価方法】

勉強意欲と平常成績と期末テストにより、総合評価する。

【テキスト】

シリーズ中国語テキストⅠ 中国語基礎講座
(丁秀山著 光生館)

【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)

中国語コミュニケーション4

陳惠貞

【授業の概要】

前期の授業で学んだものを更にレベルアップし、展開していく。基本的な発音・文型・会話内容を理解した上、書くと朗読する能力を養う。習得した語彙や文型を応用し、会話をする。授業中にヒアリングの強化と正しい発音を身に付けるため、リピートをし、繰り返して練習をする。さらに、随時に復習することによって、無理なく基本的な会話が覚えられ、楽しく学習できるよう努める。

【授業計画】

1. 前期の復習
2. より正確な声調とピンインと発音
3. ヒアリング
4. 基本的な文型で構文・応用
5. 会話の練習

一年間の講義を通して、より正しい発音で楽しく会話ができることと簡単な文を書けることを目指している。

【評価方法】

授業への参加意欲と期末テストの成績による総合評価。

【テキスト】

シリーズ中国語テキストⅠ 中国語基礎講座 (丁秀山著 光生館)

【参考文献・資料】

中国語百問百答 (丁秀山著 東方書店)

中国語読解 1

鄭澤善

【授業の概要】

中国の社会、文化及び最新事情に関連する文章を読んで、初歩的な読解力を身につけるようにする。具体的には、文章を精しく読みながら文法を理解し、単語を覚え、読む力の向上を目指す。

【授業計画】

前期では、ピンインの勉強を復習した上、中国の地理、少数民族、方言、苗字、祝祭日等に関連する文章をゆっくり読みながら、文法を詳しく説明して、単語の覚えに重点を置く。読解力の基礎勉強として、ピンイン、基本文型、基本文法をマスターするために、朗読も併せて行なう。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

【テキスト】

荒屋 勸・尹 景春・阿倍 博幸著『中国と日本』
朝日出版社

必要に応じて、プリントも併せて使用する。

中国語読解 2

鄭澤善

【授業の概要】

中国の社会、文化及び最新事情に関連する文章を読んで、初歩的な読解力を身に付けるようにする。具体的には、文章を精しく読みながら文法を理解し、単語を覚え、読む力の向上を目指す。

【授業計画】

前期勉強の延長として、中国の食文化、庶民生活、国民性、最新事情等関連の文章を、できるだけ早く読むように指導する。文章の説明につき、文法等は詳しく説明するが、黙読の速さの向上に重点を置く。

【評価方法】

試験成績に出席率、平常点を加味して総合評価する。

【テキスト】

荒屋 勸・尹 景春・阿倍 博幸著『中国と日本』
朝日出版社

必要に応じて、プリントも併せて使用する。

中国語読解 3

時 衛国

【授業の概要】

本講義は初級中国語コースで学んだ発音の仕方・文型・文法現象及び関連知識を復習しながら、テキストをもとに総合的読解力と会話力を高めることを念頭に置く。

【授業計画】

第1回 年間計画指示

第2～12回 テキストを利用して読解・説明・練習

【評価方法】

出席を重視し、平常点と期末試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

中国語読解 4

時 衛国

【授業の概要】

本講義は現代中国語の文型・文法現象及び関連知識を中心に、総合的読解力の養成を目標とする。

【授業計画】

第1回 年間計画指示

第2～12回 テキストを利用して読解・練習

【評価方法】

出席を重視し、平常点と期末試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

ドイツ語 a・b

浜田義孝

【授業の概要】

ドイツ語の基礎を習得する。

ドイツ語は英語と同じく西ゲルマン語から出た言語で類似点も多いが、英語に比べてかなり保守的で、面倒な語形変化などがある。しかし一見やっかいそうな文法もいったん慣れてしまえば、かえって語句の関係が明確であり構文の把握も容易になる。

言葉は何よりもまず音声であるから、初めにドイツ語の発音に慣れること。そのためには教師（またはテープ）のドイツ語をよく聞いて、積極的に口を動かして真似ること。こうして繰り返し反復練習することによって、基本的なドイツ語の語句や言い回しになじみ、やさしい文を覚えていけば、週一回という短時間の学習でも、ドイツ語の基礎をマスターできるでしょう。

またドイツ語の学習を通してドイツやオーストリアの生活と文化に触れることもできる。

【授業計画】

テキストは全12課で、各課ともドイツ語の会話と基本的な文法事項、練習問題から構成されている。LL方式のパターン練習で基本構文や表現パターンを覚え、それをペアで行なう対話練習で実践し、段階的に表現能力を身に付けてゆく。

1課を2回の授業で修了するくらいのゆっくりしたペースで進む。

【評価方法】

授業での平常点と期末試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

コミュニケーションのためのドイツ語（在間／田畑共著 第三書房）

フランス語 a・b

清水ベアトリックス

【授業の概要】

この授業は初級者を対象とし、フランス語の習得だけでなく、フランスの風俗、文化、習慣も「味わいながら」学ぶことを意図する。担当講師はフランス語の授業を通じて受講者の対仏国理解を深める手助けをすることを切に望む。

前期

日本で出版された平易なフランス語テキスト（CD付き）、漫画、ポップス、ビデオなどを使用する。

前期には、テキストの目次に沿って進み、フランス人講師が直接教えるので、受講者は「フランスに浸り」、「純粋な」フランス語の発音と文法の基礎を身に付ける。

できる限り前期では、下記の文法を学ぶ：

発音、名詞の『性』と『数』、冠詞、不定詞と動詞の活用：直接法現在形、疑問文：疑問代名詞と疑問形容詞、否定文、品質形容詞。

後期

前期に引き続き同じテキストを使用し、より高レベルの文法・語彙を学ぶ。しかし、特にコミュニケーションに重点を置くので、「純粋なフランスの環境」の中で簡単な作文を書いたり、寸劇をすることにより、受講者自身の考えをフランス語で表現する能力を養成することを主目的とする。

後期では、下記の文法事項を学ぶ：

目的語となる人称代名と強勢形、指示形容詞、所有形容詞、冠詞の縮約、半過去、複合過去。

【授業計画】

毎回学んだフランス語を会話練習に積極的に使用するとともに、文法を体系的に学んだり、平易なフランス語の文章を和訳する。

【評価方法】

定期試験を重視するが、宿題、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

「Elle est gourmande」(藤田裕二、朝日出版社)

ロシア語 a・b

杉本一直

【授業の概要】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができる場所は本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？

この授業では、初歩のロシア語を学びながらロシアの芸術や文化や街について楽しく紹介していきます。映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしててくださいね。

【授業計画】

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を覚え、発音を覚え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- a. キリル文字と発音
- b. 大きな声であいさつしよう
- c. 買い物に行ってみよう
- d. 乗り物に乗ろう
- f. おなかですいたら...
- g. 自分について話してみよう
- h. 好きな音楽について
- i. 手紙を書こう(本当にロシアへ送るぞ!)

【評価方法】

定期試験の成績による。

【テキスト】

ロシア語ミニ辞典(白水社)

英語コミュニケーション5

石橋千鶴子

【授業の概要】

パラグラフ・ライティングを含む英語総合演習。

【授業計画】

英語の4技能、すなわちリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングにおける運用能力の育成を目指し、総合的な英語活動を行う。

授業では英語ビデオ教材を使い、内容把握のための活動を英語で行っていく。また、ライティング学習では、英文の基本であるパラグラフの構成と、その中でいかにしてトピックを展開させるかを学ぶ。与えられたトピックでパラグラフ・ライティング、レター・ライティングなどを行い、ライティングにおける運用能力の育成をはかる。語いの増強と読解力養成のため、英字新聞記事の講読も行う。

なお、後期「英語コミュニケーション6」の履修を希望する者は、「英語コミュニケーション5」を履修しておくことが望ましい。

【評価方法】

期末試験及び日常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

英字新聞記事のコピーなどを配布。

英語コミュニケーション5

安田千恵

【授業の概要】

LLを利用した主にリスニング、スピーキングの力を養成することを目的とした英語演習

【授業計画】

ビデオ、音声テープを利用し、出来るだけ大量の英語を聴き、日本語を介さず、英文をそのまま理解する力を養うと共に、聴き取った内容に対して、英語で感想を述べる練習を通じ、スピーキングの力も養成したい。

テキストは、アメリカの文化、日常生活を紹介しており演習を通して、アメリカ文化に対する理解を深めていきたい。

又、LL機能を利用し、発音の訓練も行う。

なお、第1回目の講義時に、64分テープを持参すること。

【評価方法】

出席状況、平常点、試験等によって総合的に評価する。

【テキスト】

CUBIC LISTENING CLOSING THE CULTURE GAP
(Timothy Kiggell, Kevin Cleary MACMILLAN
LANGUAGEHOUSE)

英語コミュニケーション6

石橋千鶴子

【授業の概要】

TOEIC対策を含む英語総合演習。

【授業計画】

英語の4技能、すなわちリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングにおける運用能力の強化を目指し、総合的な英語活動を行う。

前期「英語コミュニケーション5」に引き続き、ビデオ英語教材を使い、内容把握のための活動を英語で行う。また、TOEIC問題の演習を行い、さらなる個人学習を促したい。語いの増強と読解力養成のため、英字新聞記事の講読も行う。

なお、本科目履修希望者は、前期「英語コミュニケーション5」を履修しておくことが望ましい。

【評価方法】

期末試験及び日常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

TOEICテスト スーパー模試600問 (発行 アルク)
英字新聞記事のコピーなどを配布。

英語コミュニケーション6

安田千恵

【授業の概要】

リスニング、ディスカッションの演習を通して自分の考えを英語で表現する力を養う。

【授業計画】

社会や日常生活上の様々なトピックについてリスニング、表等の資料の読み取り、ディスカッションの演習を行いながら、その中で使用されている表現方法や語彙を習得し、トピックに対しての意見を英語で論理的に表現出来るよう指導する。表等の資料の読み取り練習は、TOEIC対策としても有効と思われる。

又、LLを利用して、音読の訓練も行う。

なお、第1回目の講義時に60分の音声テープを持参すること。

【評価方法】

出席状況、平常点、試験等によって総合的に評価する。

【テキスト】

別途指示する。

英語コミュニケーション7

中村栄造

【授業の概要】

世界の様々な出来事が国際ニュースとして、われわれの手にすぐ届けられる時代を迎えて久しい。この授業では、日々われわれが接する膨大な情報から必要な情報を的確に入手することを念頭に、主にリスニングとリーディングを中心とした英語運用能力の獲得を目指す。

主にリスニング教材とするのは、VOA (Voice of America) のニュースである。これを毎回、ディクテーションする。リーディングは英字新聞や、雑誌 Newsweek などから幅広く教材を選び、読解を試みる。

【授業計画】

リスニングのトレーニングを30分、リーディングを30分毎回行う。なお、毎回、授業内容に関する確認テストを実施する (30分)。

【評価方法】

授業内に行う確認テスト、およびリーディング教材の読解度、中間試験、定期試験を総合して判断する。

【テキスト】

毎回プリントを配布。

英語コミュニケーション 8

大鐘洋司郎

【授業の概要】

商社、外資系会社、製造業者、外国為替銀行、海運会社、航空貨物会社、国際運送会社や保険会社などに就職しようとする学生に役に立つ体験から帰納した内容をやさしく解説。

海外からの商品の物流、代金決済方法の理解は一般企業就職希望者にも役に立つ。

授業担当者は全米最大の小売業者シアーズ社などとの取引経験から、教科書の事例を解説し、英語ビジネスコミュニケーションの手法を学ぶ。

TOEICにも役立つ体験的英語上達法。

【授業計画】

- 第1回 何を学習するか。レター・フォーマットの解説。その他。
- 第2回 海外取引先紹介依頼及び取引先紹介者への礼状
- 第3回 信用照会及びその返信
- 第4回 取引開始申し込み
- 第5回 ビデオ視聴（内容は下記参照）
- 第6回 一般取引条件協定書の交換
- 第7回 基本貿易価格FOB及びCIF
- 第8回 オファー、価格表及びカウンターオファー
- 第9回 発注及びその確認
- 第10回 注文書、売約書の送付
- 第11回 信用状修正依頼及び受領確認
- 第12回 船積みに関して
- 第13回 ビジネス英会話（時間と受講生数次第で実行）

【評価方法】

出席状況・定期試験・その他による。

授業に取り組む積極性も評価する。

【テキスト】

ケーススタディで学ぶ英文ビジネス文書のライティングとプレゼンテーション再増補版（大鐘洋司郎他 嵯峨野書院 税込 2,625円）

ビデオ「貿易実務の基礎知識」又は「外国為替について」

授業担当者作成資料（プリント教材その他）

英語コミュニケーション 9

小野迪雄

【授業の概要】

アーネスト・ヘミングウェイは、20世紀を代表するアメリカの作家であり、多難な激しく変動した時代を生き抜いた作家でもある。『老人と海』でノーベル賞を授賞したが、彼の文学の本質を探ってみると、円環を描いて、初期の作品世界につながっているようにみえる。それ故、初期の短編を読み解くことは重要であり、彼の文学の本質に迫れるかもしれない。

ヘミングウェイの文章は簡潔で引き緊った文体で、現代の標準的な文章の一つの型をもっていて、読みやすい。

【授業計画】

テキストを中心に読み進み、随時プリントを配布して、作者や作品の理解を深めるようにする。

【評価方法】

定期試験の成績を主とするが、日常の授業に対する準備も判断の資料とする。

【テキスト】

Indian Camp and Other Stories (Hemingway)

『ヘミングウェイ短編集』 成美堂

【参考文献・資料】

授業時に随時紹介する。必要に応じてプリントを配布する。

英語コミュニケーション10

フィリップ・サザンズ

【Course Content】

This is a discussion class. A discussion is a conversation in detail about a topic. Having discussions is a normal part of adult life. Once you learn the basics, you will be able to have interesting discussions with anyone, anywhere.

In order to have interesting, intelligent discussions, we will practice giving opinions, story-telling, summarizing and persuading by agreeing and disagreeing. Each student will research and discuss three topics. We may also watch videos.

【Schedule】

- 1 - 2 Introduction - opinions and reasons
- 3 - 4 Animal testing - News story
- 5 - 6 Discussion game 1
- 7 - 8 Summarizing - Telling stories
- 9 - 10 Controversial Issues - Discussion game 2
- 11 - 12 Refutations - Discussion game 3
- 13 Test

【Assessment】

Student scores are based on homework and classwork. If you are absent from a class, you can not receive a mark for the classroom discussion and homework for that day.

Please come to every class.

【Textbooks】

Handouts from the instructor

英語コミュニケーション10

デイヴィッド・アベ

【Course Content】

This course is design to develop the four-macro skills of speaking, listening, reading, and writing. In class work will be focusing on the speaking and listening, while homework will also be given to cover the reading and writing section. The goal is to use activities that engage in real-life situation using authentic materials, which will be interesting and motivational to students.

【Schedule】

A variety of topics will be covered. The order in which they are covered in class will depend on the students level and interests.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, homework, and a final test.

【Textbooks】

The book is to be announced on the first day of class.

英語コミュニケーション10

セブテンバー・スミス

【Course Content】

The purpose of this four-skills course is to utilize and develop all aspects of language learning. Using social themes and issues that are of interest or concern for young adults, the class format of this course allows an intensive exploration of these topics applying all four language skills.

The concurrent focus on speaking, listening, reading and writing provides a general strengthening of the learners' overall second-language skills and also affords the opportunity to compare the differences in English in its spoken and written forms.

【Schedule】

The areas from which topics are to be drawn for this course include:

- 1) Interpersonal Relationships
- 2) The Working World
- 3) The Supernatural and the Unexplained
- 4) The Future: Yours and Ours

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, effort made by the students to communicate in English in the class, and the semester's work. No test will be given.

【Textbooks】

No textbooks will be used, but a series of reading and worksheets will be provided

英語コミュニケーション10

アラン・デイヴィーズ

【Course Content】

The aim of this course is to develop students' speaking, listening, reading and writing skills. Students will therefore be provided with a range of integrated materials and tasks designed to develop these four language skills areas. Classroom activities will include role play, small group mini-discussion, communication games, and reading and writing practice tasks. Students will have maximum opportunity to use English for real communication throughout the 90-minute class. A special feature of this course is the emphasis placed on learning to identify, collect and use lexical 'chunks' (phrasal vocabulary) as a powerful tool for communication, both in spoken and written English.

【Schedule】

Topics to be covered include:

1. Family and friends
2. People and Places
3. Memories of the past
4. Relationships
5. Talk/Tell about yourself
6. Reading skills
7. The structure and style of English writing
8. Introduction to lexical chunks

【Assessment】

Class work - 70%

Homework - 30%

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class.

英語コミュニケーション10

ポール・ルイス

【Course Content】

This course aims to focus on improving speaking and listening skills, particularly focussing on the latter. In particular, the different ways of listening will be covered, including extensive and intensive styles. The course will be given in English, and students are expected to use English as much as possible during class.

【Schedule】

Lessons 1 - 12: Various topics/listening skills.

【Assessment】

Assessment will be based on class participation and attendance, and a combination of continuous assessment, tests, and/or a final examination.

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class meeting.

英語コミュニケーション10

ハリー・T. ノリス

【Course Content】

The objective of this course is to develop the students' ability to interact using English. They will be able to speak with an increased degree of fluency and confidence, with other Japanese people and native speakers of English. Areas of concentration will include, listening, pronunciation and other speaking skills. Inter-cultural differences will be explored as will humour and lifestyle, in order for students to gain an overall understanding of English. Teaching methods will include group work and individual work with the main aim being for the student to be able to express opinion and fact in English.

Teaching materials will include video's, short stories, poems and other media to stimulate the students into discussion.

【Schedule】

This will be a one semester course.

The students will work through the assigned text with extra work being given in the form of handouts. These will include but will not be restricted to: Introductions, Pronunciation ex. (L/R and B/V), Natural word groups. , Homonyms, Large numbers, Word Groups and Word Relationships, Giving and Receiving Directions

【Assessment】

Assessment will be based on class work, homework, speaking and listening ability and tests.

【Textbooks】

Text to be announced.

英語コミュニケーション10

リオナ・R. キャメロン

【Course Content】

In this course the students will practice the four skills, speaking, listening, reading and writing. Students will learn practical English. Students will be expected to participate and speak a lot in English during the classes.

The content will review the English that has already been learnt by students previously and increase the students' knowledge and performance in English.

【Schedule】

In each lesson, students will do many kinds of activities, individually, in pairs or groups.

【Assessment】

Assessment will be on-going, based on attendance, participation, homework and tests.

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class.

【Reference】

Students will be expected to have an English-Japanese dictionary and a Japanese-English dictionary in every class. Electronic dictionaries are acceptable.

英語コミュニケーション10

サミュエル・ミラー

【Course Content】

The aims of the course are as follows: to acquaint students with basic / intermediate grammar and vocabulary; to equip them with adequate conversational skills on a variety of topics; to get them to enjoy English. Generally, we will spend the first 30 minutes of each class on grammar review, devoting the remainder of the period to the textbook and open topics. Each student may also be asked to give a very short presentation at some point during the semester. Topics to be covered:

Family, Food and Restaurants, Music and Entertainment, Sports

School, Health and Fitness, Books Magazines and Newspapers.

Marriage and Divorce, Beliefs and Opinions.

【Assessment】

Grade will be based attendance and participation (50%) homework and a final test (50%)

【Textbooks】

New Interchange 2 (Jack Richards
CAMBRIDGE)

英語コミュニケーション10

ジョナサン・E. ロング

【Course Content】

This course aims to improve the students' abilities in the four language skills in English by reading about and discussing in class cultural differences and writing about these topics outside of class. To be successful the students must be willing to work hard.

【Assessment】

Assessment will be based upon
attendance
class participation
homework
quizzes
essays

【Textbooks】

Culture Riddles—America

英語コミュニケーション11

ジョナサン・E. ロング

【Course Content】

Students who meet the prerequisites will in the class have to meet the challenges of reading scripts in English, watching the videos without subtitles, discussing them in English and writing reaction papers about them.

Usually, three weeks will be allowed for each video:

Week 1 : script

Week 2 : video

Week 3 : discussion; homework; reaction paper

【Assessment】

Assessment will be based on attendance and the reaction papers.

【Textbooks】

none.

英語コミュニケーション12

デイビッド・C. ダイカス

【Course Content】

This course will focus on skills and techniques needed for informative and persuasive writing and speaking.

The course be topic/theme oriented. Students will read about, and discuss, these topics. Writing practice will include the study of paragraph organization and effective presentation and support of ideas in written English. Once this level of writing is mastered, we will move on to longer pieces of writing.

【Schedule】

As described above, the course will move from basic organization and presentation of ideas to essays and discussions based on their content.

【Assessment】

Grading will be based on attendance and participation, homework assignments, and a test.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングI

ジョナサン・E. ロング 鈴木哲至 野口朋香
磯村香里 寺本史子

【Course Content】

TOEFL (1)

高校時代の英語学習単位数、ネイティブの授業経験の有無、英語の学力等の点からみて、英語の聞き取り及び表現の基礎的能力のトレーニングを必要とする者を対象とする。授業では、TOEFL や TOEIC などの試験を目標として、各自の学習歴及び学力によりクラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の基礎的運用能力を強化する。

TOEFL means "Test Of English as a Foreign Language".

Students who have never done a TOEFL test or who have a score of less than 345 should consider doing this course.

This is an introductory level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL I (1) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

TOEFL・TOEICトレーニングⅠ

ジョナサン・E. ロング 鈴木哲至 野口朋香
磯村香里 寺本史子

【Course Content】

TOEIC (1)

高校時代の英語学習単位数、ネイティブの授業経験の有無、英語の学力等の点からみて、英語の聞き取り及び表現の基礎的能力のトレーニングを必要とする者を対象とする。授業では、TOEFL や TOEIC などの試験を目標として、各自の学習歴及び学力によりクラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の基礎的運用能力を強化する。

TOEIC means "Test Of English for International Communication".

This is an introductory level course for preparation for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

Students who have never done a TOEIC test or who have a score of less than 250 should consider doing this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
 - 1. Sentences about photographs.
 - 2. Questions / responses
 - 3. Dialogues
 - 4. Short talks
- B. Reading comprehension
 - 5. Sentence completion
 - 6. Error identification
 - 7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC I (1) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

TOEFL・TOEICトレーニングⅡ

デイビッド・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング ハリー・T. ノース
ジェームス・A. ジョーシヤレル・A. ラインツマ アラン・デイヴィーズ
アレン・D. ウィリアムス 鈴木哲至 野口朋香 磯村香里 寺本史子

【Course Content】

TOEFL (2)

TOEFL・TOEIC などの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 500点、TOEIC 640点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

TOEFL means "Test Of English as a Foreign Language".

Students who have completed TOEFL I or who have a score of less than 370 should consider doing this course.

This is a basic level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

- 1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
- 2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
- 3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL II (2) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

TOEFL・TOEICトレーニングⅡ

デイビッド・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング ハリー・T. ノリス
ジェームス・A. ジョー シヤレル・A. ラインツマ アラン・テイヴィーズ
アレン・D. ウィリアムス 鈴木哲至 野口朋香 磯村香里 寺本史子

【Course Content】

TOEIC (2)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 500点、TOEIC 640点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is a basic level course for preparation for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

Students who have completed TOEIC I or have a TOEIC score of less than 300 should consider doing this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
 1. Sentences about photographs.
 2. Questions / responses
 3. Dialogues
 4. Short talks
- B. Reading comprehension
 5. Sentence completion.
 6. Error identification
 7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC II (2) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

TOEFL・TOEICトレーニングⅢ

ジェームス・A. ジョー デイボ・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング ハリー・T. ノリス シヤレル・A. ラインツマ
アレン・D. ウィリアムス アラン・テイヴィーズ スコット・R. グリーン 寺本史子

【Course Content】

TOEFL (3)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅣの授業につなげる。

Students who have completed TOEFL I or II, or who have a score of more than 380 should consider doing this course.

This is a high-beginner level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL III (3) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

TOEFL・TOEIC トレーニングⅢ

ジェームス・A. ジョー デイビッド・C. ダイカス ジョージ・E. ログ ハート・T. ノス シェル・A. ラインツ
アレン・D. ウィリアムス アラン・デイヴィーズ スコット・R. グリーン キ本史子

【Course Content】

TOEIC (3)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅣの授業につなげる。

This is a high - beginner course for the TOEIC test. TOEIC test - like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II , or have a TOEIC score higher than 300 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

A.Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

B.Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC III (3) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

TOEFL・TOEIC トレーニングⅣ

デイビッド・C. ダイカス ジェームス・A. ジョリー アラン・デイヴィーズ
アレン・D. ウィリアムス ダニエル・ダンクリー

【Course Content】

TOEFL (4)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 550点、TOEIC 720点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

Students who have completed TOEFL I or II , or who have a score of more than 400 should consider doing this course.

This is a pre - intermediate level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test - like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension

- A. Short conversations
- B. Long conversations
- C. Talks (short lectures)

2. Structure and written expression (grammar)

- A. Structure
- B. Written expression

3. Reading comprehension

- A. Reading comprehension
- B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their Judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL IV (4) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

TOEFL・TOEICトレーニングⅣ

デイビッド・C. ダイカス ジェームス・A. ジョリー アラン・テイヴィーズ
アレン・D. ウィリアムス ダニエル・ダンクラー

【Course Content】

TOEIC (4)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 550点、TOEIC 720点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is a pre - intermediate course for the TOEIC test. TOEIC test - like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II , or have a TOEIC score higher than 350 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

A. Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

B. Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC IV (4) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

TOEFL・TOEICトレーニングⅤ

ジェームス・A. ジョリー デイビッド・C. ダイカス ジョアン・M. ウッドマン
アラン・テイヴィーズ スコット・R. グリーン アレン・D. ウィリアムス

【Course Content】

TOEFL (5)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこからより自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、学力差に対応したキメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅥの授業につなげる。

Students who have completed TOEFL I or II , or who have a score of more than 420 should consider doing this course.

This is an intermediate level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test - like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension

- A. Short conversations
- B. Long conversations
- C. Talks (short lectures)

2. Structure and written expression (grammar)

- A. Structure
- B. Written expression

3. Reading comprehension

- A. Reading comprehension
- B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL V (5) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

TOEFL・TOEICトレーニングⅤ

ジェームス・A. ジョリー テイビッド・C. ダイカス ジョアン・M. ウッドマン
アラン・テイヴィーズ スコット・R. グリーン アレン・D. ウィリアムス

【Course Content】

TOEIC (5)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこからより自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、学力差に対応したキメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅤの授業につなげる。

This is an intermediate course for the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 400 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

A. Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

B. Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC V(5) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

TOEFL・TOEICトレーニングⅥ

ジェームス・A. ジョリー テイビッド・C. ダイカス
ジョアン・M. ウッドマン アレン・D. ウィリアムス

【Course Content】

TOEFL (6)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 600点、TOEIC 860点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

Students who have completed TOEFL I or II, or who have a score of more than 450 should consider doing this course.

This is an advanced level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension

- A. Short conversations
- B. Long conversations
- C. Talks (short lectures)

2. Structure and written expression (grammar)

- A. Structure
- B. Written expression

3. Reading comprehension

- A. Reading comprehension
- B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL VI(6) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEFLのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

TOEFL・TOEICトレーニングⅥ

ジェームス・A. ジョリー デイビッド・C. ダイカス
ジョアン・M. ウッドマン アレン・D. ウィリアムス

【Course Content】

TOEIC (6)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 600点、TOEIC 860点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is an advanced course for the TOEIC test. TOEIC test - like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 500 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

A. Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

B. Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC VI(6) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

IMPORTANT: 一般に英語の授業を履修することで、TOEICのスコアが良くなるという調査報告があります。効果的な勉強のために、この科目を履修するにあたっては、その他に「上級英語セミナー」や2科目以上の英語の授業を履修することを勧めます。

研究科開放科目

地域社会特別講義Ⅳ（地域文化論）

谷沢 明

【授業の概要】

「風土・歴史・文化を生かした地域づくり」をテーマとした事例研究の講義をする。併せて、受講生によるプレゼンテーションも行なう。

【授業計画】

1. 北海道池田町：ワインによる地域づくり
2. 大分県大山村：「村おこし」の元祖
3. 北海道函館市：港町の歴史を生かした都市づくり
4. 北海道小樽市：小樽運河保存問題と都市景観保全
5. 福岡県柳川市：掘割を生かした環境形成
6. 大分県日田市：歴史的景観を生かした都市づくり
7. 兵庫県神戸市：港町の歴史を生かした景観形成
8. 兵庫県出石町：城下町の歴史を生かした景観形成
9. 岡山県倉敷市：民芸のまちの成り立ち
10. 岐阜県高山市：市街地景観保全
11. 滋賀県近江八幡市：八幡堀の保全とまちづくり
12. 岐阜県八幡町：水の恵みを生かした地域づくり
13. 受講生による課題の成果発表

【評価方法】

「風土・歴史・文化を生かした地域づくり」をテーマに、夫々が該当地区を1箇所取材して事例研究を行い、その成果をパワーポイントで作成し、発表・提出する。成果物は、CDRで提出すること。評価は成果物CDRとその発表、及び平生の授業態度で行なう。

【テキスト】

テキストは特に使用しないが、次の参考文献を使用する。
田村明『まちづくりの実践』（岩波新書）
西村幸夫『町並みまちづくり物語』（古今書店）
大河直躬編『歴史的文化遺産の保存・活用とまちづくり』（学芸出版社）
大河直躬編『都市の歴史とまちづくり』（学芸出版社）
全国町並み保存連盟『新・町並み時代』（学芸出版社）
インターネット等を利用して、各自が予習・復習を行なうこと。

国際社会特別講義Ⅴ（比較政治論）

西尾林太郎

【授業の概要】

東アジアにおける国際体系の変化と中国、韓国、日本の近代史は深く連動しながら展開した。この点を考慮しつつ、政治的近代化論を軸として、中・韓・日3国の近代史と現代の政治システムについて比較分析することを、本講義の目的とする。また、その結果をふまえて、“アジア的国家”と西欧近代国家との比較も試みたい。

【授業計画】

- 1 政治的近代化とは？
- 2 伝統的東アジアの国際秩序
- 3 科挙官僚制と中国の近代化
- 4 両班（ヤンパン）と李氏朝鮮の近代化
- 5 徳川幕藩体制と日本の近代化
- 6 アメリカの発展と太平洋進出
- 7 “アジア的国家”とは何か？
- 8 イギリス、ドイツ、フランスにおける政治的近代化
- 9 stateとnation
- 10 1950年代～80年代における中国、韓国の政治と社会

【評価方法】

出席状況とレポートとによる。

【テキスト】

特に定めない。随時、資料を配布する。

【参考文献・資料】

1. *Asian Power and Politics: The Cultural Dimensions of Authority* (Lucian W.Pye Harvard Univ. Press)
2. ステイトとネイション——近代国民国家と世界経済の政治経済学——（佐々木隆生『経済学研究』VOL.47～50、北海道大学経済学部、1997～2000年、に連載）

メディアプロデュース特別講義Ⅳ（番組開発論）

大西 誠

【授業の概要】

映像をベースにした放送番組の成り立ちを歴史的に振り返りながら、番組をどのように企画し、一つの作品として作り上げていくかを理論と実習を通じて明らかにする。

【授業計画】

近年、市民が番組を制作する機会が多くなっている。取材（ロケ）映像とスタジオ映像とは、それぞれどのような特徴があり、どのように作られていくのか。また、それらを効果的に組み合わせて市民に資する番組を制作するには、どうしたら良いか。基本的なモデルを教育番組に求める。

プロの制作者のノウハウを探りながら、番組はどのように開発し、制作していけば良いのかをメディアリテラシーの視点から試作を通じて理解研究する。

本講では、実際に放送された教育・教養番組をモデルに番組形式や内容を分析するとともに、グループ・ワークで実際に番組を制作する。

【評価方法】

授業への参加度、期末の課題と作品で評価する。

【テキスト】

未定

都市環境デザイン特別講義Ⅱ（建築保存再生論）

河辺泰宏

【授業の概要】

西洋と日本を中心に、都市と建築の歴史的遺産について理解を深めるとともに、それらの保存・修復・復原や都市資産としての利活用の方法について論じる。

【授業計画】

授業は主に講義形式で進めるが、テーマによって担当を決め、報告会を行うことがある。

- 1) 破壊との闘い
人類の蛮行と遺産保護への執念
- 2) 変りゆく保存の概念
文化遺産保存活動の歴史とユネスコの世界遺産条約
- 3) 開発・建設の時代から維持・再生の時代へ
建築におけるサステナビリティ
- 4) 文化財保存の論理
日本における文化財保護の歴史
- 5) 文化財保存の事例研究
日本・イタリア・トルコ・シリア etc.
- 6) 町並み保存の論理
日本における町並み保存の歴史
- 7) 町並み保存事例研究
ポーロニャ・妻籠・長浜・倉敷 etc.
- 8) 近代建築保存の論理
近代建築および近代化遺産の保存・再生の歴史
- 9) 近代建築保存・再生の技法
保存・再生の基本理念と具体的方法
- 10) 近代建築保存・再生の事例研究
神戸・横浜・大阪・京都 etc.

【評価方法】

授業や見学会への参加状況とレポート、課題発表の内容等によって決める。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

都市環境デザイン特別講義Ⅲ (情報化建築論)

吉田邦彦

【授業の概要】

現在の都市・建築は、マルチメディア化とネットワーク化により著しく進展した情報化（高度情報化）によって、大きな変革が進みつつある。情報化の観点から、生活空間の変化の方向を探り、それらが今後の都市・建築のあり方およびそこででの生活にどのような影響を与えるかを論じる。

情報化の進展によって大きな変化を受けつつある住居とオフィスを取り上げ、インテリジェント化、マルチメディア化、ネットワーク化によって、建物の機能や構成要素がどのように変化してきたか、今後どのように変化するかを考察する。また、建築の設計や生産の方法に対しても情報化は大きな影響を与え、建築生産情報の統合化が急務となっている。その動向を概観し、今後の方向を探る。

【授業計画】

講義によるオーバービューと併せて、下記のテキストを各自が読解し、ディスカッション形式で理解が深まるように講義を進める。

【評価方法】

分担部分の発表内容・形式、討議への参加、および課題に対するレポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

シティ・オブ・ビットー情報革命は都市・建築をどうかえるかー (ウィリアム・J・ミッチェル著 掛井秀一他訳 彰国社)

国際社会プロジェクトⅡa

江藤恭二

【授業の概要】

教育近代化の過程を、世界教育史上の人物をとり上げることによって明らかにしていく。たとえば、コメニウス、ロック、ルソー、ペスタロッチー、フレーベルなどの名を挙げうるであろう。彼らが教育史上、どのような実践と思想の軌跡を残しているかを刻明に探っていきたい。

【授業計画】

1. コメニウス 「大教授学」
2. ロック 「教育論」
3. ルソー 「エミール」
4. ペスタロッチー 「隠者の夕暮」
5. フレーベル 「人間教育」

これらの古典を読みつつ、著者たちの生涯を明らかにする。

【評価方法】

出席状況と平素のレポートによる。

【参考文献・資料】

1. 西洋教育史叙説 (江藤 恭二 福村出版)
 2. 西洋教育史 (長尾 十三二 東大出版会)
- その他、西洋教育古典シリーズ (明治図書) を用いる。

国際社会プロジェクトIIb

西尾林太郎

【授業の概要】

Max Weberの著作（日本語訳のもの）やウェーバーの学説に関する著作物を丁寧に輪読する。続いて日本人研究者による国家論に関する著作を味読しつつ、ウェーバーへの理解を深めたい。政治文化、エートス、リーダーシップ、官僚制、宗教、経済、ナショナリズム等をキーワードとしつつ、アジア社会や現代の日本社会についての理解を深め、比較史的視点の構築を目指すと共に、社会科学の専門書にも習熟したい。

【授業計画】

- 1 Max Weber、丸山真男、大塚久雄について
- 2～8 M.ウェーバー『社会と経済』の一節（特にカリスマ、官僚制、権力に関する部分）、大塚久雄によるウェーバーに関する著作を輪読
- 9～12 近代国家論に関する論文を輪読
- 13 まとめとディスカッション
広く現代社会、アジア社会および現代国家の分析をめぐるフリーディスカッションを実施

【評価方法】

出席状況および平常点による。輪読の際、各自の担当部分について簡単なレジュメを作成してもらう。

【テキスト】

授業中にその都度指示する。

【参考文献・資料】

授業中にその都度指示する。

主題講義 I

大西 誠 五島幸一

【授業の概要】

現代社会におけるメディアプロデューズとは何かを、映像プロデューズやイベントプロデューズなど実践事例を基に検討し、メディアの生産から流通、消費について現状と課題を明らかにする。

本講では、特に生産者であるメディアのプロ（送り手）と消費者である受け手との相互関係を今日的課題でもあるメディア・リテラシーの観点から概観してみたい。

【授業計画】

数人の講師による集中講義の形式をとる。初回は、講義概要と現状報告を行なう。以降は、専門的な立場から講義を行ない、最終回に質疑・討論と総括で終える。詳細は別途、決定次第公表する。

【評価方法】

レポート提出による。

【テキスト】

使用しない。参考文献は講義中に紹介するとともに、適宜、資料を配布する。

教育センター・教育研究機関開設科目

英語海外セミナー

石橋千鶴子 ジョナサン・E. ロング

【授業の概要】

英語・アメリカ文化研修を目的としたウェストバージニア大学での春期英語研修プログラム。全学が対象。キャンパス内の大学寮に滞在し、約4週間の集中授業を受ける。さらに、週末のホームステイ、小旅行、現地学生および留学生との交流などが用意されている。出発前に行われる数回のオリエンテーションおよび事前事後のライティング課題なども含めて全てを修了すれば、本学の2単位が与えられる。2月中旬から3月中旬の約1ヶ月間を予定している。定員は、約30人。

面接およびTOEICスコアにより選考を行う。

2001年度実施夏期研修プログラムにおける1日(9:00AM~3:20PM)の学習内容は、以下の通りだった:

午前 少人数で行われる会話クラスと総合英語の授業。
午後 アメリカ文化の授業およびプロジェクト。音楽・ドラマ・ニューズレター作成・ホームページ作成などから、各自興味のあるものを選び、英語による意見交換を行いながら仕上げていき、終了パーティーで発表する。

【授業計画】

本研修は、ウェストバージニア大学が本学学生のために用意する特別プログラムであり、全期間の学習および生活面全ての指導は、現地教員およびプログラムスタッフが当たる。(期間中、本学教職員は滞在しない。)

【評価方法】

ウェストバージニア大学授業担当者の評価および研修前オリエンテーションの課題から総合的に判断する。

【テキスト】

現地にて用意される。

米国NPOインターンシッププログラム

榎田勝利

【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるポイント・オブ・ライト財団との共同プログラムとして実施する。米国の民間非営利組織(NPO)でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

(活動可能な分野) 老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。(米国側協力団体) ポイント・オブ・ライト財団(Points of Light Foundation)

【授業計画】

- (事前研修)・インターンシップの活動分野の決定
- ・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習
- ・日本のNPO、ボランティア団体ハフィールドワーク
- ・英会話のトレーニング
- (現地プログラム)・オリエンテーション合宿
- ・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン
- ・1日特別研修プログラム
- ・インターンシップの体験報告書の作成と提出
- ・評価会、修了式、さよならパーティ
- (事後研修)・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価(受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書)を考慮し全体評価を行う。

外国文化海外研修Ⅰ（中国）

馮 富榮

【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

1. 京師範大学において3週間の中国語研修を行う。

- ◎ 月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
 - ◎ 午後は課外活動として南京市内見学（中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など）を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
 - ◎ 夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
 - ◎ 土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう
 - ◎ 風光明媚な「瘦西湖」で名高い揚州へ、庭園で知られている蘇州への一日旅行。
2. 言語文化論Ⅰの講義内容と呼応した5日間ほどの研修旅行。
3. 定員は20名程度。
4. 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実地する。
5. 終了者に2単位を認定する。

【授業計画】

4月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、履修登録を必要とせず、参加したことによって単位が取得できる。9月下旬頃、参加募集を掲示に出し、10月中旬頃に参加者を決定する。その後、説明会を2回ほど、オリエンテーションを1回実施する。詳しくは掲示を見る。2月中旬に出発し、3月中旬に帰国する。費用は25万程度。

【評価方法】

引率者は平常点で評価する。

【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

外国文化海外研修Ⅱ（韓国）

曹 述燮

【授業の概要】

本学の姉妹校の一つである韓国の大邱カトリック大学で、韓国の文化や言語などの研修を積む。本研修のために姉妹校からは少人数制の語学授業、金属工芸・伝統音楽・伝統料理などの韓国文化に対する講義と実習、そして両校の学生交流、ホームステイなどの課外活動を含む特別のカリキュラムが編成されている。と同時に本研修には姉妹校での研修を前後して慶州市、独立記念館、ソウル市への旅行などのプログラムも企画されている。

本研修を通じて参加学生たちは、良好に組まれたカリキュラムから韓国に対する知識を習得すると同時に、多様な韓国・韓国人を直接体験し自ら触れあうことで新世紀のパートナーとしての韓国の理解を深める。

期間：

夏期休暇の8月中の3週間前後

内容：

- 1、語学研修
 - a、14日間、午前中、1日3時間（2コマ）授業
 - b、現地教員による少人数制の授業で韓国語の発音、文法、文型、会話などの練習
 - c、初級と中級のクラス編成予定で初心者者の授業参加可
- 2、韓国文化研修
 - a、午後週1～2回
 - b、専門家による講演と質疑応答
 - c、伝統文化講演の鑑賞（古典劇、音楽など）
 - d、韓国文化にたずさわる専門家による指導と自己参加型の実習（工芸・料理、舞踊など）
- 3、その他の各種の課外活動

【授業計画】

本研修参加のための数回の事前研修と事後研修が予定されている

【評価方法】

現地教員およびプログラムスタッフそして引率教員による総合評価による。

情報処理技術特殊Ⅰ

中野雅晴

【授業の概要】

基本情報技術者試験合格のための教育科目である。

情報技術全般の基礎知識を活用し、情報システム開発においてプログラムの設計・開発を行うとともに、将来高度な技術者を目指す者として、以下の知識・能力を身につける。

- 1) 情報技術全般に関する基本的な用語・内容の知識
- 2) 上位技術者の指導のもとにプログラム設計書を作成する能力
- 3) プログラミングに必要な論理的思考能力
- 4) プログラムのテスト手法を理解し実施する能力

【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎
- ステップ2 データベース技術
- ステップ3 コンピュータシステムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 情報と経営
- ステップ6 セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊Ⅱ

中野雅晴

【授業の概要】

ソフトウェア開発技術者試験合格のための教育科目である。

情報システム開発のソフトウェア開発技術者として、外部仕様に基づいて内部設計・プログラム設計・プログラム開発を行い、高品質なソフトウェアを開発するための、以下の知識・能力を身につける。

- 1) ネットワーク、データベース、システム構成などの情報技術に関する全般的な知識と、上位技術者の指導のもとに情報システムの設計ができる能力
- 2) 内部設計書・プログラム設計書の作成能力
- 3) プログラミングに必要な高度の論理的思考能力
- 4) ネットワーク、データベースなどに関する実装技術と知識
- 5) プログラムのテスト手法を熟知し、単体テスト・結合テストの計画と管理が行え、テストの実施についてはプログラム開発要員を指導できる能力

【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎上級
- ステップ2 コンピュータシステム上級
- ステップ3 システムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 データベース技術
- ステップ6 セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊Ⅲ

黒部晃一

【授業の概要】

CG検定2級の合格を目指す教育科目である。

2級のレベルは、CGを実務に活用できるレベルであり、期待できる効果として以下のことがある。

- (1) アルゴリズムを理解し、目的に応じてCGの技法を活用できる。
- (2) デザインの知識をCG画像やCGアニメーションの制作に活用できる。
- (3) CGに必要なシステムを目的に応じて選び使用できる。

【授業計画】

1. CG基礎。2次元画像生成
2. " "
3. モデリング
4. " "
5. 3次元座標変換
6. " "
7. レンダリング
8. " "
9. " "
10. 画像処理
11. " "
12. 著作権その他。

【評価方法】

出席状況について評価

【テキスト】

『Computer Graphics』技術編CG標準テキストブック
(画像情報教育振興協会)

【参考文献・資料】

『Turbo Cによる3Dコンピュータ・グラフィックス』
(山岡祥著 森北出版)
『コンピュータグラフィックス理論と実践』
(James D. Foley他著 オーム社)

情報処理技術特殊Ⅳ

黒部晃一

【授業の概要】

CG検定1級の合格を目指す教育科目である。

1級のレベルは、高度な知識と指導力に加えCGを制作や開発に応用できるレベルであり、期待できる効果としては以下のことがある。

- (1) アルゴリズムの記述やプログラミングによる高度なCG制作ができる。
- (2) デザインの知識を効果的に活用し高度な表現ができる。
- (3) CGに関する総合的な知識が身につく指導できる。

【授業計画】

1. VisualC++によるプログラミング
2. " "
3. " "
4. " "
5. CGアルゴリズムのプログラミングと実例
6. " "
7. " "
8. " "
9. " "
10. CG検定1級の過去問題検証
11. " "
12. " "

【評価方法】

出席状況について評価

【テキスト】

『CG検定1級問題集』(画像情報教育振興会)

【参考文献・資料】

『基礎から学ぶVisualC++プログラミング』
(山岡祥著 CQ出版)
『コンピュータグラフィックス理論と実践』
(James D. Foley他著 オーム社)

上級英語セミナー2003 A

ベヴァリー・F. M. カレン

【Course Content】

週2日の授業で1セット（4単位）を基本する全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。（一年生・編入生は1年目の前期は受講できない。）

【Schedule】

Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

【Textbooks】

No text required.

「上級英語セミナー2003A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。難波先生（月曜日5限）、ベヴァリー・F. M. カレン先生（木曜日5限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2003 A

難波豊子

【授業の概要】

通訳は「逐次に始まり、同時に進み、そして逐次に終わる」と言われる。逐次では訳す時間を与えられるが、同時の場合にはSpeakerが話す言葉を聞きながら、前に言われた内容を別の言語で説明しなければならない。

「聞く」と「話す」の2点集中を要求される。クラスでは、逐次通訳を中心に学習。連習を通して、通訳には何を必要とされるかを体験してもらう。

クラスの初回にテープを配布。毎回DICTATIONの宿題が与えられる。

【授業計画】

- ・スラッシュ・リーディングで、英文を頭から情報処理する練習
- ・分かりやすい日本語の検討
- ・短い時間で、英文のメッセージを把握
- ・2点集中力育成練習

以上4点を目標として、

- 第1回 期間中を通しての計画、及び課題の指示。頭ごなしの訳出法練習
- 第2～6回 宿題として各自家で徹底的に練習してきた教材を、クラス内で検討。それぞれの問題点を指摘し合う。
- 第7～8回 逐次通訳練習
- 第9～10回 同時通訳練習

【評価方法】

日常の授業態度、宿題に対する姿勢、授業中に行う小テスト、単位認定試験などにより、総合的に評価。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

「上級英語セミナー2003A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。難波先生（月曜日5限）、ベヴァリー・F. M. カレン先生（木曜日5限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2003B

ベヴァリー・F. M. カレン

【Course Content】

週2日の授業で1セット（4単位）を基本する全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。（一年生・編入生は1年目の前期は受講できない。）

【Schedule】

In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibility for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

【Textbooks】

No text required.

「上級英語セミナー2003B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。難波先生（月曜日5限）、ベヴァリー・F. M. カレン先生（木曜日5限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2003B

難波豊子

【授業の概要】

通訳は「逐次に始まり、同時に進み、そして逐次に終わる」と言われる。逐次では訳す時間を与えられるが、同時の場合にはSpeakerが話す言葉を聞きながら、前に言われた内容を別の言語で説明しなければならない。

「聞く」と「話す」の2点集中を要求される。クラスでは、逐次通訳を意識しながら、同時通訳とは、どのようなものを体験する。英→日と日→英の両方の訳出練習を行う。宿題テープにより、各自訳出を検討することが課される。

【授業計画】

- ・スラッシュ・リーディングで、英文を頭から情報処理する練習
- ・分かりやすい英語、日本語の検討
- ・短い時間で、英文のメッセージを把握
- ・2点集中力育成練習

以上4点を目標として、

- 第1回 期間中を通しての計画、及び課題の指示。
頭ごなしの訳出法練習
- 第2～6回 宿題として各自家で徹底的に練習してきた教材を、クラス内で検討。それぞれの問題点を指摘し合う。
- 第7～8回 逐次通訳練習
- 第9～10回 同時通訳練習

【評価方法】

日常の授業態度、宿題に対する姿勢、授業中に行う小テスト、単位認定試験などにより、総合的に評価。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

「上級英語セミナー2003B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。難波先生（月曜日5限）、ベヴァリー・F. M. カレン先生（木曜日5限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

ASU TOEIC I C

鈴木久子

【授業の概要】

TOEIC Dレベル (220-465) で400点以上の学生がTOEIC Cレベルに、TOEIC Cレベル (470-725) の学生がTOEIC Bレベルにそれぞれ到達するための講座。この講座は、文法・語彙問題、Reading、リスニングの基礎に重点を置いて学習するため、日本人教員が担当する。授業時間のみならず毎回豊富な量の宿題が課され、毎回チェックされる。非常にハードなコースであるため、中途半端な気持ちで受講しないでほしい。

【授業計画】

第1回 オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト

- ・ 1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説 (15分)
- ・ 前回の宿題で間違いが多かった点の解説 (15分)
- ・ 演習 (文法問題・Reading・リスニング) (30分)
- ・ 問題解説 (25分)

第15回 模擬テスト

*宿題 読解演習・文法問題 (60分×7日) =

毎回7時間相当分

(合計 7時間×13回=91時間)

リスニング演習 (60分×7日) =

毎回7時間相当分

(合計 7時間×13回=91時間)

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

【授業用 共通テキスト】

Successful Steps for the TOEIC Test 成美堂

【TOEIC Cレベルを目標とするコース用 課題テキスト】

『TOEICテスト実践講座 標準総合』南雲堂

『TOEICテストよく出る英語表現』ナツメ社

【TOEIC Bレベルを目標とするコース用 課題テキスト】

『TOEIC TESTこれ1冊で860点突破』アスカ

『TOEICテスト よく出る英単語・熟語』ナツメ社

※星が丘キャンパスの課題テキストはTOEIC Bレベル用とします。

ASU TOEIC I D

鈴木久子

【授業の概要】

TOEICスコア400点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。

日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高週に2コマ (I、IIの両科目を受講した場合)、4年間続けて履修できる。週1回2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習 (60分×7日×13回) とリスニング演習 (60分×7日×13回) (それぞれ91時間相当) が課される。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

詳細は、後日掲示にて連絡します。

スポーツ特殊講座（スクーバダイビング）

杉山 和

【授業の概要】

「海の中」の自然を体験し、より視野を広める、スクーバダイビングに必要な初級のライセンスを取得し、生涯スポーツの実践へつなげる。

【授業計画】

《内容》

1. 期日

プール実習 平成15年9月1日（月）～6日（土）
この期間中に時差をつけて3日間実施します。

海洋実習 平成15年9月8日（月）～11日（木）
3泊4日

第1回説明会 平成15年5月21日（水）5限目

第2回説明会 平成15年7月5日（土）10：00～

2. 場所

プール実習 ロコダイバーズ 室内プール（一社）

海洋実習 沖縄県 伊江島

3. 諸経費

実習費 約50,000円（講習費、テキスト代、申請料）

用具代 約50,000円（重器材レンタル代、個人器材）

海洋実習費 約78,000円（交通費、宿泊費）

その他 約30,000円（ウェットスーツ希望者のみ）

4. 定員 約20名

* 諸経費については、14年度のものでありますので変更になる場合があります。

* 説明会には必ず参加すること。

【評価方法】

1. 実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。
2. 実習期間中、欠席した場合は単位が認められません。

スポーツ特殊講座（マリンスポーツ）

松田 秀子

【授業の概要】

各種のマリンスポーツを通し、海という自然を体験し、より深く理解する。各種目の基礎的技術の向上と知識の習得、生涯スポーツの実践へつなげる。

【授業計画】

《内容》

1. 期日

実習 平成13年8月6日（月）～9日（木）
3泊4日

第1回説明会 平成13年5月23日（水）5限目

第2回説明会 平成13年7月4日（水）5限目

2. 場所 ヤマハマリーナ浜名湖 静岡県

3. 実習種目

ウェイクボード、ボードセーリング、
セーリングクルザー等

4. 実習費 約74,000円

5. 定員 約20名

（定員に満たない場合は中止になります。）

* 実習費に関しては、12年度のものでありますので変更する場合があります。

* 説明会には必ず参加すること。（やむを得ない場合を除く）

【評価方法】

実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。

本年は開講せず。
上記の要項は13年度のものであります。

スポーツ特殊講座（ボウリング）

松田秀子

【授業の概要】

ボウリングを通して、基礎技術の向上と知識の習得を目標とし、生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業計画】

《内容》

1. 期日

実習 平成15年9月3日（水）・4日（木）

5日（金）・8日（月）

9日（火）・10日（水）

計6日間 午前中のみ

2. 説明会 平成15年7月9日（水）12:30~13:15

実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。

3. 場所 星ヶ丘ボウル

4. 実習費 6,000円（14年度のものでありますので変更する場合があります。）

5. 定員 60名

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

スポーツ特殊講座（スケート）

松田秀子

【授業の概要】

スケートを通して、基礎的技術の向上と、知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業計画】

《内容》

1. 期日

実習 平成16年2月3日（火）・4日（水）

5日（木）・6日（金）

9日（月）・10日（火）

6日間 午前のみ

2. 説明会 平成16年1月7日（水）12:30~13:15

実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。

3. 場所 名古屋スポーツセンター（大須）

4. 実習費 約7,200円（14年度のものでありますので変更する場合があります。）

5. 定員 60名

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

スポーツ特殊講座（スキー）

【授業の概要】

スキーを通して大自然の厳しさやおおらかさに接し、スキーの基礎的技術の向上と知識の習得を目標とする。

【授業計画】

《内容》

1. 期日

実習 平成14年2月17日（日）～2月21日（木）
4泊5日の予定

第1回説明会 平成13年11月7日（水）5限目

第2回説明会 平成14年1月9日（水）5限目

2. 場所 長野県 信州菅平高原スキー場

3. 宿泊所 福美津屋旅館

4. 実習費 約40,000円

（宿泊費・交通費・食事代・保険料・雑費）

5. その他の費用

リフト券代 約12,000円（レベルによって異なる）

レンタルスキー（板、ブーツ、ストック） 6,500円

レンタルウェア 4,000円

小物（帽子、手袋、ゴーグル） 1,500円

6. 定員 約40名

7. オプション企画（体験）

スノーボード（レンタル代、講習費） 6,000円

ヘリスキー（ヘリコプターの搭乗費） 6,000円

スキー検定（検定料） 6,000円

*定員に大きく満たない場合は中止になります。

*実習費及びその他の費用に関しての料金は、12年度のものでありますので、変更になる場合があります。

*説明会には必ず参加すること。（やむを得ない場合を除く）

【評価方法】

1. 実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。

2. 実習期間中、欠席した場合は単位が認められません。

**本年は開講せず。
上記の要項は13年度のものであります。**